

【日記翻刻】奥田八二日記（連用）（1998～2000年）

岡， 征二
元福岡県庁国体事務局職員

藤岡， 健太郎
九州大学大学文書館：教授

<https://hdl.handle.net/2324/7388898>

出版情報：奥田八二日記研究会会報. 15, pp.1-181, 2025-09-30. 奥田八二日記研究会(九州大学大学文書館内)
バージョン：
権利関係：



【日記翻刻】

奥田八二日記（1998～2000 年）

翻刻 岡征二

校訂 藤岡健太郎

凡 例

1. 原文は一部を除き縦書きであるが、横書きに直した。
2. 漢字の旧字体および異体字は固有名詞等を除き、常用漢字体または印刷標準字体に直した。また原文に「𠩺」と記されたものはすべて「経」とした。
3. 明らかな誤字・脱字については適宜修正した。疑問のあるものについては「ママ」を付した。
4. 踊り字のうち「くの字点」は文字に直して表記した。
5. 原文の振り仮名はそのままとした。
6. 原文では句点と読点が明確に判別できない書き方がなされているため、本翻刻においては文脈等から適宜句点・読点を判断した。
7. [] で記されたものは原文の記述である。
8. 日記本文記入欄以外に記入されたものは【欄外記入】として掲載した。
9. 原文中に差別用語等がみられるが、歴史資料としての意義に鑑み、すべて原文のとおりとした。
10. 【 】内は研究会による註記である。

1998 年

年頭の所感

喜寿の坂をこえると、あといくばくもないと思うことしきり。何を考えても、決論や決意、再出発の気が起らない。健康のことだけでもとは思いますが、この分野、ますます自信がなくなっている。会う人それぞれに元気ですねと言ってくれるが、はい、とは言えない。目、歯、肝、胃腸、皮膚どこも欠陥ばかり気になる。健康診断を受けるべきというすすめもあるが、即入院といわれるだろうから否というしかなく、内心あれこれたかっている。何時突然という事態になろうとも、それはそれで対応するしかない。やや長期の視野で思うことは、住居や書籍、資料その他小間物をどう処理するか、何の展望もなく、その日暮らしで成り行きにまかせてしまっている。昔から後継者という者が問題だったが、今の私には誰にも期待しないままである。子や弟子に挙手する者があるわけではない。といって今の私があれこれ手をつけて処理することもできない。そのような努力は嫌である。これ又成り行きに委ねるしかない。今は物余り時代だし、無後継者の時代であるといえよう。大量生産、大量破棄、自我優先のこの時代に、後継のことを考えること自体が無理である。知事引退後、三年近くになるが、私自身の人格も既に見捨てられていると感ずることがよくある。孤立であり孤独であり、廃棄物同然になったと思うことしきりであり、その状況に苦情をいうつもりもない。誰しも我が道を元気にすがすがしく歩んでいるのだと見て孤独にも満足している。猫、犬、虫も同じく消えていくのである。

1 月予記

易々^{ママ}諾々の OK という態度のせいか、特別の自己目標もない日程がつづいて一月も終わってしまう。特記できるのは、月半ばに姫路に行ったこと。和代とのつながりで長田さんの手芸家としての表彰をお願いすることが目的で市長にも会ったのだが、姫路城を包む公園が美しく整備されているのには感服した。今後九州の人達に推撰するに値する郷土の誇りでもある。

1 月 1 日（木）雨後曇

昨夜もおそくなり、起床は八時だった。新聞をとりに行ったら小雨。新聞は広く濡れていた。十時に雑煮の朝食。年末の日記帳仕上げに時間がかかり、昨年をまとめ、やっと迎春の気分になった。夕刻コウさんが来訪。もう 50 歳になるという。一彦から迎春の電話があった。さて、今後賀状の対応が大変だ。三五〇近くきている。当方迷いつつも今年も受身で対応しようと思い、一通も出してないのだ。

1 月 2 日（金）晴

雑煮をたべたのは十時。夜更しの朝寝。朝風呂はそのあと。若い人達は太宰府に行き逆に安部夫妻の来訪があつてやはりにぎやかだった。山梨から贈ってもらったソバは年越しにどっさり食べ、満腹がつづいている。夕食はスキヤキ、あとのうどん。食べすぎは明らかに眠いばかり。そろそろ平常にもどろうと思って書斎に入ってみたが、やはり仕事にならないので、九時には就眠。

1 月 3 日（土）曇

今日の朝食も十時になった。睡眠は十分とったはずだがまだ眠い。書斎にこもり、片付けや原稿書き。高教組から注文の原稿二〇〇〇字がやっと書けた。「生きる力」というテーマである。山本正一郎氏の賀状に籃胎漆器についてふれてあり、偶然これを説明した資料が雑物の中から出てきたので、説明の客観性を証明するため、彼にそれを送ろうと思う。天候が悪く傾くので啓二ら帰京出発時刻についてあれこれ思案している。

1 月 4 日（日）曇

アクロス福岡のシンフォニーホール開き。八時半からの儀式。午前中から利用者があるとのこと。事務所に帰り、出勤者に新年の挨拶、そして帰宅。啓二ら五人は午後東京に向けて出発するというが、私は 12 時に迎えの車が来て原鶴温泉六峰館へ。二時から高教組班協の学習会。衣笠、大塚のあと渕上、私の講演、挨拶、基調報告、夕食会とつづく。せっかくの温泉だから到着後と寝る前と、二度湯につかる。参加者 50 人ほど。

1 月 5 日（月）曇

昨日は最後に中西績介氏も挨拶。今日は八時半頃から朝食。九時半から十二時頃まで各班からの意見開陳があり、この席にも私は参加し、散会后車で送ってもらって帰福は一時すぎ。ついで乍ら病院に行き点滴して帰宅は三時少し前だった。まだ賀状がふえる。便りをいただくのはいいが、三五〇枚をこえる賀状にどう対応するか未だ決意がつかかねる。啓二らは思いのほかスムーズに車を走らせて帰京したという。和代、安部スミ子さんに電話した。吉岡氏にも。

1 月 6 日（火）曇

九時四〇分復古堂社長河原田氏が車で迎えに来てくれて北九州市へ。十一時から八幡東の市民会館で開かれている書初展、賀状展を観覧し、ついでにタカミヤ釣具店を訪ねて軸を贈呈。十二時から黒崎のプリンスホテルで展示入賞者の表彰式、つづいて中食懇談会が行われた。四時には終わったが、参加の中国総領事と連れだって頓田貯水池畔の呉昌碩像参拝、近くで夕食会（すし屋）。終って師村氏画廊を訪ねて作品あれこれを拝見。総領事の車で福

岡まで。帰宅は九時半になっていた。

1 月 7 日（水）曇

かなり冷え込んだ感じ。曇天つづき。夜は雨かも知れぬ。中食後出発してアクロスへ。賀詞に来られた客が数人名刺をおいていかれたあと、三時から五時まで白土専務と県庁へ、年頭挨拶。知事、両副知事、出納長、それから県職労松田（初）や県立大の城島とも顔を合わせることができた。八%削らねばならぬ財政事情のもと、県政の運営は厳しかろう。新聞には消費の衰退がさまざまに報道されている。商店もつらからう。

1 月 8 日（木）雨

一〇時から生協第二回事業連合の 21 世紀小委員会が千代の事務局で開かれた。一時まで。組織問題が論議の中心だったが、自然成長的なものと、政策的なものが混在していて難解であった。パピヨン 24 で中食し森山氏が迎えに来て県庁に行き二時から議長に年始挨拶。あと十一階の喫茶コーナーで、秘書室時代の橋本、小串、杉山、深見にきてもらって年始挨拶、おしゃべり。深見は企業局長、杉山は労働部次長というように、昇進して頑張っている。頼しいし、すがすがしい。

1 月 9 日（金）晴

ようやく晴れたが一段と寒くなった。午前中は点滴。アクロス地下で中食のあと、森山氏の車で新年挨拶まわり。林県議（中洲）、韓国及び中国総領事館、加えて明治屋産業谷尾、漁連の柴田。この二カ所は名刺をおいてきただけ。アポイントメントなしだったので本人は会えなかった。今年の年始まわりはこれで終りとする。四時半に帰宅。新聞切り抜きを読んで足らざるを少しとり戻した感じだ。林県議の発言ではアクロス勤務を延長したいので公的立場を守ってほしいとのこと。選挙関係の私の行動のことだ。

1 月 10 日（土）雨

午後一時から清川の若鶴旅館で高教組五〇年史編集会議があった。組合の執行部と執筆者それぞれ七名ぐらい、それに学究者として衣笠、福留の二人も加わった。五〇年といっても近々一〇年を主にした略史で、二回目。執筆割当てに従って今日は六時半まで準備されたメモについて討議を行ったが、三分の一は明日に持越された。午後七時から八時半まで夕食懇談会。高教組の路線転換と奥田県政が興味ある論点となっていて、全国的にも注目されている。

1 月 11 日（日）雨

昨日につづき九時からの討議に参加。中食を共にしたあと散会。私は荷物をもって博多発

一時二〇分の新幹線で姫路へ。四時すぎ着いたら綱干の和代とその手芸の先生長田虹洋さんが迎えに出てくれていて、駅前のホテル・レストランでコーヒー席、挨拶交換。五時別席で夕食会となる。手芸の教室をもつ先生で、市から表彰を受けたいので、市長に働きかけてほしいとのことで、私の帰姫もその役を果せられるよう動く予定だった。今日の宿泊は綱干と決め、タクシーで帰る。新築の小嶋家だ。

1 月 12 日（月）

小嶋芳男氏の車で文化振興財団文化センターを訪ね、本城専務理事そして BANCUL 担当の木下氏らと交流することができた。本城氏は文化賞財団の軸にいる人である。和代の求めで、九一も勉さんも、われわれ陳情活動にかけつけてきてくれた。三時から堀川市長に面接を約束してくれたので市役所に行く。堀川市長は福岡県警本部長をした人で、私の訪問をよろこんで受けてくれた。市長三年目だが、うまくやっているようだ。今回の問題で勉さんも有力な役を果たしてくれそうだ。市長もよく知っている。

1 月 13 日（火）晴後曇

小嶋氏が車で送ってくれて十時に姫路文学館入口で、約束どおり広田正義氏と会い、まず近くのレストランでコーヒーを、次いでその近くの食堂「木曽」で中食を共にし、雑談をくりかえし、十二時すぎ同じ入口で別れた。あと、副館長阿部氏を訪ね、南棟、とくに司馬遼太郎記念館はていねいに説明をうけたし、感動した。一時すぎ和代、長田先生の迎えに合流して文学館から駅へバスで行く。駅でコーヒー休憩ののち、長田先生からはお土産もいただき二人の見送りをうけて二時二一分の新幹線下りで帰福。五時二〇分予定どおり博多着、旅装をとくに至る。

1 月 14 日（水）雨

十一時から、予定どおり、緒方、深江の両氏来訪をうけエホバの話をきいた。一時半点滴後アクロスに行って賀状の点検をしていたら、安田伊三男氏が二人伴って来訪、新年の挨拶を交わした。六時半宮本、赤松氏ら三人と共に料亭海幸に行き新年雑談宴会。温泉やロープウェイ開発、西公園輝雲神社活用^{ママ}の希望など理想を述べ合った。帰宅は九時すぎ。一日中雨降りの日であった。

1 月 15 日（木）雨後曇

朝七時に起き、新聞を取りに出たら又雨が降っていた。雨がつづいていたのであろうか。大学生協事業連から依頼されている原稿を書くための準備を行い、少々書き進めたが、午後になって思い付き、マージャンをすべく連絡をしたら、いつものように、上田、河野が OK ということで一時すぎ来宅。夜の十時まで遊びにふけた。原稿については二、三日の

うちに仕上げにもっていきたい。長沢さんから電話があり、十八日はなつメロだ。

1 月 16 日（金）小雨後晴

朝のうち小雨。十二時前点滴がすんでアクロスに行く時も小雨だったが、午後は久しぶりに照った。アクロスでは多川さんと「すし幸」で中食、玉置さんも同行。二時には飯田、呉汝俊二人の来訪があって新年あいさつ。あとで下のシャッポーでコーヒー、ケーキで雑談して別れた。渡辺健二郎氏とも電話で交流を求めたが通じなかった。夜は生協関係の原稿二〇〇〇字。気になっていたが、随想的に、書きあげた。

1 月 17 日（土）曇

雨天に近い曇。在宅の一日。明日のなつメロの時にスピーチが予定される「一月一日」というテーマの消化が気になる一日だったが、そのほかに書斎の資料整理も不十分ながら進めて一日が暮れた。気がついて正月のシメ縄外しも行った。いくらでも次々と仕事はあるものだ。しばらく揮毫仕事もしてないので、そちらにも心が動く。ただ義務感が伴わないので気楽な時間つぶしといえる。

1 月 18 日（日）曇

ごたごたしておそくなり、タクシーで東市民センターでのなつメロへ。あれこれおみやげの食べ物を配ってくれる人が多い。私の宿題になっていた「一月一日」については皆さんが納得できるような説明はできなかった。三六五日をきめ、一月一日をどこにするか何年頃どこで決めたかである。太陽と地球、月との関係で、季節、月、日、時分の分け方はおよそわかるにしても一月一日零時の決まりには資料が足りなかった。五時半帰宅。ぐっと冷え込む。

1 月 19 日（月）曇

十一時にアクロスで落合い十一月のエコリレーへの協力の御礼まいり。福岡市役所・県庁・北九州市役所の三ヵ所。北九が一番丁寧に対応してくれた。魚屋氏ら四人で。全く寒い一日。朝出るときはコートに雪が降りかかった。北九は往復新幹線。中食は北九市役所レストランで。二時半に博多に着き散会。私は井筒屋で本を買ったあとリーセントへ。三時間ほど新聞や本を読み六時からの高教組文化政策懇に出席。夕食は会場での弁当。九時まで討議。帰宅は十時になってしまった。

1 月 20 日（火）曇

かすかな雨というべきか、曇天で寒さが厳しい。点滴をすませ後アクロスへ。松田氏が脳外科手術に関連した連合の役員山田氏を伴って一時半に来訪。赤松さんが宮本氏と連絡し

つつ鉱水掘りのことで電話してきた。三井鉱山にも連絡しているらしい。これは今後の話。県決算委員会の話題がきこえてくる。五時半に帰宅。夜は二月に行う経済講話（日本経済の行方）についての資料まとめに時間を費し、概要できあがった。バブルの話をどう扱うかが気になる。

1 月 21 日（水）曇

つづく曇天に寒気。在宅の一日だった。ひる間例のバイブル講話の男女二人が来訪、二時間ほど拝聴した。他の時間は古賀一成氏ら六人の共著「日本破局のシナリオ」を読みつつメモを残し、二月の船小屋での対組合の講義の材料づくりにもなったと思う。現時点の政治経済の低迷をどう集約し、展望をどこにおくかというのが私の焦点だが、たくさんある資料の中で一つの筋が得られたと思っている。

1 月 22 日（木）曇

点滴をすませアクロスに行く。二時県の松田氏と合う約束。たのまれていた色紙を二枚渡したあと雑談していて明日二時から心合わせのために山本勲氏らを入れて話し合ってみようということになった。先がみえないと思案しているだけではダメという気持ちからである。五〇年ほど前に山川均先生を訪ねたことを思い出す。向坂先生が全力をあげておられた、党の離合集散はあっても旗色がわからない現状に物申すべきだと思い、一歩出ることにした。

1 月 23 日（金）曇

二時にアクロスに行き、予定どおり、橋口、山本も来て昨日松田君と話したようなことを中心に五時頃まで意見交換をした。橋口氏は積極的に反応し、今日のまとめとしては、次への一歩を何らかの形で有志相寄って論議する場を作ろうということになった。彼は八〇年代とくに奥田県政時代を念頭に次を展望する姿勢を確認し合えるといいと言っていた。一歩ふみ出すのはいいとして、事務的準備も必要になるが、当面は松田氏に依存するしかない。九州地方今年初の積雪。

1 月 24 日（土）曇

夕刊によると、今日は今冬一番寒い日だったという。庭の木は雪で薄化粧。高速道はこちら通行止めも。在宅の一日だったが、読書も気分が整わずしてはかどらず部屋にこもったままストーブの前で一眠りもした。夕方になって決意し、残っていた軸六本を発送できるよう整理梱包。運送を頼むだけのところまでこぎつけた。北京で展示して後二ヵ月が過ぎてしまい梱包が気になってそのまま残っていたもの。合計すると三〇本余りになろう。やっぱり読書よりも、こうして体を動かす方がこの寒さに適する。

1 月 25 日（日）曇後晴

午後久しぶりに陽光が当たった。「アメリカは没落する」という本をつづけて読んでいるが、時に眠くなる。午後誘われてバイブル教演^{きょうえん}に行く。草香江衆会で午後二時から四時まで緒方氏の説話である。五十人をこえる聴衆でにぎわった。若い人が多いのと、それぞれにボランティアとしての会場内役割をこなしているのに感心した。往復徒歩だ。五時ごろ帰宅し読書を重ねる。資本には愛国という立場がなく、今日はグローバルに活動利益追求している姿がよみとれる。

1 月 26 日（月）曇時に晴

寒い日がつづく。在宅の日となる。労働党の旗びらきが昨日あって、約束していたが断った。このようになるべく出ない方が自己満足だ。今日も読書の日となった。途中軸物六本を発送すべく構えたのだが、電話で確かめた限り「美術品」の送料は高いというので諦めた。当方は美術品とは思っていないのに。ぼつぼつチャンスを利用して予定者に届くよう手配したい。読書も次の本を何にするかだが、二十一世紀を予見できることが望ましい。大胆に手さぐりたいのだ。

1 月 27 日（火）晴後曇

久しぶりの晴天。でも寒いので在室での読書。正午すぎ部屋の掃除というので外出することにした。天神で散髪と点滴。寄り道もせず帰宅したが、三時すぎだった。おそい中食をとって又読書。二一世紀には当然今と違う社会になるという声が強くなってきているが、どうなるというのか興味深いことなので、近頃の関心。読書もそれに関連するものが殆んどである。新聞は毎日のように官僚腐敗摘発を大きく取り上げている。同じようなことばかりで読む気もおこらない。

1 月 28 日（水）曇

ひるごろ又アクロスに行った。三時から FBS テレビの「黒い羽根」についての取材があったで一時間ほど。内容について行きすぎがあったと白土専務ら批判があった。アクロスを守ろうとする立場からであろう。六時頃まで机辺整理にあて、地下道、三越の一階を通りぬけて警固に出て車で帰宅。商店は全九州の若者を相手としたような先端の流行品ばかりが並べてあり、住民の生活に関係はない。これで維持できるのは一時的といえるのではなかろうか。

1 月 29 日（木）晴

ひる前に出かけまず西日本文化センターを訪れ次に点滴と思ったが、午前中は患者の来客が多く、吉野芳右エ門氏訪問を先にした。川端まで更に歩いたのである。彼からは山笠や

櫛田神社にまつわる話を概略でもききたかったが、落付いて^{ママ}当方の目的をきいてもらう雰囲気にはならなかった。彼は神社のみならず寺にもきくべき事が多いといていた。私は更めて出直すしかないと思い点滴のあと帰宅して読書をつづけた。寒さはまだまだしっかり根付いている。

1 月 30 日（金）曇

早朝から三池のことで大牟田にかけつけたが、一日違っていて大失敗。すぐ引きかえして帰宅した。正午少し前だった。途中でついでに何か天神あたりで動くことはないかと思ったが、何もしない方がいいと判断して帰宅後は専ら読書だけに時間をしぼった。退屈だったし眠くて何とはなく過した時間もあった。ボランティア経済について読書を通じつつあれこれ考えさせられる。九州・福岡などわが周辺で何か求める事例はないかと悩む。

1 月 31 日（土）曇

十時から一時まで三池労組で閉山と労組解消に至る略史をどのように綴るかについての委員七人による会が開かれ、今年十月末までに簡単な略史を作ることを決定した。それはそれとして三池二十年史が出版されて三〇年経つが略史以外の方法で五〇年史を綴ることもわれわれの義務だとの主張も出された。これは今後の課題である。五時半から博多駅裏の八仙閣で県職の班協約三〇人退職者を送る懇談会が開かれた。

2 月 予記

高教組及び三池労組の組合史のことで、あれこれ日数を使うことになり、多忙な二月予想外であった。今後もこの周辺で時間がとられそうだ。組合史に光明がなかなか見出せないのが残念である。自分をはげますべきだろう。最後の仕事かなとも思う。それから心残りになるのが緒方、深江両氏との関係、王国会館問題。森山が盛んに関係の断絶を奨める。今は岐路に立っているのだ。

2 月 1 日（日）曇

十一時半からということだったので、そのつもりで、みゆきと共にタクシーでアクロスに行ったが実際は一時間おくれて始った。朝日新聞の広瀬輝文氏を囲む中食会。森山氏が段取り、場所は地下の「すし幸」。思い出を中心に話は盛上った。三時ごろまで。あと買物をかねての帰宅。夜七時半ごろから大野城の清水市議が押花師の松下さんを案内して来宅、話が又はずんだ。押花を使つての電気スタンドを頂いた。

2 月 2 日（月）晴

在宅の日として、寒いということで外に出ず、暖房してこもってしまった。読書は進んだ。

次なる体制を想定しての「ボランティア経済」は難しい本だった。和代から餅・野菜を送って来てくれた。昔なら「おかき」を作る時分だが、今日はそういう目的なく単に寒餅にすぎないと彼女はいう。当然の変化だろう。中学生がナイフで刺す事件が時々報道される。いのちというものが理解されていないのが特徴である。経済、政治、モラル激変。

2月3日（火）曇

朝のうち読書。昨日大坪氏との連絡で。三時に三池労組の人とアクロスで会うことになっていた。点滴のこともあり、十二時すぎに天神に行くことにした。三池からは前組合長中原、現組合長芳川の二人、それに大坪も加わって理事長室で論議し、五〇年略史について十月中に仕上げる仕事の手順を合意することができ、五時頃コーヒ^{ママ}・ケーキで打上げをした。が、夕食もということになり、同じくアクロスの地下で鍋物をたべつつ雑談を交わした。八時半の帰宅となった。今年は三池組合史の年になりそうだ。

2月4日（水）曇後晴

王国会館関係の緒方氏宅に行き話をきき、雑談するのに時間をさいた。十時半頃に出発し、帰宅は三時をすぎていた。彼の家は別府四丁目である。今後とも訪問のチャンスがあるようだ。コーヒを仕立ててくれたのも印象的だった。三池労組運動略史を編集することでのわかに忙しい課題ができたようで、今日まで三〇余年のブランクを埋める読書から始めねばと思っている。労働運動の衰退との関係も無視できない。

2月5日（木）晴

十二時半に渕上参議の地元秘書山本氏タクシーで迎えに来宅してくれ、空港発一時半で羽田へ。七月の参院選出馬の渕上貞雄氏を励ますために開かれた東京会館での、出版祝賀会に出席。夕方六時から八時頃まで。直会の集いが近くのバーで十時すぎまであり、私は、この祝賀会の呼びかけ人の一人としての出席だった。祝賀会は私鉄総連が主役、六〇〇人近い参加者があった。彼の著書は「夢つなぐ公共交通」というもの。渕上氏の地味、滋味の人格が再確認された会だった。銀座東武ホテル泊。

2月6日（金）晴

ホテルを出て山本氏と共に福岡県東京事務所を訪ねた。十時半、元秘書室にいた葉玉氏がここに転勤しているので久しぶりに会うのが目的。所長小森氏も出席してくれて共に東条会館で中食をとった。その前に時間があって衆参両院の三つの議員会館に行き、県選出の議員に昨日の渕上氏の会合に出席してくれたお礼にまわった。土井たか子、村山富市両議員の部屋も行った。山本氏に随行してもらい、二時すぎ品川駅から京浜急行を使って追浜へ。美可が迎えに来てくれ四時には一彦宅に着いた。夕食を共に、麗衣にも会えた。一彦

宅泊り。

2 月 7 日（土）曇後小雨

10 時少し前に一彦運転で出発、相模湾に出たが霞のため期待した富士山もみえず羽田に向う。十二時半の便で福岡に安着。一たん天神に出て書店を訪ね探していた週刊誌「金曜日」を手に入れ、帰宅したが、四時になっていた。天神では小雨が降りだした。長野の冬のオリンピック開幕は雨もなく三五〇〇人 72 国の参加で順調にすべり出したようだ。何とはなく寒い夜である。帰宅してみて次週の仕事が次々とあるのに驚きで、多忙の中万全を期さねばならぬと心を引き締める。不況の深刻さが報道されている。

2 月 8 日（日）曇

昨夜から外は全くの荒天。小雪か雨か曇りか、木の枝を揺る強い風が吹きつづいている。日程としては勉強の日。明日の講演にそなえ、今の日本経済のポイントをどうとらえるかを復習、メモ化するのだが、材料が多すぎる程にある。ほとんどがよくないことばかり。消費沈滞と雇用不安、国際競争過熱で暗い面ばかりが目立つ。大観して日本は「経済大国」でなくなり、アジアにおけるリーダー役も果せなくなるように思われる。

2 月 9 日（月）晴

昨日とはまるっきり逆の天気。ポカポカ日照り、春の暖かさ。船小屋でヤンマーグループ労組協議会の年次大会があり、前段の労働講座の講師をたのまれて参上。一時半から一時間、「日本経済の行方」と題してのスピーチ。予習は十分にしていたのだが、実際壇上では殆んど持参の資料も使えずに序の口で終わってしまった。資料は今後何かの役に立てたい。四時には帰博、駅のデパート井筒屋で電気スタンドを購入して帰宅。

2 月 10 日（火）晴

点滴をすませ、病院玄関で待ち合わせて多川、玉置氏に合流。一時半、連れ立ってグランドホテル地階で三人での会食雑談。今日の日程はこれで終るが、明日予定されていたなつメロの会場での紀元節に関するスピーチは欠席して不可能になったので、メモを作ってそれで代りをしてもらうよう心に決めたので、帰宅後は紀元節、建国記念の日についてのメモ作りに時間を充たした。骨折りも仕方なしと思うけれどいい勉強にもなると満足している。知らないことがたくさんあるものだ。

2 月 11 日（水）晴

十時から千代の事務所内で大学生協九地連の 21 小委員会があった。組織論としての地域センターが論議の中心だった。パピヨン 24 で中食のあとアクロスに寄り、少々勉強した後、

五時半に別府四丁目バス下車で緒方氏を訪ね、キリスト聖書勉強をした。帰宅したら八時になっていた。今日は時間がとれなくて、なつメロには欠席。依頼されていた「紀元節」についてのスピーチはメモの形で事務的に代用していただいた。建国記念の日について理解していただけたと思う。

2月12日（木）晴

午後二時からアクロス・シンフォニーホールで第五回県民文化賞の贈呈式があった。建築家葉祥栄、陶芸家高鶴元、北九州交響楽団、画家井上敬一、コンダクター石丸寛の五氏に授与された。あとの記念行事としての山川静夫氏（元 NHK アナ）の講演とつづいて行われた東京ホテルでの記念パーティに出席した。高鶴氏、麻生知事、それに師村氏と挨拶した。アクロスの白土氏が終始随行してくれ、帰宅は七時。疲れを覚えたので早目だったが就寝。

2月13日（金）晴

体力が衰えたことを痛感する。目、脚、それに腸の調子がよくない。何とかやっているとしかいえない。ひるすぎまで読書。軽く中食をすませて点滴。五時から高教組の「生きる力」シンポジウム打合わせ会（於リーセント H）に出席、夕食懇談会がつづく。篠原一氏らパネラーも出席していた。固くるしくないシンポジウムとなるようつとめることで一致した。九時少し前に帰宅。子供がナイフで刺すことが理解し難い。その心理がここでも話題の中心だった。

2月14日（土）小雨・曇

九時半に着いて事前打合わせを行い、十時から本会議に移る。都久志会館での高教組、「生きる力」シンポジウム。私はパネラー、福留氏がコーディネーター。参加者は五〇〇人ほどで満席に近かった。麻生知事も挨拶に見え、会の中味も充実していて成功といえる。東京から篠原一氏もパネラーとして参加してくれた。衣笠氏も挨拶に立った。五時少し前に終り、アクロス地階のスシ屋で執行部と夕食しつつ反省会をし八時ごろ帰宅。小雨は止んでいた。

2月15日（日）晴

暖かでさわやかに晴れ特別の仕事とてない日曜。庭に出るとどれもこれも梅は満開、白も紅も、鉢も庭木も、かなり長く咲いているのも、今盛りなもの。沈丁花も咲き出した。佐助椿が無数に落花、他の椿もそれぞれに咲きはじめている。一時半に出発して草香江の王国会館へ。帰宅したら五時になっていた。ゆったりと時間があってくつろぎ読書し、気付いたところを整理して満足。福留氏が用意してくれた「蛍の光」（英文）は大事にしよう。

2 月 16 日（月）曇一時晴

在宅の一日。二〇日にもっていくべく、依頼されている色紙（県退職者宛、大野城）26 枚を仕上げるのが今日の主な仕事となった。庭に出て梅花などくわしく見てまわる。曇ながら暖い。このままならもう春といえるが、余寒は厳しく来ると報ぜられている。70 年代以降の総評の運動について読書している近頃だが、社会の変化は大きく、頭も古くなっているので、まとまった理解が困難である。

2 月 17 日（火）晴

点滴をすませたあと、アクロスに行き県評センター関係の本を読んでいたら森山氏が来て当面の日程調整をする中で私が王国会館ゆき日程を入れていることに対し、強いクレームがつき、キリスト教系の新興宗教にかかわることは即時やめてほしいという。アクロスの理事長をもう一期してほしいという話がでているのと関係はなくてはならないが、前知事の名が出ることに警戒しているのは確か。日程取消も必要だ。

2 月 18 日（水）晴

ひるま、女性たち三人相手の自宅マージャン会になった。午後五時約束があってアクロスで、飯田、渡辺両氏と落合、福ビルの海幸に行って三人で夕食雑談会。帰宅は九時すぎになっていた。景気沈滞の中、渡辺氏の不動産業は難渋だろうと思っていたが、彼は余り気にしていないようだった。国技振興会からは当面手をひきたいといていた。宮本氏のやり方にそりが合わないからである。

2 月 19 日（木）曇

多忙な週末なので悔のない準備をと思って朝からその資料づくりにとりかかったが、平素から心配りしていたせいか意外と整った。明日は県職労筑紫支部、雅楽公演関係者招宴、明後日は雅楽、三池労働組合史編集会ということで三池の討議資料もほぼできた。在宅の一日の余暇を使って鉢物を少し整理し、アロエを一株、東の空地に移植した。寒さはつづくが、やはり春近しという感じ。梅花がもう一つ元気がない。

2 月 20 日（金）小雨

中食をすませるまで在宅で、主として読書。一時半タクシーで出発、JR 春日駅前のクローバープラザへ。二時半から一時間の講演。県職労筑紫支部 OB 会親和会の人々が相手。四〇人ほどの出席。このたび OB となる人達 28 人に色紙を一枚ずつ贈った。講話のテーマは「県政思い出あれこれ」。四時すぎアクロスに着き、六時から警固の料亭一条で、宮内庁楽部の幹部招宴に出席。当方 6 人、客は 5 人。明日シンフォニーホールで雅楽の公演をお願いしている。九時帰宅。

2 月 21 日（土）曇

九時半にアクロスに着き、十時から交流ギャラリーでの白磁展（日韓六人の作品展）のオープン式に参加。午前中を利用して点滴にゆく。午後三時からシンフォニー・ホールで催された宮内庁の雅楽公演に出る。五時まで。すがすがしい催しものに二つも出席できたよい日だった。五時すぎから理事長室で三池労組史の編集会議。これは初会、現地からも役員が出席 15 人となる。基本方針を話合ったあと浄水の西鉄共済会館で夕食会。九時すぎ帰宅。

2 月 22 日（日）曇後晴

十時にアクロスで森山・松田と落合い森山の車で湯布院へ。太宰府から内田が参加。一たんパーキング山田で休憩、一時ごろ目的の湯平、玉の湯に到着。溝口薫平氏に合うことができ、掛軸を贈ることができて目的を達した。近くの食堂でソバー式を注文、快い中食。帰りは黒川温泉に寄り、露天風呂を味わう。九重は霧が深かった。パーキング山田に寄ったが希望通り午後八時に六本松に到着。三和コーヒ店で緒方、深江の二人に面接。日程違約のことわりを述べた。九時帰宅。

2 月 23 日（月）小雨

終日の小雨。これで春が近まるのかも知れない。午前中うとうとしつつ読書。午後は安部靖弘夫妻が約束どうり来宅。すみ子さんが小さな事業はじめをしたいとの話を出してきて、それをめぐって意見交換をしたが、あと本番の揮毫実施に入った。墨汁など必要なものを出してきて、掛軸用の半切もの三枚を見られている前で仕上げ、午後七時半から四人で鍋物の夕食会に入り、九時すぎ二人はひきあげた。とにかく充実した一日になった。二人によるこんでもらって当方も満足。

2 月 24 日（火）小雨

午後小雨になり、帰りには濡れた。早目に中食をすませ、点滴のあと税務署へ。今年度の確定申告である。二〇分ほど順番待ちをしたが、かんたんに終り、アクロスに行き少々読書をした。近頃の読書関心はバブル崩壊、金融機関の乱れ、長期不況などを含む経済問題、賃金体系や雇用不振など労働問題、さらに大きくは日本の資本主義社会の行詰まり又は二十一世紀に体制がどう変わるかということだ。七時帰宅。

2 月 25 日（水）小雨

どうしてだろう小雨が降りつづく。読書に多くの時間をあてている。雨の中、約束のとおり別府四丁目の緒方宅を訪い、聖書研究会。二時半から四時まで。あとアクロスに行く。県立大を今期退任する安藤学長の来訪をうけ、大学創立期の彼の功績をたたえつつご苦労

をねぎらった。私より一〇歳若いというから、今後の活躍も期待される。社会福祉、心理の分野が専攻だから活躍しがいがあるだろう。七時前に帰宅。ゆとりある読書時間が楽しみである。

2 月 26 日（木）晴

在宅の一日。久しぶりのように思う。曇かと思ったのに快晴。外に出て鉢物に手をつける時間もとれたが、多くは書斎の片付け仕事に充てた。雑然としていたのが少々は整理されたはず。写真をひっくりかえしていると、思いがけずも戦前の三田村教室にかかわるのが一枚でてきた。七人のうち、先生とパヨン君としかわからない。二人とも今はない。よくしていただいた数々の回想。若い時もあったのだ。戦時だが比較的にスマートだ。タイ大使パヨン惜しい。

2 月 27 日（金）晴

快晴がつづき、また一日在宅。梅花は殆んど散り花片が西庭にいっぱい。鉢物を少し直した。午後早めに国技振の宮本さんが来訪、西公園の輝雲神社^{ママ}のことで姫路と連絡をとってみたいという。興味ある面もわかるが、どう展開するかは同行の杠（ゆずりは）氏に検討してもらうことになった。御着の黒田廟を前以てみておいた方がいいと思う。他の時間は読書。「ヨーロッパとは何か」が少しわかってきたようにも思う。宿題も少くない。

2 月 28 日（土）曇後晴

午前中に病院での点滴をすませ、午後はベル・プラザに行った。二時から五時まで三池労組運動史執筆についての二回目の話合いの会をもった。三池からは前組合長中原氏が出席した。概略の骨組みと執筆担当について腹合わせをした程度だが、三月には具体的な仕事に入りたい。七時頃、姫路相野に住む棟安信博氏が二人の子供を連れて来訪、しばらくにぎやかな応接室になった。長女は二年生。長男は二歳余という。今後に夢ありだ。

3 月予記

桜が平年より一週間ほど早く咲き暖冬の名残り。三池労組の五十年略史の執筆の割当てができたが、進行具合はどうか心配である。行政の各段階は大変きびしい予算にふりまわされている。生産消費とも落込む一方で失業率も増加の一途をたどってて明るい見透しはない。労働組合は自己主張の力を失っている。三月末は人事異動、年度予算の決定などあわたたしい。私にはアクロス理事長続投がきまった。老衰の方が心配になっている近頃だ。

3 月 1 日（日）晴

中国の人民代表者会議の陳達人氏ら主として江蘇省の人達一行八人がアクロスに来訪され

た。九時すぎに行って十時から約三〇分、挨拶や要所案内を行った。再会してみて記憶に残っている方だったので固くならなくてよかった。先方も私をよく覚えてくれていた。別に用件もなかったもので、終って帰宅したら十二時半だった。陽だまりは利用すべきだと思って今日はサボテンの鉢を少々作りかえ置きかえた。三池の運動史のこともあるので、年表をマークしてみた。

3月2日（月）晴

在宅の一日。ポカポカ照ってくる。どうしても外に出たくなって植木鉢に手が向く。鉢物も春に備えて用意ができ姿を正したようだ。八重樫が落花する例もあるが、今後しばらく大丈夫。陽あたりを求めて読書しようとするが、どうも読みにくい。三池炭鉱を念頭に参考文献に当たっているだが、私の手許では全くの一部でしかない。それでも構想を進めるには役立っている。今日当たった資料の中では主婦会の声がいいヒントを与えてくれた。

3月3日（火）晴

電話があって吉岡氏が十時ごろ来宅。生協への橋渡しを頼まれてのことだったが、先方が多忙ですぐの連絡に至らず、スシをとって中食し、お別れした。二時すぎ天神に出てアクロスでしばらく三池炭鉱をめぐる資料を読む。運動史を書く課題につき、だんだん展望が開けてきたように思う。他方どういう記念誌にするかについて困難さも感ずるようになってきた。六時半帰宅。春になったとの感が深い。六本松近く午後遠足の子が何組も何組もつづいていた。先生は大変な仕事。

3月4日（水）曇

朝食後でも眠い。読書をつづけ午後一時ごろ出発、点滴に行く。ここでも少々眠っていた。三時ごろアクロスに行き、電話連絡や読書で時を費し、約束どおり六時に六本松交叉点の三和コーヒー館で緒方氏と落合い、聖書研究で日程をとることの困難性について弁明のチャンスとした。彼は少々割り切れぬ思いであろうが、アクロスの事務方の言い分も納得してくれた。七時帰宅。夕食後は又読書。こんどは高齢者問題に入ろう。経済問題には又かえるであろう。ぐっと春めく。

3月5日（木）曇後晴

気になっていたので障子三枚について継ぎ張りしたが、動かないものもあって技能もさることながら出来はよくなかった。やり直しというわけにはいかない。電話連絡したら OK ということで上田、河野が来宅し、午後早くからマージャンの時間となったが、何時もながら、それぞれ年をとったという感じだけが残る。夕食は出来合いの弁当で、十時頃まで遊びっ放しの一日になった。

3 月 6 日（金）晴

三池労組に行った。九時に出発して帰宅は六時半。組合史編集に関する検討が仕事。こちらからは大坪と嶋津、組合側は芳川組合長と中原、森田二人、前々組合長。参考になる資料現物及びストック写真を見ながら組合史編集の具体化に向けて討議を一步深めることができた。あと一〇〇日ほどで原稿を提出するという目標で、各筆者に努力願いたいし、私もそれなりの務めを果たさねばと思っている。

3 月 7 日（土）晴

午前は点滴に。アクロスに寄ろうかとは思いつつ寄らずに帰宅した。中食後暖かい日照のもと、又庭に出て今日はアロエの小さい芽を尽く摘み取り太茎が成長しやすく折りながら鉢をきれいにした。小芽がずい分多くもぎ取られることになったので、庭の隅あちこちに埋めておいた。別の生き芽になるだろうと思う。高齢者問題についての読書、あと三〇年ばかり問題化が進む。

3 月 8 日（日）晴後曇

読書はするけれど眠くなる。庭に出るけれどなすべき手なぐさみがかんたんには見つからない。陽光がさし込んで春の有難さを感じられる。草花はこれから自分の力を発揮しようと構えている。午後二時からの草香江王国会館の公演、研究会に出席した。七〇余人の出席とのこと。「憐み」についてキリスト教的説話が面白かった。四時半帰宅。河野正輝氏からもらった「高齢者の性」を読み進める。学術論文集だ。

3 月 9 日（月）晴後曇

昨夜は雨が降った。午前中僅かに照ったが、又曇ってきた。在宅の一日だったが、高齢化についての読書を進めたものの飽きがきて、夕方から古切手の整理に手をつけた。これは限りがなく逆に時間がかかるばかりで且つ終点がない。受けとる一方の切手ではあるが郵政省がよくもこんなに多種多様の切手を発行するものだと驚き一しおだが反面、コストの点で無駄平気でやっていると思えば腹が立つ。まだ暖房は必要といえる。春少しずつだ。

3 月 10 日（火）小雨・曇

降っているようで、いないようで、歩いていると傘は必要という天気。昨夜は降ったようだ。十時に出発し、アクロスに行き事務連絡。あと点滴。そしてベル・プラザへ。三池労組から中原、芳川両組合長、そして西日本印刷から二人、今回は岩崎隆次郎氏も加わって第三回目の三池労組 51 年史の編集についての心あわせを行った。私の司会で、どんどん前進する積りで合意を図っていった。次は四月上旬に担当者の目次案を寄せて執筆段階に入ることにした。五時に帰宅できた。まだ小雨。

3 月 11 日（水）小雨

在宅の一日だった。ずっと小雨が止まなかった。朝六時から夕方六時まで筆墨の時間にあてることになったが、気に入らぬものを克服するのに手間がいっただけのこと。全紙となると動作にも負担がかかる。こんな大きなのをどう利用するのか疑わしいが、頼まれればことわらないで置く。新聞には不況関係の報道が多い。大蔵省の汚職記事もつづいている。ネガティブ分野ばかり。

3 月 12 日（木）曇後晴

昨日突然に上あご列状の義歯の一部が折れ落ちたので、午前中は歯学部補綴科を訪ねた。寺田先生の代りの人が十全に面倒をみてくれ復元して下さった。工学部の森祐行氏と会計窓口で出くわし、生協で中食を共にしつつ、情報を交わすことになった。二時にお別れし、私はアクロスに立寄り昨日の揮毫作品を届けた。森氏は選炭技術のことで論文を書いているが、技術が経済的ニーズから強い影響をうけていることがわかる。四時帰宅。何の音もせぬ静寂。

3 月 13 日（金）晴

在宅の一日。気がかりな三池労組史後半分（三池争議から今日まで）の概要を構想する仕事にとりかかり、関係資料を見ながらポイントをノートするスタートの日とした。視力が衰えていて能率が低いのは自覚せねばならない。四〇年近いこの期間について私の頭は空に近かったのだが、少しずつ埋まっていく感じである。基準解雇（一〇年前）が災害、差別と共に大きな柱となりそう。着実に頭の中を充填していきたい。

3 月 14 日（土）曇強風

午前中は病院点滴。午後は上田、河野が来宅、夜おそくまでマージャンで遊んだ。春一番ではないと思うが、風が強く雷が鳴って外は騒々しいようだった。甘夏柑を取って食べている。今年豊作すぎるほどである。体調がよくない。特に脚の弱くなったのを痛感する。病院で検診を受けぬまま長期に亘っていることは承知のことだが、即入院といわれそうなので検診せずに済ませている。

3 月 15 日（日）晴

春風で暖いはずの晴天なのに寒さを感じさせる。草木、小鳥はそれなりに春をよろこんでいる。在宅で身辺整理に少々時間を費した。王国会館に午後は三時間充てた。若い人達がスムーズに予定行事を消化しているので熱意と熟達に改めて感心した。事前の打合せも十分のようである。今日も三池炭鉱の解雇強行裁判についての資料に目をやる。だんだん略史編集に関する整理が具体化してくると思う。

3 月 16 日（月）晴

十一時すぎアクロスに行き、師村氏の来訪をうけ小話のあと地階のスシ屋で彼夫妻と中食をして別れた。二時すぎ県の松田氏が来訪、揮毫ものを届けることができた。新しい揮毫依頼もあって荷物がふえた感じになった。神戸からの渡辺氏も加わり、震災復興の苦労ばなし、希望などきくことができた。渡辺氏から珍らしくもイカナゴの釘煮を土産にいただいた。明日交流ギャラリーで開かれる子供書画展主催者のあいさつ来訪もあった。

3 月 17 日（火）晴

日中こども書絵画展が交流ギャラリーで十時に開幕、テープカット式があった。小学四年生 10 才の趙楊（女）さんの揮毫を目のあたりにして、もう専門家といえる程度に腕をふるうのをみてびっくりした。式のあと彼ら一行市内見物に行く前に理事長室に来てもらい、作品やおみやげ品を交換する場を作った。陝西省国際交流中心の何曉朗氏が団長。今日は散髪や点滴も消化でき、三時半には帰宅した。決心のチャンスであったので、夕方から色紙十枚書いた。佐藤副知事が私の続投を告げに来訪。

3 月 18 日（水）晴

頼まれていた色紙一〇枚を三カ所に発送する仕事をアクロスの事務所が手伝ってくれたので助かった。九大生協六本松で日本近代化に関する森祐行氏紹介の本を受け取った。三池囚人労働史の参考にしたい。六時半からサンヒルズホテルで県職組宗像支部の工藤正夫氏退任の激励会があって出席。組合及び地元の人達三〇〇人ほどでの送別の会となり盛大なもの。滅多にこんなケースはなかろう。私の色紙贈呈のシーンもあり皆さん有意義だったろう。九時半頃帰宅。若干疲れを感じた。

3 月 19 日（木）曇・小雨【欄外記入】突風

在宅の一日。何かをすべきとの心の課題もない。放任されたようで横になり眠ったり、何か一寸片付けたり読書したりである。山口から神戸に職場をかえた馬渡氏が須磨明石の名産イカナゴの佃煮を呈送してくれたので賞味しお礼状を書いた。明石海峡大橋も完成したことだが、震災後三年たつ長田区の復興が気がかりである。復興が新しい社会づくりにも関係していると聞く。生協方式の前進に期待したいところだ。

3 月 20 日（金）曇・小雨

昨日夜六時ごろから深夜まで、雨に加えて突風。わが家の月下美人の鉢はみな倒れ、JR 今宿近辺では列車の転覆事故もあった。朝までに復旧したようだ。小雨のため落葉で汚されてしまった玄関近くは掃除もできないままに終った。——連休のため混むと思って朝早めに点滴に行き、寄り道せず帰宅したら十一時ごろだった。そのまま暖房のわが部屋で書の

ページを繰った。それもいつも見ている墨場必携である。夏に長春に行く予定なので適宜揮毫しておいた方がいいと思い、その準備のためでもある。

3 月 21 日（土）曇

一日中空は鈍重な感じで曇ったまま。私も何するということなく書斎に籠って一日が暮れた。そういう春分休日であった。朝食の前に一昨日夜の突風で振り落された木の葉を主体とする玄関脇の雨吹付け葉塵を掃き清めた。あとの時間は読書でなく本棚整理だった。毎日のごとく外からの資料が突込まれ、形はともかく中味が全く乱雑で一棚分ほどでしかないのに同類を一冊にするのに手間がかかる。塵も積って山となる。時間又は手間を塵におきかえて、こういえる。

3 月 22 日（日）晴

十時すぎに出発して東市民センターへ。なつメロは一時から。その前に中食懇親会があった。それに参加した。唄うのが好きな人も多いようで五〇人をこえないようにといわれた。高齢者の余暇の一つとして「なつメロ」も人気を呼んでいるらしいが、会場の都合から限度にきているわけである。帰宅は五時半になった。糖尿のせい、やはり疲れを覚える。今日の歌で「上げば尊し」が印象的である。気持ちがこもっている。

3 月 23 日（月）晴

大学生協事業連の 21 世紀小委がパピヨン 24 ビルで行われ参加した。三時から五時半まで、10 人。終ってビル地階で夕食会を共にして後帰宅。午後八時半であった。今日の論議は「地域センター」づくりの構想にどう対応するかにしぼられる。事業連が既に動いているので全国的視野から構想される地域センターがかぶさっている形だから対応はゆったり構えているということになる。組織と運営がさらに慎重にされる必要がある。

3 月 24 日（火）曇

早めに中食し天神へ。点滴をすませてアクロスに行ったら三時少々前だった。四月はじめて開催予定の与論会一〇〇年祭へのメッセージを大牟田与論会に送った。時間があつたので三階の資料室で、「天長節」についての百科事典記事をコピーした。五時に約束どおり多川・玉置両氏が来訪、今泉の「なか庄」でスシ料理をつつきながら雑談に興じた。車で拙宅まで送っていただき九時に一日を終えた。右手の皮膚がただれて痛みがひどい。

3 月 25 日（水）晴

午後晴れてきた。在宅の一日だったが中食をはさんで行橋の利島さんの来訪で、雑談の数時を過ごした。世代間の意識の違いも話になった。来る参院選への女性候補衝突作戦のこ

とも。彼女は年をとったし、特別の動きをしたくないといていたが、なるほど感じた次第である。西日の当る中、藤棚をととのえることができ平素の思いを果たした。書斎にこもると、読書よりも紙類の乱雑をととのえる方へ手が向く。

3 月 26 日（木）曇後雨

午後アクロスに行く。年度末なので理事会を開き、新年度にそなえなければならないので。今日は二時から議案をめぐる討議。白土、森山、小川が資料を準備してくれている。五時ごろに終り、あと交流ギャラリーでおこなわれている「淡遠」の書展をみに行く。前崎南嶂氏には会えなかったが、奥さんに会えた。夫婦揃っての出品を拝見することができた。六時すぎに帰宅できたが雨の中だった。

3 月 27 日（金）雨後曇

小雨が昨日からつづいていたが午後には降り止んだ。在宅の一日を書斎で過ごす。やはり気になるのが冊子や紙^{ママ}辺の乱雑さで、同じ種のを一まとめにするさえやはり無限に時間がかかる。平素整理してないからである。あれこれ確認して過去を思い出し、驚くほど貴重なものを再発見したりだが、要は自分だけでうまく整理するには限度があるということが再確認できた。

3 月 28 日（土）晴

陽光さし込む縁側でしばらく読書を楽しむことができたし、鶯の声もきくことができた。木の芽が目立ってきた。五時から全日空ホテルで下道直紀氏の「21 世紀へ自衛隊分割論」の出版祝賀会が開かれたので出席。村山前総理の出席もあり、前年の若者との対談も自衛隊に対する考え方を確かめる上で興味深いものがあった。九大時代の斎藤、小島、福留に合うことができた。旧社会党系の人達が中心で一五〇人ばかりの会衆だった。終って別室で村山氏と雑談する機会もあった。八時帰宅。

3 月 29 日（日）晴

霞が濃く、五月なみといわれる高温の一日だった。十時にアクロスで落合い、森山氏の車で、途中太宰府五条で内田氏を拾い、吉井町「おひなさまめぐり」。みゆき同行。観光協会では金子さん、渕上参議ら迎えてくれ、早速街中を一巡するよう金子さんの熱心な説明をうけ、おそ目の中食懇談会を原鶴六峰館で盛大に開いていただいた。桜の花も急に満開に近く、帰路はビューホテルの高地をまわって楽しんだ。内田氏途中下車。森山氏が車でわが家まで運んでくれて帰宅は七時すぎだった。

3 月 30 日（月）晴

春、いよいよピークという感じ。桜見に熱をいれる人も少くない。ただ、生産、失業など経済不振の数値は高まるばかり。十一時からアクロス理事会があり、年度状況報告、運営方針予算、新役員などについて審議決定。私ら役員続投となった。施設・運営の評判は良好。中食弁当を共にし散会、点滴に行く。雑用のうち読売新聞記者の六本松キャンパスについての取材に応じたのが主。部屋の片付けなどして帰宅できたのは六時。九大キャンパスにはもうヨドガワが開きはじめた。花も気温におくれまいとしているようだ。

3 月 31 日（火）晴

異動で退任する者三人への辞令交付が九時から行われるため早く家を出た。午後二時に県議林事務所へアクロス人事についての謝礼のため森山、ももちパレスの近藤の二人とともに訪問した。あれこれ裏話もきかせてもらった。那珂川沿いに歩いたが改めて河岸が美しく公園化され桜も咲いて美しいのに感銘した。夕方まで理事長室の資料棚を整理したが、平素の放置がたたって時間がかかった。五時半から巳千代で近藤、森山、白土を相手にマージャンを楽しんだ。帰宅は十一時だった。

4 月 予記

年度がわりで人事異動、事業方針、予算など、あれこれ関係団体に耳を傾けると忙しい月になる。今年は桜も例年より数日早く咲き人々の浮かれもそれだけ早かった。しかし官庁の「汚職」が新聞を賑わし、不況が深刻化する中で楽しさは半減したようだ。国外に出る人は多いようだが、連休を国内で楽しもうとする人はかなり減っている。料理屋もタクシ一業も不振を歎いている。市民一般も。

4 月 1 日（水）雨

一日中かなりな降雨。午後早めに出発したときは、それ程でなかったのに、バス停までの途中、雷雨となり風強く全く濡れてしまった。点滴をすませアクロスへ。やっと間にあって退任者など八人の辞令交付。小川氏は県に戻る。三時から五時頃まで読書などして過ごし森山氏と新宮県議事務所に私の理事長続投の挨拶。近く南京に行くという彼、大きな事務所の構えだ。六時少し前に帰宅。濡れた衣服もほぼ乾いていた。

4 月 2 日（木）曇後晴

アクロス福岡の理事長続投ということになったので、その旨お礼まわり。七時半にアクロスに行き白土専務と落合い、まず飯塚の三木県議事務所へ九時。帰福して一時から県庁へ。知事、三人の副知事、小山議長、倉重副議長は留守。太田出納長も留守。以上あいさつまわり、終る。年度がわりで、アクロスへの挨拶者もあれこれある。飯塚からの帰途、篠栗

の上岡さん宅に突然乍ら立ち寄り、ご夫妻の元気な姿をたしかめることができた。おみやげをたくさんいただいた。六時に帰宅。新聞には不況の深刻さが報道。

4 月 3 日（金）晴

在宅。藤房がもう 15 センチほど伸びてきた。桜は満開のところが多いが花冷えで山頂に雪といわれるところも聞く。いずれにせよまずはおだやか。読書は進まず、庭いじりや机辺整理。したいことは次々にある。でもこんなことして何の役に立つのかと思う。成りゆきにまかせてもどうということもないと思う。過去の思い出が具体的に、ぞろぞろ出てくるのが楽しいといえはその効果ありといえる。他人と関係なく自慰のみ。そのような日々、凡々の一日。

4 月 4 日（土）晴

午後二時から駅南の日本語センターで三池労組五〇年史の編集者会議があり、労組からも来てくれて 10 人ほど。五時頃まで問題を出し合って懇談した。五月中に原稿を出しあうことになっているため、皆さんよく勉強してくれているという感じだった。夕食は少し離れた所まで歩いてフランス料理を囲んでの懇親会となった。職場闘争などが俎上にのぼる。意気投合。帰宅は八時少し前。

4 月 5 日（日）曇後晴

きりないことだが書斎の雑品を整理する。定期刊行物がどんどん郵便で届くがあちこちに積み重ねられればらになっているが幾分まとまってくれている。捨てればいいのと思う反面やはり保存にこだわるのだ。庭の雑草も取ったが、退屈を感じ、午後ややすぎて上田、河野氏を呼んでマージャンをした。夜半すぎておそくまで遊んだ。誰も老化を仕種にあらわすのをみると限度かなとも思う。

4 月 6 日（月）小雨

一日中霧雨がつづいた。午前中に点滴済ませ、アクロスに行く。しばらく読書。二時半、鞍手の林宏氏（元高教組役員）ら三人が来訪、「食と緑の会」の顧問を依頼され、OK とした。三時半にアクロス福岡一般職員に対する辞令交付式。県庁以外から派遣される人が多い。大幅入れかえの形でなれるまで時間がかかろう。早目だが五時帰宅。あと読書。

4 月 7 日（火）曇

桜の花びらが敷きつめたように路上を飾っているが、まだ満開にみえる。十一時にアクロスへ師村氏が迎えに来て朝日ビル地階「あさひ万惣」での中食会に出席。中国書家矯非我氏の帰国お別れ会。大連の人で書道展などで来日していた。八月の長春での会館オープン

行事の話も出た。矯氏はまだ若くやり手のようだ。二時半アクロスに戻るが特に用件もなく、帰宅は五時。ゆったりの気持で読書は少々進んだ。

4月8日（水）曇

在宅。いつ降ってもおかしくない暗い曇天の一日。何の音もきこえない静かな一日。一昨日購入した「大震災後」（岩波刊）を読みつづけている。いい勉強になるが、結局は問題が大きすぎて難しい。眠くなってひるねもした。春が深まり、藤房も二〇センチほど垂れて花びらさえみせはじめた。それはともかく白土氏が昨日、二人暮らしの将来をどう考えてありますかの問には即答がない。どんどん日が経つだけ。

4月9日（木）小雨・曇

一日中雲低く暗く、夕方まで小雨がつづいた。外出の気が殺がれ、書斎にこもることになった。「進歩と改革」への原稿は昨日からつづけ仕上った。読書は一服するとして、又又書斎内の整理に切りかえた。意義があるともいえず、限度のない骨折りだと自覚しながらやっているだけであるが、相応に心の整理にもなっていると思う。雇用条件がますます不安定化する情報に囲まれている昨今だ。首切り自由だ。

4月10日（金）晴後曇

午後早めに点滴に行く。三時ごろ帰宅。曇ってきた。桜をはじめ、若芽がどんどん延びてきて、夏近しの感だ。六本松、九大内植込みの「よどがわ」がとくに大きく美しく咲きほこっている。わが家のは揃いがよくない。梅の実がつかないのが不満だ。今日もまた書斎で机辺の書類の整理をすすめた。珍しいものが出てくるので楽しい。スペースが広い。ゆとりを感じさせてくれない。積みかえに終わっている。でも少しはすっきりしてきた。さらに限りなくやろう。

4月11日（土）（晴）

在宅ながら今日も書斎にいながら特別になすこともなく暮れた。限りないが整理という仕事。無秩序がつづいた。後始末と考えればいいし、過ぐる日々を思い出すのもいい。しかし出版物で目をとおしてないものがこんなに多いのかと驚く。時間があればどれでもいい、読んでみたい。無関心なものは何一つないのだから。西日を浴びつつひるねを少々。藤房がもう三〇センチ。早いのは散りはじめる。丁度見頃である。よどがわも。

4月12日（日）曇

雨との予報だったので傘をもって出たが降らなかった。十時半に出て五時半帰宅。香椎の東市民センターで例の「なつメロ」会。二人連れで中食も共にした。以前、天長節があっ

た月なので長沢氏の求めに応じ私が天長節のいわれを説明したのだが、百科事典をコピーして役立たせた次第。中国では唐時代七四八年玄宗帝に始められ、わが国では光仁天皇が七七五年に宮中で祝宴したのが始めだという。今日のは明治元年、戦後は天皇誕生の日と改名。

4 月 13 日（月）小雨後曇

起きたら小雨だった。在宅。三時頃には降り止んだようだ。出版物をみていると読むべしと思うのがたくさんあり、二冊の雑誌を読んだ。「日本の進路」では政治問題、「JIL リサーチ」では雇用問題。とくに後者では高梨昌氏の分析がよくわかった。グローバリズムへの対応につき国際資本の言い分ばかり気にしている流れには警戒を要する。労働力を単なる商品とみなさないで国民大衆として考えるべきだろう。アメリカの大衆の動きにもっと注目したい。

4 月 14 日（火）曇

森山から連絡があり、アクロス入替新入職員の顔合せ中食会をスシ幸で行うことになった。七～八人で計十一人の集りになった。終って点滴に行き、アクロス交流ギャラリーで行われている「大宰府の春」展を一巡。一二〇〇年前のことが極めて詳細にえがかれていた。三時から県の松田氏が来訪して日程の打合わせを行い、ゆったりした気分で平素から思っていることを語り合うことになった。帰宅は七時すぎになってしまった。

4 月 15 日（水）晴

十二時半宮本氏の迎えの車で平和楼へ。国技振の年度決算書作成の会。赤松氏を入れ五人で中食も兼ねる。三時からアクロスで大坪・嶋津に来てもらって三池五〇年史編集について打合わせ。二人とも分担箇所についてよくやってくれているので安心して委ねうと思った。あと下のコーヒ店シャッポーで雑談に時間を費し、六時半帰宅。ライラックの花が風にゆれていたが、数房切り取って花瓶に移す。すっかり初夏といえる。ひまがあれば眠くなる。

4 月 16 日（木）晴後曇

飯田氏からの要請で能画展にゆくことなり、まず十一時にアクロスで話を承り、12 時から大丸六階で開かれている能画展に出た。画師龍英樹氏に紹介され一巡ののち東別館 3F で中食を共にし、画集を買ってお別れした。画師から県にも寄贈したいがその方法についての相談があつていて飯田氏との話の焦点はそこにあった。お別れ、点滴して帰宅したら三時だった。

4 月 17 日（金）晴曇・雷雨

留守番のような在宅。草取り、書斎整理、墨筆手なぐさみなど何の目標ももたず過ごした。小冊子を読んでいて感じたのは皆さんがよく勉強しているということと、大変な時代になろうとしているのに動こうとする人が少く気力に乏しいということである。午後曇ってきて夕方になると雷さわぐ小雨。少々寒い。よく降ると感ずる今年は水の心配がなく過ごせるのではないか。

4 月 18 日（土）曇後晴

朝のうちに点滴で天神往復。帰宅し久しぶりに墨筆の時間をすごすことになった。とくに課題もないので飽きると外に出て草取りもした。花冷えというか少々寒い。夕刻昨日から目を通していた富山和子氏「水の文化史」（筑後川篇）を読んでしまった。二〇年前に文芸春秋社から出版されたもののコピーであるが、水と緑と土について又筑後川中流左岸の五庄屋の話など耳を傾ける箇所が多かった。

4 月 19 日（日）晴

金子文夫氏がアクロスの講座でレクチャーに来られるので、すし幸で中食を共にすることになった。おみやげにモスクワ・オリンピックのマスコットをさし上げた。昨日から考えての準備であった。食後お別れして私は大丸 6 階で開かれている能画展に再び足を運び、飯田さんには会えたが能英樹氏は体調悪く京都に帰ったという。私の揮毫もの一枚贈っておいた。五時には帰宅。夜は筆つかいの遊びに終始した。

4 月 20 日（月）晴

在宅の一日。特別の課題なく、南側の庭の雑草など手入れして自己満足の方へ。他の時間は墨筆の遊び。きりがいいけれど、これまた自己満足の努力と成果。新聞では日米安保新ガイドライン関係諸法案が与党間で議論されはじめたとのことであるが、米軍の要望どおり日本が動き費用も出すということに尽きる。せわしない国というだけで人類にとって歴史的に何の意味もない。

4 月 21 日（火）曇

傘さす程ではなかったが曇も重かった。ひるをはさんで点滴とアクロスゆき。三時から大濠会館で国技振興会理事会に出席した。七月に壱岐で子ども相撲をやる準備が進んでいると、これ初耳。森氏も来ていて六月を目途に、五月の「いきっ子会」に私も行って現地の人達を励ますことになった。是非、成功させたい。不況はまだまだ深刻さを増している。年末までよくなる見込なし。

4 月 22 日（水）雨後曇

在宅。書斎で一日。ひる頃まで小雨はつきりと。あと曇。一時的に夕陽もさし込んだ。机辺で思い付きのように冊子を取り出してパラパラ読むのだが、どれもこれもていねいに読みたいし、そうしていると時間がいくらでも必要という感じがするのだが根気強くあせらず特定せず、あれもこれも可能な限り読んでいこうと思う。雑学を楽しみとするわけだ。朝鮮通信使・対馬のこと勉強になった。

4 月 23 日（木）曇

一時からアクロスでどんたく祝儀物の署名をし、あと点滴に行く。また理事長室に戻り、四時すぎ師村氏が案内して来た諸葛孔明の裔孫 50 代目の紹賢氏及び麗華女史（51 代目）に対応、しばらく雑談した。明日、国際ホールで再会の予定。五時に約束どおり多川・玉置の二人が来室、後者の車で薬院の料理店「小りん」に出向き夕食懇談会を三人で。八時半ごろ同じ車で送ってもらって帰宅した。（エコマークたわしの話）

4 月 24 日（金）曇

ひる前に出発し、まず県庁の職員組合に行き藤田参議候補へのメッセージ原稿を渡し、吉塚駅近くの中企業振興センターへ。「食とみどりの会」結成総会への出席。総会後の役員懇談会まで付き合い、次は六時から国際ホールで開かれた諸葛紹賢・麗華両氏の来福歓迎パーティーに出席。紹賢氏は諸葛八卦村について四〇分ばかりスピーチ。これには 50 人は聴いていた。そのあとのパーティーは一〇〇人ほど書画関係の人達の出席で賑わった。九時ごろ帰宅できた。農の話は厳しい。

4 月 25 日（土）晴

十一時すぎから点滴。軽く中食をとってアクロスに立寄り、三時からパピヨン 24 で開かれた大学生協九州連合の理事会に出席。私は引きつづき顧問として関与することになる。他の役員も同じ。赤字にどう対処するかが単位生協の悩み。共同事業運営についての論議はもう一歩高めねばならない。地域センター結成については引きつづき経過を見守る。三時間もの会議。沖縄からの理事を含め、夕食懇談会 10 人（於春吉）。あと駅南でマージャン。森氏、理事長ら。帰宅は一時になった。

4 月 26 日（日）晴

藤花が咲き終って房が見ぐるしいし、若蔓もどんどん延びてきたので、朝食後蔓切り作業を決意した。南と西の藤棚だが足腰のバネも弱くなっていて慎重に取り組んだので時間がかかった。甘夏柑も花が付きかかったので全部取り切ったが意外と多く五〇箇所はあっただろう。これもかんたんに取れなく時間がかかった。終わったら十二時半、疲れ切った、へと

へとになった。中食後草々枝^{ママ}の王国会館へ。一ヵ月ぶり。四時半帰宅。

4 月 27 日（月）晴

在宅。この際庭木の剪定を全部しておこうと思って朝から取り組んだ。木の芽はどんどん伸びる。若葉の勢いに打たれる。午前・午後三時間ずつ打ちこんだ。疲れるので休みを十分にとらねばならない。足がふるえるようで不安定さには気を使った。夕方五時半には目的どおりで終る。鉢には君子らんが今満開。松の新芽が勢いよく伸びているのでこれは秋に手入れをしよう。植物が季節どおりに伸びる神秘を知りたい。

4 月 28 日（火）晴

高温、薄霞。宮本氏の迎えの車で九電ビルへ。十時から九州国技振興会の今年度総会。昨年度と違う点は森氏の中もちで秋はじめに壱岐で子供相撲を催すことになったこと。予算額の減は不況の反映か会員減が生じたためだ。中食を共にし、散会。吉岡・飯田の二人と喫茶店に入り、別れ、私は点滴。三時半にアクロスに寄る。別段変わった事はない。五時半帰宅。門の近くの植込み若干剪定。夜今年はじめてのシャワー浴び。

4 月 29 日（水）曇

夕方は雲低く降りそうになったので散らかせていた剪り枝を数箇所にとめた。蘭鉢はいくつも満開の花をつけている。玄関の筍が一本空に抜き立っている。低く切り抑えねばなるまい。昨年から手をつけている若き頃の身上記録は今日もいくらか書き加えた。もっと書きたいがぼつぼつ書こう。今回は自分の人生の節々はこうだったという思い出。九大に職を決めるまでの節々であった。

4 月 30 日（木）薄曇

九時二〇分に迎えの車がきてホテルシーホークへ。会議室であかね園（高橋泰子園長）職員研修の講演を担当。テーマは、心のあり方で合理主義の欠陥を見直す角度をもつよう注文されていた。時間は十時から八〇分。若干緊張した。聴講は 25 人の職員のほか朝日カルチャーセンターの前田氏と篆刻の師村氏がいた。終了後中食を共にし、あと私は天神行って点滴をすませて帰宅は四時。四月中の大きな課題が終ってやれやれた。

5 月予記

近頃かんたんな表現にすると孤独。ひとはあまり相手にしてくれない。でも恨むことはない。余分なお世話は無用だし、気を使ってくれない方がいい。隠居とか閉門とかよくいったもので、社会は私のごときを放置し、私は自分なりに動き、考え、ひとに求め、自分を反省まとめをするのがいい。アクロスも自発的に引いた方がいいのではなかろうか。

5 月 1 日（金）曇後晴

メーデーはどうなっただろう。関与しないのでわからない。在宅でとくに何かをしたわけではない。不況の深化が気になる。回想録を少々書いたが、興味がわくことも少ない。又外に出て鋏をもつ。小枝剪りの仕事はいくらでもあるので、何回もぼつぼつに進めよう。勝手な判断で摘むので切られた小枝こそ迷惑な話だ。摘む仕事があるような住宅をもつことができたのは幸せというしかない。

5 月 2 日（土）曇後雨

ドンタクは必ず雨とひとはいう。今年も雨かも知れない。土曜なので午前中にとまって病院での点滴、ついでのアクロス寄りをした後、十二時すぎに帰宅。午後雨は本降りになってきた。しかししばらく。夜九時すぎ予告された通り姫路の妹和代が娘の里美とその子二人を伴って来宅した。学校の連休を利用しての来福である。京都に住んでいる。新幹線のぞみで二時間半でこられたという。パツとにぎやか。

5 月 3 日（日）晴

京都から来た里美ら親子三人は朝から八幡のスペース・ワールド見物に行った。帰りは深夜。憲法記念日にちなんだ行事がどうなっているか私には無縁でわからず世間は一般に単に休みという程度で今日を迎えているようだ。終日在宅。玄関の筍、長い長いので適宣の長さに切取る。又西側の椿など剪定。まだ少々残っているが、これでおよそ剪定作業は終わったと思う。夕食後和代と刀出や佐方の近況について雑談した。

5 月 4 日（月）晴

九時にアクロスへ。どんたく港まつりの稚児舞いが九時半にアクロス福岡に来て、われわれの側はこれを受け、一束一本理事長祝儀までの儀式に対応。西流の稚児舞だったろう。ゴザにのぼった稚児は七人だったろう。晴れて気分満点だ。終ってしばらくして理事長室に和代、里美の一行が来訪。森山氏がシンフォニーホールなど館内を案内してくれた。私は「なつメロ」東市民センターに行き五時すぎに帰宅。天神は「どんたく」大変な人出だった。迷い子も出たろう。

5 月 5 日（火）晴

昨夕はどんたく祭りで博多埠頭ベイサイドプレースを中心に大賑わいで京都からの谷水親子は楽しさを満喫でき、今日昼をはさんで天神に出て午後おそい時刻の新幹線で帰京した。和代は天神に出なかったものの同じ列車で姫路へ帰り、わが家は元どおり静寂に戻った。あと玄関通りのツツジの剪定をしていて蜂に刺された。右手親指。早速アロエを使って手当したが大事に至らないようだ。残念ながら疲れを感じ動きが鈍重になったし、気分も重

く、無為だ。

5月6日（水）曇後雨

点滴、そしてアクロスへ。呉汝俊から招待されていたので箱崎五丁目の彼のマンションに行く。こまかくアドレスをきいていなかったのも雨の中探しまわったが見つからず電話して迎えに来てもらった。七時頃になって招待客も揃い楽しい夕食会が延々つづき辞去したのは十時だった。九人のうちに RKB の OB で昨夜北京ゆきの世話をしてくれた阿部さんがいた。雑談の中味も調和し楽しい一夜だった。

5月7日（木）雨後曇

春雨とはこういうものといえる雨模様。いつ降るか、いつ止むか。その中で緑の若葉がすくすく伸びている。蜂も蝶も忙しいらしい。在宅で何するとなく資料に当たっていたが、森祐行氏の選炭史に関するエッセーが届いたので時間をかけて読んだ。社会と技術資源について非専門的といえるだろうが新しい見解が展開されていて興味がひかれた。技術は社会的ニーズに従属するとでもいえるだろうか。二一世紀を考えさせられる。

5月8日（金）雨後曇

じめじめした天気がつづく。でもやはり出なければならぬと思って中食後天神に出た。点滴と調髪である。床屋さんにはもう四〇日ぐらい行ってなかったと思う。髪も伸びっぱなしで白髪がますます目立っていた。帰宅したら四時半。何もしないでまっすぐ帰宅したわけ。どうも近頃は足腰だけでなく意欲も衰えたようだ。欲のないのは、他方でわれながら一寸心配。読書だけは断やすまい。

5月9日（土）晴

十時に名古屋の吉瀬氏のアクロスへの来訪。内田氏も来てくれ歓談のあと地下のスシ屋で中食別れた。二時から国際ホールで参議渡辺四郎をはげます集いに出席。後継予定の藤田一枝、それから社民党首の土井たか子両氏も出席スピーチ。立食パーティのあと、内田氏の車で浮羽町民会館へ。六時から八時半まで渕上参議のための集会。土井さんの公演をきく目的の一般聴衆が会場を埋めた。あと筑後川温泉ホテル「清乃屋」で会食。温泉につかって、ここに泊る。内田氏も。

5月10日（日）曇後雨

八時の朝食前に温泉を浴びた。八時半に土井さんが大分へ出発。これを見送り、内田氏の車帰途についたが、太宰府歴史資料館に立寄り、改めて展示模様を見学した。早目の中食をうどんて済ませ、二日市駅で内田氏とお別れした。西鉄薬院駅で下車、一丁目の九電ホ

ールに行く。西川鯉近さん主催第 15 回鯉の会記念公演に行く。一時から五時まで。留学生対象の国際交流の番組も盛り沢山。満席、女性中心の賑わいであった。雨になった。

5 月 11 日（月）雨

在宅の一日。ずっと雨。ねばり強く、時には雷もあった。降りすぎといってもいい。書斎で、五〇年以上前に書かれた植村氏の絵画史系の本を読みつづける。理解不足もあるが一寸古い意見かなと思う。もっと前からこうした文芸分野の本に接しておくべきだったと反省している。気温が低目なので対応、それに老人病のうちといわれる睡魔にとりつかれ朝食のあとベッドにもぐりこんで少々眠ってみた。読書力もにぶっている。だが苦にすまい。

5 月 12 日（火）雨

今日も一日雨だった。まるで梅雨。夕刊では唐津城の石積み土台の一部崩壊が報じられていた。インドの核実験への反撥のことも。午前中に出発して点滴。アクロスに寄ったあと、パピヨン 24 で開かれた大学生協連の 21 世紀委員会に出席した。地域センターを作ることについての意見まとめが中心課題。10 人ほどのメンバー。六時ごろに終ってあと西中洲の「まる家」で夕食会。九時前に帰宅できた。雨は止んだようだ。

5 月 13 日（水）曇

ぐずついた天気がつづく。葉も花もつぎつぎと自分の道を歩む。とくに気に入ったのは鶯だ。老鶯というべきだろう。数日前もすごいメロデーだと思ったが、今日はあらゆる曲を弄んでいた。聴く者を楽しませるに絶頂といってもいい。裏庭のどこかだが特別よいところがあるわけではなく見わたしても姿が見えない。県職労筑紫支部からたのまれたマラソン大会用幟を三枚書くのに骨折れた一日といえる。

5 月 14 日（木）曇

どうも太陽が見えない。在宅で昨日の作業のつづき（幟かき）をした。気に入ったものにはならなかったが、やり直しができない布幟への揮毫になるので止むなく終点に着いたことになる。工房なく大型の仕事なので、これも失敗の一つという汚点があちこち生じた。三時には点滴と決めていたので、ともあれ仕上げとして天神に出かけ病院は単なる往復とした。和代が大袋のそらまめを送ってきてくれた。

5 月 15 日（金）小雨

ゆったりとした一日になるかと思っていたのにアクロスの森山からの電話で葬式ができた。明日は別用があるので今夕通夜に行くと決めた。県評時代に知り合いになった山本勲氏の父（80 才）が糖尿系併発病で死亡。そういわれると何だか私自身追い詰められている

ように感じる。志免町役場近くの若杉会館。少々時刻は早かった。五時頃で、これからというところ。早目に行くと煩雑さを免れえて勝手ながら心的負担が軽く県にいた時からの習しだ。

5 月 16 日（土）曇

二時から日本語センターで三池労組五〇年略史執筆者会議。それぞれ熱心に進めてくれている。六月中旬に成果を確認し合うこととし、私は博多埠頭から壱岐へ。まず五時からの幼稚園児相撲大会の準備会、七時半から「壱岐っ子会」懇親会。後者は民宿というか、国民宿舎というか、飲んで歌って宿泊もした。この会は九大の森教授主導の焼酎をのんで語る会が会場を芦辺に移した形。前者は宮本氏の国振の壱岐での初取組みの会で、これからが大変だ。

5 月 17 日（日）曇一時晴

往復とも宮本氏がリードしてくれ壱岐から自宅まで何の心づかいもなかった。十一時前に帰宅。午後は二時に再出発して広範な国民連合主催の講演会に出席して冒頭挨拶。講師は元インド大使だった野田英二郎氏。テーマは「どこへ行く、アジアの中の日本」何とはなく私も最後まで聴講した。インドの核実験についても公正な見解を表明され一〇〇人近い聴衆は納得したのではなかろうか。五時半帰宅。

5 月 18 日（月）晴

インドの核実験が冷戦終了後の世界に新たな波を立てるだろうとの意見が強まっているようだ。アメリカによる世界秩序が限界にきたのではないか。今日は在宅で外の仕事としては物置内の乱雑に手を加え整頓したり、花咲いているサツキ、ツツジに鉢を入れて形を変えたり、要は遊びである。小鳥の啼声が澄み切った気持を高めてくれる。核のことを考えるよりも小鳥の声に耳を傾ける方が幸せだ。

5 月 19 日（火）晴

気温二二度。うららかな快晴と緑一ぱい。自然は絶好。夕刊には新京経理学校時代の友、元首相宇野宗佑氏死去とある。万能者だった。わが身をふりかえる。十二時に教養部守衛室で落合、樋井川上流油山山荘で九大時代の鶴田氏と二人だけの中食会。子供時代の川遊びや筑後川「28 災」など雑談で楽しんだ。三時半ごろ天神アクロスに行ったが特別になすべき用件はなかった。油山では吉村氏の話も出た。この中食会は鶴田氏の呼びかけだがとりたてて意味はない。

5 月 20 日（水）晴

阿部さんから電話要望があり、アクロスに行く。環境問題講座開催につき県の後援がほしいという。森山氏に仲立ちしてもらうことで一応話はついた。「すし幸」で中食を共にして別れた（四人）。あと点滴に行き、帰宅。四時半、アクロスにいる時、前副知事林照雄夫妻の来訪あり。久しぶり、十分間ほど語り合い健康を祝し合った。緑が濃くなっていく。どことも枝切りの景がみられる。

5 月 21 日（木）晴

快晴つづく。休みとす。南側の植込みが気になって又枝切りだ。三時間ほど梯子を使っての仕事で大いに疲れた。散髪をしたようで随分きれいになった。西側の藤には及ばなかったので次のチャンスだ。他の時間は墨筆の手習いに充てた。夕刊ではインドネシアのスハルト大統領が辞任して 32 年に亘る独裁体制が終り当分は揺れそうだ。

5 月 22 日（金）晴

中食をすませてすぐ天神へ。荷物があつて苦勞した。まず点滴、あとアクロスへ。松田氏もきていて農作業、彼独特のしろかき抜きの田植えやアイガモやら話は尽きない。事務的には次の年度理事会のレクチャー。工学部の井沢氏と連絡がついて、生野の銀鉱石見本を拙宅—工学部のあいだ車で運んで寄贈することができた。工学部の鉱石見本陳列室も見せてもらった。六時から講堂で九大教職組結成五〇周年記念パーティがあり出席。後藤賢一氏の車で帰宅したのは八時半。

5 月 23 日（土）曇

午前中は藤棚に昇る。蔓が伸びすぎて今年二度目の蔓切りになったが、それなりにすっきりした。二時からパピヨン 24 の会議室で新年度に向けての理事会。そのあとを受けての第八回総会。九州の大学生協を代表して 40 余人が集った。全体的にみて赤字決算という苦しみの中にある生協が多く、消費手控えが一般経済界を反映して各生協にあらわれている。あと夕食懇親会に入り、余った時間マージャンとする。十一時半帰宅。

5 月 24 日（日）曇

外出せず、積った責務感をやわらげることにつとめた。なつメロの人達の懇親中食会、エホバ王国会館ゆきを両方とも行かないこととした。午前中は前の家の西石垣のツタ刈り、午後は明日にそなえての色紙書き、夜は包紙、包装袋の整理を中心に行動した。身辺がぐっと引きしまって美しくみえ、心もすがすがしくなった。右にあげた二つの外出用件は両立しないので、どちらをとるか迷ったが、両方とも断念。そういう方途も選択の一つだ。

5 月 25 日（月）曇 小雨も

朝七時に荻島氏の車が迎えにきて頼田町の北九州ゴルフセンターへ。九時頃食堂にメンバーが集り、中国の郭領事も交えた中、私が金印友好会長として歓迎のあいさつ。九時半には各組打始めになるが、私は河原田氏の車に乗せてもらって帰宅は十一時。中食後若干校正の仕事をしたものの五時から多川・玉置の二人に連れられ薬院の「小りん」での夕食懇談会に行く。多川氏は月一回同じくやろうと言ひ、六月の予定も決めた。思う存分言いたいことをいう三人の仲になっている。玉置は奈良、多川は香川の出身である。

5 月 26 日（火）晴

すがすがしい天気。色紙を書かねばならぬで午前中にそれをして午後は天神へ。点滴とアクロスへの顔出しと。松田（初）氏が来て県信金の預金の件で調べてくれた結果の説明を受けた。ついでに階下の喫茶店にすわり込んで政局、県政を中心に雑談にふけり、帰宅したら七時になっていた。校正の仕事も残っているのに何となく時間の過ぎた一日だった。夕暮れ近く上の畑のおじさんが立派な青梅を一包みもってきてくれた。船越氏。

5 月 27 日（水）晴

十時にアクロスに行き、十一時から 7F の会議室で今年度第一回の理事会を開く。前年度報告、新年度方針予算、役員変更など平常型の議題を消化。中食を共にしてのち散会。二時半中国から上海写真展（明朝オープン式）関係の役員の訪問をうけ、今朝から準備された会場（2F）にも、出来ばえを見に行った。協力している師村氏が説明してくれた。五時すぎ福岡斎場へ——牧野氏葬儀の通夜を早目に消化したわけ。六時半に帰宅できた。坂口氏が随行してくれた。

【欄外記入】

（来訪団 3 人）上海市対外文化交流協会 副秘書長 唐長発
科長 严跃
理事 徐徳栄

5 月 28 日（木）晴後曇

十時からアクロス 2F の交流ギャラリーで「21 世紀をひらく今日の上海大写真展」がオープン式をあげ、テープカットに私も加った。同舟画社の人達も協賛出品して一そう賑った。夜は東急ホテルで祝賀会が行われ二〇〇人以上の参加があったと思う。上海の開発展という観点からすばらしい写真が多く、美術の水準も高いと思う。中の時間に点滴をしたり読書したりだったが、昨夜なぜかよく眠れなかったので、むしろ辛い一日だった。内田荘平県議が代表。

5 月 29 日（金）曇 小雨

昨日午後三時西部パキスタンで初の地下核実験が行われ半月ほど前のインドの場合と合わせ、世界の核管理体制が崩れたとの新聞報道がにぎわった。同時に日米の経済制裁が直ちに検討されるともいわれ、これ又経済への影響は小さくなさそう。午後アクロスに出て行橋で開かれるシルバー講座の打合わせを行ったあと、宮本氏に案内されてエクセラド東急内「花の木」で飯田氏・留学生を交えて夕食雑談の会となった。八時半帰宅。小雨。

5 月 30 日（土）曇後晴

在宅の一日。午後庭のまわりをみていて、前の庭の物置に花鉢の鉄線杖が無秩序に一ぱい入れてあるので、思い切って整理した。鉄線杖の曲った部分をペンチで直線に、そして長短多種なのを揃えて数種に分け縛る仕事。四時間ほどかかったが、すっきり片付いた。他の時間は筆墨。漢詩を半紙に書いてゆく。限りないが苦もなく、結果に満足できる。旧暦の端午の節句。誰も思いをいたすことなし。

5 月 31 日（日）晴

在宅で、物置を整理した。平素何でも適宜投げ込むばかりで、ほんの一部しか日常的に機能していないので、整理すればもっと機能するであろう。そう考えると敷地植込み配置などまだまだ工夫が必要のようだ。注意が向いていない。二時からの草ヶ江王国会館における日曜行事に久しぶりに参加した。ただ歩いて足の衰弱をいたく感じられた。なぜこんなに衰弱してしまうのであろうか。

6 月予記

今年は雨が多かった。カラツユでもいいと思ったほどだが、それどころか降ったり降ったり。山崩れが起ったところもある。麦、野菜、果物など旬といえるもの全体が不作。柿の若実もどんどん落果している。それに経済不況が一般に、更に圧力を加えて来た。六月三〇日の報道では失業率四・一%。最低に悪い景況になっていった。生産もガタ落ちで暴動でもおこりそうな不安定世情。

6 月 1 日（月）曇 小雨

朝のうちと夕方、玄関通路と伊藤さん前のサツキ 10 本ほど剪定した。鋏は両手づかいの大きいのをを使うので腕に重みがかかり、さすがに疲れる。でもせいぜいするので心がまとまる。午後早目に福岡税務署に行き三月の確定申告洩れについて再申告の手つづきを行い、帰りみち六本松三丁目の深江さん宅へ行き、聖書についての読書会を行う。二時から四時まで。ノアの箱船について新しい知識がえられた。両足のむくみ、カッケらしい。脚力の衰えがひどい。

6 月 2 日（火）雨

もう梅雨入りとか。昨夜から降りつづいている。九時すぎ済生会病院へ。思い切って検診を願うべき点にきたとの感じ。定年後の小川滋前院長が出勤されていて診てもらえた。明日超音波で内臓をみようとのこと。弁当を買ってアクロスに行き、中食とする。夕方まで特段の仕事はなかったが中国語通訳の青木麗子氏が来訪、五時半まで数人出入しつつ雑談にふけて楽しい時間を過ごした。夕方雨は止んだ。夜九時から絶食。

6 月 3 日（水）晴

九時に済生会病院に行きエコー検査をうけた。結果については、次の土曜日に小川先生から問診をうける予定で他に何もなくて十一時には帰宅した。サツキの追加手入れをしていて、門の脇のところで蜂に刺された。同じ場所で二度目になる。不注意というしかない。電話があって「進歩と改革」に投稿を頼むとのこと。次号には核実験についてというので、そちらに更に注意しよう。

6 月 4 日（木）曇

馬原氏の要請を容れて原稿を書くために今日は現存の新聞をひっくりかえし、たくさんのスクラップを作り、インド・パキスタンの紛争、核実験へのわが国ほか世界的対応を知るための資料づくりに取りかかった。ひとごとのように頭に入れていた問題を具体的に受け止めるためにはかなりな努力が必要である。原稿にとりかかるまで数日を要するであろう。単純に否応をいうわけにはいかない。夜サンショの実の整理作業を手伝った。

6 月 5 日（金）曇時々晴

核実験に対応する動きについて新聞をよみつづけている。ようやく頭の中にえがけるようになった。午後点滴に行き、アクロスに寄って資料寄せの仕事。六時には帰宅できた。明日も病院に行くのだが体調がよくないので検診結果について心配している。糖尿と肝炎ともに悪化しているだろう。新聞で介護保険実施にあたっての大変むずかしい予測がでていたが、もうそこまで来ている難問であり、己れがどう関わるか心配だ。

6 月 6 日（土）曇時々晴

エコーの結果について九時すぎ小川先生から検診所見をきかせてもらい、そのまま帰宅。心配していた程ではなく、肝炎よりも糖尿の方に問題が残っているとのこと。食餌について更に気を使う必要があるということ。食べ物に勝手ごとが多いからである。次のチャンスには眼科に行こうと思う。在宅での時間は、印度・パキスタンの核実験についてのスクラップ新聞を読みつづけた。現実利害主義の正義論。

6 月 7 日（日）晴

核実験についての新聞切抜きを読むのに時間をかけているが、今日は、なつメロの日なので十時に出発、夕方六時に帰宅という香椎ゆきの日程がはさまった。今回は長沢氏の要請で「田原坂」について若干コメントのスピーチを行った。西南の役や西郷隆盛についても少し説明を加えた。この種の解説は皆さんよくきいてくれるので、やり甲斐を感じる。脚を基本に近頃どうも健康への自信喪失がつづいている。

6 月 8 日（月）曇 夜雨

河野氏からの電話で午後彼のうちに行った。緑に蔽われる中でたくさん梅が取れたという。小粒ながらたくさんいただいた。その上、筍のゆがいたもの、ジャムの手作りもの二瓶二種いただいて帰った。五時半に別府四丁目の緒方宅に行き、聖書物語の勉強。雑談しつつ彼の手づくりコーヒーをのんで楽しい時間を過ごし、帰りは八時頃になってしまった。不運にも雨がどんどん降ってきて洋服もぬれた。傘が役立たぬほど。

6 月 9 日（火）雨

ほんとうに梅雨らしく昨夕から休むことなく降りつづいている。今日は決意して病院へ朝から。内科をこえて眼科へ。案の定、白内障手術、そのための血液、レントゲンなど検査がつづき点滴とあわせ十時から二時半まで時間をとった。アクロスに行ったら佐々木正躬氏が来訪、小川院長（前）が数日間の入院を覚悟しておくよう伝えるようとの伝言だったという。入院したら更に治療の必要性が追加されるので嫌なんだがとうとうここまできたかと思う。仕方がない。六時に帰宅。目薬後遺症。

6 月 10 日（水）小雨

終日霧雨。在宅でインド・パキスタンの核実験をめぐる世界の一連の動きに関する新聞報道記事（五月十六日から昨日までのものを取っていた）を見出しを抜きとりながら日を逐ってまとめた。夜の十二時近くまでかかった。でも事はまだ先が見えないので依頼原稿着手には、あと数日の動きをみたいと思う。一週間あれば原稿になると思う。事に熱中すると体調の悪さも一時忘れる。

6 月 11 日（木）曇

どんよりと重く曇りの一日。在宅で原稿の準備。インド、パキスタンの核実験についてスクラップの整理その他、ゆっくり構想を練り、執筆の手前まできた。十三日書きはじめる予定。それまで情勢はまだ動いている。夏柑の木の下のアロエの鉢が転びそうになっているのでアロエに杖を立てて起こした。季節なのか、ぐんぐん成長しているので鉢が小さすぎるのだ。毎朝アロエの葉を生で食べ続けている。

6 月 12 日（金）晴後曇

九時すぎから点滴をうけ、十一時にはアクロスに行った。中食は森山、坂口、藤本センター長と四人で久しぶり外食を楽しんだ。二時すぎ元副知事大塚金久氏が来訪（不二サッシ職員三人同行）。昔の思い出を語り合った。四時前に帰宅したが、ややあとで中島敏子さんが車をひいて来訪（私と同年）。五～六年ぶりだろうか。今は息子と二人田島に居を構えわびしい乍ら健康とのこと。私的環境をきけば悲しいことばかり。夕食を共に。

6 月 13 日（土）雨後曇

九時半から香椎花園で第八回福岡幼稚園相撲大会があつて出席。往復とも国技振の方で乗用車を用意してくれた。心配した雨も正午頃には止んだ。今年も美和台のチームが優勝した。やはり前以て本格的練習していること明かで強い。子どものよさをしみじみ味わうことができ意味深しと思った。会の始まりの挨拶と優勝旗授与の役割。二時すぎに終り雨もなくいい気分帰宅。夜少し原稿書きをした。まとまりを心配。

6 月 14 日（日）曇

霧雨まじりで曇りの一日。十二時ごろ馬出の教育会館へ（タクシー）。高教第 56 回定期大会中休み前の時間 15 分挨拶。中食弁当をいただいて待合室で休憩。内田氏の車で松田氏も共に迎えに来てもらって三時からの野間の飛鳥葬儀場での長谷部忠士氏の本葬に出席。七五歳で逝った。いろいろの内臓病の併発だったという。終って内田、松田にわが家まで送ってもらい、二人に上ってもらって日記のことなど人生を語る雑談の時間となった。六時頃二人は帰った。夜は又原稿のこと。

6 月 15 日（月）晴

午後二時から博多駅前アコムで三池労組五〇年略史の編集会議に出席した。執筆者は東定以外が出席。ほぼ原稿はできており、七月半ばに次の会議を開いて完了する見透しがついた。出版の仕事を託している西日本印刷からも組合からも二人ずつ出席があり、進捗を見守ってくれていた。別会場で五時から七時まで夕食懇談会。ここでもいい話題が出され成果があつた。七時半帰宅。

6 月 16 日（火）晴

九時前には病院へ。内科診断と点滴、それから眼科。白内障の手術については七月二日入院と決められた。アクロスに行つて弁当で中食をすませたが、眼科での検診の時使われた注入眼薬のため周囲が明る過ぎ何もできない体情になっているので、三時には帰宅した。書かねばならぬ原稿を意識しつつも、目の調子と疲れのため執筆の意欲がわかず寝ころがったりして非能率な時間をすごしてしまった。夜は少し努力したつもりだ。

6 月 17 日（水）晴

気がかりだった「進歩と改革」の寄稿原稿も午前には仕上げることができ、六本松でポストに入れた。非核問題は今後ともつづくので引きつづき資料集めに努力しよう。約束どおり別府四丁目の緒方宅に一時半に訪問、聖書物語の研究会とした。三時四〇分までくつろいだ時間である。もうひる間が一番長い時季になった。今年は異常に雨が多くて上水道の心配はないものの、枇杷など果物類、麦作がよくないので関係農業者の打撃大きく不況深化の要因にもなっている。

6 月 18 日（木）晴

九時半にはじまるインター・ナショナル・スクール^{ママ}の二五周年式に出席。アクロスを九時少し前に出発、岩村君が随行してくれた。十一時前にモモチから天神に帰着し、私は点滴に行き、二時前には帰宅した。次の原稿も書く積りになって長期不況に関する新聞スクラップを整理する仕事から始めた。夕方ヤマトユウコさんが来宅したのでしばらく話相手となった。四ヵ月めぐらいの男の赤ちゃんをもち、保育園を利用しつつ、平常の勤務に戻ったばかりという。

6 月 19 日（金）雨

降った。一日中降った。在宅で机に向ったり思いつきの雑用をしたりで、全く自由な過し方。ひるまシャワーも浴びた。読み物だが、この 10 年間の経済をまとめねばならないと思って机辺を整理するなか、福留氏の高教組における講演をまとめたブックレットが出てきたのでまずこれをとって読んだ。「世界経済の動向と日本」と題されていて、まとめるのに都合のいい資料だと思った。今後も。

6 月 20 日（土）晴

どんよりと晴というか、まずは地面が乾いた。在宅の一日。経済、金融に関する読書。少し古いがエコノミスト誌「図説日本経済'98」を読み進めた。長期不況に回復の期待をよせている筆者数十人。バブルと不況克服がねらいだが、不良債権の傷跡はとてつもなく大きいことがよくわかる。アメリカとの関係に目が向きにくく、好転への期待が強すぎる文脈が気になる。辛くみた方がいい

6 月 21 日（日）小雨

一日霧雨下にあった。十時に福岡を出て大牟田着十一時。第十二回吉野街づくり記念会が甘木山ハイツで行われ、私は過去のいきさつもあって市長とともに来賓として挨拶にも立った。中食懇親会にも参加し、帰宅は四時だった。地域おこし、町おこしが各地で盛んだが、七〇年代までの開発至上主義の裏に対応した住民のうねりである。

6 月 22 日（月）曇 小雨

朝多川さんからの電話で色紙を書く必要が生じ、三枚用意し、あと久しぶりに半紙に練習書きする時間とした。五時にアクロホールに集って例の「小りん」で玉置氏を交え三人で夕食を楽しんだ。話題は日本の金融危機に集中した。金融監督庁が発足したが、莫大な不良債権をどう捉えどう処理しようというのか、今後目をはなさないでいこうということになった。八時半帰宅。

6 月 23 日（火）曇

十一時頃病院に着き、点滴がすんだのは一時すぎ。弁当を買ってアクロスで中食をすませた。電話連絡したら馬原氏が来訪してくれ、私の思いを彼に語る機会が得られた。近頃の「進歩と改革」誌が見ている世界は狭いので急速に変わりつつある世界、日本の世論をリードする意気を見せるべく、機関誌を刷新するようにとの要望を伝えたのである。又論者を集めて当面する世界を語り合おうと提言した。

6 月 24 日（水）曇・雨

参院選の告示が明日にせまったので今日午前中にと決めて森山氏の随伴をえて県庁裏の労働金庫ビルにある藤田一枝事務所へ激励に行った。候補は各地をまわっていて会えなかった。想像どおり容易ではないと情勢をみているようだった。労働部の松田氏に合って歓談ののち、三人で庁舎裏通りでカレーライスを食べて別れ、タクシーで帰りアクロスで別れ、私は別府四丁目まで行き緒方宅で聖書物語研究会。四時半帰宅。

6 月 25 日（木）曇

どんよりと曇って梅雨はあがりそうにない。在宅で平凡に過ごす一日。墨をすって半切れ紙にすきな句をたくさん書いた。又新聞スクラップに目を通して全国レベルでの問題二つ、不良債権処理と新ガイドライン（周辺事態法案）について、少しでも具体的に理解できるように努力した。両方とも国運が急速に変わりつつある問題であることは確か。

6 月 26 日（金）曇

在宅で何とはなく墨筆に時をあてていたが、電話があり、五時半ごろ松田氏がアクロスに来るというので出向くことになった。来月にある参院選に向けてできるだけ手伝いたいと私がいていたので、彼が自治労と話して具体的に何が可能かの詰めをするし、行動の経費についても手当てをしようということを申出に來たのである。雑談を含め二時間を費し、八時ごろ別れ、私は夕食をして帰宅。

6 月 27 日（土）曇

アメリカ大統領クリントンが北京入りして中国の江沢民と会談したことの意義づけをめぐって種々報道がなされている。アメリカにとっては中国を大国扱いする立場を見せる時がきた訳だ。その意味で時代が変わったといえよう。時間のかかる日程。高教組五〇年史略史執筆者会議が十時から明日正午後までの予定で開催され、グリーンホテルで一泊という形参加した。原稿は組合員がすべて書き、内容を討議し合う形式。総員十五人。

6 月 28 日（日）曇

昨夜は九時まで、今日は朝九時から午前中一ぱい五〇年略史原稿の討議にあて、中食後、散会。講師陣は私と衣笠、福留の三人。ともに議論に加わった。散会のあとタクシーで帰宅するのだが、私は草ヶ江の王国会館説教会に参加することにし、帰宅は五時近くになった。夏らしい高温がもう三日ほど続いており、歩いての帰宅にも汗をかいたので、シャワーを浴び横になって疲れをとり戻した。

6 月 29 日（月）曇

むし暑さがつづく。外出したくなかったが、参院選まで残る日も少いので、県職本庁支部まで出かけ、名刺資料を渡し、選挙公用ハガキを受取り、松田氏と食堂で中食して帰宅した。一時半だったろう。受取った公用ハガキに早速ながらアドレス書きの仕事に取りかかったが、二五〇枚のうち一五〇枚ほど進めえた。あと一日かけよう。藤田候補は未だ心配が残っている。盛り上がりがもう一つ弱い。

6 月 30 日（火）曇・小雨

じつとりと梅雨らしい一日。朝から病院へ。小川先生に脈搏測ってもらったりしたが特に異常とはいえない模様。アクロスに寄って中食。一、二の来客、とくに雲仙噴火展をしてくれた九大理学部長、ていねいだ。四時すぎに帰宅して昨日からの続きとしての書面アドレスかき。八時には計二五〇枚を終えたわけ。書いているうちに、いい仕事をしたなと思うようになった。こんな手伝いなら選挙仕事としていい。

7 月予記

老衰を日ごとに感ずる。右眼の白内障手術をしたが、なかなか思い通りに視野がとらえられず、失敗に終らなければと願う。足腰のバネもなくなってバス停まで歩くのさえもうつらい。それなのに、日程は外出のことが多く交通費が惜しい感じすら起る。なつメロの世話をしてくれている長沢さんがアパートに転居したので従来のような行き届いた世話ができなくなったという。その今後の案じられる。展望はあるようだ。

7 月 1 日（水）曇

在宅の一日。疲れと眠さで何か果たそうとは思わぬ一日だった。新聞切抜きを読む。アメリカ大統領の中国訪問、それと日本の立場又はアジア経済・政治が変化してきたという捉え方が同感できる。「人権」を問題とするアメリカの介入姿勢には未だ不快感が伴う。が核兵器については緊迫感がやわらいだ。日本のアジアにおける地位低下は誰しも実感らしい。山笠の季節が来たが不況は深刻化している。

7 月 2 日（木）晴

白内障手術の日と決まり、九時ごろ済生会病院へ。中食抜きで前段諸手当。二時半から三時ごろまで佐川卓司医師から施術。右水晶体の摘出と人工水晶体移植。無事終わったが、何ともなかったとはいえない。施術中の圧迫感は特別である。終わったあとベッド（六〇二号室）で術後手当及び休養につとめる。目をつむるといくらでも休眠できた。

7 月 3 日（金）晴

入院部屋で今日の朝を迎えた。九時すぎに手術した右眼を被った繃帯を取りはずしてもらって手術は終り、退院してよいとのことで荷物をまとめ帰宅したら十一時頃だった。疲れを覚え横になり眠りもしたがなかなか疲れはなおらない。白内障手術は、よく見えるようになるのではなく黒白の区別がはっきりし、明るさが増し、術前には灰色がかってみえたのが拭き取られた感じだ。

7 月 4 日（土）晴

午前中済生会病院に行った。保険証、投薬受取り、入院手続書類などなすべき手続きなどで落度があった。十時頃には帰宅し、あとは横になって眠るばかり。眼薬を注入する点で手落ちがないようにせねばならぬ。外は真夏。青葉、蝶、蟻すべてわが天下。小鳥も忙しく啼く。失業率が高まる一方。夏を楽しめない人がふえる。

7 月 5 日（日）晴

眼の手術後は経過は順当とは思いますが視線が合わないで、新聞が読めぬ有様。眼薬を忠実に用いて視力を早く戻したい。時間があれば横になって眠ったが、午後は外まわり。まず二時から六本松今泉。あと馬出の教育会館での藤田参議の公開公演応援スピーチ。七時から八時まで。夕食して 10 時に帰宅した。

7 月 6 日（月）晴

梅雨は明けたといわれる。これからつづく真夏を思う。夕方七時から飯盛神社で、子ども相撲大会（九月一日）実行委員会が行われるので、みやげ品に色紙十枚書いて参加した。

世話役の本山憲一氏が往復とも車で運んでくれた。地元の委員も加わって楽しく事が運ばれた。神社の好意で手作夕食会。十五人もいたのに。十時帰宅。

7月7日（火）晴

かんかん照りがつづいて梅雨上り、いよいよ真夏に突入。どう毎日をすごすかだが、できるだけ自然にまかせよう。朝から病院に行って点滴。弁当を買ってアクロス福岡に行ってから中食となる。七夕の日だから何かあるかも知れんと思ったけれど、特にはなく、しばらく読書したが、早目の退出をした。四時半帰宅。あと久しぶりに細筆を持ってみた。暑中見舞状が少々。

7月8日（水）晴

朝のうち半紙にどんどん字を書きためていった。午後一時半に緒方氏宅で聖書物語の講習をうけた。帰宅したのは四時半だったが往復バスのほか徒歩部分は暑さに耐えつつ歩いたが、当然に汗が出て、猛暑が実感された。夕方、トンちゃんが赤ちゃんをつれて来訪。生後五ヶ月の男児。ひざの上にしばらく抱いてみたが、どっしり重く、可愛いさ満点だ。母と子のこのような姿、久しぶり。

7月9日（木）晴

外に全く出ない一日。かんかん照りに負けたといってよい。部屋を開けっ放して午睡か何か、よく休んだ。時間つぶしのようだが好きなように筆墨の遊びもした。新聞スクラップではアジア経済と日本経済の不調、不良債権問題の政治的関与につき、勉強を試みたが、わからぬ事ばかりである。後に控えているアメリカのことがよくわかっていない。

7月10日（金）晴

朝食後病院に行き点滴。例のように弁当を買ってアクロスで中食とした。以前に切り抜いていた新聞広告で、三冊の新刊本を購入。当面の問題意識に対応することにした。いずれも講談社刊で、麻生幾「宣戦布告」上、下、それと副島隆彦「日本の危機の本質」この三冊。前者はアメリカの対日支配、後者は北鮮の潜水艦の敦賀上陸を想定した日本の対応。どちらも早く読了したい。

7月11日（土）曇時々晴

全日、在宅で読書に時間をあてたが、体調がよくないせいか横になり眠りさえした。参院選運動の最後の日。それなりのマイクからの声が聞こえる。私も電話を使って少々手伝うべきだと思いつつ、暑さもあって、その気になれなかった。照り続くため庭木はどれも雨を欲しがっている。今日は鉢ものに水をやる元気も出なかった。読書は副島「日本の危機

の本質」である。

7 月 12 日（日）雨後曇

朝からかなり降ったが、午後は止んだ。出かけねばならない日程で、九時前、傘をさして投票所へ（梅光園）。参議院、全国区と地方区。バスで博多駅―古賀 JR。十一時に福祉センターで奴間健司氏の後援会総会。中食をはさんでの総会行事。あと奴間市議の事務所で彼が十一月市長選に立候補する点を基本とした後援会役員の反省懇談会、約一時間。ここまでつき合って帰宅したのは五時半。展望のもてる人達との接触だった。

7 月 13 日（月）曇時々晴

昨日今日大変涼しかった。前より五度も低温、凌ぎやすい。一日在宅で、西日本印刷から送り付けてきた三池労組五〇年略史原稿の校正に当たった。原稿と初校刷りの照し合わせも煩雑で時間ばかりとられていらいらするばかり。一〇〇ページの半分近くまで進んだが、まだまだ大仕事のような。印刷技術の発達はいいにしても組み立て（ソフト）を配慮していないからその負担が大変である。でも久しぶりの校正仕事。辛抱よくやらねばなるまい。

7 月 14 日（火）晴

点滴して後アクロスへという決まったコース。午後一時までの時間が必要だった。アクロスでは不動産業の渡辺氏がきて景気の話もしたが、筑紫野市天拝山近くの新インターチェンジ近くで開発事業を始めるという構想ももち出していた。そのあと、近見（県 OB）が来て雑談していった。最近の不況がどこにもきびしい陰を落していることが誰しも気にしている。社会が変わりつつあることが知られる。

7 月 15 日（水）曇一時小雨

この三日間かなり涼しい。在宅で三池労組五〇年略史の大坪氏担当分に初校として筆を加えているが、並々ならぬ仕事といえる。なかなか進展しないでいらいらする。いろんな要請もとびこんで七月末まで、ゆとりなく忙しくなって来た。午後吉村氏がやってきて例の FFC を活用するよう督励された。バラバラと暑中見舞状がくる時期にもなったが、当方の対応は怠り勝ちで気がひけるばかりである。

7 月 16 日（木）曇 夜雷雨

三池労組五〇年略史の初校刷りに対応していて多忙。一段落ついたがまだまだ部分的で課題はたくさん残っている。二〇日までに書くべき原稿のことが気になるが、必ず時間は取りたい。どうも疲れを感じずるが、約束どおり五時に緒方宅に行って聖書物語の講義をうけ七時すぎ帰宅した。その前一時に NTT 労組の舎川氏が来宅。会社組織の改変のことと、わ

れわれ委員会解散に付き日程打合せ。

7 月 17 日（金）晴

午後早めに病院に行き点滴をすませてアクロスに行く。特別の用件なくしばらく読書。六時半から新設のレガロ福岡（黒田荘）で開かれる行橋市助役八並康一氏の激励会に出席。八並は秘書室時代参事補佐をしていて最後は福岡福祉事務所の所長、そしてこの六月から行橋市助役になった。今日の激励会は「青年の船の会」が主催したが、それほど青年の船には功績を残したといえる。すがすがしい青年たちが多かった。九時頃帰宅。東京事務所高木も。

7 月 18 日（土）曇

在宅で「進歩と改革」の原稿を進めることができた。金融問題についてはよく書けない。夕食を早目にとって駅東の事務所で開かれている全国代表総会に出席したが、先日の参院選について各代表から見解を集約していたが、私には興味がなかった。自民の後退、社民の不振が中心視点。懇談を終え、帰宅は十二時。

7 月 19 日（日）晴

十一時までにとまって香椎の市民センター（なつメロ）に行ったら、感^マ違^マいで、これは明日。暑さと三時間余、交通費の無駄づかい。誰をも責められない大損をした一日だった。疲れてシャワーを浴び昼寝した。気になる原稿を少し進めた。忙しいのに無駄時間を使ったのが悔まれてならない。カンカン照りの一日で、蟬の音がうるさい程、天神あたり歩いている若い人達のすがすがしさ、うらやましい。

7 月 20 日（月）晴

一日外出の仕事があった。十時前に出発して香椎市民センターでの「なつメロ」。これがすんだあと、貝塚に近い香椎ポートパークに行き、入港している万景峰（マンギョンボン）九二号船長姜氏の招待による船内歓迎パーティに出席。六時から九時まで。留学生の祖国訪問の旅の迎え船で、パーティには友好関係の日本人六〇人ほか全部で一〇〇人ほどの会。

7 月 21 日（火）曇・雷豪雨

高教組の研究集会で午後一時から四〇分間ほど講話した。迎えも送も組合側の車を利用することになり、車中衣笠氏と同席。朝は九時発、午後三時帰宅。帰り雷雨にさらされ大変な渋滞にも出くわした。夕食前後の時間を使って「進歩と改革」九月号への寄稿原稿を完成させることができ一安心というところ。この一週間はそれもあって多忙。体調がよくないので楽しくもない。

7 月 22 日（水）晴

朝一番は点滴。次は原稿を東京「進歩と改革」研究所に発。第三は半ばでき上った三池労組五〇年史初校を西日本印刷に戻すこと。西日本からはあとの半分について初校すべく私が預った。末次がアクロスに来て当面の進め方について打合わせた。六時から千代の県庁仮庁舎で松田初善氏が音頭とりをしている若い組合関係の者が七～八人集り私が時局問題を話して今^{ママ}討論。あと夕食会となり、帰宅は十一時にもなった。

7 月 23 日（木）晴

夕方五時の電車で小郡の明願寺に行った。三沢駅には住職久保山さんが車で迎えに来てくれ、八時から寺の広間で新ガイドラインをめぐるアジアと日本という角度での講話を八〇分ほど行った。寺に着いてから時間があり、第一回目の知事選の折、今は亡き七二兄がお布施問題などでずいぶん面倒をみてもらった点についても話題を交わした。

7 月 24 日（金）晴 一時雨

福岡ユニオンからたのまれていた原稿一、八〇〇字を午前中に仕上げることができ、清水氏に連絡して三時頃アクロスで手渡すことができた。点滴と三池五〇年史初校の残りに手をつけ、七時半頃帰宅した。夜は校正のつづきだった。数日涼しい日があったものの今日は湿度の高い暑さに戻った。あと一ヶ月余り、猛暑に耐えぬかねばと思うと大変だ。

7 月 25 日（土）雨

在宅。三池五〇年史初校のため机に向う。梅雨が戻ったように小糠雨。外にも出られず、部屋はベタベタする高湿度。体躯がたるんで横になる時間も長かった。昨日自民党の小淵氏が総裁に選出され、新内閣が発足することになったが、当面する長期不況、不良債権、新ガイドライン関係立法について私は全く期待できないと思っている。今後も尚激動はつづく。

7 月 26 日（日）晴

十一時に香住丘公民館に行った。なつメロの長沢さんがマンションに引越さざるをえなくなって、従来のような録音機を使うなつメロ準備ができなくなっているの、主な人々に集ってもらい対応を論じ合う会だった。以外と積極的継続意見がでて、あとは楽しみの会となった。タクシーで帰り、二時少しおくれて王国会館に行き会衆の皆さんと行動を共にすることができた。四時半帰宅。あとは氷水を飲んで校正の仕事。

7 月 27 日（月）小雨・曇

昨夕から小雨がつづき、今朝まで。三池労組五〇年史編集会議が二時から四時まで福岡日

本語センターで行われ、作業が予定よりおくれていることを認めた上で、今の到達点の確認と今後のスケジュールを話し合った。初校は荒牧氏の経済政策分野を除き、ほぼでき上っている。今後は調整が大変であろう。五時ごろ帰宅。身の整理をしたが、湿気がひどく何もかもジメジメ。早く乾いてほしい。

7 月 28 日（火）曇・小雨

今日も陽光みずじまい。朝九時に出発して点滴。右眼の手術日を決めてもらい、あと散髪。アクロス理事長室で弁当を食べ、三時にベトナムのフエ伝統芸術団代表の表敬訪問団に対応した。アクロス福岡の主催で公演してもらう日も近づいたのである。余の時間は若干読書。肉体の疲れが少し正常に戻ったと感じられる。ドラッカー教授の世界将来展望にもう一度目を向けてみたい。

7 月 29 日（水）晴

比較的に涼しい。在宅の午前中は読書。アメリカの一極制覇体制の行詰まりについて関心が深まっている。午後一時半に別府四丁目の緒方宅に行き聖書物語を勉強ヨブ記に関係した部分。帰宅は四時すぎ。バス停からの徒歩ですごく汗ばんだ。勉強をつづける中でやはりグローバリゼーションについて己れの位置づけが気になる。新ガイドラインとともに気をもめる。

7 月 30 日（木）晴

自由な一日。何か掃除でもと思って起床六時半ごろから前の別宅の西塀のツタの伸びすぎの部分をしていねいに摘み取り朝食という順序。又読書に飽きて寸ばかりアロエの鉢を作рикаえたりしていたら、五時ごろ一彦夫妻が来福帰郷した。夕食前に一彦は友人との先約があるといって出て行った。あとは久しぶりに美可から近況をきくことになった。とくに二人の孫娘のことについて、麗衣の日航就職についても。

7 月 31 日（金）曇一時雨

朝九時半にタクシーで出発。幸、美可が同乗。日赤病院、済生会病院の順で、私は点滴のあとアクロスに行こうとしたら、白土、森山と出くわし、誘われて千代町レガロまで行って三人で中食することとなった。二時半アクロスに戻り、あと読書。五時半に多川氏の迎えがあって、玉置、長戸氏も同行。例の『小りん』で四人、夕食懇談会となった。帰宅は九時半、玉置さんの車で。少々雨が降っていた。三人は香川県出身だ。

8 月予記

長期入院あり、刀出の法事あり、三池労組五〇年略史編集のことあり、飯盛神社子ども相

撲大会あり、などなど、この八月もあつという間に過ぎた。今年は雨もあり、暑くもあつて稲作はいいらしいが、中国、長江、北朝、日本の東北、鹿児島など洪水被害がかなり大きいとの報道。人間社会も天も近頃は少々荒れ模様である。わが身も亦老衰のかげ大きく、終末を感じさせられている。平和な暮れを望む。

8月1日（土）晴

資本主義は二一世紀には変わってしまう。ではどういう次になるのかということを念頭に、あれもこれもと本を読んでいる昨今である。夜はベトナムグエン王朝宮廷音楽（フエ伝統芸術団）の公演を見聞するためアクロスのシンフォニーホールに行った。三時すぎに出発して読書しつつ理事長室に待合わせ、幸、美可が揃い一彦も玄関で見付け六時から八時まで。あと夕食して帰宅。

8月2日（日）晴

一彦夫妻は唐津観光を加えるということで朝食してから十時頃に「さよなら」した。私は外出なく、レスター・C・サローの「資本主義の未来」（山岡訳）を読了できた。原稿かきの参考になると思う。朝のうち壱岐の芦辺町商工会からたのまれていた幼児相撲大会の案内書用ブックレットに国技振会長の立場での挨拶文の原稿を書き投函することができた。

8月3日（月）晴

九時の特急で大牟田へ。芳川組合長に迎えてもらって三池労組へ。五〇年史に関し、年表、統計表、写真など付属記事の扱い方の基本に付き私の意見を開陳。途中、大坪氏も加わって大筋合意。中食を共にして後、市の石炭産業科学館。採炭技術にしばった展示を見学。福岡に引きかえし、連絡していた荒牧氏に来てもらってアクロスで彼の執筆箇所について五時から打合わせ。帰宅は七時だった。

8月4日（火）晴

点滴をすませ、入院の日について打合わせた。あとアクロスに行き読書。八月下旬の長春ゆきは断念することにした。六時頃本山氏の迎えの車が来て飯盛神社での子ども相撲大会の実行委員会に出席。九月一日に行う点での打合わせは大凡完成した。会場の社務所で夕食をごちそうになり車で送ってもらって帰宅したのは十時すぎ。暑い一日。

8月5日（水）晴

猛暑がつづく。何かしようという意気もくじかれ、時の流れにまかせる。六時に約束どおり国技振の宮本さんの迎え車で一丁目近くの料亭やまおかに行く。国技振の副会長の交替で（新は九電橋田氏）ごくろうさん、よろしくの夕食会こちらは三人。たのしく語り合っ

た。九時半帰宅。

8 月 6 日（木）晴

原稿を書くための新聞切抜き、その読みこなしに時間をかけたが、これでよしといえる状況にはなかなか到達しない。午後は緒方宅に行って聖書物語の勉強会。右眼の手術後、字が読みにくく不自由だ。左眼がさっぱりで読み書きを妨害している。早くこの状態から脱却したい。在宅だと横になって眠ることが多い。

8 月 7 日（金）晴

下旬に行橋でスピーチ（講演）すべくたのまれていて、その概要メモを渡すべくアクロスに行く。ついでに点滴。毎日新聞会館の白石氏が先日お願いしていた「無法松」に関する資料をとどけてくれた。四時に筥崎宮での七夕祭に出席した。もう四〇年つき重ねてきた恒例の行事である。社務所で夕食をいただいて帰る。午後七時。

8 月 8 日（土）晴

在宅。むんむんする猛夏だ。宿題として頭から離れない原稿にとりかかるが、体力の衰えか眠くて仕方がない。それでも他に仕事はしないと決めてかかると、結局、原稿に着手することになり、今日は予定の三分の一は消化することができた。グローバリズムについて説明したことになる。十日からの入院が気になる。

8 月 9 日（日）晴

緒方氏の誘いで、エホバの証人の大会「神の命の道」一九九八に出席した。福岡ドーム、三日目で最後、九時から四時まで。中食はドーム内自席で弁当。九州の北部から松江までの関係者二万四千余人の参加者。このエホバの証人地域大会はかなり歴史を積んできたし、国内で数十箇所開かれているという。会場秩序や設営、清掃など自発的ボランティアでやっている。

8 月 10 日（月）曇後晴

〔以下十日間入院。ブランクのままだったが、メモが見つかったので、要を記録する〕
九時半済生会病院一〇一号室に入院。ひとり部屋。あれこれ計測されたが、体重が四五・三 kg、やせてしまっていた。内臓レントゲン、エコー。午後主治医鮎川先生の問診。夕食は六時半。新聞のスクラップを読んで余暇をしのいだ。糖尿とのたたかいがつづく。重病といってよいのだ。

8 月 11 日（火）晴

六時半起床。七時の血糖は一四九。まずは眼科八時半から九時半まで。白内障から。十時の血糖は四九〇、すごく高い。十一時から点滴。白土、坂口両氏見舞。午後五時血糖五五四、むちゃくちゃに高い。六時半みゆき来室。とても正常でない高血糖。どうしてよいかわからない。九時二〇分には就眠。医師にすべてをまかすほかないが、ここまで放置していた自責自責。

8 月 12 日（水）晴

七時測定の体重 45.3kg。アクロス副館長森山氏の車で 4 件の初盆まいり、10 時すぎから三時半まで。四時半の血糖値は五二九。まずは白内障手術ということで眼科対応に重点が移されているようだ。私的関心としてはアメリカのグローバリズムに批判を向けた原稿書き。熱中できる。

8 月 13 日（木）晴、雷雨

血糖値は朝二四八、十一時四二八、食後は五五〇まで昇る。午後は種々必要な処置を伴いつつ、三時半から四時すぎまで左眼白内障手術。かんたんなようだが極点では本人はやはり嫌な感じだったというしかない。でもこの「嫌な感じ」は一過性と思えば助かる。あきらめが肝心。五時から血糖にはインスリン対応をするよう決定された。

8 月 14 日（金）雷雨、薄曇

血糖値は七時一二〇、十一時半三六五、五時三六三。インスリン注入にしぼり、丸薬は中止。九時に眼科、眼帯とりかえ。十時半泌尿器科、ガンを心配している。三時半鮎川先生から治療計画の説明をきく。夜は原稿書き。何だか別生活をしているような感じ。欲求がリードしている。ベッド生活で孤立しているからだろうか。

8 月 15 日（土）晴 薄曇

白内障手術の後保養。血糖値は七時半一五二、十一時四一一、午後五時三八四。まだまだ異常に高い。肝臓薬、眼科薬に意を注いでもらって静養が望まれる。一般にはお盆と連休気分、暑い中一寸ゆったりしたいところだろう。私は原稿を少々書いてみる。なるようになるだろうと思って病気について寛大な気持で対応しよう。

8 月 16 日（日）晴

五時半起床。シャワーを浴びる。血糖値は七時二七九、夕方五時半三六八。依然高すぎる。インスリン注射対応それに眼薬。午後四時「進歩と改革」の原稿完結。アメリカを軸とする経済のグローバリズムも二一世紀のはじまる頃には躓づく、ポスト資本主義が芽ばえつ

つあるということを書いてみた。新聞を読むが面白くないとの印象ばかり。

8 月 17 日（月）薄曇、雷あり

五時半起床。読書。七時血糖は二七九、体重四五・八五 kg。八時四〇分から腹部エコー、CT、点滴、眼科と検査づけ。十一時血糖は三八一。悪いことばかり。一時に仮眠。空は小雨弱い雷。五時の血糖も四〇〇とダメな数値。四時半鮎川先生の検査結果説明。肝腫瘍が問題で改めて一ヶ月の入院が必要とのこと。

8 月 18 日（火）晴

七時の血糖二六七、体重四五・六 kg。十一時すぎ血糖五一〇に上昇。五時半鮎川先生来室で一時半の胸部心電図の結果、心臓系は極めて好調とほめてもらった。暗いことばかりきかされてきたのに大きな明るさを指摘され頼りができたような気がした。佐々木氏が山梨の果汁二本をさし入れてくれた。何とか頑張りたい。望みを捨てないで……

8 月 19 日（水）晴

七時血糖三二三。九時半胃カメラ。一時半泌尿器科で前立腺異常なし、頻尿は薬でなおると。五時鮎川先生来室、胃カメラで食道静脈癌のおそれあり、対応可ということだった。五時半血糖五二七と高い高い。退院予定なのにどうしようもないのか。自分をいましめるほかに道はない。ベストをつくし運を天にまかすしかないようだ。

8 月 20 日（木）晴

退院ということで眼科も内科も先生が診断の所見を最終的に告げて下さった。部屋片付けもし、アクロスからも白土、坂口ら四人が来て手伝うことないかといってくれた。幸が十時すぎ来室し、荷物のまとめを確認し、共にタクシーで帰宅。中食は久しぶりに我が家で。三池五〇年史の再校分がどんと来ていたので、ボツボツながら取り組むことにした。姫路ゆきなど忙しい一週間がつづくが、ともかく頑張ってみよう。まだまだ暑い。

8 月 21 日（金）晴

今永夫と待ち合わせ博多発の特急で行橋へ。十時半から福祉会館で高令者七〇人ほどを相手に二時間スピーチした。演題は「縁」ということ。予め用意したレジメに従ったまでだがよく聞いてくれた。弁当をごちそうになったあと、豊津新町長を訪ね、あと犀川の歴史資料館も見学した。森山の連絡もあって、関係の OB たちが親切によく案内してくれた。弥生時代以前の出土品も大したものだった。六時すぎ折尾に着く特急で水巻頃末の助信県議葬式通夜に出席。元永井副知事ともども森山の車でよくしてもらった。八時に帰宅。

8 月 22 日（土）晴

三時からパピヨン 24 の会議室で大学生協九州事業連の理事長交流会があつて出席。明日の会議には欠席することとし、一九時七分の新幹線で姫路へ。二二時すぎに到着。和代が息子と、迎えに来てくれていて、十一時近く網干の家に着き宿泊することになる。芳男さんが体調を崩し、寝たきりになっているのにびっくり。八月はじめから重病人になっているという。七二歳というが、すごくやせてしまって、まともに食べないと。

8 月 23 日（日）晴

刀出、正一兄の二五回忌法事。和代も同行でもとはる運転の車で出席。十時からの読経。中食ごちそうになる。埼玉、和歌山、英賀保、六角から次の世代の者が出席してくれ、晴久をはじめ元気な若者に会えてよかった。私ども九一、和代の弟妹三人も顔を会わすチャンスができてよかった。正一は生きていたら 86 歳か。稲田の畦で草刈りをしていて、若人の運転する車にはねられ死亡した。今日も話題になった。裕一の車で網干へ。今日も泊めてもらった。

8 月 24 日（月）晴

十一時ごろに姫路駅南のホテルで長田虹洋さんと中食することになり和代と網干駅より列車で出発。三人で中食後、予約により総社本町に朝日新聞社の支局長長谷川氏に面接。長田さんの手芸展の件で紙上に記事をのせてくれるよう依頼、了解をえた。二時二一分姫路発新幹線で博多へ。帰宅は六時頃だった。旅の疲れが若干残っている。福岡は雨がよく降ったという。姫路は雨なくからから。

8 月 25 日（火）晴

小役丸氏の招待で波津の八幡屋で中食をごちそうになり、野々庵でぶどう狩りを楽しむ一日となった。みゆき同行、岡垣の花田守氏も一緒させてもらった。魚のごちそう、ぶどう何房かのおみやげで温かい接遇に心から感謝したい。波津海老津間は小役丸氏の運転する車での往復。わが家に帰ったのは夜七時頃だった。

8 月 26 日（水）晴

午前中に病院での点滴を終え、アクロスに行って弁当で中食。そのあと三池五〇年史の再校を進めた。途中二階に降りて景柳書展を鑑賞。出展者と何組か写真を撮ってもらうのにもつき合った。五時半から緒方宅に行き聖書物語研究を行い、帰宅したのは八時近くになっていた。わが家と六本松バス停の間、歩くだけでも辛いと思うこの頃だ。

8 月 27 日（木）晴

三池五〇年史の再校に時間をかけた。ひとの原稿をなおすのだが、内容というよりは文体まで直さねばならないとすれば能率があがらなくていらいらする。七時から福岡東宝でアメリカ映画「プライベート・ライアン」の試写会があり、五時半すぎみゆき同伴で出発した。七時から十時少し前まで第二次大戦時代をテーマとするもの。戦闘（ノルマンジー上陸）場面がすごい印象。

8 月 28 日（金）晴

早目に出発して病院へ。まずは眼科、次が点滴。目は左右順調で目薬は当分点用するようになるとのこと。十二時すぎアクロスに行ってしばらく三池五〇年史再校の仕事をし、二時からの執筆者会議に出席。日本語センターに行くのに一寸迷い道となり疲れを覚えた。六時頃に帰宅できたので、気がかりになっている藤蔓を剪定することとし、南側の部分をすませた。しばらく日数を要するようだ。

8 月 29 日（土）曇

朝食前涼しいうちに昨夕につづく藤蔓剪定（西棚）を行った。すっきりしたのはいいが体力の限度以上のことをしたようで、ひとく疲れ、シャワー、朝食のあと横になった。三池五〇年史の再校に手が届いたのは十一時すぎ。夜は新聞スクラップ切りに時間をあて、何とか意義ある一日になった。再校の仕事は終らない。努力は重ねよう。ひる寝もして疲れはなおった感じだ。

8 月 30 日（日）曇

三池五〇年略史の再校をほぼ終えることができたが、荒牧氏の分は残ったまま。二時から王国会館における日曜公演に行った。二時に着き五時前には帰宅できた。朝夕ぐっと涼しくなる。夕方には又少しく南庭の剪定をした。夜早めの時刻高校の志岐副委員長が来訪、五〇年略史の校正刷りをもってきて挨拶文を書くよう依頼。三池のと重った感じだ。OK する。

8 月 31 日（月）曇

朝、庭の南側の植込みの剪定に手をつけた。途中でやめたが、この調子では四・五回はかかるだろう。三池五〇年史に加え福岡高教組五〇年史の仕事が追加されてきた。大変なことになった。約束どおり、五時半にアクロスで待ち合わせ多川・玉置さんと、「小りん」で夕食懇談会をした。月一度のペースだが三回目かな。今回も百一四銀行支店長も参加。

9 月予記

一日に飯盛神社、五日に壱岐芦辺町広場で、二つの幼児相撲大会があつて忙しく立ちまわり、七日からは十月まで続く済生会病院への入院ということで拘束された日々。九月三〇日には血管造影という苦しい検査を受けた。いよいよわが身の老衰も顕著になってきたとの自覚が高まった。血糖値が異常に高く錠剤服用では追付けなくなり、インシュリン注入の日常生活に入るだろう。そうになると、日常行動がぐっと制限されることになる。

9 月 1 日（火）曇後晴

朝早く又昨日のつづき庭木の手入れをし、疲れたので食後横になって休んでいたら中食事になった。一時に宮本さんの奥さんが車で迎えにきてくれて二時からの飯盛神社第四回子ども相撲大会に出席した。出店も多く三〇〇人は来賓があつた。五時前後、表彰式が終り私は早速車で博多駅前の朝日ビルカルチャーセンターに行き、地下「万惣」で師村・竹田三人の夕食会に参加。

9 月 2 日（水）晴

九時頃に病院に着き鮎川先生の診断と注射をえた。やはり血糖値の高さにあらわれている糖尿がすべての根源になっているので五日後入院してからインシュリン注入をテコに治療していくとのこと。十一時に予約のとおり三池について KBC テレビの取材に応じた。六時頃放映するとのこと。一時半に緒方氏宅に行き、聖書物語の研究。四時半に帰宅。あと、高教組五〇年史校正刷読みと色紙書き（三枚）だった。

9 月 3 日（木）晴

二時すぎの西鉄特急薬院発で大牟田経由熊本へ。NTT 九州地本の「あり方懇」の打上げ解散の会がニュースカイ・ホテル開かれ私が座長としての最後の務めを果たした。NTT を三分割する予定予測について九州地本の解散スケジュールのくわしい説明があつた。会場をかえ「庄家」で打上懇親会が行われ、十時すぎホテルに戻り休むことになった。熊本はいつ来てもいい所だという感じだ。

9 月 4 日（金）晴

朝食をすませ、ニュー・スカイ・ホテルを出発。電車で JR、普通列車で大牟田、西鉄特急という安い交通費を考え、天神に着いた。アクロスは十二時少し前。森山らに誘われて「すし幸」で中食。高教組からの課題である五〇周年略史「あとがき」を原稿として書く。八〇〇字。六時から中洲のワシントン・ホテルの三十三間堂で出合いの会の人々十人で会食。趣旨は私の入院一ヵ月の前祈願をかねていた。吉野・宮本・木梨・森ら。十時帰宅。

9 月 5 日（土）晴

九時半に国技振系の赤松氏がタクシーで迎えに来てくれ、博多埠頭からは佐藤さんが随行してくれ、十時四〇分発の J.フォイルで芦辺町での一支国第一回幼児相撲大会出席のため壱岐に行く。大会は一時から五時までクオリティライフセンター横の広場で二つの土俵。四箇町から二四〇人の幼児参加のもと、盛大成功裏に進められ、一〇〇〇人ばかりが有意義な半日をおくった。五〇人ばかりの実行委員の人達の打上げ会もあり、前田氏宅で二次会もあった。センターに戻って就寝したのは十時半。実り豊かな一日だった。

【欄外記入】

つばさ館

9 月 6 日（日）曇

昨夜はおぼろ月。満月を見ることができた。（旧七月一六日）今朝は七時前に起床。身辺整理に時間がかかり八時にみんな（私、赤松、森、佐藤）一緒に朝食。赤松、森は観光計画があり、私の方は九時十五分の郷ノ浦発 J.フォイルで博多へ。佐藤さんがタクシーで拙宅まで随行してくれて助かった。かなり疲れを覚えたので、中食後はまず午睡して体力を戻し、夕方は明日からの長期入院に備え、あれこれ準備に心身を注いだ。

9 月 7 日（月）晴

準備が終わり九時に荷物をもってタクシーで出発。みゆきが同行してくれた。直ちに済生会病院に入院、内科九〇二号室、主治医鮎川先生。朝食抜きで一二六、中食後二九〇という血糖値で、今後約一ヵ月これと闘うわけだ。検査検査で血を採られる日々だが投薬も変わってくる。見舞客は佐々木、白石、坂口、それに森祐行夫妻が来て長々と談話して行った。余の時間は三池五〇年の荒牧氏執筆部分の校正。これには時間がかかる。

9 月 8 日（火）晴

来室の見舞客はなかった。久しぶりにシャワーを浴びてスカッとした。朝インシュリンを注入、糖尿対策の強化に向う。血糖検査は食前・食後五回。朝食前は低くて一四七、ひる間は四〇〇をこえて高い。鮎川主治医の説明では入院後十日ぐらいは血糖値を下げる手段をつくしてみるとのことであつた。余の時間は三池五〇年略史の校正や自身の執筆部分を書きはじめたりの仕事に充て結構多忙であつた。原稿書きは急ぎたい。

9 月 9 日（水）晴

朝食前から採血やインシュリン注入など多忙な一日だった。ひる前、皮膚科で四肢体軀に出ている血斑、足の裏（水虫）など見てもらい塗布剤をいただいた。夜、右足すねの外傷につき仮手当をしてもらい、明日改めて皮膚科に行くことになった。夕方みゆきが果物な

ど挿入れに来てくれ、王国会館の緒方氏とぶつかり会って聖書物語研究の予定は果たせなかった。時間を盗んだようにして三池五〇年略史の原稿 22 枚を書くことができたので明日渡そう。

9 月 10 日（木）晴

外はずい分暑いらしい。平凡な一日だったが血糖値が依然高いので明日からは注入インシュリンの量を二割多くすることである。なぜ悪化するのか理由がわからない。夕方佐藤法子さんが見舞にきてくれ、壱岐での幼児相撲大会について、成果のあったことを共に喜び合った。次の手を関係者たちも考えているらしい。暇があつてよく眠った。

9 月 11 日（金）晴

見舞客はひる前に佐々木、白土、午後は松田（初）、みゆき。今日の驚きは血糖検査で数値がすごく高く五〇〇以上を意味する HI と出たことだ。インシュリンを使っているのに、こんなに高いのは何故だろうか。医師側も心配してある模様。食事はいつものように、時間どおり配膳全部たべている。夕方五時に泌尿器科に行き所見をきく。三池五〇年略史の私の担当分は昨日渡し、今日初校をもってきてくれた。四ページ半。やれやれできた。14～15 日三池労組に行き最終討議する予定である。

9 月 12 日（土）晴

降らないので、水遣りが大変らしい。昨日今日血糖値が HI と出て、どうしてか心配が増してくる。医師側も対応を変え心配してくれているようだ。復古堂の河原田さんが見舞にきてくれ、一四日に北九若松の花房小学校で行われの^{ママ}リレー書へのメッセージを依頼されたのでその原稿を書いた。北九市制 35 周年、呉昌碩生誕九〇年記念行事を花房小学校、大北亭昌碩像の前で行うという。早目に就眠とする（午後八時）。

9 月 13 日（日）晴

血糖値が HI と出て異常である。インシュリン注入してもらっているのにこうも高くて対応に困り果てる。14、15 の両の三池ゆきは中止せざるを得ないので西日本印刷に連絡して私の「結びに代えて」は FAX で三池に送ってもらうこととした。夕方七時前から六時間を要する点滴をはじめベッドにしばられたまま、小用はベッド横に尿器をおき三度使った。予想外の苦難である。もう一本原稿は書きたいが。

9 月 14 日（月）曇

インシュリンなど特別の配慮はしてもらっているのに明るさがみえない。朝の体重測定で四四・五キロ、細っていくばかりである。数ヵ月前は五〇キロをこえていたので六キロ少

くなっている。脱水がひどいらしい。夜は長時間の点滴に入る。が昨日の半分で十時すぎには終わった。雨が降らない。カラカラの猛暑で苦難にあえいでいる人も少なくなろう。降る地域は洪水なのに。異常気象といわれている。

9 月 15 日（火）晴

午前中に昨日の残り半分の長時間点滴。敬老の日なので中食は赤飯が出た。夕方みゆきが来て隣保その他からもらった赤飯をもってきてくれ、赤飯攻めということになる。四時頃、衣笠、荒牧の二人が来室、昨日今日とつづいた組合五〇年史編集会議について大要を話してくれた。組合役員 OB 諸氏から鋭い数々の指摘がでてびっくりさせられたという。有益な又とない発言。残したいのに。

9 月 16 日（水）晴

血糖値が下がらず逆に上方へ、心配増大へと向っている。次に向かうべく準備されているのにステップは逆に向っている模様。血糖検査インシュリン注入の連続。中村健副知事が森山と共に見舞にきてくれた。久しぶりに洗髪した。王国会館の緒方氏が来てくれたが聖書物語研究に至らぬまま引返してもらった。進歩と改革誌の原稿が気になっている。材料がない。

9 月 17 日（木）晴

ベッド上の生活も食欲がなかったり元気がなかったりすると自分でもよくわかる。嫌な気分ですごすことになるが、今日は昨日以来割合に気分も晴れ食欲も正常であった。みゆきが午前中來室し、洗濯物を取りかえたり来簡物をもってきてくれた。夕方大坪・岩崎二人が来て三池労組 OB の活潑な意見について語ってくれた。やや思案していたのだが「進歩と改革」の次号には執筆することとし、原稿を少し進めた。でも、血糖値が異常に高いのがやはり心配。なぜなのか打つ手がないのか気になる。

9 月 18 日（金）晴

朝、久しぶりにシャワーを浴びて、すがすがしくなった。食欲も回復。午前中は長時間を要する点滴。午後森山、坂口が来室。揮毫依頼は一寸うけづらい。午後、山本勲夫妻がバラの小鉢をもって見舞に来てくれ、奥田派批判の声あることを話題としてくれ、やや意外に思った。（いい意味からである）今日の血糖値は朝と夜、二九〇台で心配がやや軽くなった。原稿書きがなかなか進まない。当然だろう。入院が長びくかも・・・と鮎川先生。

9 月 19 日（土）晴

血糖値がまだ高いまま。インシュリンの量もふえている。当面はこの闘いのようだ。壱岐

の篠崎さんが昨日の「いきっ子会」で来福のついでとのことで、佐藤さんに連れられ見舞にきてくれた。今後の展開についても話を交わした。台風が西に行き福岡は降らぬまま。今日は雲が横に流れて完全な秋空。九月はじめ一寸横雲が見えたのに消えてむくむくと夏雲ばかりの日がつづいたが、今日は全面的に横雲だ。秋になったこと確実。国会での金融再建問題もやっと動き出した。

9 月 20 日（日）晴

暑さを残しつつも爽かな秋晴。日曜で雑音も少い。アジアマンスの催しの一環として中央公園での舞踊があっていた。橋本洗氏が花鉢をもつての見舞来室。働き盛りで全く元気な彼だ。頼りになる。当方血糖値を下げる努力ばかり。彼に郵便物をたのんだ。「進歩と改革」への原稿も今朝でき上ったので頼んだ。グローバリズムへの批判が内容。入院中は書く時間がとれていい。又書こう。（ベンチャー産業について）

9 月 21 日（月）曇

さわやかな秋空に夏雲が侵入して曇天にしてしまった。今日も血糖値検査やインシュリン注入、長時間点滴などの連続だが腹部エコーが午前中にあった。体重がぼつぼつ復元している。自覚的病状はとくにない。原稿も書いて橋本氏に投函してもらうので当面の荷物はない。不況が各方面に顕在化し、活況がどこにもみえなくなった。アメリカが日本に犠牲をもっと払うよう求めているので、経済界は更に沈む方向にあるといえる。

9 月 22 日（火）小雨・曇

午前中小雨が降った。久しぶりの雨かなと思っていたら午後は降らず。貯水池は五四%という。四〇日ばかり降らないと思う。眼科に呼ばれて白内障手術後の経過はまず順調との判断をきいた。近頃は眼鏡を使わず読み書きしている。血糖値が低下してきたが、インシュリン注入のせいもあるだろう。体重が半分は戻った。静養をつづけねばなるまい。毎日ぼんやりの生活。何しているんだ！

9 月 23 日（水）晴

今日も静かな秋晴れの日。秋分で休日なので一そう静か。午前中治療関係。午後思いの外見舞客が多かった。九大生協（渡辺氏も）、林県議つづいて佐世保大学長石村氏、緒方氏とつづいた。インシュリン注射を自分でできるよう看護婦さんに監視してもらって練習しているが、自覚不足か完全に至らない。血糖値はインシュリンで二〇〇台に下ったといえるが、まだまだ高い。暑中見舞への返信を少々書いた。サボっていたのがまだ取戻せない。

9 月 24 日（木）小雨・曇

久しぶりのいい雨。曇天の中、大地をよくうるおしてくれた。血糖値が二〇〇以下と割合に落付いてきた。今日は思わぬ大物が見舞にきてくれた。玉置氏は全国をかけまわっている途中だという。大学生協九州地連の宮田理事長、それから朝日カルチャーセンターにいた前田晃氏。それから毎度の白土、松田。二時半から三時半まで初の外出許可。アクロス福岡で師村氏が宮崎県佐土原の町長、教育長に会ってくれとのこと。前田氏がくれた「教育勅語」は面白そうだ。今後の話題でもある。

9 月 25 日（金）晴

昨夜十一時頃太田薫氏が逝去。われわれの一つの環境を作った彼の死去は古い時代が終ったことを意味する（八六歳）（一九一二年生れ）。今の人達にはどうでもいいことだろうが、われわれにはきわめて悲しい。インシュリン注入がひとりでできるようになる努力をしているが、まだまだ。血糖値はかなり下って来たので、来週から新たな治療に向おうと主治医の説明があった。午後早く近藤栄次郎氏が見舞にきてくれた。あと数ヵ月で公職を去るが、あとは特に何かをすることは無いといっていた。時代はここでも変わる。

9 月 26 日（土）曇

ちょっと小雨があった。もう秋空。今日は誰も見舞に来る人はなかった。前田晃氏が挿入れてくれた瀧川栄太「教育勅語」を興味深く読むことができた。全くとはいえないが、今の私の見る目とよく似ている内容なので、力強く受け取ることができた。アメリカ占領下で葬られた教育勅語が今こそ息吹き返すべきだという筋。アメリカのいいなりになる属国日本が主体性を回復するのに必要な考え方が強調される。

9 月 27 日（日）晴

朝食後九時に出発。福重での吉岡健太郎市議候補事務所開きに参加（十時～十一時半）、乾杯の音頭とり。ちょうど十二時頃病院に帰着（車で送ってもらう）。午後なつメロ会の長沢定夫氏が見舞にきてくれ、夕食までゆっくり時間を取り雑談を交わした。あと、何だか荷が降りた感じの一日の印象。血糖値がなかなかさがらないので気になる。中食前三五四、夕食前一九六である。体を動かし空腹になった時に三五四とは意外である。小さからぬ欠点をもつ内臓ではなかろうか。

9 月 28 日（月）晴

血糖値もかなり下向いてきて、安堵の気分。午後五時ごろ、佐賀有田の中西氏が広瀬夫妻とともに見舞に来てくれた。迎えるために、みゆきも来室してくれており、しばらく雑談できた。磁器焼物界の不況が話題の中心であった。社会が変わるとの自覚が必要であろう。

県職 OB の内田氏が豆類あれこれを差入れしてくれた。有難い。アメリカが未臨界核実験をした（26 日）件につき反核世界が強く震わせられている。

9 月 29 日（火）曇時々小雨

降雨が足りないので利水に心配があるとの報道がある。がここしばらく何回か小雨がっている。入院後もう三週間をこえ血糖値が改善の方向にあるのはいいとしてもインシュリン注入に至っているので、無条件には喜べない。明日はいよいよ血管造影の日で、今日午後からその前段の構えが始った。明日のまるまる一昼夜はつらい状況になるのを耐えなければならない。明後日午前中まで、危険なシーンもあるようなので乗切る覚悟を要する。

9 月 30 日（水）曇

ひる前から血管造影の準備過程に入る。下着も全部著がえ、点滴がはじまる。午後一時少し前に造影室まで運搬された。こまかい専門的なことは知らない。右下半身が固定され麻酔もかけられ自分の部屋に搬入帰着したのは三時すぎだった。それ以降は点滴がつづき、固定されたままの時間経過。腰が痛くてまるで地獄であった。尿は自動的に排出貯溜できる仕掛け。

10 月予記

この夏は入院ばかりで、十月も全部病床生活になってしまった。病院の食事はまずいという人は多い。でも私はそれほど感じなかったし、よく工夫されている面に感心した。看護婦もよくしてくれた。総じて何も不平は残らなかった。総合病院というものはどこでもあろうが、医療器機が驚く程とのえられている。コストもかかろうから、近代技術を使うことができるかどうかで病院にも等級がでてくる。特級の済生会病院で扱ってもらいえてよかった。

10 月 1 日（木）曇

午前十時に昨日の血管造影施術のあと処理が終り、起きて自由に動けるようになった。ともかく大変な目にあったといえる。午後三時、土井仙吉氏が見舞にきてくれ昆布の佃煮をいただいた。あれこれ平凡な話をゆったり語り合った。料亭「小りん」から夫妻の見舞があり恐れ入った。花をいただく。午後五時に鮎川主治医から治療の現状をしていただき、エコー室で更に腹部の状況をみてもらった。昨日のつらさがウソのように忘れられた。

10 月 2 日（金）晴

平凡な病床生活にかえった。血糖値もかなり低くなった。一〇〇台にもなった。しかし、インシュリン注入の効果でもあろうから無条件によろこべない。午後、松田初善氏が来室

しておしゃべりをしていたら大坪、馬原、小野の一团が加わりわいわい騒ぐことになった。太田薫氏の葬儀については九月二十九日施行され、私の名も入れた花輪その他なすべきことは十分にしておいたとのこと。夕方みゆきが来室、手紙類などまとめてもってきてくれた。諸対応が残る。

10 月 3 日（土）晴

すき透った青空、美しい花鉢、それにはさまれた街の白い四角で高さを競うビル・ビル。時に飛行機がほんのしばらく右から左へビル群の頂をかすめるように抜けていく。これが病床からみた外貌。何の音もしない。一瞬世界が止っているようにすら感ずる秋の午後。土曜日のせいか見舞客もなく、古い新聞をみたり句集を読んだりして結構わが時間を充填した。新聞というものは何回めくっても読み残しているものだ。これはと思う記事は切り抜いて貯えておく癖がある。

10 月 4 日（日）晴

雲ひとつない快晴がつづいている。外で活動する人は気分絶好となろう。但し、新聞をみると不況はどん底で、人それぞれに不況への構えを固めていて、街はひそやかだ。午後衆院の中西績介氏が見舞に来てくれた。田川でそれなりの仕事をして今から上京といていた。夕方六時すぎ、みゆきが洗濯物などもって来てくれ、私の夕食後帰宅へ。また八時すぎ網干の和代から見舞の電話があり、芳男氏は元気になったという。

10 月 5 日（月）晴

朝のうち佐々木、白土、森山、坂口らが来てくれたが、手術予定のため外室してもらった。中食抜きで手術の手続きに入り一時から二時半まで二〇七号室にベッド持込んでの手術の腫瘍生検と経皮マイクロウェーブ凝固療法という二種。（腫病をそのまま検査し、皮の上からマイクロウェーブでこれを凝固するというのであろう）肝のポリープ殺しだ。時間は長くないが右半身強い圧迫感に嫌という程苦しめられた。右向き横になったの固定姿勢六時間。ひどく辛かった。その間点滴四本あり。終って十五夜の月を一寸見て眠った。手術は成功のようだ。

10 月 6 日（火）晴・曇

病床の長い一日だった。午後早くみゆきが来室。もち込んだ新聞には昨夜の十五夜が一面にきれいに出ていた。風邪気味というので、早目に退出した。雲がだんだん濃くなり今日はとても満月を味わうどころではなくなった。主治医の方から九月末に行ったと同じ肝検査を明日行くと告げられ、愕然とした。いやな一日を迎えねばならない。十月半ばにあれこれの行事予定など通知がくるがことわった方がいいかも。眼科で視力検査。

10 月 7 日（水）雨晴曇

明るい時を三つに分けて天候がかわっていった。絶好、だのに午後の腫瘍治療は最高に痛かった。こんなにまでせねばならないのかなと思った。一時から三時まで手術の九〇七号室、あと自室九〇二号に戻って過したが動いてはいけないとの注意が辛かった。強いて何も考えずに時を過ごすのが辛い条件に追加される。九〇七号室にいる時、大坪氏が来て荒牧原稿については大坪の書き直したのに代えて本人のは私の責任で没にすると彼に告げ処理することと決めた。

10 月 8 日（木）晴

午後早めに国技振の宮本さんがまた見舞に来てくれた。気になっていた大濠での少年相撲大会についてきいたら、十日後に迫り準備もほとんどできたという。九州山口各県からの参加がある、名誉なことだ。退院して参加できる様願っている。インスリンを使っているため血糖値はまずまずだが退院後のことが心配になる。まずは面倒なことを毎日せねばならぬし、それだけ拘束されることを覚悟せねばならない。従来にこだわらず隠退の心が必要になってきた。

10 月 9 日（金）晴

入院して一ヵ月以上経ったのに気付いた。確実に社会が変わりつつあり己れが過去の実在になっている事を自覚せねばならないことにも気付いた。佐々木、森山が相次いで来室。午後が経過するうち、腹部エコーということで四階へ。みゆきも来て主治医から今後の治療方針の概要について説明をうけた。なかなか簡単ではなさそうだ。インスリンの注入について退院後かなり気をつかわなければならず、生活の基本を打止めせざるをえないようだ。厄介なことになったが、これも人生と思って諦めるほかない。

10 月 10 日（土）曇

うすぐもり。平成 10 年 10 月 10 日、数字の調子がいい。体育の日ということで連休を楽しむ人は多かろう。但し、打ちつづく不況で消費が落ちているので盛上りがもう一つ不足しよう。九重など山はいい。先日の新聞写真では阿蘇のコスモスが美しい。能古が有名。暗いというのではなく自粛する生活態度が若い人々の層にまで及んでいる。行列する買物客をみると中古再生品販売だの例もある。病床で考え込んだり古新聞切抜きをしたり。

10 月 11 日（日）曇

昨日と同じ薄曇。休みとの先入感^{ママ}からか、街も静かと思う。平凡な病床生活だが、昨日連絡があったように一時頃有田の中西夫妻が美穂子さんと三人で見舞にきてくれた。餅をもってきてくれた。奥さんとは全く久しぶりである。変わらない、元気そうだった。しばらく

くの雑談ができた。新聞を読むが、不況のことばかりで他に注目することはない。但しどの記事も不況の行方はわからないとの共通がつづいている。明日は施術（肝生検）で終日辛い。

10 月 12 日（月）小雨後曇

朝からひる頃まで小雨。夕方には明るい曇になっていた。一時から九〇七号室で腫瘍施術。痛さはなかったが術後は安静を八時まで。その後用便に立って嘔吐するなど異様な苦悶がつづいた。床の上でいても起き上がると吐き気が起ったりで、はじめての体験であるといえる。この日記は 13 日早朝記録したものだ。秋も進んで曇り空でもやはり秋らしく公園の桜も黄ばんできている。気温も低下。

10 月 13 日（火）晴

心地よい秋晴の一日。運動をと思って病院の階段を四階上下したが疲れる。午後早めに県時代の樺島が見舞に来てくれた。今も空港関係の仕事についているとのこと。午後三時から糖尿病教室に出席した。はじめて、みゆきも。新聞切り抜きなどしたが、明日は一日つらい日になる。ぞっとするが、これで終り、一週間後には退院できるだろうとのこと。未簡物の中に先日行われた姫高クラス会の資料。安田氏を送ってくれ、いい宝物になる。十一人出席だ（写真も）。

10 月 14 日（水）曇時に晴

鮎川主治医の健康の都合により、更には私の外出の予定も絡み、入院の予定が少々延長になり、今のところ二十二日退院となりそうだ。中食前のミニ糖尿病教室に出席した。二日つづけてだったが企画は別。午後佐々木氏が本を返しに来た。又高教組から福田書記長が近々出版祝賀会を行う『五〇年の歩み』の新版をもってきてくれた。インスリンのおかげで最近血糖値も低めに落付いてきて、今後は注入量を二単位少くすることになった。

10 月 15 日（木）曇

台風の関係で大雨になるかもということだったが、曇天のままとかく一日が暮れた。新聞報道は不況の深刻化一色で、大型小売で有名なダイエーも赤字転落と報じられた。失業者は街に溢れ、職安はごった返しているとか。要は過去最悪の景状らしい。消費者一般は将来に備えて財布のヒモを堅く鎖ざして不況に輪をかけている。病床生活が伸び、今日は何もなく、又何もする気が起らず午睡を十分すぎる程とった。白石氏が訪ねてきてくれ、一般異常なし。

10 月 16 日（金）小雨、曇

曇天がつづく。見えにくい、道路状況から小雨があっている。地面が濡れている。傘をさして通る人がいる。おしめりと思えばいい。平凡な病床生活で足の衰えを感じるので三日ほど前から病室の九階ということで階段を踏んで回復をはかるべく毎日下り、上りの運動をすることにした。一階から九階までの昇りは心臓に可なり負担を覚える。麻生幾の『宣戦布告』を読んでいる。

10 月 17 日（土）雨（台風）

台風 10 号が九州を縦断している。明朝には日本海に抜けるというが、強風波浪のこともあり、九州各地に被害がでている。福岡は終日雨だったが、被害はなかったろう。一時に緒方氏が来室。二時に私は出発して箱崎のリーセントホテルで開かれた福岡高教組五〇周年集会に参加。旧知の人々、現役主要人の面々が集まり、一時間半ほど、貴重な時間が経過。私は入院中のこともあり、第二部会には欠席。病院に帰ったら五時すぎだった。体力に若干無理だったかな？

10 月 18 日（日）晴

台風去ってすがすがしい秋晴。「宣戦布告」は読み終えられなかった。第 13 回九州少年相撲大会（於大濠公園県営相撲場）には午後出席することになった。途中帰宅してスーツを着替え、同じ車でみゆきも同乗。一時半から着席。個人戦（小学五、六年）を見た。最後の表彰式は私と石村氏が土俵に上って授与した。選手は近寄ってみると骨肉隆々、元気はち切れている実感だ。三時半には帰院できた。気持がいい一日。天気上々が何よりだった。国技振の理事の中でも宮本氏の努力だ。

10 月 19 日（月）晴

『宣戦布告』を終ったのは午前中。面白い本だが締めくくりにもっと力が入っておればいいのに。午後一時から九〇七号室で、エタノール注入（PEIT）と経皮マイクロウェーブ凝固療法（PMCT）の二つの手術が行われた。短い時間ながらも刺激が強くて苦痛は最高だった。二時から八時まで夕食を含みつつも自分の病室で苦悶の中で過ごす。点滴二本脈搏計で両手も縛られたまま、尿器を頼んで三回利用。八時以降も安静解除だったが、右下腹のうずき痛みはつづいた。

10 月 20 日（火）晴後曇

大変苦しんだ手術の結果、今朝になっておおよそ平常に戻った。午後早目に佐々木氏、次いで中村副知事と森山氏が見舞に来てくれた。二十二日に退院できるかも・・・とあてこんでいたのに、医師の説明では肝臓の腫瘍を完治するためには、あと二回の施術が必要という

ことで、退院予定は三十一日に延期するしかないという。これに従うしかないと決意した。だんだん寒さが加わってくる。予定の日程も少々変更するしかない。二ヵ月近い入院生活になるわけだ。

10 月 21 日（水）晴

少々寒さを感じる。平凡な病床生活。中食前にミニ糖尿病教室（10F）で 30 分過ごした。あと午睡もした。食品交換表を売店で求めた。今日の血糖値はかなり高く出ている。医師の説明で、明 22 日と 25 日と、あと二回治療室に行かないといけないわけで、こうなると、今後のライフスタイルを基本的に変えなければならないが、うまくいくかどうか心配になってきた。前から気にしていたのだが、家庭生活のリズムの中にインスリン注射を取りこむのも大変。

10 月 22 日（木）薄曇

エタノール注入（PEIT）、午後二時頃施術（今利先生）。一時から八時までベッドの上ですごす。

以上、ここまで書いて体力がもたずやめた。午後八時以降も起き上がる力はなく、ベッドの中での苦悶がつづいた。23 日になっても 12 時、2 時、4 時半というふうに眠れず、うなっていた。注射口やその周辺だけでなく胸の中央がうずいた。時にはぎくぎくとする痛みが伴った。大変な、意外な苦痛に見舞われた。

10 月 23 日（金）薄曇

夜が明けても昼になっても（山根治氏見舞）、苦悶はつづいた。熱もあるとのこと、38 度。午後早目に今利先生が傷部のエコーを取るのでナースセンターに行った。異常はないとの判定。不思議なことに病床に復帰した。午後二時から私の体調も平素に近く戻った感じ。気持も明るくなった。体温はまだ 37・5 と高いが苦痛を感じなくなった。昨日以来 24 時間の苦しみ。夕方みゆき来訪。網干からのスシをいただく。

10 月 24 日（土）快晴

秋を楽しむ人にとっては旅行のスタートに最適。紅葉を楽しむのは絶好のたのしみだ。病床の私にはそれどころではない。まだ腹部全体にキリキリするような痛みが残っていて安静が必要とされる。血糖値はまだ高い。腹の張ったような感じがつづくので、これをまずなくしたい。体温は徐々に下りつつある。しかしまだ平常より高い。夕食前に佐藤法子さん、つづいて法学部の河野夫妻が見舞に来てくれた。

10 月 25 日（日）快晴

すがすがしい秋晴れ。だが三時頃に来室したみゆきの話では、むしろ暖かすぎるという。容態は残念ながら腹部全体の突張り感がおさまらないので嫌な感じだ。特段することもないので、新聞その他読書で時間をすごす。新聞によると、世界規模の長期不況で、日本の対外投資も国内への引揚げ後退がつづいている。注目すべきはアメリカの対応であるがどこにも透明性がみえない。世界的規模での資本主義の崩壊が進んでいると思うしかない。

10 月 26 日（月）曇

どんより薄曇の一日。やはり腹部の張った感じの痛みは残っている。そのほか気分は異常なし。昨日につづいて、日経新聞の切り抜きを行っていたら、宮本氏が女性を伴って来室、飯盛神社の相撲大会に関する謝礼と干海苔の差入れがあった。女性の方の名が思い出せない。きくわけにもいけないので後日確認することにしよう。新聞切抜きで興味あるのはアメリカをはじめ世界的な不況の広がりである。

10 月 27 日（火）曇・小雨

朝食後すぐ八時半、外出届による日程となる。まず帰宅し、観峰さん関係の資料をととのえ、十時に葛西経子さんの迎いの車で西公園にある観峰会館へ。その一室で十二時まで一時間半彼女と観峰宗師について各部面から論ずる対談。終って近くの料亭「花の木」で中食。二時頃アクロスへ。久しぶりの出勤という印象。病院へ戻ったのは予定より一時間おくれの四時半。でも今日の対談は面白かった。まとめの印刷物ができる。

10 月 28 日（水）曇・小雨

今日は最後の検査治療の日ということで食事制限で構えていたが、鮎川主治医の検査で、治療はしないで終わった。31 日には退院できるだろう。五時頃大坪康雄氏が来室。三池五〇年史の印刷はほぼ目途がつき、今年中に完了しそうだという。労働組合というものが消滅してしまいそうな現今、最後の活動のあかしとなりそうだ。時代が、そして世界が違って来て、われわれこそ宇宙の他の惑星から来た生き物のように思えてくる。老衰感も強いこの頃である。ライフスタイル変更だ。

10 月 29 日（木）晴

ひる前に歯の治療に行っていたみゆきが立寄り、私の無事を確め同時に中食を食べて帰った。一時すぎ約束どおり直方の前県議野下氏が奥さんを伴って来室、来春の県議選に挑戦することになったという。少し時間をおいて松田（初）氏が、さらにつづいて大坪氏が永元美子さんを連れて来室。彼女は来春の福岡市議選に出馬するのだという挨拶であった。この三人、五時すぎまで話して行った。来春の統一地方選に向けて動きが始まっているのだ。

午前中の CT 検査を含め鮎川先生はいい調子になってきたといわれた。

10 月 30 日（金）薄曇

いよいよ今夜が病院生活の最後の夜となる。訪ねてくる人もなく変わらぬ病室で何とはなく過ごしたが、主治医鮎川先生の診談のなかで、退院してよいとの意見をきいた。今後わが家でしなければならないことを念頭に小物の準備が必要になるので、まずは売店に降りて綿花一包を買った。血糖値の検査についても道具だてが必要である。ライフ・スタイルの変更については今後真剣に配慮することにする。

10 月 31 日（土）薄曇

朝から退院の準備にとりかかったが意外と手間がかかった。十時半頃みゆきが手伝いに来てくれた。鮎川・今利両先生は来院なく小川先生にはあいさつできた。タクシーで帰宅できたのは十一時頃だった。中食、夕食と一回インスリン注射をしたが、何とか自分でできるようになっている。荷物の整理は手のつけようもないので徐々に正常に戻そうと思う。和代、土井（仙）、小役丸さんら何人かに退院の旨電話したのだが、この種のことも少しづつ進めようと思う。

11 月予記

長期入院から退院して健康状態をうかがっているが、まずは良好といえるだろうか。でも以前とくらべ顔色がよくなったという人がかなりあった。体重が四～五キロ回復した。それに視力が戻ったので明るさが出た。平均寿命は超えたという意識がある。特別の仕事は出来てなくて、敢えていえば筆もつ時間がふえ、書斎の中がやや整頓されたといえよう。何の前進もなくいい。

11 月 1 日（日）曇後晴

昨日退院。七八歳を自宅で迎えることができた。一彦、啓二、直美それぞれ電話で連絡がつき、私の誕生日の祝いの言葉を受けることができた。直美からは昨日厚いガウンのプレゼントを受けた。今日はもうガウンが欲しいような気温である。ひまを見て南側金網近くの植物を整理した。二ヶ月近い入院生活の中で積んだままの郵便物の整理課題はなかなかはかどらない。ゆったりと進めていきたい。

11 月 2 日（月）曇

呉汝俊氏から久しぶりに電話がかかってきて、三時に国際ホールで落合って雑談することになった。唐津に行って帰り途だという。働き盛りで北海道・東京・関西など公演のチャンスが多いらしい。飯田時生氏も加わりコーヒーで時間を合わせた。五時すぎ飯田さんか

ら夕食を誘われたがインスリンとの関係で辞退した。明日のなつメロ会の折に「教育勅語」についてスピーチすることになっていて、国際ホール事務局の協力でコピー紙綴りを用意することができ、助かった。

11 月 3 日（火）晴

東市民センターでの、なつメロに行く。十時すぎに出発して漸く間に合った。今回からこのグループは自分で用意することになった。長沢定夫氏もあれこれ会のお世話をするのに手が届きかねるので、少しでも簡約しなければならないわけだ。彼一人にまかせている現状から脱却しなければ維持が困難である。手伝う人が欲しい。今日は連休との関係だろうか、参加者が以前より一〇人余り少いと見た。各地の集団も似ているだろう。

11 月 4 日（水）曇

午後早く出発し、六本松の道端の食堂で中食を済ませ、約束の緒方氏宅へ。一時半から三時すぎまで聖書物語研究会。あと、久しぶりなのでアクロス福岡に行き、白土専務らから近況をきく。六時少し前に帰宅した。誕生祝の便りが宮崎宮、ロバート・コウさんから届いた。コウさんはバースディ祝賀のメロディつきのもの。彼からはいつも同様なのが届けられるので感謝する。退院後ながら、かなり多忙な日程が待っているので、力一ぱい対応したい。

11 月 5 日（木）曇後晴

二時から千代の自治会館で大学生協九州事業連の 21 世紀小委員会あつて出席。五時まで。出席は十一人。全国レベルでの問題。地域センターについて態度を定めるべく話題が展開された。話をきいていても、もう一つ何をめざしているのか理解しかねた。外から、上から提起されているように思える。それよりも単協の経営赤字克服に関する討議交流の方が重要度は高いと思う。

11 月 6 日（金）曇後晴

朝のうち、運動にもなると思って郵便局まで往復した。送金と投函である。車が縦横に走るので徒歩の人も危険があり新聞沙汰になるケースがありうる。庭の蘭の鉢に枯れてみえる葉があるので一せいにこれを切り取る作業をした。樹々の枝切りも必要だが、後日に譲ろう。机辺の整理もしたが、「積んどく」「押し込む」の弊がよくわかる。何回も「整理」することこそ必要だろう。

11 月 7 日（土）曇

書斎の中を又整理した。やはり思わぬものが発掘される。中国の徐州について早速役立つ

ものが見つかった。夜はサンパレス。七時から九時まで呉汝俊芸能生活 25 周年記念コンサートである。京劇の世界で呉さんのほか 9 人。三国志を話題とする舞踊も蜀の劉備・諸葛孔明も筋書きに出てくるが、舞台の模様のどこがどうなっているのやらよく理解できなかった。こんなのは二度見るとわかってくるのだろう。

11 月 8 日（日）晴

午前中に仕事を一つと思って玄関のサルスベリ、モクセイなどかなり思い切って剪定した。二時間ほどこの種の仕事をすると疲れを覚え、中食後横になった。少々眠っていたらしい。二時から六本松の王国会館に行く。長い間ごむさたしていたので会衆の皆さんから注目された。往復は徒歩だから手頃な運動になったともいえる。まずは効果を競う何事も感じないのんびりした一日が過ぎた。気温は室内で十八度ぐらい。

11 月 9 日（月）曇 雷雨

書斎の西窓に面した部分の植込みの剪定をした。何年か前に切り込んだままでひどく伸びていた。終ってみると立派にできたと思う。危険なことはしないようにしているから時間をかけることになる。二時頃だったか突然爆雷が生じ強い雨が十分ばかり降った。今年の雷めずらしいと思う。のんびりした一日を送ったことになる。読書の根気もなくなっている。二ヵ月ばかりの入院中の記録をノートに簡約して書きしるしてみた。

11 月 10 日（火）晴

インスリン注射液の一方が欠けてきたので補う必要が生じ、朝から予定外ながら済生会病院に行ったが、用件が終るまで大変時間がかかった。十一時半アクロスに着き来年度予算編成方針の説明をきいた。総務の坂口氏説明。十二時からアクロス福岡幹部五人とすし幸で中食を共にした。私の退院を祝う意味で日程に組まれていたもの。二時半帰宅。庭の松の木の下剪定作業をした。

11 月 11 日（水）晴

十一時に済生会病院鮎川先生の診断をうけ薬の追加を処方してもらった。一旦アクロスに行き弁当を食べ、あと、駅南の福さ屋に行って佐々木社長に会い、快気祝いの表により薄謝の意をこめて二〇人分の辛子めんたいを送ってもらった。アクロスに帰り四時に三池組合長・大坪氏と面接。見舞金、キャップランプ（遺品）をいただいた。三池労組の今後について話合いたい私だ。六時から「小りん」で多川、玉置氏らと雑談の夕食会。九時半玉置氏の車で帰宅できた。

11 月 12 日（木）晴

いい天気。剪定した庭木の枝を一そう短く切って都合よく乾いてくれるよう木の下に小積みする仕事をした。よく片付いてみえる。四時からアクロスに来客ありということで出発。県議の白石、豊島、あとで松田、さらには森山も加わり、21 世紀を考える団体の旗上げについてあれこれ意見を述べ合ったが結論は出ず七時に散会。しかし何か集団を作ろうということでは異論はなかった。三〇日に又話合う。

11 月 13 日（金）曇後晴

食後横になるという暮しを今日は貫徹できた。よく休んだ。それだけに何もしない一日でもあった。読書を少ししたのと庭のツツジの剪定に少ししたのと、それくらい。ハガキ一枚書いて散歩の意味もこめポストまで往復した。インスリンの注射三食前は面倒だが馴れてきた。室内温度は十五～六度なのでガスストーブでしのいでいる。ものがあり過ぎて教育や心があちこちで問題になっている。

11 月 14 日（土）晴

どこにも行かず家にこもっていた。師村氏からの電話で金印ゴルフ会が若松で行われその折に私の色紙が欲しいということだったので、久しぶりに墨を摺って色紙を書いたが、手がふるえているのに気付かせられた。四時すぎ労働党の上村氏が来訪。後藤田、槇枝グループの日中友好の行事に福岡で行う場合発起人の名を貸してくれるよう要望されたので OK した。

11 月 15 日（日）晴

朝から晩まで筆墨の生活になった。色紙のあと好きなだけ書き散らした。書けば楽しいものだ。夕方、太宰府の内田さんが私の退院祝いということで赤飯のほかラッキョウ漬、野菜など持ってきてくれた。ていねいな人だ。市長選投票ゆきが気になりつつ、とうとう棄権することになってしまった。庭の椿、ツツジはもう蕾をしっかりともっている。

11 月 16 日（月）曇時に雨

予定どおり宮本さんが朝のうちに大相撲の券をもってきてくれて、料理屋の姫野さんと三時から九州場所に行った。土俵に一番近い——という席で最後まで楽しむことができた。九割ほどの入場者だったろう。力士の若々しい姿を目前にみることで改めて大相撲のよさを感じさせられた。知事時代に見て何年ぶりだろう。やはり実地に見る魅力は大きい。六時終って姫野さんを送り、スシをいただき帰宅は七時すぎだった。幸い雨にぬれなくてすんだ。

11 月 17 日（火）晴、曇、強風

一日中強風が吹き、気温が低くなった。その一日、午後早目にアクロスに出勤した。具体的な仕事はなかったので久しぶりに散髪に行く。三ヵ月だろう。白髪が三、四センチ短く刈り取られたので、オールバックの白頭が少々きれいになった。六時から大手門会館の連合ユニオンで、十五人ほど代表が集って、十二月八日に都久志会館で新ガイドライン反対の学習会を開催すべく討議した。

11 月 18 日（水）曇後晴

風が吹いて今日も寒かった。冬がきたのだ。午後、緒方氏宅に行って聖書物語の研究会に時間をかけた。帰りローフレンズに久しぶりと思って斎藤ビルに行ったら私の日時誤りからうちに終り五時半帰宅することになった。ただ途中新天町あたりを散歩することになり、その周辺の変わりっぷりにはびっくりさせられた。まさに私が浦島太郎ということになる。どこもピカピカの新式ビルばかりなのだ。

11 月 19 日（木）曇・小雨

終日在宅し、自分の机辺の雑用に取り組んで暮れた。冬が本格的になってきた。寒いのでストーブはつけたまま。多少の希望もあったのでこの際色紙を五枚書き加えた。郵便物にはていねいに対応すると時間がかかる。読まなければならぬ資料も多い。九重では雪といわれるが福岡では冷い雨。降ったり止んだり。八月に十日ほど入院した時の日記はブランクになっていた。メモが出てきたので日記の形にする作業。昨日終了だった。

11 月 20 日（金）曇時に晴

寒い日がつづく。一日在宅だがストーブなしでは落付かない。身辺整理や色紙書きや読書、雑用といえることを思い付くままにこまごまとやっていった。何の気負いもないが、何かした方がいい。室外の仕事はできないが内でなら何でもしようと思った。暇人だが何か自分で命じなければ満足できない。詳しく身辺を見ると本格的な大掃除が必要だのと思う。

11 月 21 日（土）曇

どんよりと曇って寒気が下肢からしみあがる。ストーブに寄られながら書斎で何かと整理しているうちに昼になった。午後は予定どおり済生会病院に見舞にという仕事。脳外科で土井仙吉、内科肝臓で近藤栄次郎この二人。後者は私に似た病气、部屋も二ヵ月入っていた九〇二号室。土井は階段で転倒、頭を打っての入院。全くケガというもの。奥さんもいた。

11 月 22 日（日）曇

今日も書斎にこもってあちこち資料を入れかえ差しかえていて一日が暮れてしまった。効果を考えても価値ありとは思えない。気分がよくなる以外に何の役にも立たぬ時間。努力を払ったにすぎない。でもよくもこんなにたまるものだ。捨てればいいのに未練が残るのだ。ダメな奴だと思いつくと思う。午前中は墨書に没頭。これの方が結果がみえて満足度が高い。

11 月 23 日（月）晴

連休であるが私は単に在宅で何もしない時を過ごした。近頃皆さんは公休の意味は考えず単に休みとして自由に振舞っているようだ。公休の意味はないに等しい。昨日同様書斎にいたが、筆をもつ時間が長かった。書道を専門とする人の感覚は全く私にはわからないので好き勝手に書いて楽しむに過ぎない。何の欲望もない暇つぶしだ。

11 月 24 日（火）晴

うちにいたらストーブに頼んでか寒いと思う。午後天神に出ると、むしろ暖く感じた。復古堂で色紙の買いだめと思って一〇〇枚買った。年末近いせいか客が多かった。アクロスに行ったが今日は休業日となっていて誰もいない。荷物を少々もって帰った。午後まだ時間もあつたので夕食まで筆墨の時にあてた。半紙 1/2 大のものを何枚も書いて満足できた。読書よりも楽しい。

11 月 25 日（水）晴

あたたかい晴天がつづく。早くから済生会病院に行く。鮎川先生から入院当時から検査の結果を含み意見をきく。従来通り糖尿病の用心をつづけ服薬も従来通り。十一時からアクロス理事長室に大阪の高田保治氏ほか三人を迎え中食を含みアクロス福岡、シンホニーホールなど参観に付合う。三時帰宅。あき時間は又墨筆の楽しみに使う。

11 月 26 日（木）晴

十二時すぎ迎いの車がきて一時から駅南の都ホテルで開かれた実行委員会（日中条約二〇周年記念フォーラム—十二月十一日予定）に出席した。（呼びかけ人代表にされていたので）メンバー中の山本らが三時以降アクロスに来て森山らを含め、再度この行事について確認した。あまり日数のゆとりがないので実務者の努力が要望される。帰宅後は夕食をはさみ、又揮毫する。

11 月 27 日（金）小雨

五時半に市役所社会党議員控室で永元氏と落合い、来月八日に予定されている「NO 新ガイ

「ドライン学習会」実行委員会に出席、当日の進め方の概略を討議。前向きに進んだ。このあと七時からアクロスのシンフォニーホールで、室内楽（ブラームス作品 25-114）を二時間愉しんだ。ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスでの演奏。久しぶりだ。みゆきも合流だった。主催はアクロス福岡。

11 月 28 日（土）曇

ぱっとしない、何もしない一日であった。何か運動になることでもと思ったが気分が従わなかったので、終日机に向って筆をもつことで時間が消化された。墨場必携の中から繰り返しになるが好きな言葉を書き出し清書で重複させる。もちろん限りがない。気をつかうこともない。十二月になると多忙な日程が待っている。それに先立つ休みと考えよう。

11 月 29 日（日）晴

十一時から香住丘公民館の児童文庫の部屋を借りてナツメロ会の主流 14 人が集まり、懇親会を行った。中食と通常の「なつメロ」が内容だった。長沢さんが「店じまい」をしている関係のおみやげ袋、それに私からは一人一枚の任意の色紙をお配りして気持を支えた。九時半すぎに出発、五時すぎ帰宅。秋晴れの最高の清気を浴びた一日になった。桜の紅葉がとくに目立った。参加の婦人たちの唄声ははずんでいた。

11 月 30 日（月）小雨

うって変わっての終日の小雨。在宅して筆硯ばかりに時間をかけていた。次々と試作がふえるが、自信あるものはない。六時半からソラリアで参議院上貞雄氏を励ます集い。社民党の幹事長になったからでもある。土井、日下部をはじめ、全国、九州、県下自治体代表ら五〇〇人ぐらいきていた。盛大なものだった。終って事務控え室で社民の白石、豊島両県議を軸に城島、九大から福留、河野ら七人となり自治権政策論議をする会を作ろうということになった。十時すぎ帰宅。

12 月予記

ことし一年、だんだん心配ごとがふえたように思う。新聞はこれをよくまとめている。私の念頭では安保政策の拡大強化、なし崩しの憲法無視が進みはじめた。また現実には、不況、金融不安の深化、社会保障の後退姿勢が明確に出てきた。私的には 78 歳となって老衰がはっきり自覚されたこと、七〇日ほど病院生活をせねばならなくなったことが特記される。知人が次々と死んでいく時期になってきた。読書力減退だ。

12 月 1 日（火）晴

十二時すぎ、上村氏が車で迎えに来てくれて記者会見のため県の記者室へ。小郡の久保山

氏も加わってくれ、十一日予定の日中平和条約締結二〇周年記念フォーラムについて実行委としての説明を行った。このあと私は大学生協九州事業連合の小委員会と夕食会に出席。生協の地域組織と事業連合の関係についてどうまとめていくかが主題であり、重なり合いの調整について大体意見がまとめられた。一〇人ばかり出席。だんだん寒さが加わり生協の会議室も寒かった。多忙な 12 月スタート。

12 月 2 日（水）小雨

降ったり止んだりで境目なく、総じて小雨の一日だった。中食を早目にすませ、緒方宅へ行き、聖書物語の勉強会。別府二丁目まで歩き吉塚ゆきのバスを利用して五時からの参議引退の渡辺四郎を励ます会（レガロホテル三 F）に出席。私に激励あいさつの一人として指名がありびっくりした。二〇〇人余の県職労 OB が出席した。私が知っているモサが多かった。亀井県政時代に処分された者も少くなかったし、歴代県職の役員は殆んど来ていた。七時半に帰宅。労働運動の過去と現在について深い感慨が沸いた。

12 月 3 日（木）小雨

一時すぎ護国神社の会館で待合わせ、創設のワゴン車で宮本氏と香椎の長沢定夫氏の店に行き、閉店関係の余り文房具類の寄贈を受取りに行った。段ボール 13 箱あり、しばらく美和台幼稚園に保管してもらうことになった。事がどう運ぶか心配していたのにワゴン車、幼稚園など驚く程協力してくれたので、トントン調子に事が進み、四時には帰宅できるほど万事うまくいった。

12 月 4 日（金）晴

しばらく行ってないという気遣いから午後はアクロスに行った。来客があった。新国立劇場の常務理事末吉哲郎さん。次に読売新聞の経理部長久保さん。この人は知事時代に記者クラブで顔見知りである。又県の労働部次長の杉山氏がアクロスに用事があったので立寄ってみたという。来春は定年で退職する予定になっているとのこと。県職員という有意な生活を最後まで頑張っていたといっておいた。六時前に帰宅した。十二月は忙しい日程だ。

12 月 5 日（土）晴

在宅の一日。身のまわり日程などの再点検と筆墨の遊びになった。かなりたくさん書きまくったが、何ということはない自己満足にすぎない。落葉がどんどん重なっていく。街では銀杏の葉が美しい模様を作っている。落葉と共にいるのもいい。夕方ポンちゃんが赤ちゃんを連れてやって来てしばらく子供を相手に無邪気な時間をすごした。荒牧氏から電話があって向坂協会のことを伝えてもらった。

12月6日（日）曇

十二時すぎ復古堂の河原田氏が車で迎えにきてくれ、八幡のレインボウプラザへ。二時から「北九書の祭典」33回目の表彰式だった。三〇〇人ほど参加。終って懇親会、四時ごろ二次会が近くの「海舟」であって夕食も済ませた。七時すぎ同じ車で福岡に帰ったが、鍵を忘れた点困って帰宅せず、アクロスで行われている九響の演奏会後半に参加した。折よくみゆきが来ていて会場で合流、鍵のことは事なく終わった。少々寒い。福岡国際マラソンの日。九時帰宅。

12月7日（月）曇 小雨

冬しめりの一日だった。風もあり時に小雨があって落葉の庭はしめったまま。机に向って書斎の中でしたいことをしたが、漢文に関係した本をめくったのが主流。書を頼まれているのが気になりつつも迫るまでは書く気にならない。寒がりやだからストーブ、これをうまく使っていきたい。新年を迎える月だから徐々に多忙になってくる。健康が心配。

12月8日（火）晴

対米宣戦布告の日を記念して、現に大注目を浴びている「新ガイドライン」の学習会をやるということ、二〇日ほど前から実行委員会方式で夜、都久志会館労働組合への呼びかけによる人集めで六時から八時までの集会をもった。講師は陸上自衛隊に勤めたことのある神浦元彰氏（49才）。初りは心配したが最後は満席近く二〇〇人の聴講者を得て大成功。みんないい勉強になったはず。終って実行委員ら一〇人、近くの「さとみ」で夕食会。十時までわいわいやった。

12月9日（水）晴

特段のことをしないまま暮れてしまった。九時すぎに出発して済生会病院に行ったが、十時からの検査、診断など待ち時間も長く、帰宅したのは三時。それから中食ということになった。採血や心電図も、九～一〇の二ヶ月入院の事後点検という形である。血糖がやはり高く、何回も注射を試みようということになり、月、水、金と週に三日通院するのが今後の新施策。服薬はこれまで通り。また肝機能にも問題が残っている。

12月10日（木）曇

在宅で墨字をかくばかり。年末なので歳暮関係の用件もあれこれ少くない。お礼のし方にも一工夫必要がある。病院のことにどう対応するか、まだ決定できぬ面が残っている。明、明後はとても多忙。そのあとも年末に関連して出席せねばならぬ日程がたくさん残っている。体調がまた悪くなっているのに、やりきれるかどうかな。和代が又、又野菜を送ってくれた。大根、カブラ、シュンギク、キャベツなどしばらく食べていける。新鮮だ。

12 月 11 日（金）晴

十一時に病院に行き、注射をうけた。しばらく月、水、金と注射をつづけてもらう。アクロスに行って四人で中食に出たあと、一時半から四時半まで。吉塚の中小企業振興センターでの日中平和友好条約締結二〇周年記念フォーラムに出席。野田前インド大使と劉徳有氏二人が講演された。聴講者は一〇〇人程度。実行委としては短い準備期間しかなかったのに成功だったと思う。このあと地行のシーホークで全電通地本解散記念パーティに出席。八時に帰宅できた。

12 月 12 日（土）晴

十時頃、上り JR 駅福間で落合い彼の車でまず北九へ。十一時に穴生公民館で行われた「もちつき大会」を見学。吉田修氏とも久方ぶりに逢うことができた。「ぜんざい」もごちそうになった。一時から県議・勝野芳明氏の公葬（若松体育館）に出席。特別焼香を指名された（現職県議の死去）。終って福岡に引返し博多駅東のグリーンホテル 2 での大学生協九州地連の理事会（四時～六時半）に出席。西中洲まる家での大学生協理事忘年会にも参加。あと宮田理事長らと駅近くでマージャン。12 時帰宅す。

12 月 13 日（日）晴

在宅の一日。当面進めておかねばならないのは色紙を書くことだったので、ひるすぎまで、それに時間をあてた。十枚書いた。三つの目標があったわけ。日曜だが、歳暮の配達もあって、後日その対応が必要になる。太宰府の内田氏が奥さんの手編みのマフラ、帽子、ジャケットなどプレゼントしてくれた。全くおそれいる。返礼に困惑する。外は日ざしがいいが出てみると寒い。金柑が美しく色づいてきた。梅花の蕾ふくらむ。

12 月 14 日（月）晴

早目に病院に行き、きめられた注射をうけ、十一時には帰宅できた。十時前にはもう患者が多く待ち時間が必要だった。病院の用だけで天神まで行くのはどうかと思う点もあるが、治療の必要性を重く見ることが大事だと考え直すのが当然だろう。残りは自由時間で今日は中国古典名言集から身近かな言葉を拾い上げる勉強となった。朝刊は休みだったが、夕刊では「業況一段と悪化」、円高一六・五円（対ドル）とのこと。

12 月 15 日（火）晴

在宅なので庭いじりでもと思ったが何故か消極的で、アロエ鉢を株分けしたに止った。あと全部書のことばかり。六時に出発して夫婦で中国総領事館のアクロス職員招待宴に参加。陸琪総領事、奥さんの范淑琴さん、郭領事も参加された。私は辛うじて色紙五枚を準備。小西平太郎氏の日中友好世々代々もさし上げた。正式な宴席に十人、なごやかな雑談

ですぐすことができた。森山がよく活躍したといえる。九時半頃お開きになり、楽しかった。

12 月 16 日（水）晴

朝のうち少し習字して後病院へ。中食抜きとし、注射のあとアクロス金文堂に寄って気になっていた日記帳を買う。天神からバスで別府四丁目の緒方宅へ。約束していた聖書物語研究会を一時半から。今日は十一月半ばに戻ったような暖かさ。四時半から六時頃までアロエの鉢の手入れをした。花をつけたアロエが東側の畑に五～六本みかけられた。手入れが不十分なので倒れ枯れのアロエがたくさんあることに気付いた。重ねて手入れしよう。

12 月 17 日（木）晴

気温の高い日がつづいている。午後になって村島先生が来訪、雑談でしばらくすごしたが、約束どうり宮本さんが迎えに来てくれ、シーホークに行った。国技振興会の年度納め幹部の会で十人ほどしか集らなかった。五時半出発、九時半帰宅。十分とはいえぬ忘年会だったといえる。帰宅してみて、アメリカのイラクに対するミサイル攻撃が新聞の一面横を貫く記事になっているのに驚いた。もちろん、むずむずしたことを遂にやったにすぎぬ。

12 月 18 日（金）晴

九時半には病院に着いたが診療・注射と思わぬ待時間を使って一時には帰宅できるよう努力したのだが、六本松で九大に立寄り来春の学習講義について打合わせをしたり、生協に立寄って注文書を受取るなどしていると、思いのほか時間がかかった。学内では丁度中食休みの時間で、反帝学評がイラク爆撃のアメリカに反対の演説をしているのに出くわした。相変わらずやっているなと思う姿勢がみえた。一時すぎ帰宅中食となる。庭の植物に若干手入れ。

12 月 19 日（土）晴

在宅。いい天気なので、庭仕事をする事とした。まず鉢物の株分けが中心。アロエの鉢がまたふえるが調子がよければ立派なものとなる。東側に伸び放題のアロエがあって気がかりだったが、一応数本に杖を立て直した。これは鉢物ではない。両面の藤棚は今は落葉のまっさかり。次々に黄葉を降らせてくる。四時頃に作業を中止した。老衰だろう、疲れた一日の庭仕事。あとは読書でゆったりだ。十一月中旬の気温という。

12 月 20 日（日）晴

今年最後のなつメロ会。私は「麦と兵隊」のところで、徐州についてスピーチした。もちろん準備もしておいた。徐州が人口八二〇万人とは驚きだった。「蛍の光」についてもスコ

ットランドの元典たることをチェックしておいた。四〇人ほどの出席。みんな歌をよく知っていて楽しそうだった。長沢さんが店をたたんで世話するレコードなど諸道具のスペースがなくなったことをこぼしていた。隠居生活に入ったわけである。帰はバスの中、西日にまぶしく照されたが交通渋滞がひどく帰宅はうす暗かった。六時少し前。

12月21日（月）晴

朝刊にはアメリカのイラク空爆四日して終ったが、イラクが又査察を拒むなら再開するとの宣言が報じられた。全く馬鹿みたいな話。早目に出発して病院に行って注射。時間あまってアクロス資料室でしばらく読書。夕方早目だが、日本語センターに行き、四時からの三池労組五〇年史の仕上げ、校正の会議に出る。写真・年表などで仕上りが二ヵ月ばかり後れており、執筆者の中の一人岩崎氏と組合長らが最後の努力をしている。来年三月末発行と決めた。あと近くの酒屋で忘年会（十一人）。私は途中で中座、「小りん」での忘年会に行く。十時半帰宅した。

12月22日（火）晴

年末ということがますます実感されるようになった。クリスマス・ツリーもいたるところにみられる。朝日新聞の広瀬氏が訪ねてくるので森山のはからいで、地階の「すし幸」で中食をとる。一時半近藤栄次郎氏が来て健康の状況を話し合う。あと、たのまれていた色紙を手渡しすべく駅前朝日ビルの万惣に行き帰宅した。三時頃だった。晴れ日がつづくので水は心配ないかと話題になるほど。東側畑に植えたアロエが倒れたケースが多いため、今日も数本の杖を立ててやった。夜は自由時間だ。

12月23日（水）晴

快晴がつづいていたのに、今日は雲がかなり出てきたという感じ。公休日だが、近頃は何故に休みなのかと思う雰囲気かわからない。新聞がほんの一寸ふれているだけである。朝から今後の日程について雑件処理。午後は五時から緒方宅で聖書物語の研究会。七時前に帰宅した。アクロスの年賀状五〇枚、私の名簿から拾って宛先を書あげることができたのが、今日の特別成果だ。自分自身のはまだ。今後の仕事だ。

12月24日（木）曇

早朝わずかに降ったようだ。ほとんど一日曇り空。ひどい寒さはなかった。病院に行く予定を明日にまとめ終日在宅。電話番号控えが二年間古びたものだったので新しいのに書きかえ、その際無用と思われるものは削除した。夕方久しぶりに筆を執ったが、これという感想は残らない。辛抱づよく書くことに意味があると思う。部屋の中にも書類がどんどん押し込まれていくしかないのが気がかり。

12 月 25 日（金）晴

天気は崩れず快晴。区役所に行き、老人保健証の再発行を願い、病院に行く。血液検査のあと鮎川先生に診断をしてもらう。塩分の取りすぎにさらに注意するようといわれた。二時からクリオコート茶室で先日の日中平和条約二〇周年記念フォーラム実行委の反省会を行う。一五〇万円ほどの予算で一八〇人を集め、全国水準（東京、神奈川、大阪）に応じた成果をあげた。今後これをどう受け継ぐかについては結論は出ず。三時半に帰宅。

12 月 26 日（土）晴

屋外の清掃をしていたら埼玉の直美が他の者より一寸早めだが帰省した。十時頃だったろう。不況とはいえ、航空便は年末年始ひどくこんでいるようだ。中食後も西側の鉢物を主題に屋外整理をしたが四時頃までかかったの努力で見違える程きちんとしてきた。全くいい加減な来年度政府予算案ができ上がったようだ。出しっぱなしの国債発行で近い将来超インフレか戦時経済に移行せざるをえなくなりそうだ。貧富の差が拡大する。

12 月 27 日（日）晴

帰省した直美が風呂場を中心にこつこつ清掃してくれる。私も思い切って自分の部屋の電灯を磨いた。すごい汚れにあきれる。時間を見て筆墨の事をした。午後早目にアクロスに行く。五時半から事務局の幹部五人と一時間ほどごくろうさん会。七時からは会館ホールの「御用納め」の儀式を行った。今年はこれで終り、来年は一月四日から。神式で舞台納めのお酒で一年の無事を感謝するわけだ。七時半帰宅。

12 月 28 日（月）晴

筆で字を書いたり掃除をしたりして午後は病院に行く。年末年始の休みに注意せねばならぬ。三時すぎ松田初善からの連絡のとおり、山本勲氏を加えた三人でアクロスの地階でコーヒーをのみながら、政治結集の旗が必要だという点を中心に話合った。五時半から近藤氏を主唱者として、信用保証協会の西田らを交え忘年会、マージャン会と遊びが続いた。信用保証協会は今時の金融界の中で重視されている、頼られている。ミユキも招かれていて麻雀、十二時前には帰宅。啓二一家も帰省していた。

12 月 29 日（火）曇

家族が五人もふえたし、何もかも正月気分になったように目に映る。新しい光景だし気分もいい。暇あるごとに歓談になる。それにサリが連れて来た猫（ペット）が一つ加わる。私は寧ろ書斎にいる方が皆んなの余地がふえると思って一日中筆を執ってわが時間を使った。買物に行ったり、映画を見に出たりするメンバーもいた。氷とか霜柱の話題が出たが、福岡には見られない現象だ。

12 月 30 日（水）晴

年末いよいよ押し詰った感が深いが私自身特に課題はなく、またまた筆を執った一日であった。家族レベルでは餅を作って中食にあれこれ味つけした新餅のごちそうになり、鏡餅もできた。夕方米穀の吉岡氏が年末あいさつに来訪された。森山氏からの連絡で明日は麻生渡氏の母の死の本葬に行くことになったし、荒牧氏からの連絡では川口武彦氏が逝去し、一月四日に葬儀が行われる由。訃報二件。

12 月 31 日（木）晴

何だ彼だと雑用がおこって多忙な年末の忙しい日に。戸畑へ、麻生知事の母堂の葬儀。十二時から一時まで新しくできた葬儀場で行われた。森山氏が車でサービスしてくれ助かった。「盛大な」葬儀。県関係の職員が半数以上占めていたと思われる。久しぶりに顔を合わす人が多かった。途中で中食したのが二時、帰宅は三時半。わが家では台所がごちそう作りでどんでん返し。直美、ライヤが手伝いにはげんでいる。七人分の正月料理。夕食は年越しソバだ。

補遺

九月二十二日

補遺ページに何も書いてないので、ふりかえりつつ何か思い付きを書いておこう。一つはまず、老化による入院生活。八月十日から二十日まで、と、今回の九月七日から十月半ばまで——これで終るかどうかは別——八月のは白内障手術が重点。八月六日、七日のこの日記欄にみられるように、字が読めないばかりか書けない。ペン先がどう動いているのか見えない。いけないから正そうと思ってもそのペン先が確認できない。白内障だとわかっていながら自信をもってそう思わない。が、もうだめだとは思っていた。（入院中は日記帳をもっていったなかったので、メモ化したに止まる）白内障と同時に、高血糖が著しく、体力が急速に衰えるを感じた。ノドがかわく、水を呑む、小用が頻繁となる、その悪循環のくりかえし。脱水症状なのか急に痩せてくる。手や足にシワが目立つ。七、八月に六キロは痩せたであろう。足腰のバネがなくなり、よろよろの歩き方。歩く時あげたつもりの足があがってなくて躓く。急いでいて公道で二度も横転した。入院していても高血糖の原因がどこにあるかの自覚はない。医師のいう通りの病床生活をするしかないだろう。

第二は、国技振興会のこと。宮本氏が担っているこの会は春から秋に行事があるので、関与すると出席のチャンスがかなりある。相撲大会の時は私は挨拶要人となってしまふ。私自身ヨーロッパ的なスポーツに対し、国技としての相撲のよさを主張するので、国技振の趣旨にも合うのであろう。香椎花園、飯盛神社、壱岐、大濠公園、油山などたくさん予定地があつて、入院後にも二つ残っているのである。何の利得も考えないが参加して楽しいだけ。壱岐は第一回目で今後の継続が壱岐の活性化につながることを確信している。足を

ひっぱり合う四町が手を握り合う四町になってくれればとの期待は大きい。主催に動いた芦辺商工会の篠崎氏も、心の中に将来に向けての団結を誓っているようだ。

9 月 23 日

和代に電話したら、芳男さんが危機を脱して食欲が出ているという。八月下旬に刀出に法事に行った時泊めてもらい、その時の容態は一週もつかどうかわからぬ程弱っていた。その後使用薬品の間違いで大変な目にあい、間違いがわかって急によくなったとは聞いていたのだが、今日電話で再確認できた。抗ガン剤を二倍のまされていたとのこと。間違いが早くわかってよかったネということで話は終るのだが、危険な薬は念を入れて何回でも確かめる必要があると思う。

10 月 5 日

病院での手術で痛みをこらえ十時間横たわった身分。起きてもいいということで、気になっていた十五夜の月を廊下に出て見た。空のまん中、さえぎる雲はない。右にはなれて金星か。これが月に花を添えた形である。二千年昔の先輩達も同じこの月を見て感に打たれ、代々何人かの人々が似た体験をしてきたことだろう。しかし今の人達は生活、仕事、遊びに没入し、月の姿に己れをあわせてみるというような事とは縁遠くなっていく。近代化、合理化、欧米化に漬けられる。

10 月 8 日

宮本さんが見舞に来てくれたので大濠での少年相撲大会について準備の程をきいた。今回はまず心配ないところまで動いたが、宮本氏ひとりで動いてきたんだという。私は後継者を作ることを考え、若い動く人を見付けて一緒に動いてもらわないといけないと主張した。二年も三年もかけ経験を積み馴れさせる必要がある。協力してくれる企業があるとしても交渉の礼について、又会場その周辺との妥協についても、経験を積んでおく必要がある。宮本さんは関心のある若い人がいないといっていたが、そこから後継者問題が起っている。国技振の仕事を一過性のものとしなないためには特定の役割を果たす個人又は組織が必要なのである。以前渡辺健二郎氏が国技振の法人化を提案し、宮本氏が快く思わず提案が立ち消えになったことがあるが、この問題は同根ということになるかも知れない。だとすると、宮本氏が動けなくなると相撲大会はできなくなってしまう。私自身どういふことでもないが、相撲大会に期待していた人の気持はどこへ。

11 月 19 日

ここ数日で冬の気候になった。冬は冬でできるだけ冬らしい気分をもちたい。しかし技術の進歩か富の集積か、昨日天神三越の付近を歩いてみたが建築物は夏冬にかかわらぬ仕組

みになってしまっている。その中で冬物を売ろうということだが一寸時代が違うような気がした。それに今景気がよくないようだ。大大近近代の建物を作っても消費者は少い。食べ物店にも多く入っていない。営業は冬の時代がつづいている。

12 月 22 日

気になる健康。ずいぶん弱って来たという自覚が高まる。バス停まで歩き天神に出るケースが少くないが、足が重く鈍重である。後に人の気配がすると思うとまもなく追い抜かれる。そんな時相手の歩をみて感ずるのは足が軽い、そして左右の歩のテンポがずい分早い。しかしそれが通常のもので、劣るのはわが身だけという感じである。何かにつけて衰えは同じなんだろうか。糖尿病が未だ治癒せず、足脚にむくみが残っているので、それとの関係もあろう。以上とは直接関係ないかも知れないが、近頃手紙を書くこと、本を読了することに意欲がぐっと低下してきている。色紙を書くために作るべき体制に消極性があると思う。太い筆を揮う体制づくりには更に意欲が沸かない。手紙をかく代りに電話で事を済ませようとする人が多い。これ亦糖尿病との関係があるかも知れない。何もしなくてすむ時間を何となく、弄んで満足している自分を見ると変わったんだなと思って諦めてしまうのが落ちである。

12 月 31 日

世田ヶ谷から帰省の啓二 3 人家族、それに埼玉の天野・直美の 2 人、五人が年末にわが家をどつとにぎやかにした。沙理が中学^{ママ}年生で私より背が高くなっている。啓二は来年卯年で年男 48 歳。時代もかわってきたねということが話題になる。私は日頃から今日の情報機器の発達にはとてもついていけないと感じており、そのことにふれると啓二は自分も、とても沙理にはついていけない、父母にも子にもついていけない世代なんだということを細かく話してみせる。私は浦島太郎だとかこの世で化石になってしまっていると痛感するこの頃だが、中学生の親も子についていけないとは改めて問題性を痛感する。日常の言動すべてにこの違いが現われる。もちろん合致しにくく、理解しにくいのであって、どちらかが誤っているのとは違う。子供の教育について親も学校の先生も困りぬいている現況は何とか打開しなければならないのに明解が得にくいのも実だ。

1999 年

年頭の所感

20 世紀も終りまできた。前から望んでいたのだが、21 世紀の声をきくまで命があるかという期待にこたえうるかも……日本航空に就職できた麗衣が年末 30 日の夜数時間わが家に来て、一彦と直美の一家の者 5 人と福岡で合体することとなった。一彦夫婦も娘久美もそれどころではなさそうだが元気でやっている。“故郷”がなくなったと痛感していた私だが、われわれ夫婦とも、生れた家・地域に以前のような縁は薄くなり、寄せる思いも軽くなり、むしろ、ここ福岡がそれに代り、世代も変わって来たことを実感するようになった。思うに、あと 10 年も経つと、それ亦変わってくるのではないか。とくに今の子は親を思わなくなった。親も子も思う程度が低くなったのではなからうか。心のつながりよりも物のつながりがより大切に思われる時代への変遷が日常的につくづく感じられる時代が来た。とくにこの 30 年ばかり急速度に変わってきている。第三次安保改訂といわれる新ガイドラインの問題にしても世間の反応は鈍い。国の将来を気にするよりも、物質性的変化如何にふりまわされている。グローバリズムが支配し、速い、多い、きれい、便利……がより尊ばれる。学校は学力の養成所と化し、子供の遊びはテレビ・ゲーム、機械おもちゃである。この変化に疑問をはさまないわれわれ大人も悪い。時代が変わったと痛感される。懸念が多すぎる方向を指して変りゆく。

1 月予記

この月一番強く感じたのは、自民政権が小沢一郎の率いる自由党を抱き込むため、なりふり構わぬ譲歩を敢てしたことだ。もちろん目的はアメリカの属国になることも辞せず、憲法九条の平和主義をまたいで通り、議会に提案されている新ガイドライン関連法案を議決するのが狙いだが、これが実現するとわが国の戦後五〇年の対外信頼はなくなり、国の体制が軍事にすべて譲歩する一八〇度変革となるということだ。

1 月 1 日（金）晴

啓二、直美の家族揃いの帰省のため二九、三〇、三一の三日間は深夜をこえてようやく床に入る日が続く。今朝は約束して九時から雑煮を食べ平凡な元日を過ごすことになったが、昨年の日記をみるとほとんど変らぬ元日となった。コウさんにはみんなが雑談相手として集った。彼は自力で家族扶養に至るまでよく頑張っている。長男はもう 20 歳になったという。学費がいるので、その負担、辛抱はあと二年といていた。八時前に彼は退去。力強さを感じさせる男だ。

1 月 2 日（土）曇

昨日も今日も昨年とほぼ同じ。なるべく書斎にと努力するが、気に入るような仕事のはかどりはなく、多くは机辺整理になってしまう。来々週日曜に予定される「なつメロ」での説明任務が消化できる見透しがついたのでやや安心できる。太宰府に行った直美がお守りを得てくれた。健康で過ごしたいものだ。何故かそわそわしていただいた年賀状への対応の姿勢にならない。気に向いた時を待つしかないようだ。

1 月 3 日（日）曇

三食の時刻を基準にすると、生活リズムが二時間余りずれ込んだままである。私以外は皆、一応街に出たが、あっさり帰宅してきた。直美にはその後友人の来客があり、私は書で一月下旬に予定されている六本松分校における講演の構想を練っていたが、儒学資料を整えることができ、やっとまとまった思いである。気になるのは依然賀状への対応。手つかずのままだが、近々決意が必要だ。曇ってはいるものの気温はかなり高めのようなのだ。私は寒がりやだが。

1 月 4 日（月）晴

アクロス福岡イベントホールでの仕事始めの儀式が八時半から行われた。気分一新に役立つと思った。事務局に戻って職員に新年の挨拶。今日から始まる済生会病院に行って、従来どおりの注射をしてもらった。十一時までにとということだったが十分間に合った。啓二らは私よりもあとだが、車で早朝東京へ行った。直美は今夜も泊る。高教組の班協学習会は一時半から若鶴旅館で行われたが淵上、中西両議員も出席、夕食後私も、それぞれに引揚げた。八時半に帰宅。無駄時間が多い一日だった。

1 月 5 日（火）晴

快晴がつづく。水問題などかえって心配になってくる。午後一時から黒崎のプリンス・ホテルで、北九書の祭典系の表彰式・中食懇談会があつて出席。この日記を見ると一月六日のところと同じ。四時半には帰宅した。河原田氏が車で迎え、送りをしてくれたので大助かりであった。今日の出発は十一時。この分野では女性が活動している感じが受け取られる。帰宅したら京都の安田氏の連絡で姫路の高馬睦男氏が逝去したとのこと。私の方から安田に連絡して七日の本葬に出席することにしよう。

1 月 6 日（水）晴

病院に行き鮎川先生にみてもらった。食飼の中の塩分が多いのは要注意。高馬氏葬式のため午後一時二六分博多発の新幹線で姫路に行く。四時三六分に着いて小島芳男夫妻の迎えで塩田温泉へ。知新荘よりもっと北の夢乃井ホテルが予約されていた。夕食前と就寝前

の二度湯を使った。露天風呂、大浴場、個別風呂など、いろいろあるが、私は大浴場だけ使った。体の芯^{ママ}まで温まるようだった。日常の平凡な生活の中にこういうチャンスがあってよい。夢乃井の少し手前に知新荘があったが、今後どう対応すればよいか、チラッと迷う気持ちが湧いた。

1 月 7 日（木）晴

十時少し前に夢乃井を出て、思い付きみたいに城北新町の長田虹洋先生宅に立寄った。ぶしつけといえる。が座敷に通され、陽光まぶしい縁側で少々雑談した。予定どおり葬儀場しらさぎ大和館で十二時半からの高馬睦男葬に間に合わせてもらって小島と別れた。葬儀には旧制姫高 16 回文甲二のクラスの者五人が出席した。安田氏が弔辞を読んできた。神式だ。あと五人は「みゆき町」の喫茶店に集りしばし歓談して別れた。小島氏に又迎えに来てもらって小島宅に行き、夕食をいただき、泊めてもらうことになった。

1 月 8 日（金）晴

急に寒さがきびしくなってきた。博多へ帰る途中、岡山のプラットホームで列車を待ち合わせる時、強風で髪の毛はバラバラ洋服のズボンも旗のように揺れた。小郡近辺では小雪がちらちら、山の本々は色白く目立った。三時半に帰宅したが、又々小島氏の車のお世話になった。一泊させてもらったが、特別の用件があった訳ではないので、十時すぎに宅を出た。列車は下りで空席が多かった。新学期が始まるような雰囲気が感じられる今日、新聞をみても特段のニュースが見当らない。直美はまだ在宅。

1 月 9 日（土）曇

風も強く小雪がちらつきすごく寒い。朝のうち病院で注射をうけたが患者は少い方だった。アクロスに行ったが、特段用件もなく、中食抜きで二時からパピヨン 24 で開かれた大学生協事業連の 21 世紀小委に出席した。15 人。議論の内容は全国連の下段に設置されようとしている地域連センター構想に九州の事業連としてどう対応するかという点で各自の意見開陳がなされたが五時終了までに結論は出なかった。来月まで待つこととした。クリオコートで夕食八人。あと深夜までマージャンだった。

1 月 10 日（日）晴

昨夜はおそくなってしまったのに、今朝の目ざめは六時すぎ。予定仕事がないので身辺整理に一日をあてたが、することはいくらでもある。下旬に分校で行う予定の講演の原稿づくりが気になっているが、以前に作った素案が見つからずに困っている。直美は明日帰京するようだが、わが家の押し込み物をひっくり返し処分すべく好きなように整理にはげんでいるが、これ又限りなくつづけるしかない課題である。西の縁外に赤白二鉢の梅がある

が、白が咲きはじめた。臘梅は満開をこえた。

1 月 11 日（月）晴

年末から長期滞在となった直美も三時の空路で帰京するので、私と同乗タクシーで出発した。私は六本松分校で黒木事務長と会い、二十七日の講座メモを手渡し、駅前四丁目のパークホテルで四時から開かれた「反新ガイドライン・フォーラム」実行委員会に出席（福教組関係者が中軸）。五時半に中座して若鶴旅館でのコーシキン氏歓迎会に出席。彼からはロシアの政治・経済混迷の概要をきき、三〇分後歓迎夕食会に出席した。当方では大坪、小野、衣笠、馬原がホストになった。ロシアの現状分析には興味深いものがあった。九時に散会となった。（夕食はフグ料理）

1 月 12 日（火）晴

腸の状況がよくない。下痢ではないが何回も用便が必要となる。午前中病院ゆきに使おうとしてその点かなり順調に進み、アクロスに立寄ったが、とくに用件もなく、松田氏から頼まれていた「社会新報」福岡版への原稿を書いて事務局に託し、帰宅した。二時前だった。中食も自宅ですることになった。昨日の会で梶村氏の新ガイドライン関係の印刷物を入手したので夕食までそれを読んだ。日米安保についてよくまとめてあると思う。後日私も役立てたいと考えている。講演参考に。

1 月 13 日（水）晴

在宅無為の一日。何だか心も体もなまっている。早く目ざめ、日中は眠いばかり。六本松分校での講演が気になり若干知識をふやす努力。途中から民族博館長だった梅棹忠夫氏の自伝をパラパラ読む。博物館創立努力中にロンドンで会って知り合いとなった学者である。あれからもう二五年以上経過している。又思い出したように少しずつ賀状に返信を書きはじめた。年末に逝去した川口武彦氏の奥さんから便りがきたからである。一ヵ月以上かかるだろうがぼつぼつ返信を書こう。

1 月 14 日（木）晴

午前中に病院での注射を終えることができ、そのままアクロス福岡に行った。一時半に中間市の松岡功元県議が解放同盟の古川、小柳の二人を伴って来訪。話が建設一〇〇人会となり指導者吉田和彦氏に電話したら OK となり彼の来室を入れてこの「一〇〇人会」を論じ、古川氏も運動の参考にすることを約し、三時すぎ、今後の連絡を契り、お別れした。あと少々読書して帰宅は五時半すぎとなった。平田喜久雄氏から自伝『我が道をゆく』が送られていて、夜はそれをペラペラ見た。

1 月 15 日（金）曇

朝少々雨だった。いわば久しぶりのおしめりである。だが、続かず曇り空、寒風だった。一日中今年の賀状に対応した。住所録の点検も同時に行い、一枚一枚肉筆での返信といえる仕事である。印刷術、コンピュータの利用はいいとしても、宛先の人に対する情は伝わっていない。今後ますますこの傾向が強まるなら賀状の意味はなくなる。以前は新年挨拶で玄関に列ができたとも聞く。今何もなし。

1 月 16 日（土）晴

病院に行くべきかと考えたが中止。一時半に市議候補永元美子側から迎えの車が来て平尾の事務所での餅つき大会、気合わせ会に出席。豊瀬吉安、船越らも来ていたので教組全通系の人達二〇人ばかり、食べながらの茶話会。九人の候補が七議席を争う選挙という。私は早目に引上げアクロスで少々待機。白土専務の車で長住へ。高山県議の前夜通夜祭（自宅）に参加。霊前礼拝だけで退去。白土の車で拙宅に着いたら夜の七時だった。疲れた。

1 月 17 日（日）晴

十一時に東市民センターに着き、なつメロの有志と中食を共にし、一時からの本番の中で私は十三夜ということと炭坑節についてスピーチした。終ってすぐ急いだが西公園近くの佐々庄で六時から師村、竹田の二人と夕食会をする約束に辛うじてまに合った。黒門橋でみゆきと待ち合わせ、調子よく行けた。話題は竹田氏の県議出馬について当選目標にわれわれは何ができるかということであった。九時頃近くの師村工房に寄り雑談を交わし十時すぎに帰宅した。宮崎日日新聞のことも話になった。

1 月 18 日（月）晴

しばらく行けなかった済生会病院に今日は行って注射を果たした。アクロスに行き、一時半に中国江蘇省外事辦公室からの視察団（六人）に対応した。県との友好関係締結に私がかかわった事が指摘され、おみやげをいただいた。三日間の福岡県視察の旅行とか。県庁の方でいいように対応してくれるに違いない。館内を案内するのに十分な時間がないようだ。一時半には帰宅し先日からの賀状への対応に取組んだ。のんびりとやっていきたい。晴天がつづく。

1 月 19 日（火）小雨

寒いので外に出なかったが、朝から小雨が降ったり止んだりしたようだ。植物が力を得たであろう。賀状への対応に半分、他は明日に備えてのガイドラインについての勉強にあてた。あれこれ話す種はあるが、何をどの程度という点ではまだ気持ちがととのわない。ともかく現場に直面してきまらと思う。寒さに弱くなったことをつくづく自覚する。脚の太股

の部分に風が入り込むように感ずる。何かの病気だろう。

1 月 20 日（水）晴

朝八時前に出発し、夜十一時前に帰宅するという多忙な一日だった。まず病院に行き鮎川先生の診断、注射、採血。十時から光円寺、新旧住職の継職奉告法要、式典、講演、食事パーティーを含む祝賀会（ロイヤルアークホテルで）。ここは三時頃中退して、西鉄バスで田川へ。地区労センターで六時から新ガイドラインについての講演。一〇〇人は聴衆が集たとみられる。終って別の食堂に行き夕食会。ガイドライン有事立法について少しずつ関心が高まっている。おそくなつたが、タクシーで帰福した。

1 月 21 日（木）晴

10 時に中国からの客があるというので急ぎ出発した。日中友好会館からの沈さん一行四人だった。私が江蘇省と福岡県の姉妹提携の時の知事であり会館建設に一部援助したというので来訪されたのである。機会があれば私も訪問したい。森山、白土らと中食に行ったあと、帰宅した。二時すぎであった。このあと何するとなく時を過ごした。「進歩と改革」二月号や勉さんから送ってきた「BANCUL」をぺらぺら見た。天気がいいのでストーブ周辺の掃除もした。

1 月 22 日（金）晴

比較的に暖いのかも知れないが、やはり風が寒さを強めている。午前中に病院に行って注射をすませ、午後は二十八日の講演にそなえて資料、話す中味の整理に努めた。何となく気になるので慎重を期しているわけ。中国古典にはわれわれが日常使っている言葉の中に取り入れられた言葉が無限にある。二千五百年前の論語の一部だとは知らずに日常語としているものも少くない。勉強が足りないと思うがもう遅いだろう。

1 月 23 日（土）曇 小雨

夕方近く小雨になったが、降るともなく区別し難い雨模様。鉢の紅梅が咲いた。白の方は満開といえる。植木の方はまだぼつぼつ蕾かなという程度。臘梅をついばみに小鳥がやってくる。今日一日在宅で、ぐっすり眠った午睡。ほんとうに何もしないで一日が過ぎた。手紙（刀出の勉さん宛礼状）を書いたのと、六本松分校での講演への気配りという程度。ガスストーブは点火のままで外がどれ程寒いやらわからない。起床時廊下は 10 度だった。新聞はみるところなし。

1 月 24 日（日）曇

昨日同様どこに行くともなく、又何するともなく閉居の一日だった。暖かいようだ。「春遠

からじ」の感。応接室の床の隙間を埋めることに成功した。家屋が少々傾いたから生じたものである。夕方以降は久しぶりに筆を把った。具体的な目的があった故ではない。柴田忠造さんが鰯の佃煮をたくさん送付してくれた。便りの中に日韓漁業交渉妥結で密漁が少くなろうと書いてあった。交渉は成果ありとあってよいのであろうか。密漁を抑えうることはよかった。

1 月 25 日（月）曇 時に小雨

注射のため、天神まで行ってあっさり帰宅した。午前中に済んだ。午後は筆を把った。時間はすいすい過ぎていく。侘助椿がどんどん咲いて散っていく。が花瓶に挿すことはできない。松に目白のような小鳥が一〇羽ほど来ている。名を知っておればいいのにと自己批判がわく。何故か少々暖いと思う。小雨が降っても、ひえびえした感じはしない。筆を把っていると何もかも忘れてしまう。墨場必携で半紙 1/2 に十二字二行どんどん書く。

1 月 26 日（火）晴

中食はかんたんにとってアクロスへ。安部すみ子さんが訪ねて来るといつていたのに来なかった。近々また会うという電話での返事だった。アクロスの白土専務の母がなくなったという。何だかこの一ヵ月はわが身边に葬式が多い。新ガイドラインについての資料が気になる。今、国会で大いに議論されている問題で、国の体質にもかかわることだ。政権党（自民・自由）はここぞとばかり憲法九条をまたいでしまうことに力を入れているが、アメリカの属国になることには知らん顔である。全く以て軍事基地化する。

1 月 27 日（水）晴

朝から病院にゆき、注射をすませてアクロスに出て弁当を食べた。安部さんが理事室に来るとの予告だったのに来ないので、二時頃九大六本松分校に行き、センター長や押川氏と雑談しながら少々待ち、二時五〇分から依頼されていたシリーズ講座で「学問の道」講演を行った。聴講者二〇〇人ほど。一時間余りメモに従って話した。あと八時ごろまで控室で七人ばかりの有志と雑談に耽った。それぞれに雑感を出し合い有意義な時間だった。昨日書いた色紙二〇枚押川氏に託す。

1 月 28 日（木）晴

午後一時二〇分に約束どおり安部すみ子さんが車で迎えに来てくれ、西公園下の観峰会館に行く。二時から葛西経子理事長に面談してもらった。竹田信一県議も約束どおり来てくれて「書」を主題として雑談が沸騰した。竹田氏の県議選についても少々臭わせた。八幡東区の県議選には間接的ながらふれることができ、東区の書家たちに訴えることは可能といえる。三時半に師村氏の工房に行き、話の中で呉汝俊の「虚構」が話題となった。すみ

子さんとコーヒ店に行き、七時に帰宅した。

1 月 29 日（金）晴

まず病院に行き注射をすませ、アクロスへ。総務の坂口の朝の電話どおり、一時から県の黒石局長が理事長室に来て今日の呉汝俊の演奏について師村氏が問題にしている件に釈明意見をきかされた。二時から県文化賞授与式（第六回）がシンフォニーホールで行われ、これに出席、付録の演奏もきいた。時間がきたので次の講演は欠席、四時からの西日本ビル 16F での国技振に出席。今年の幼稚園相撲大会準備の諸項目の審議（六月下旬予定）。夕食も出たので済まして帰宅。七時ごろだった。

1 月 30 日（土）晴

10 時から三越ギャラリーで南京博物館の南選文物展に行き、バスで上岡氏の県議出場出陣式に尾仲に行った。挨拶させられる立場になった。公明党の人々も大勢集っていた。吉塚に戻り中小企業振興センターでの「新ガイドライン反対」集会の実行委と学習会（横田耕一教授の講演を含む）に出席。三〇〇人は集ったのではないか。やっと反対の動きが運動となってきたという感じ。終って薬院小りんでの四人会夕食親睦会に出席したが、私は二〇分遅刻。十時帰宅。

1 月 31 日（日）晴

午前中は書。午後二時から積善社で高山久生元県議の公葬があって出席。つづいて四時から農民会館で「ながもと美子」市議候補の選対本部発足と今後の運動の進め方についての実行委員会が行われた。二月、三月と四月十日までの七〇日近くの油断できない日々がつづく。緊張しなければならない。帰宅したのは六時。これで多忙な一月が終ったという感じだ。体力が衰えた感じなので、わが事も気をつけなくてはならない。今の若い人達は呑気だな。

2 月 予記

体調がすぐれない。老衰をつくづく感じる。眼は昨年白内障、今月は鼻血。それに歯科にもお世話になり上下とも多くの義歯を取りかえねばならなくなった。更にギックリ腰なのか長期の腰痛に悩みつづけ、行動の自由すらきかない処置をすれば明日から自由になるといえるものではない。そうした苦痛の中で久しぶりに労働組合の講演で行橋と久山に行く機会をえて楽しい時が過ごし得たのはよかった。人から見放されている者にとってはうれしいことだ。

2 月 1 日（月）曇

在宅して筆を執るばかりの時間となった。病院に行くべきであったのに、朝食後休んでいて寝すごしてしまった。（五時半起床だったからか）それに今日は急な腰痛に襲われた。中腰が痛みはげしく不能だから立ったり坐ったりには手の助けを要し、早い動作は不可能。こんなのははじめての経験で理由が理解できない。一日中在宅で墨場必携の中から主として 14 字を選んでたくさん書残した。

2 月 2 日（火）曇

冬らしい天気だ。風が強く、街は歩きづらい。ところで朝起きて以来、急に腰が痛むので、アクロスに休むという電話をしたら白土専務がすぐ病院に行くべきだといい、自分の車をまわしてきてくれた。済生会の整形で診断をうけ当面の処置を受けた。事務側の佐々木氏も来てくれたし、車椅子も使った。正午頃帰宅したが、温房の中ぐっすり休んだ。少々よくなるかなと思う。ギックリ腰のようだ。自由なし。

2 月 3 日（水）曇

朝起きたら初雪が積っていた。そのまま曇り空がつづいた。九時半からとの鮎川先生との先約で病院に行ったが、別段の措置なく、即入院と奨められ、十時から七〇七号室に入院した。いろんな検査、血糖、心電図、CT などがつづいた。夜になって特別の異常はないとの説明をうけまずは安心。鮎川先生、白水先生から検査の結果の意見だった。なぜ入院を奨められたかという、朝鮎川先生を待っている時、私が眠りこけるようになっているのが目に止まり、低血圧のため措置を要すると判断されたい。私の方はギックリ腰の痛みに困っているのにと考えた。

2 月 4 日（木）雪

雪の一日。珍しい。とくに午前中はボタン雪がどんどん降った。高速道はストップらしい。午後は雪や小雨だった。退院していいという事だったので片付けて帰宅したのは三時半。その間、教育会館で行われた県職労親和会（退職協）に出席。十一時から一時間講演。退職後の新生活設計についてである。40 人ほど参加したが、近頃は組合員も減ってきて意気が上らないと幹部はこぼしていた。今日はあちこちで雪かき作業が見られた。ある意味では余計な骨折りである。わが家も屋根からの雪落ちで少々被害があった。

2 月 5 日（金）曇時に晴れ

在宅の一日。寒かった。ギックリ腰の痛さはひどい。自由な動きができない。それでも朝のうち玄関に落ち積っていた屋根雪を除雪した。夕方までに昨日の雪はほぼ溶けた。寒さが厳しいのでガストーブを全日つけっぱなしの状態になった。立春というのは一番寒い

といってよい。アロエの花を切り取っているとき、故高山県議の奥さんと息子さんが会葬御礼の挨拶にみえた。大変丁寧なことだ。室内にいた長時間は「墨場必携」を点検学習する時間に充てた。

2月6日（土）晴

九時半から生協連の小委員会があるが、その前に病院に行つて注射をすませたいと思つてタクシーを利用して事を急いだら漸くうまくいった。生協連は「21 世紀小委」で、地域センター設立について最終的な方針論議の場であつた。十二時半に終りパピヨン 24 の食堂で幹部四人で中食をとつて散会。帰宅は二時すぎだつた。快晴でそう寒くもなく、梅花の盛りを共に楽しむいい天候だ。身辺整理したり筆を弄んだりで、ゆったりできた一日だつた。腰が痛い。

2月7日（日）晴

曇一つない晴天。春色がそこそこに浮び出て見える。起床してから昨日残した新聞スクラップづくりは一先ず終えた。早速に詳細読まねばならない。十時少し前に出発、香住ヶ丘公民館へ。長沢さんの仕組みで「なつメロ」の仲間十人ほどの新春のつどいである。かんたん中食を前に、二冊に綴られた歌詞をみての「なつメロ」の会になった。往復とも貝塚のりかえ、バスと電車。「運動」に少々役立っただろうか。腰の痛みはまだつづいている。気長に対応しよう。原稿書きが念頭に重くなつた。

2月8日（月）晴

午前中新聞切抜を読んで「有事立法」の勉強をしたが、午後宮本さんが来宅。九州・日中関係文化交流協会の顧問依頼の件で来宅（小野氏伴行）。帰りはレモンを一〇個、木からハサミ取ってもらつて差上げた。教育会館で高教組「生きる力」シンポの実行準備会があり六時から三〇分だけ出席。パネラーの福留、河野氏らにあとを頼んで、私は六時前に早引き。春吉の「いずみ園」韓国鍋を囲むハッター会に出席（七時から十時まで）。五人が集り県政当時の懐しい雑談を楽しむことができた。みゆき、私入れて七人。

2月9日（火）晴

病院で注射をうけ、アクロスに行ったら十二時頃だつた。県の松田氏が来訪するというので待ち、二時頃地階で一緒に中食したが、一時間ほど前から鼻血が出て止まず、中食を放置、奨めに従つて、病院に戻り耳鼻科で応急の手当をうけた。施術（左側）は大変痛くもあつたが一先ず行届くところまでしてもらつた。タクシーで帰宅は三時半頃。つらい身体ながらガイドライン関連法案の資料整理の仕事に従事。横須賀の一彦から寝具カンキを送つてきて礼の電話。

2 月 10 日（水）曇

在宅の一日。新聞の切抜きを整理し読みかえし、目的の新ガイドライン関連法案についての原稿書きに手をつけた。目標の三分の一ぐらい進んだかなと思う。頭がなるべく混乱しないこと、拙文の特徴が理解してもらえることを祈っている。あと二～三日かかるだろう。腰痛のため室内の行動すら、自由、意のままにならないのが全く残念。両手の補助を巧みに工夫しつつやっと動いている。終末を宣告されたようにすら感ずるが頑張ってみよう。

2 月 11 日（木）小雨・曇・晴

湧水が心配されているこの地域。起きた時いい雨だと感じたのに、つづかなかった。一日在宅。建国記念日を考えるよりも単に休日を楽しむ人が殆んどだろう。朝食後横になったら九時から十一時まで寝てしまうことになった。六時起床で十二時就寝。腰の痛さを嘆きつつ、昨日につづく原稿書きに努力しやっと素稿になる形に仕上げるところまでこぎつけた。明日から原稿にしていく予定で、三日もあれば完成すると思っている。腰痛から解放されることを祈るのみ。動けないとっていい程痛いのだ。

2 月 12 日（金）小雨・曇

朝から夕方まで天神ですぐす。注射をすませ、整形外科。これは再来。アクロスに行って弁当中食。二時に又病院に約束どおり参上し、耳鼻科。先日の出血止めの施術をうけた。またアクロスに戻り、四時から約束どおり日中民間文化交流協会の張晶会長の来訪をうけた。私に顧問になって欲しいという要請であったが、かなり長時の雑談があとに続いた。彼は画家。森山氏から年度末人事異動について少々私が動くべく要望があった。職員減への努力とともに頭の痛いこともある。六時半帰宅。

2 月 13 日（土）曇後晴

ガイドライン関連法案に関する原稿依頼が気になっていて、昨日からこれに取りかかり、今日在宅の一日かけて六〇〇〇字の目標にまでほぼ到達することができた。また少々書き加えたいので、どう対応するか明日決めよう。腰痛がつづくので嫌な立ち居が強いられている。不自由でもある。書斎に籠っての一日だったが春さきかなり厳寒を覚え室内でコートを着たまの仕事となった。紅梅も満開である。

2 月 14 日（土）小雨・曇

「進歩と改革」誌から頼まれている原稿、昨日今日の努でやっと仕上げまで運びえた。新ガイドラインについて四千字の論評である。書き上げて救われた気持で二時からのバイブル研究王国会館に行く。何ヵ月ぶりだろうか。珍しげに多くの人が寄ってくるほどごむさたしていた。五時前に帰宅。原稿の読みかえしを行う。太宰府の緒方恵美子さん、南区の

末次和美さんからバレンタインデーの祝意をこめた食品が届いた。有難く早速御礼の電話をかけた。寒い寒い。

2 月 15 日（月）曇・晴

朝食のあとアクロスからの電話。松本組の重鎮だった平井重太郎氏逝去で十一時から馬出の寺で公葬があるという。大急ぎで服装をととのえ途中アクロスで森山と合流、会場にかけつけた。林照雄氏がすべて連絡してくれたのだが、彼は今、林武彦県議の選対本部で仕事しているとのこと。多数の参列者がみえていたが儀式はぐっと簡素になっていた。林県議も松本龍ともどもこれには気をくばってきたようだ。平井さん 91 才で 12 月に逝去。満ち足り世のため十分につくしてきた人だった。一時ごろ帰宅。

2 月 16 日（火）晴

朝九時半に出て六本松九大黒木事務長にあう。講師料の払込みの件。あと市役所郵便に行き「進歩と改革」への原稿速達で発送。十時半に済生会病院へ。注射と歯の治療。下あごの前数本ががたがたで治療を決めるため、レントゲンでの検査もしてもらった。今朝上あごの義歯が折れたので、それへの対応がきっかけで義歯は応急的に接着してもらった。今後しばらくは歯の治療に努力する必要がでてきた。診断券は七科に及ぶ。どこも悪いのだ。

2 月 17 日（水）晴

快晴がつづいており、とくに今日は室内ではなく、外気が上昇し、コートは手に持つという状況だった。午後一時から病院。エコー及び血液検査をうけた。アクロスに寄ったが、早引きすることができ、帰途又病院に行って折れた義歯の修復をしてもらうことができた。終って帰宅したのは五時すぎであった。外壁などの塗りかえはまだ終ってなかった。明日から日曜までやや忙しい。体調の維持に努力しよう。腰痛がつづいていて体がうまく動かない。

2 月 18 日（木）小雨・曇

年度末人事問題の一端として三時五〇分に県庁中村副知事を訪ねた。予定より一年早く退職の必要が生じた公的事情のため、県でも、指名者の事後問題について例年以上に荷が重いらしい。今日はそれとの関係もあって白土専務の事後につき副知事にできうれば配慮してほしいと申出た訳である。一応話は了解してもらい、そのあと、杉山、高原、小串、松田が副知事室に来てもらって私の知事時代の思い出を語り合った。杉山、高原、森山が退職だ。

2 月 19 日（金）小雪・晴

県職労京都支部が三〇年の歴史をとじる。解散式行橋市京都ホテルで行われる。特急ソニックで行橋へ。ホテルでの解散式に当っての講演とあとの懇親会に出席しあと時間があつたので任意に集ってもらってマージャン会となり、三時まで遊び疲れた。組合組織の合理化で豊前地域の県職労が四月から一本化されるわけ。行橋駅の高架化もまもなく完成し、レールで分断されていた行橋市も南北一体的に発展する見通しがついて将来展望は明るいようだ。

2 月 20 日（土）晴後曇

朝食と中食は京都ホテルで、OB の川原さんに付合ってもらった。短時間ながら村上仏山の水哉園という幕末私塾跡、豊津の三重塔及び近々の公園を見学した。特急ニチリンで帰博。駅で船越氏の出迎えをうけタクシーで久山レークサイドホテルでの福郵労講演会に出席。引きかえす形で博多駅南の産業経済研究所の中央常任幹事会に出席。十二時には駅前ターミナルホテルに投宿することになり、常任幹事らとお別れ。

2 月 21 日（日）曇後晴

駅前ターミナルホテルで朝食をすませたのが九時半。少々早いと思ったが JR 利用で香椎へ。なつメロの会場に着いたら十時半だった。会場の設定を始める同志がテーブルを動かしていた。十一時半から中食会、一時からなつメロだが、今朝は小雪もちらつき、出席者は三〇人ほどで少人数で進行された。四時すぎ終ったが、バスとタクシーを利用するコースで帰宅は六時頃になった。旅の疲れもあったので、旅装を解き何もせず就寝したのが九時。

2 月 22 日（月）晴

二時から文化協会の張晶氏らに合うことにしていたが、アクロス事務所休務のため隣の国際交流センター藤本氏の部屋で何とか当面の話をして又改めて合う約束をして別れた。あと西新の幼稚園教育センタでの幼児相撲大会実行委員会に出席した。六月十二日に第九回の大会を開く準備の中での問題審議である。幼稚園側からも多く出席していてくれて理解が広まったと思う。ぐっと成功への見通しがついた。宮本氏と堺氏が国技振側で主力になっていてくれる。五時帰宅。

2 月 23 日（火）曇後晴

十一時に病院に着いた。例の注射をすませてアクロスに行ったが、具体的な用件はなかった。中食抜きで再び病院へ。歯科池田先生との約束で二時すぎから下あごの前歯数本を動かさないようにしてもらったが、あくまで仮の処置だということで今後本格的な手数がかかるようである。四時に帰宅。姫校生の原稿集が三冊届けられていた。どう処理するかが問

題。朝のうち色紙四枚を書いて県職組京都支部秋永氏に郵便で発送しておいた。

2 月 24 日（水）小雨

起きたら小雨だった。かなり続いただろうが一日中書斎にこもって筆墨を友とした。朝食後軽く横になったつもりだが、腰が痛く起き上がりが大変だった。椅子に掛けたままが一番楽なのである。書斎にいと机辺の片付け仕事が無限にある。長い年月持込むばかりで、満足できるスペースがないので押入れてしまう。すっきり片付けようにも方法がない。捨てるのが唯一だが惜しむのだ。

2 月 25 日（木）晴

三寒四温というのか、今日はぐんと暖い。朝のうち注射してもらう。一たんアクロスに行くがとりたてた用件なく、午後二時すぎから又病院に行って歯の治療のつづき。上あごの前歯が問題にされている。仮歯をしばらくつづける。帰宅は四時ごろ。朝注射の前に林武彦県議の中島事ム所に行き、来る県議選の陣中見舞をした。選挙運動に邪魔になるといけないと思って千早の選挙事務所に行くのは遠慮した。夕方礼の電話を受けた。

2 月 26 日（金）小雨

一日中降るか降らぬかわからぬような小雨で暮れた。市の貯水池五〇%を切ったとのことで特別の対策がされはじめた。どんどん降ってほしい。頼まれ揮毫一枚。久しぶりで用意も跡片付けも大変で、五時間も費したことになった。知事選に労働党からも立候補があるので上村が寄付を頼むと言って電話をかけてきた。取るばかりの党だとの印象が残る。自分の時間はのんびりと小筆を握っている。それは楽しい時間だ。

2 月 27 日（土）晴

電話での約束どおり労働党の上村氏が来宅。知事選に中村が出ることにつき歓談、献金をさせられ別れた。他の時間は又々筆墨のことばかりに費した。天気がよかったので、二〇本ばかり筆をきれいに洗う作業もした。平素はつけ根まで洗わないでいるため、今日は根もとまで洗い、手が黒くなって落ち難い右手になった。夜八時半には少々厭きが来て筆から離れた。腰痛が少し軽くなったかのように感ずる。

2 月 28 日（日）晴

春が来たといえる。屋外の陽気が示す。部屋の中はまだ暖房不可欠。NHK からの電話要望で二時に NHK に行き「黒い羽根」運動について一枚の画面に注釈を行ったが、自信はない。今の人は石炭盛衰について理解してもらえないだろう。二時すぎ別れて思い出したように、六本松王国会館の祈りの会に出席。四時半すぎ帰宅した。余り時間は全部筆墨にあてた。

書き溜めがかなりふえたのがわかる。夕食時、馬原氏から電話があり、次の「進歩と改革」への執筆 OK した。

3 月予記

三月は体調の崩れがつづいたこと、統一地方選挙のあわただしい動きに部分的に巻きこまれたこと、政治問題としての新ガイドライン関連法の成りゆきに関心が奪われたこと、世界規模では下旬に民族紛争に根をもつユーゴ内紛に NATO、アメリカが戦争手段を以て干渉に入ったことなど環境に大きな変化があっており、将来社会がそれらの成りゆきに左右される懸念が根深いなど、史的に変革の曲り角にきたことが感じさせられている。

3 月 1 日（月）晴

確定申告の課題があるので早めに税務署に行った。人待ちはそんなに長くなかったが、署員の前で待ち時間が長かった。計算の結果四〇万円余の追加とされた。帰路ついでに病院に行って注射をうけた。割合に順調に進み正午近くに帰宅できた。馬原氏から原稿執筆の依頼があるので、その消化に要する努力が気がかりで、残り時間はそれらを含め資料点検にあてることとなった。ほぼ見当がついた。

3 月 2 日（火）晴

歯科での治療日で二時半から済生会病院へ。その前にアクロスに出た。歯科ではこれ以後更めて義歯を作る段階で、レントゲンもあった。歯のあと上岡孝生氏の陣中見舞のため篠栗町尾仲の自宅に行った。亀弘夫婦その他・家族の人々に偶然乍ら全員会うことができた。県議候補にも数分会えた。健闘しているようだ。公明党候補である。彼は創価学会の活動家だから、三人の定員に対し彼が新人で一人もぐり込もうとしている。六時頃帰宅（タクシーを手配してくれた）。宿題の揮毫で夜の時間一ぱいだった。

3 月 3 日（水）晴

もう春が来たといえる陽気。室内気温も高くなった。八時半から十一時半まで病院。CT と注射で時間がかかった。内科の薬が若干変更された。やはり足のむくみがつづく病状で糖尿と肝炎だ。アクロスに行ったが事もなく帰宅している途中渡辺（健二郎）氏と出くわし福ビルの地下のレストランで長々とおしゃべりをつづけ、帰宅は四時すぎになった。朝食は絶食、中食は弁当だった。渡辺氏はつづく不況、地価の下落で苦勞しているだろうと思う。夜は又筆をもつ時間となる。

3 月 4 日（木）小雨

朝から晩まで降るともなく降らぬともない小雨。十時ごろ、西区の元県職員柴田氏が来訪。

入江県議の再選のための檄文を作りたいので原稿を見てくださいという。模様がよくきいた上草稿に手を入れつつ論議した。前回は無投票だったので、今回は顔を知ってもらうことから始めねばならぬということだった。午後筆墨の仕事をしたあと、五時すぎ出発して「四人会」の夕食懇談会に出席した。この席で私は「蛍の光」ということに関する話題を出した。九時帰宅。

3月5日（金）曇後晴

在宅。何もしないままに一日が暮れた。何の課題意識もないので悠々というところだろうか。思いついたように外に出て、もう咲きすぎた侘助椿のよさそうなのを切り取って花瓶にさした。暖くなったら手をつけようと思う鉢物があれこれ目にくい込むが今日は待て待てというところだ。暖くなると鉢のアロエがよろこびそう。俗信、俗語の事典を読んでいったが、やはり面白い感じがしない。夜八時すぎに姫路の広田から電話があった。中学卒業七〇周年に当るので同窓会を計画しているという。平均寿命に当る者もあるようだ。

3月6日（土）晴

隙ができる日程になること覚悟の上で、午前中にまず病院で注射をすませた。アクロスに行き何の用件もないので、うどん中食をして近くで買物を若干行った。書籍二冊、消毒用エタノール、刃物用砥ぎ器を入手した。時間が少々早目だったが村山富市さんが訪問される永元市議候補事務所。ここで予定どおり五時に村山さん一行を迎え挨拶。終ってすぐリーセントホテルまで飛ばして送ってもらい、五時半からの高教組の教育文化活動センター開設準備会に行き、九時まで（夕食こみ）。帰宅は九時半。

3月7日（日）曇・小雨

今日も高教組の行事に付合う。吉塚の中小企業振興センターで「生きる力」シンポジウムが十一時から開催され、私は来賓挨拶、衣笠氏も。河野正輝氏が関連テーマで一時間余の講演。中食をごちそうになり（弁当）私は退出した。午後の部のはじめは麻生知事の祝辞があった。午後は小雨模様。三時には帰宅したが、腰痛がひどく寝るには寝られず、体身の置きように苦しみつづけ読書もろくろく進まなかった。何時どき固定化するのやら、苦痛をどう耐えていいのやらわからない。苦しみつづけることになるのであろうか。次の病院ゆきで方便を探ろう。

3月8日（月）晴

十時すぎ病院に行き、整形、注射、歯科と三つを消化するのに五時間を要した。整形で注射してもらって少しは腰痛がやわらいだようだ。当面はこの腰痛が気になる。三時から労働組合会議（県庁うら）で開かれた実行委には遅参したが、三月二〇日を目途に、もう一

度盛り上げようということになった。住民レベルで戦争の痛みがよくわからないのがわれわれ周辺の実情なので、訴えつづけることに意義ありと見るしかない。五〇年に一度痛い目にあわねばならぬかな？

3 月 9 日（火）小雨・曇

小雨は午後やんだ。アクロスで森山と待ち合わせて二時からの葬式に、新幹線で往復した。小倉駅北の西日本総合展示場での安川電機名誉会長安川寛氏の合同告別式。この人は明治 36 年生れ、こ年 2 月 18 日逝去 96 歳。いろんな業績が反映されて全く盛大な告別式だった。安川と北九商工会議所の合同葬。小渕首相はじめ中央からもたくさんの弔電がきていた。東京帝大工学部出身の偉人だった。めったにない重要人物の逝去だ。五時アクロスに帰り、永元氏と合い、帰宅した。

3 月 10 日（水）曇

一時にアクロスに着き、アポイントに従って山崎新市長に面会し、アクロス福岡（財）の理事になってくれるようお願いし、随行の森山が運営の大綱について短時間ながら説明を行った（市長室）。二時頃に終り、私は病院に寄り注射をすませ、三時には帰宅できた。春になったということが肌で感じられるようになった。他の時間は読書。石原慎太郎の「NO といえる日本」を読み終り、次は大前研一の「変われ日本」を読みはじめる。両書とも痛烈なアメリカ世界政策批判だ。

3 月 31 日（木）曇後晴

比較的にいつてやや寒かった。原稿執筆が気になりながら、何となく一日が暮れてしまった。まだ腰痛に攻められているのがくやしい。中食会の形で B2 の「すし幸」に集った。橋口（甚）、森山、島津、安達、松田計六人。県職労が五〇年略史を作る積りで、その一角として雑談する形で橋口氏の招集によるもの。話題の中心に鶴崎県政の位置付けがあった。十一時半から一時半まで。あと私は病院に行って注射。帰宅は二時半であった。あと、原稿の準備をした。

3 月 12 日（金）曇

在宅で「進歩と改革」誌から頼まれている原稿に实际的に着手することにした。あれこれ頭の中をかけめぐる材料だが、決意しないと一定の形にならない。途中で躓くことは当然予想しなければならないが、とにかく書きはじめることだ。日本国憲法が新ガイドライン関連法で揺ぐという点が基本になる。三～四日で仕上げたいと思う。外気は冷い。廊下の温度計は十度を一寸越えたところ。ストーブのつけっ放しである。寒がり屋でもあるからこうなる。

3 月 14 日（土）曇後晴

書いている原稿がとまったままなかなか進まない。資料をみでの思案がつづく。五時から吉塚の中小企業振興センターで「新ガイドライン関連法案」**NO!**福岡県フォーラム地区代表者会議があり、徒歩・バスでの往復で参加した。三月二十日の全県統一行動について地区の取組み確認が主要議題だったが、福岡、北九、久留米の三都市部がなかなかむずかしいのと一般に今一つ盛り上がりが確かでないとの声が出た。でも福岡県は全国的にましな方だ。七時帰宅。

3 月 14 日（日）小雨

ポツポツの雨が終日降っていた。森山氏の要望で十時半にアクロスに行き、西日本新聞の池田記者のインタビューに応じ十二時すぎ帰宅できた。地方選特集の一環として中央と地方との関係についての^{ママ}処見の開陳であった。気温の上昇もあって過し易くなったが、腰痛がつづいていて苦悩。気になる原稿書きも充実した取組みにはならなかったが、義務感もあって少々進めることができた。腰痛が万事障害になっていると感ずる。

3 月 15 日（月）小雨

ずっと小雨がつづいた。霧雨というか菜種梅雨というか、降りやまなかった。草木にとっては春を待つのにいい。門前の石畳には大きなカタツムリがいた。数日かかった原稿が夕方やっと仕上がった。「進歩と改革」誌。日本国憲法の行方という問題についてだが当然今国会に出されているガイドライン関連法に起因する諸問題の代表として捉えてみた。われわれはもっと危機感をもたなくてはならない。

3 月 16 日（火）晴

中食をすませてすぐ出かけた。病院で注射と歯の治療だ。アクロスに行ったがとくに用件なく、五時すぎ帰宅としたが、六時半からの永元美子を励ます会を忘れていて、電話があったので又引きかえす形になった。会場はベルプラザ。これが終って帰宅したら八時すぎだった。励ます会には二〇〇人ほどの参加があったが、当選の自信はまだもてないとのこと。土井仙吉氏からの連絡で牧坂五郎氏が福大病院に移ったものの依然調子は悪いらしい。

3 月 17 日（水）晴

病院に行った。鮎川先生が迫先生に代わろうとのことだったので食事抜きで行ったが、特記事情はなかった。腰痛のため整形外科にも行ったが、コルセットをもっと利用するようにといわれた。山村謙一氏とアクロスで合流し福大病院に入院中の牧坂五郎氏を見舞に行った。午後の丁度いい時間帯だった。奥さんも看護に終日努力されている。胆管の通じが悪く黄疸症に対応している段階だが、どうも腫瘍が問題らしい。流動食がようやく摂取し

うるに至ったという。重病なのだ。

3 月 18 日（木）曇

朝食のあと仮眠することになってしまった。万事このように、何もしない、する気が起らない時間が多くなる。腰痛のため動くのが嫌になるからでもあろう。二時から病院で歯の治療をうけることになっていて往復ともバスと徒歩。歩くのは少々きついが辛抱するのがよいと思う。歯は上下とも義歯の修復であるが、今回は下前歯に新たな手がかかる。今日はそこの神経取り。夜に麻痺がとけて痛んでくる。天気が下り坂ながら、すっかり春を告げる草花、小鳥だ。

3 月 19 日（金）小雨

一日中、降るともなくやむともなく小雨がつづいた。傘はなくても歩けるが、やはり傘さしの方がいいといった具合。十時からアクロスで近まっている理事会の筋書きについて事務部から説明をきき、早めに済んだので病院に行って注射を終え帰宅したら十二時少々前。午後は気になっていた揮毫の頼まれもの、二件。仕上がったのは五時だった。これでやれやれホッとした。手なぐさみの筆使いはどんどんやっている。何回か書き直す必要があるようだ。

3 月 20 日（土）小雨

昨日と同じく一日中小雨がつづいた。外出の用件はなく屋外に出ることもなく、少々筆仕事をした程度。一彦夫妻が来たのは十二時少し前。空模様が悪くて予定よりかなり遅れたそう。玄関に現われた二人をみて、若いなと思った。第一印象、当然だが兩人とも元気だ。いうことはない。いろいろ話している中で不況、職場の不安定がとくに話題になる。二人の孫娘は元気でよく働いているので安定した生活といえる。

3 月 21 日（日）小雨

日田のおひなまつり（2 月 15 日～3 月 31 日）にわれわれ二組の夫婦で、行きは JR 帰りはバス（特急 10 時～8 時）行くチャンスに恵まれた。豆田と隈のうち豆田だけになった。日本丸館、草野本家、広瀬資料館などが印象に残る。建物も古く風格がある。私は腰痛で足がおそく三人に迷惑をかけたであろうが、雛人形の味は十分味わってもらえたと思う。平安時代約一〇〇〇年前からの伝統をもつ日本独特のものだという。女兒のすこやかな成長を祈る心の結晶。江戸中期以降一般大衆化したという。

3 月 22 日（月）曇

何するとなく、朝食、中食とすぎていって一彦たちは予定の航空便のため、うちを四時頃

に出発した。二人だけの生活になると互に淋しさを感じる。止むなく迫る宿命である。生活の仕方がそうになっている。一彦のところも子供が減り年長者がふえてきたという。わが家の近辺は一段と先にその傾向が進んでいる。世代がわりがどのような問題を孕みつつ進むのか確言できない。気温がぐっと下った。風も吹いている。僅かな時間だが筆を執った。

3 月 23 日（火）晴

朝のうち筆をとり、午後は病院へ。アクロスに立寄ったが今日は休業。三時頃帰宅。新聞切抜き整理その他机辺の放置物を片付けながら今日一日は終った。姫路の和代からイカナゴの甘煮、わけぎ、菜の花など春の食べ物を又、又たくさん送ってくれ、夜は早速ながらごちそうになった。幼い時に親しんだものだけに懐しさが充満した感じ。今の若い人達には味わえない郷土の味といってもよい。カネで対応し作物に季節のない現代の人々だ。

3 月 24 日（水）雨

一日中小雨がやまなかった。三時すぎに出発、アクロスに行って揮毫を手渡し、五時の特急電車で柳川へ。新ガイドライン関連法 NO の主催する講演会が柳川の東宮永公民館で開催、六時二〇分から約一時間スピーチをした。終って幹部三人と夕食を共にし、帰宅は十時になった。二〇〇人ほどの人が熱心にきいてくれて満足できた。帰ったら土井氏の連絡で牧坂君が危篤というか、大変よくないとのこと。私今日明日ともに私用があって牧坂対応は困難で残念だ。

3 月 25 日（木）曇

師村氏の指図で一日中八幡東区の県議候補竹田信一氏応援の挨拶まわりをすることになった。朝八時半出発、夜九時帰宅である。八幡東は人口は多くなくなっている。豊沢氏が強すぎて他候補は、残票の奪い合いの形となり、少数票がものをいうとのこと。河原田氏が全行程私の足となってくれた。訪問先はポイント、タカミヤ、第一タクシーその他書道関係の人たち。ムーブの三隅所長にも会えた。朝日カルチャーセンターにも行った。師村氏が書道界の人々によく働きかけてくれている。夕食後帰福。

3 月 26 日（金）小雨

大丈夫と思って傘もたぬ姿で外出したらまた一日中小降りがつづいた。十時頃アクロスへ。三時すぎ帰宅。往復ともタクシー。十一時からアクロス福岡の第二回理事会で経過報告と来年度事業計画、予算、人事などが議案。白土専務が退任することが一番大きな変化だ。中食を取りながら流れ解散。私はあと病院に行つて注射、歯科治療その関係でのレントゲン撮影。復古堂に行こうとも思ったが揮毫に時間が足りない懸念もあつて諦めた。帰宅してゆっくりと。

3 月 27 日（土）曇

消化器系統か体調が思わしくないので対外用件なく休みがとれる日でもあって朝食後また就床した。午前中休んで少々よかったかといえる。午後は例のとおり筆墨による時間つぶしだ。特別の目的はない。机辺にもものが多すぎて整頓しても次に必要なときにどこにやったかなと思う。見つけるのに時間がかかる。なるようにしかないと観念するに限る。読書力、意欲が落ちていること明らか。鶯の声のほか、小鳥が楽しそうだ。

3 月 28 日（日）曇後晴

在宅。筆墨ばかりで一日を過ごした。外は明かに春。そして風はまだ冷い。藤棚をみると花房の形を明らかにした蕾が延びている。葉の芽より早いわけだ。金木犀の新芽も目立ってきた。年度がわりの日々は多忙のようだが乗り切りたい。福岡市の下川端に新しい大きなビルがオープンし、人の流れも少しかわったようだが、古い玉屋が閉鎖される。街並みもどんどん変わるが詳細は無関心で知らない。

3 月 29 日（月）曇

早目に出発し、病院での注射、復古堂で墨汁を買い、アクロスに行っていて置いていた注射針を持ち帰るというコースを取った。帰宅は十一時すぎ。中食をすませ、北九東区の竹田県議候補事務所に建てる幟り旗（綿布）への揮毫に力を注いだ。書き損じが許されないので紙に何回か下書きをした「風林火山」の四文字。半切の一・五倍ほどの幟である。終わったら六時、半日以上かかった訳。桜が四～五分咲き。大濠美しい。

3 月 30 日（火）雨

在宅であれこれ仕残したことに時間をさいた。朝起きた時も降っていた小雨が一日中止まなかった。風はなかったが気温は廊下で一二度。机に向っているとやはりストーブが欲しい。桜花は咲き進んでいるだろうが、花見に出れない天候である。アメリカは経済活発だが、日本は完全失業者三〇〇万人率にして四・六%最悪を更新しつつある。ユーゴ問題など気にかかる新聞記事切抜き。昨日書いた幟に押印するなど気がかりなものを済ませてまずやれやれ。

3 月 31 日（水）晴

きらきら陽光すがすがしい一日だった。年度変わりのため公務員の人事異動がかなりある。収入減も少くない。九時から白土、森山その他三人はアクロスを退く。今日辞令交付、明日はその後継人事に及ぶ。正午をはさんで病院に行く。悪い所ばかりで、今日の血液検査ではやはり肝臓の悪さが示され食事療法の必要性が指摘された。県退職者皆川、高山の二人が挨拶に、また第一生命からも。午後のゆったりした時間の中で、次のなつメロに関係

する歌詩について検討した。長沢さんは電話で出席して欲しいという。

4 月予記

私の腹水治療、腰の骨折、牧坂五郎氏の死去という悲しい事で四月は終わった。ガイドライン関連法反対運動や三池労組五〇年史仕上げへの注視など、私としても動きたい課題はあれこれあったのにやむなく放置してしまった。アクロスは五年目を迎えまずは順当に運営できていて関係者の労苦にも感謝したい。白土、森山の人事異動。

4 月 1 日（木）晴

九時からアクロス幹部の新任辞令交付。小森専務、森山副館長。十一時から理事長室で自治労県本部橋口氏の要請で五〇年史関係の懇談を行う七人。二時半から歯科治療、四時から津法律事務所でガイドライン NO 福岡フォーラムについて当面の方針討議。荒牧も横田も来ていた。五時すぎ坂口氏の随行で出発し、宗像市での山根哲雄氏の葬式の通夜に出席。61 才という若さで死去した。何だか感じさせられるところがある。

4 月 2 日（金）雨後曇

統一地方選の告示日で約束に従って北九八幡東区の竹田信一県議候補の出陣式に出席し、準備していた「風林火山」の文字を入れた幟を手渡した。帰路香椎の林武彦候補の事務所にも立寄った。ここの空気は三万票をどう集めるかが関心で悠々たるもの。県職員 OB も林照雄氏はじめ、たくさん手伝いに来ていた。早朝以来車で私を運んでくれた復古堂社長とここでお別れ。六時半から西鉄平尾駅前で行われた市議候補永元美子さんの出陣式に出席。寒い寒い夕暮れだった。

4 月 3 日（土）晴

午前中に病院での注射をすませ、あと春吉二丁目で開店披露宴が行われる那珂畔に行った。国技振の佐藤法子さんが大きく関与している模様。一時から二時まで宴席にいて、自治労県職系の迎いの車を利用させてもらって八幡西区から県議選に出馬する豊島正章選対事務所に行く。同行者は藤田一枝さん、川崎県職労委員長。豊島氏は悠々たる心境のようで成功の自信はある様子だった。同じ車で自宅まで送っていただき六時には着いた。腰痛が激しく七時すぎには就床。

4 月 4 日（日）晴

朝は起床の時刻を考える必要がなかったので十二時近くまで床についたままだった。予定の「なつメロ」には欠席を決めこんで電話連絡ですませた。十二時すぎから五時まで記録すべきことなどに時間を費し、五時から八時まで又床に就いた。ギックリ腰といわれる腰

痛はややおさまったようだが、引きつづき胸、腰、太ももの筋肉がひどく引きしめられる痛みが生じている。就床するしかないと思って横になるが、これがかんたんにいかないようだ。明日病院できいてみよう。

4 月 5 日（月）晴

腰痛は治ってきたと思うのに筋肉痛が胸腹におこって弱らせている。予定表には何もないので病院に行くのもやめて一日中屋内にこもってしたいようにして暮らした。昨日の新聞切抜きの残りや、エタノール消毒綿の保存点検やあれこれのろのろとやっていると時間が経つものだ。桜の花が開きすぎたかな、若い人達はどのような気分かなと思ってみる。昨日甲子園高校野球は沖縄尚学（沖縄初）。朝刊は休みで夕刊にきれいに出版していた。

4 月 6 日（火）晴

朝のうち病院での注射をすませ、アクロスへ。「すし幸」で中食会。午後六時から同じく、夕食会。これは白土専務、小森専務の歓送迎会。帰宅は九時になった。空き時間に、江蘇省長への手紙の点（この秋の江蘇省文化品展への協力お願いについて）の論議ができた。又、森山氏に私の大学時代知事時代に積った文章書籍などについての整理作業企画について大要のお願いをした。経費はアクロス理事会報酬を利用することも。

4 月 7 日（水）晴

注射と歯の治療のため十時すぎにわが家を出た。歯科の池田先生は病気で休み、代理の先生だった。アクロスではひよりより渡辺健二郎氏が訪ねてきて近況を語り合った。五時すぎ森山氏を伴って舞鶴の麻生知事選事務所を訪ねる。勝利はまちがいないので悠々たる空気だった。六時半からサンヒルズで秘書室関係の同窓会。25 人来た中に 6 人の今回退職する人が混っていた。久しぶりに三笠や藤本にも会えた。

4 月 8 日（木）晴

申し分なき快晴。藤房もぐんぐん伸び若葉もみえてきた。休む一日外にも内にもなすべき事は少なくても四駆はまだ十分動かない。アロエ鉢など冬から夏への準備を助け、午後は四縁を借りて日向ぼっこ午睡もした。後藤さんが亡くなられ近所の人達が対応を協議。桜花がチラホラ落ちる、坂道で。六時半に迎え車が来て私は平尾円龍寺での永元美子の個人演説会に出席。五〇人。

4 月 9 日（金）雨、曇

何の負荷もないので在宅ゆったりと思ったが、病院に行つての注射は努力すべきだと思い朝のうちにいった。鮎川先生の所見もきくことができた。脚力の衰えを示す下脚のむくみ

が残る課題だし、皮膚がまだまだ問題を抱えている。先生が連絡対応してくれるようだ。往復とも雨。十二時すぎに帰宅し、あと、うろうろ、ごろごろ、何とはなく時をすごした。何の不满もない。ユーゴーに対する NATO の爆撃が腹立たしく気になる。

4 月 10 日（土）曇・小雨

全面的に曇り朝も夕方も小雨が降り、外出の意欲湧かぬ。隣の後藤さん葬儀は隣組レベルで女性たちに対応してもらった。老衰のようだ。昨年の、上段の記録はそのままあてはまる。書斎でひる寝もした。他は全時間筆墨を弄して過ごした。机辺整理をどう進めるかの課題が重くのしかかっている。腰痛後遺症の感があり、身体は未だ重い。

4 月 11 日（日）曇

知事、県議、市議の選挙日。投票を終えて、東市民センターでの、なつメロ同志の懇親会に出席。十一時から午後四時まで。みゆき同行。帰りは天神のダイエーで買物もした。懇親会は二〇人ばかりの出席だった。五時すぎに帰宅したが、やっぱり春は進んでいる。ぐっと伸び花びらを確実に開かせた藤房がわが家の春を代表している。アロエも寒さから解放されたように元気がでてきた。蘭の蕾もふくらんでいる。

4 月 12 日（月）曇・小雨

微雨夜来過、不知春草生（韋応物）という句に出くわした。今日もそれ。書を少々楽しみ六時から前田氏らの法律事務所でローフレンズの会幹事会があり、十数年ぶりにこの会の行事に出席したことになる。終って木梨氏と下のツンドラで夕食を共にし、帰宅は夜九時であった。知事になって以来のごむさだから十六年の交友中絶だった。今日は当面の活動方針を審議。会の活性化が必要のようだ。

4 月 13 日（火）曇

十時から辞令交付。病院での注射、来客あれこれあって混雑する午後。とび込んで来た一人の女性、真庭にとらえられる形となり、夜教養部正門前で七時半に再会を約して別れた。二時半に松田初が予約どおり来室、今後の研究会を約して頑張ることにした。五時から馬出の教育会館でガイドライン反対福岡フォーラム幹事会に出席。真庭女史と会うに際し、労働党の上村氏が車を使い随行してくれ、その力で何とか彼女の執拗から逃れえた。

4 月 14 日（水）晴

昨日と逆に今日はポカポカの春日和。ただし夜は寒かった。朝八時半から病院内科鮎川、迫両先生、午後は四時から歯科義歯（下の前）ガリガリ。早目に帰宅したが、バス利用で新学期始ったばかりの六本松キャンパスを通り抜け新入学生の課外活動勧誘の空気に久し

ぶりに接することができた。七時半頃に昨日の真庭女史が来訪したが玄関口での立話で帰ってもらった。横着ぶりに腹が立つ。自立心が不足している。

4 月 15 日（木）晴

在宅。植木鉢をいくつか整理した。サボテンのトゲが大変気になったので、どんどん切り取った。手袋にもトゲが執拗について手を痛めたほどだ。他の時間はすべて筆墨のことに充てた。藤房が近日中に見頃になる。植木にしても書斎の蔵書にしても、とても自分の力で満足できる状況にならない。ゆったりした気持でできることだけをすることに満足するしかない。今日は植木鉢類がやや整頓された。

4 月 16 日（金）曇

在宅の一日。終始筆墨にかかわっていたともいえる。午後一寸外に出て昨日のつづき鉢物の整頓にかかわった。かなり外見はよくなったと思う。病院へ注射に行かねばならないのに、何とはなく怠ってしまい後悔している。森山・坂口の二人がどうしているのかと連絡に来宅した。電話も出ないのでという。外に出ていた時にかかったようだ。明日は由布院へ行く。一期の会の楽しみである。藤見の会をしたい程房が伸びてきた。

4 月 17 日（土）小雨

由布院の信用保証協会保養所で近藤氏中心の「一期の会」が開かれた。行きは近藤氏の公用車で十二時すぎ出発三時すぎ着。六時から市内の料亭で宴会十二人の出席。楽しい時間八時半まで。あいにく小雨で足許がよくなかった。古沢、松尾、とび入りみたいに森山も加わった。帰館ののち、明日のゴルフは諦めるほかないということもあってマージャン、囲碁など、それぞれに楽しみつつ、夫々に温泉を利用した。十二時すぎ入浴、就眠。

4 月 18 日（日）雨

一日中雨と風で迷惑なことだった。朝のうち又少しマージャンを楽しみ、十一時頃森山氏の車で鳥栖経由で八幡へ。雨と霞で由布・大分は交通止めになっていた。一時半約束どおりアクロス専務と八幡駅前で合流、市民会館で二時からの松尾剛健県議の公葬が行われるので出席。いい葬式だった。帰り雨風の強い中 JR で博多へ。帰宅は五時半。全く疲れてしまった。専務がいろいろ補助してくれてよかった。松尾氏逝去四月一日 55 才。

【欄外記入】

以下 33 日間入院、メモによる記述

4 月 19 日（月）曇・小雨

一〇時に病院で鮎川先生に意見をきくと入院がいいとのこと。アクロスで一時に辞令交付のあと二時に一〇〇一号室に入院。血糖・体重など各種検査のあと五時四〇分鮎川先生来室で、「腹水」（下痢、白血球が高いなど）の対応が必要とのこと。時間もかかりそうだ。今日は自分の責任だが衣類ボックスの顛倒で尻餅をつき、ひどい腰痛が始まり苦悶した。九時以前就眠。

4 月 20 日（火）晴

詳しい検査が次々に行われた。腰痛で車椅子を利用せざるをえない。心電図、腰椎レントゲン（整形外科）、整形外科医の診断により腰椎の圧迫骨折（最下及び下から五つめの軟骨）——入院以来の事故が加わったわけである。苦悶時間が長いが新規災難である。六時鮎川先生来室で腹水関係の説明。検査のため、夜九時以降絶食。腹のことはよくわからない。

4 月 21 日（水）晴後曇

車椅子利用で十時に腹部 CT、二時半から五時頃まで腹水採取の検査があった。これは予備麻酔があったがひどく痛みが襲う過程で何とも我慢の仕様がな。経過に身をまかせ我を殺す以外にない。途中十二時から三〇分程、森山、嶋津、東定、河野が見舞に来て私の書庫整理にからめ、河野の言葉では「奥田文庫」でも作りたいとの発想を洩らした。

4 月 22 日（木）晴後曇

午後一時間余り直美もみゆきと見舞に来てくれた。検便指示以来なかなか出なかった大便が差出すことができた。内科面の要望には痛い検査も辛抱してこたええても腰痛には終始悶々して苦しまざるをえない。痛い痛いと呼きながら少々動き苦悶をまぎらわしている。見舞客として新旧専務の小森、白石両氏がみえた。見舞をうけるということは内心辛い。

4 月 23 日（金）曇・小雨

土井仙吉夫妻の見舞。牧坂が昏睡状態で危篤といていた。坐薬で若干痛みを防いではいるが、腹水による痛みも我が辛苦だ。今日は歯科治療もうける下前歯数本の義歯化である。みゆき直美は夕食前に来室。新聞をもってきてくれて一時は気をまぎらわせることができたし、はじめてシャワー浴びの気まぎらわしをした。内科で入院したつもりが腰痛という整形外科面で苦しみ、治る見込みが出てないという残念さ。

4 月 24 日（土）晴・薄曇

坐薬がきいて朝のうちは痛みが少なくなったと思ったのに、やはり痛みは続いている。疲れも感じ午後横になり少々眠った。一時半に緒方武男氏が見舞に来てくれた。菓子もいただ

く。四時半に直美が来てくれ、私は自分の人生の「幸運性」につきあれこれ例をあげながら雑談にふけた。夕食前までいたが新聞や来翰物をもってきてくれたので、しばらく楽める。今日は治療なく、あれこれ測定検査のみ。

4 月 25 日（日）薄曇

腰痛がひどくて呻きつづけた一日だった。腹水問題を抱えた身であっても、この腰痛がなければのんびりした病床生活に違いないのにとすると運命の悪さを思わせられる。その上今日は検査の苦痛も加わった。針さしは一きわ痛い。ひる前みゆき・直美が来てくれ生活器具補給があり、午後早く多川、玉置二氏が花をもって見舞にきてくれた。今月の四人会はとりやめ。明朝まで断食。

4 月 26 日（月）晴

血糖値の変動を測定してもらう日。日に七回。当方は腰痛に苦しむばかり。坐るのも立つのも痛い。人様々・物様々・事様々。夕食前に直美が来て私の方から一方的にしゃべった。天野氏の仕事の選び方はよき方向に動かしていくなら立派だ。私の軍隊時代も善き方に事が運び得たことを細々話した。

4 月 27 日（火）晴

食前も食後もなく一日腰痛に苦められた。腹水については鮎川先生が来室で説明されたり薬を変えたりとの対応で悪化はないようだ。直美の報告ではうちの藤花は重点がもう房先まで下っているという。残念乍ら藤花が見れない。三時にアクロス小森専務見舞来室。四時半腰椎のレントゲン検診。昨日二度今日も一度鮎川先生来室、所見説明。五時半以降みゆき直美、松田氏見舞。

4 月 28 日（水）曇・小雨

ベッドの上で苦悶苦闘。朝中食抜きで入院来一番苦しかった。午後早目に中村副知事、森山来室。私分整理に秘書室の人も対象にとの話が出た。三～五時直美。五時半検診、MRI、腰痛がひどく抱えてもらって移動。鮎川先生腹部エコー、透視。八時頃すべての検査終る。身もふたもない一日だった。

4 月 29 日（木）晴

何のうらみかこの腰痛。しかもはげしい。午後一時から三時頃まで和代も、いちごをもって見舞に来てくれた。みゆき直美も来室、橋本洗課長も花を添えて見舞にきてくれた。見苦しいベッド上の闘病の姿を見せてしまう引け目を覚える。何のために生きているのやら考えれば嫌になる。

4 月 30 日（金）晴

午前中は灌腸、胃カメラ、内視鏡など検査がつづいたが、特段の異常はなかった。中食時にみゆき、二時に直美、和代、橋口甚之輔氏も見舞に。内科、整形外科の先生、症状説明に来室。二日の絶食のあと夕食に粥の食事が来た。昨日 p.m 八時頃牧坂五郎死去。今日の通夜には、みゆきが土井氏に伴って出席してくれた。本葬（明日）は欠席となる。やがてわが身かな？

5 月予記

腹水のゆえに入院したのに腰骨を折って、それがむしろ入院の主要原因のようになり、ずっとそのゆえに呻りつづけた一ヵ月になってしまった。何の得るところもない一ヶ月悲しい一ヶ月。かえって死んだ方がよかったのではないかと思う程であった。五月が終りあと何日すれば腰痛から解放されるであろうか。暗い日がつづく。いい初夏なのに。

5 月 1 日（土）晴

何回も同じこと。一つはメーデーの声が聞こえない。もう一つは腰痛のひどさ。九時に腹部レントゲン。粥食だが内容は普通。三時頃に和代、みゆき、直美の三人が来室してくれ、病床でバタバタ喘ぐ姿を見せたにすぎなかったろう。和代は七時頃 JR 新幹線で姫路へ帰ったようだ。気を使ってもらって有難い。痛みもひどく、八時には就眠。

5 月 2 日（日）晴

ベッドの上で腰痛に苦しむだけで果てていく。でもさすが博多ドンタク港まつりは市民の心意気が衰えず済生会病室にまで伝わってくる。見る人はいいが主力として動く人は大変なエネルギーを必要とするだろう。中食のあと、みゆき直美着替えをもって来室（一～三時）。毎日のように来院も大変だ。

5 月 3 日（月）曇後小雨

腰の痛さは去らず、食事や用便で気をまぎらわすだけ。ドンタクは国体道路春吉の方面しか見えないが、あれが周辺部分かと思うと今年もかなり盛り上っていると推測される。他方憲法記念日を利用したガイドライン反対集会はどうだろう。憲法が空洞化されている今日、保守側が無関心、大衆も見向きもしない空なる記念日だったろう。二時半頃大坪、四時頃直美来室。

5 月 4 日（火）雨後曇

またまた呻りとおした一日だ。雨の中でもドンタク諸行事は決行されている空気だ。三時頃に来室のみゆき直美の話でも花バスを見たといっていた。六時頃までいて私の夕食を見

届けて分れた。その間アクロスの小森専務が立派なメロンをもって見舞にきてくれたが、ドンタクでもあったのに腰の痛みで眠れなかった一日とは残念この上もない。医療方法はないのであろうか。

5 月 5 日（水）晴後曇

苦しい目覚めだったが四時頃鮎川先生の来室検診の際はベッド上で説明をきき腹水の方はまずまず順当に経過しており腰の方は坐薬で逃げるしかなかろうとのことだった。室温も上昇して初夏そのもの。直美は六時前後着がえをもってきてくれた。六時頃森山氏が私の好物豆類各種を揃えて見舞としてくれた。あれこれ心配かけている。

5 月 6 日（木）曇後晴

五時から七時採尿採血、十二時から腹部エコー。鮎川先生、看護婦長状況説明。腹水はあと少々、一週間入院延長、腰痛はなり行き、体重を一 kg 減にしたい、など。午後三時から四時まで歯科、右下義歯型どり。みゆき直美がきて先生の説明をうけ、うちの甘夏柑を全部取り、一彦、啓二、天野宅に、三梱発送することになると話していた。佐々木正躬氏が又見舞にきてくれた。転職を待つ彼だ。

5 月 7 日（金）晴

依然ひどい腰痛のなか、薬のせいとしか思えないが、かなりひどい下痢症に襲われ、床や下着が思わず汚れた。なるべくみにくい状況をかくすため、床の清掃、シャワー浴び、下着の洗濯に努めた。もちろん動作が不十分で看護婦の手を借りることもあった。とにかく苦痛に充ちた一日であった。みゆき直美に現場をみられずに済んだし、他の見舞客もなくてよかった。こんな目にも合う。個室で助った。

5 月 8 日（土）曇後晴

痛みが少し減り食事も普通になったといえる。午後來訪者森山氏、これは私物書物の整理の仕方についてやや具体的発想を混えて。次は王国会館の緒方氏、みゆき直美は六時すぎから八時頃まで。バスツアーで瀬本に行った帰りでワラビ狩りが楽しかったらしい。好天がつづいて山野は快適な初夏だったろう。私の洗濯物持ち帰ってもらった。

5 月 9 日（日）晴後曇

午前中は腰痛で七転八倒。朝食を終えたのはやっと十時半。坐薬がきかない程。中食は二時半になった。注射その他の施術も、この時刻に集中してもらった。痛みがひどく坐ったまま。三時にポンチャンが一才半になるという男の子ユー君を抱えて見舞に来てくれしばらくさわいで楽しい空気を作ってくれた。ゆり、ひまわり、ビワ、イチゴも頂いた。五時

半頃、みゆき、直美。私の夕食が終る八時までいてくれた。いちご、わらび、大豆など差入れ。

5月10日（月）晴

病気にひとりなやまされているように思う。他面病気というものはこんなに勝手な現象となるものでもあるのかと驚く。今日は直美が病室に来てくれたが、あった事もなかったように振舞うほかはない。但し、周辺の女子職員は十分知りすぎているので理解してもらうほかはない。残念な人間関係だ。

5月11日（火）晴

今日はいつもより少々調子がいいらしい。部屋の中で立ったり、食べたりの姿にあらわれているといわれる。逆にいえば、そういう側面で調子が判定できる程、限定された健康状態になってしまっているのではないか。ある意味では情ないというしかない。食べ物則食欲と反映しているのだ。

5月12日（水）晴

病院生活は敗戦と同一に思える。ある面からみると無用の努力である。永びくとその上積みになる。寿命というものをどう考えたらいいのか。一ヵ月以内にケリをつけてくれるのがいい。これは諦めへの日数である。あの手この手で老人を見るのは過剰だろう。

5月13日（木）晴

見舞にきてくれるのはいいとしても、これが義務的と世間体をつぐなうことになっている面があるとすれば過剰行為になっているのではないだろうか。看護婦の範囲内では不足分、心の足りない分はないとはいえないが、ここは別途改善の途を考えるべきであろう。見舞にくる人も大変だ。

5月14日（金）晴

幸、来室。比較的元気な状態だったので、安心の攪乱はなかったのではないか。何時死んでもおかしくない年頃になっているので、私も先立たれる友人のことを考えながら、もっと簡単に逝く方がいいと思うようになった。少々長く生きて一寸も生産的、人を喜ばせることはないではないか。

5月15日（土）晴

五月半ば。したいようにできるなら気候上の妨げはないのだから。のびのびと心も体も伸ばすのに一番いい時なのに、私にとっては体調にしても社会環境にしても妨げになる条件

が多すぎる。若き日と違うんだなとつくづく思う。熟してそのあと腐るところまでくると違ってくる。

5 月 16 日（日）晴

攀じ了えて

喉深く水

注ぐなり

（ 疋田芳一
「歳月」 66 ページ
平成元年九月刊 ）
昭和七年八幡に生誕

5 月 17 日（月）晴

蟬しぐれ

あといくばくの

余命かな

（ 竹田津永明
「美しく 齢とる」
一九九一年十一十四
送本された中で ）

5 月 18 日（火）曇時々小雨

平成六年（一九九二年）曾左小学校の創立一〇〇周記念という。私が関係した一九二七年（昭、二）には尋常高等小学校と改称、尋常科二九五入高等科八九人とある。一学年一クラス四五人ほどの規模。西坂に校舎があった。その後の変化は語りつげない程大きく、都市化甚だしい。

5 月 19 日（水）小雨

一彦らの出身福岡の千代小学校は一九六二年に創立一〇〇周年を迎えるので、曾左よりも三〇年古いことになる。よくしらべると興味ある問題に当面するはずである。千代は明治二〇年、この年小学校令実施とある。小学校の歴史的流れを勉強するのも時代、地域の理解に役立つ。

5 月 20 日（木）晴

私の病気のために、善意の心が寄りそって対応してくれるのは感謝せねばならない。でも

これに応える方法があるだろうか。健康になったら、善意をこめて対応し、相手に気付いてもらうしかないように思う。「病気のあと人がよくなった」といえるようになりたい。

5 月 21 日（金）晴

退院の日。土井仙吉氏、つづいて佐々木氏が来室してくれ雑談。一時すぎ直美が来室。退院のための荷物整理をしてくれ、みゆきも来室。二時には病院をあとにすることができた。三十三日の入院生活。帰宅後まもなく森山、河野ら三人が来宅、書物、軸物などの処分について考えてもらう点検をしてくれた。どんなものがどうあるか、奥田文庫を作っていいと考えている河野氏が今後、どういう構想をえがくかに注目したい。必要なものはほとんどもっていったいいと告げておいた。青葉の暗さを感じずる。

5 月 22 日（土）晴

天気予報では乾燥注意報の連続で、鉢木は水を欲しがっている様がよくわかる。午後二時から五時半まで九大工学部防音講義室で大学生協事業連の理事会につづく第一〇一回総会、引きつづき構内食堂での懇親会があったので出席した。私は挨拶の中で生協的が生活様式が待たれていて、大学生協はその先頭に立って欲しいと述べ、オウエン主義が蘇えることを示唆した。済んでから近くでマージャンにふけり十一時半帰宅。

5 月 23 日（日）小雨・曇

朝のうち小雨だった。久しぶりの降雨だから木々はよろこんだらう。もっと続けてくれればいいのに。直美が進んで手伝ってくれるので今日は一日書斎片付けに熱を入れた。平素投げやりにしていた跡がよくわかる。但し棄てるのも惜しいのが多いが直美はどんどん棄てようという。大きな塵袋に今日だけで三杯もたまった。無用のものを置きすぎていることは確か。第一次整理は終っても、二次も必要だと思っている。気ながに進めていこう。

5 月 24 日（月）雨後曇晴

雨は朝のうちに止み、夕方は晴になった。腰痛が止まらず午後しばらく就床した。今日参院で問題のガイドライン関連三法が通過するという。新しい時代が来たといえる。アメリカ極集中時代の日本のあり方ともいえる。不況・失業問題などまだまだ闇の中で進んでいくだろう。二十一世紀を特徴づけることになるといってもよい。

5 月 25 日（火）小雨後晴

午後早目にタクシーで天神に。一時からアクロス年度初の理事会（明日）の打合わせ。議事進行要領を決めた。あと、二時半から国技振興会の宮本氏が来て来月の香椎花園での幼児相撲大会その他について打合わせを行い、五時から天神平和楼で関係者四人で夕食会を

行い、八時に帰宅した。腰痛はつづいているが何とか切り抜けられるよう努力している。雷山の開発の話題も出て何とかしようとのこと。

5 月 26 日（水）曇

九時に病院に行き血液検査を受け鮎川先生から診断してもらう。十一時からアクロス福岡七階会議室で、この財団の第一回理事会。事業概況、収支決算、本年度事業方針、役員など原案を提起、原案可決で理事会修了。中食弁当を共にし、十二時頃までに散会できた。あと、病院に行って薬剤を受取り、帰宅は一時前だったが、依然腰痛がひどく、薬の服用、就床休息をつづける。残念なことだ。

5 月 27 日（木）晴

内科、整形外科と午前、一たんアクロスに行き、午後は歯科と、病院のことで時間を使い三時頃帰。四時に大坪氏が土曜日の大牟田ゆき、運転手長田氏を予行下見と称して来宅。早良の方なので広域にはわかっていていた。夕方六時博多駅前冷泉閣ホテル前の「ひめ乃」（鮮魚料理屋）で青森県の「あずま食品」の小枝氏（納豆屋）を相手に国技振の宮本氏と夕食会。（九時帰宅）

5 月 28 日（金）晴

腰痛つづきで気分は晴れないが直美の手助けもあって少しずつ書斎の整理も進んでいる。まだ半分ぐらいかなという感じではある。屋外に出てみるが、アマリリスが重々しく重なり咲き乱れている。藤の蔓が伸びすぎているほか、すべての庭樹が精一ぱい新緑を張り上げ庭一面鬱々たる様である。体調が悪いので、成りゆきにまかせておくしかない。

5 月 29 日（土）晴

十一時半から元合化労連幹部の努力により、大牟田のホテル・フタバで三時まで太田薫さんを偲ぶ会が行われた。一九九八年九月病死（86 才）の公葬である。全国規模で約二〇〇人が参集。合化労連とくに九州の人達、三池労組の OB も多かった。いろいろ共に語りたい偲び草は多かっただろう。私は挨拶の中で安保と三池の闘いの世界的意義についてふれた。長田・大坪と三人連で往復。帰宅は七時頃になった。

5 月 30 日（日）晴

腰痛でひきつづき苦しむ一日であった。直美の作業で書斎の右側の書棚の大部分をふるい分けた。無用のものが今日もたくさん処分されることになり、今後書斎のツラは改まるであらう。だがまだ五〇%しか進捗していない。あと二日あまりかかる。辛抱強く整理に力を注ごう。腰痛の中で色紙二枚（要請分）書いた。手がふるえる。運動不足だ。

5 月 31 日（月）晴

朝のうち病院に行き注射をすませ、アクロスに寄り、昨日書いた色紙を坂口氏に託しておいた。帰宅したのは十二時前で中食はうちで取ることになった。腰痛がつづくので、就床したが、依然痛みはひかない。四時ごろから七時ごろまで直美の助けで書斎の整理を少々進めた。知事時代の依頼色紙コピー綴りが出てきたのでちらり見たが現時点より筆が走っている。

6 月予記

六月、何とか限度をつけてほしい。諦めるのもその一環であっていい。家族の期待もあるかも知れない諦めるようにいい聞かせてくれれば解決されよう。腰痛というのは実はこうしたら治るといようなものではないと誰もいう。若い人で三ヶ月、高齢者は六ヶ月或は生涯ともいわれる。

6 月 1 日（火）晴

六月になったのに健康状態に期待がもてず腰痛は依然精神も肉体も拘束しつづけ、ベッドの上で過ごした時間の方が多かった。書斎の整理は続けてくれていて空間が多くなった。未整理分もどんどん表面化してきて、後で迷うことも多かろう。直にいえばこれまでの混沌とした状況が人間関係をあらわしていたのだ。

6 月 2 日（水）曇小雨

九州南部は梅雨入りらしい。朝のうち病院、注射と咽喉科。昨日から咳が出る咽喉痛して腰痛に更に一つ苦悩が追加され、午後はベッドに入ったまま痛みとの闘いだっただ。耐えるしかないとはいえ、災難とではなかろうか。日中民間文化交流協会の張晶氏が中国の薬をもってきてくれ、アクロスで受けとったが薬品も心に効くという面のあることを承知したい。ベッド上での頻尿、これまた耐え難い実態だ。

6 月 3 日（木）曇

午後二時半から済生会病院で歯の治療をうけアクロスに寄ってすぐ帰宅した。直美が書斎整理のつづきをしているので一寸参加した。あと一日分ぐらいかなと思う。林県議から長野産の冷凍リンゴを送ってきてくれたので早速頂いたところで昨日からの咳、ノドの痛みが直らず腰痛も位置をかえながらキリキリ痛むので今日は八時に就眠した。

6 月 4 日（金）晴

入梅というが全くの晴れ。同じことばかり書くが今日も腰痛で朝からベッドばかり。夕方に痛みを押して日記をかく。外を見るとサツキが満開、植込みの緑が力一ぱい茂っている。

こういう初夏を思い切り楽しみたいのに腰痛におさえ込まれている我が身が残念。直美がずっと片付けに力を貸してくれているので書斎が二倍に広がったように思える。未整理分を整理するのがあと大変。

6 月 5 日（土）晴

病人にとってはもったいない晴天だ。互に心を交わすことができない。腰痛が依然きびしく床中にいるしかないが、追加してこの二～三日咳がよくよく出て静かにしている筈の腰痛を目ざます形になる意地悪く作られている。寿命にマイナスに働く仕掛けであろう。書斎全体があり様をかえてしまったほど整理されたので、今後迷いながら使うことになる。

6 月 6 日（日）曇・小雨

日中民間文化交流協会の画家張晶氏の作品を陳列したニュー・オータニの二階の一室でチベット小学校支援チャリー絵画展、中食懇会が開かれた。会の一齣に今のチベットの小学校事情の一部が放画された。私はこの会合の実行委員長として挨拶に立ったが、話の中で二一世紀は「知」の時代であり教育は社会の中心課題になろうと述べた。

6 月 7 日（月）雨

腰の痛みが肉体全体を、あるいは精神面にも作用、削減としてあらわれる。何もしたくないとかベッドの上で唸り悶えとか、今頃は毎日そういうことで従来の己れと比較できない己れになったことを自覚している。ある意味では弱くなってしまっていて挽回は不可能と思うようになっている。

6 月 8 日（火）晴

普通なら死んだも同然の私が生かされているのが不思議な程。みんながそのように努力してくれているのだろう。失礼な表現になるが私はここまで来て、もうどうでもいいと思うことしばしばである。でもつつい生きるべく努力している。人間ってそういうものなのか。——生きる努力許されよ。

6 月 9 日（水）晴

九時半美和台幼児相撲大会賞品分類に行く約束で宮本氏から車の連絡があったのに、病気のため行けなくなった。直美と共に外出。歯科（二時半～三時）鮎川先生の努力で入院可能となったので、そのまま入院。5 時頃には荷物などもってみゆきも来てくれた。七〇〇七号室。直美は整形外科へ保険証を届けてくれた。

6 月 10 日（木）曇

腰痛がつづく。みいけ 50 年史出版の記者会見（県庁）は二時半からであり、私は出席できず、大坪、衣笠、組合長ら私の病室に見舞に来てくれた。四時頃まで話して帰る。四時頃また九〇一号に引越。みゆき直美はのちまもなく来室。坐薬で下痢事故。宮本氏に電話で明日の相撲大会欠席伝う。

6 月 11 日（金）曇

腰の痛みがはげしい。検査をうけ鮎川先生と治療方法について別の方法があるか検討をしていただく話をする。・・・殺戮、難民、はげしい民族間の憎しみを残して NATO のユーゴ空爆は終わった、と新聞は報じている。無理でも協力でなく、武力という第二次大戦と今回のコソボ事件だった。

6 月 12 日（土）曇・晴

幼児相撲大会は出席できない。ひどい腰痛がつづいている。ベッドの上で煩悶。五時頃、新聞紙、洗濯物などもって直美病室へ。七時まで。腰痛はつづきベッド上で横になるのが一番楽な姿勢で、動けない、坐れないつらさ。腰痛というのがなぜ病人を型の中に縛りつけるのか。老化の化？

6 月 13 日（日）晴

立っての食事ならまだしもとの感じだったのに、今は、それすら辛くなった。坐薬は失尿をおこす。夕方六時、幸来室。

6 月 14 日（月）晴

腰痛で全くひどい一日だった。昼頃、見にくいもらしをやってしまった。整形外科の痛み止めの注射と坐薬のせいだろう。寝具下着まで汚してしまった。看護婦に大そう迷惑をかけた。少し前に腰痛個人用コルセットづくりのため久留米の業者が来たが、ここでも見にくい大さわぎが起ってしまった。このあと、五時すぎから七時頃まで直美が来室した。ひとさわぎといってもひどい一日といわねばならなかった。

6 月 15 日（火）晴

午前中眼科検診。一時すぎ森山氏来室、橋口（甚）についての話題。二時宮本氏が来室。見舞を兼ね、十二日の幼児相撲大会についての報告。見舞品に梅肉エキスをいただいた。夕方六時～八時頃松田初善氏、藤田氏とともに来室。直美、幸もこのあと来室、無事を見て帰宅した。

6 月 16 日（水）晴

四時すぎ鮎川先生来室。明日から内臓の再検討に入りたいとのことであるが、迷いもあるのではないかと推測したい。病人からみて、どうも、こうだといえないからである。当方から別段気にすることではないが……

患者は医師から言われるようにいっても飼主からみた犬のようにしておれば……

6 月 17 日（木）曇

下着とりかえ。腰痛はなおひどい。午後小森専務が見舞来室、日経コラムで渕上参議が太田薫、奥田八二の思い出を書き綴っているというので記事を切り抜いて見せてくれた。午後両主治医（鮎川・遠藤）治療方針変更の話が相ついでもってきた。六時半直美、みゆきの二人花束を抱えて来室。

6 月 18 日（金）雨

腰痛のため、終日ベッドにしがみつ^{マツ}外に何があったかわからなかった。梅雨季節に入っていると思うと了解もできる。午前中は婦人系の労働対象がどんどん変わりシーツやベッド対応機械に搬入されるやら整形外科の対応がみられた。レントゲン二枚の撮影、コルセットの取替えも。五時半から七時半直美がサービス。

6 月 19 日（土）曇

一〇時、みゆきの小川先生（済生会）受診で来院。私の中食をたしかめられてお別れ。三時前後森山氏来室。二宮和土氏の息子（日本での環境関係大学研究科希望）の話題。私は仲介者として安藤延男教授を紹介している。納得がいくようだ。夕方直美来室。私の夕食につき、善後サービスが重点。

6 月 20 日（日）晴

食事の介助は中食を幸、夕食を直美。直美からは父の日（六月二十日）を祝する目的で私に帽子を買って贈与してくれた。一寸かぶって病室内を数歩歩いてみたが、いい笑いを呼んだ。実際にそういう日がきてくれるといいのに。日本人は近頃こうした日を意義なく見捨てるのが当然とされる。

6 月 21 日（月）晴

新しく個人に合ったコルセットを作れということになり、久留米の業者を経て一週間後に作ってもらうことになった。谷尾欽也氏の葬式には代理みゆきに行ってもらってよかった。戦後の新しい企業経営の型を代表するように感じ尊敬していた人である。直方も急に明るさが知られるようになり、炭鉱の後遺症を大きく消した。

6 月 22 日（火）曇

昨日の直方での谷尾さんの通夜葬は想定された通り盛大だったようだ。森山の車で代理幸がうまく行動できてよかったという。十一時までに胃カメラ、腰痛はまだまだ痛い。午後二時頃、田川の大学長、城島らが見舞に来てくれた。さらに岩崎隆次郎氏も。あれこれ多くの人々を見舞などに動かしていて気の毒に思う。

6 月 23 日（水）雨

改めて入院という形で主治医が本格的に遠藤先生に切りかえられた。整形外科、歯科は再診。梅雨も本格化のようだ。腰痛がますますひどくなる。岩崎（隆）、東定氏、河野夫人など来院。私の蔵書整理の一環として河野教授を中心に奥田文庫の話が出ていて有難い事。

6 月 24 日（木）雨

幸、直美来室

一彦の手紙 みかん

桜んぼ

期待に反して私の病気がよくなる。年齢からいって当然かも知れないが、そう簡単に諦めきれないという一般論もある。少々早すぎるのではないかという意見も少くない。私、平均寿命をこえたばかりだ。

6 月 25 日（金）曇

昨日電話連絡がついて、多川、玉置の二人が四時頃見舞に来てくれた。五時頃から七時頃まで直美、幸が来室してくれた。

（四人会と自称して一般とは異なる濃い気分交換、食事会をしている多川、玉置である）

6 月 26 日（土）雨

二時間、昨日と同じく点滴があったほか、遠藤先生来室でブロック注射。便が近くて困る。五時半頃木梨さんが見舞に来てくれた。

便の近い遠いには医師の対応にも関係するので、意思是遠慮なく伝えるのがよいとのこと。

6 月 27 日（日）曇

腰痛が依然ひどい。梅雨の結果は好調で貯水は八割という。夕方早目に幸、直美が来室、七時頃までいてくれた。三度の食事はこのプラス条件で嬉しいが、今は腰痛で食べる動作だけでもマイナス。小役丸さんからのピワ、温室ミカンが美味しい。なぐさめられる相手の気持が十分に理解されなければならないのだが。

6 月 28 日（月）曇後雨

午前中は点滴などで約二時間、午後は多面にわたる治療、検査、レントゲン、歯治療、車椅子を降りて MRI 約四〇分。この前に森一郎氏が先日のギャラリー個展の謝礼挨拶。（六月六日ニュー・オータニ、日中友好民間文化交流協会）夜直美来室、洗濯ものなど更新してくれた。

6 月 29 日（火）雨 6.29 集中豪雨

10 時 RI の一日が始まる。12 時半 RI。全く動くことができぬ施手。少々寒かった。夜八時半啓二から見舞の電話。森山氏来室。遠藤先生が来室、幸も立合の形で今日施術を通してみられた症状の説明をうけた。よく理解できたとはいえないが安心もえられなかった。

6 月 30 日（水）曇後晴

梅雨らしい天気がつづいたが昨日後半は落付きがみられた。治療の方は今日も昨日と同じく午前中は点滴の四時間。看護婦がていねいにあれこれ始末をしてくれた。四時すぎ近藤（栄）氏が見舞に来てくれた。林武彦県議の病気の話、立派に回復したし、元気らしい。

7 月 1 日（木）曇

梅雨禍ともいうか、鉄道トンネル内の工事禍がよく起っている。午前中鮎川先生から腹部エコーに関連して徐々によくなりつつあるとの説明があった。午後王国会館の二人の生性^{マツ}から見舞来室をいただいた。四時皮膚科から部屋来診があった。五時幸が来室鮎川先生から話をきく。腰痛が一向によくなりたらずねたっきりの状況の中。

7 月 2 日（金）曇・小雨

山笠が始まった。全国的雨の中、腰は時間をかけるしかない状況。来訪者自治労運動史取組幹部、橋口、安達、九大若手研究者、一時半から三時五〇分まで要談。二時すぎ、姫路からとして和代、直美、幸、——これは重複のため言葉を残して辞退。午前中は重要医療、検査、点滴血圧血糖検査など。

7 月 3 日（土）曇 小雨も

十一時半頃、和代と幸が来室。中食に必要な追加サービスのあと二人は街に出たが帰室して私の夕食に追加サービスの後又外出して七時頃帰宅した。朝のうち二時間ほど点滴などの医療サービスがあった。皮膚サービスの現場の中で水虫対応など、軟いサービスがあったてよかった。

7 月 4 日（日）曇・晴

和代が前後いてくれた。国技振興会の赤松さんが、私の意見に相乗りする形で福岡市・姫路市の友好交流に気をはさんでいる。三時頃の来訪でその話へ輝雲神社の荒廃も知っておりできるだけ近々にグループを作り姫路を訪ねようともいう。夜に啓二から安否を訪ねる電話あり。

7 月 5 日（月）晴

午前中に注射、点滴、シーツ取替があり、佐々木正躬氏の来訪があった。中食を前にして、和代と幸が様子を訪ねてきてくれた。三時すぎ佐々木氏の済生会後任上村氏が立派な胡蝶蘭鉢を置いてくれた。永田前々任者も顔をみせた。来訪者 四時張昌、北村さん、渡辺（健）。他に検査多し。みゆき区役所へ コルセット代金。

7 月 6 日（火）

胡蝶蘭は新任の済生会からと新任の済生会福岡総合病院長からと、対応するような形で贈られてきた。立派な花鉢で経費もかかっているだろうに、両方とも重視していることがわかる。何時か時間をえて佐々木氏から裏話をきいてみたい。今回のような入院には背景が動くに違いない。

7 月 7 日（水）曇勝ち晴

タナバタと山笠の空気。和代次いで直美が来て、中夕食とも十分に気分を含ませてくれた。二日ほど前から腰の痛みがゆるやかになったと感ずるのだが、両先生の特別の配慮もあったらう、キリキリする痛みがなくなった。今日も平凡ながら闘病の一日といえる。

7 月 8 日（木）晴

和代はひる前から、みゆきは三時頃来てくれ、中夕食とも付添いがあるやうに食事になった。二人は夜七時頃に帰宅。見舞に来てくれた人は緒方さんが二時頃に、深江さんら二人は三時頃だった。検診していただいたのは内科、整形外科、皮膚科の各主治医。午前中二時間ほどの点滴があった。

7 月 9 日（金）晴

訪ねてくれたのは森山、自治労五〇年史に取り組んでいる橋口氏だった。ここでの話とは別であるが、私の懸念は自治労が連合の線で再編強化を考えている様で、連合脱皮に思考が及んでいないという点である。五〇年をいろいろ考えた末、又元の点に立返り反省すればよいと考えているようだ。私は元の地点への復帰はもうないと思う。

7 月 10 日（土）大雨

たいへんな雨、あと曇。重要な人々の見舞来室が多かった。一彦、直美、木梨さん、石村さん。和代は夕方の便で姫路。二時半に啓二から見舞の電話。私の病状がかなり悪いことも知らされているのだろう。自覚不足というか、何をどう自覚すべきなのかわかってないのだな。寝てうなっているだけ。

7 月 11 日（日）曇時々雨

中食後一彦と直美が病院へ。幸は午後に病室へ。一彦は五時頃に帰京。幸たちは私の夕食が終ってから帰宅。みんなそれぞれの都合をうまくかみ合わせながらも私への見舞を中心にくれての動きのように感じられる。病院が中心とはいえ、協力が一番底にあらう。

7 月 12 日（月）曇

全国的に梅雨去らず。雨風で各地荒れているらしい。加えて JR 新幹線トンネルなど各種工事から欠陥が多数露出してきた旨新聞に書き立てられている。手抜きごまかし爆露と約しと言ってもよい。自己の症状についてだが腰の痛みが左へ移動している。先生は症状軟化をいわれるが自信がもてない。昨日和代一彦が帰ったので今日の中食はみゆき、夕食は直美が付録。

7 月 13 日（火）晴

午前中は採血、点滴。中食はみゆき、夕食は直美がいてくれて暖味が添えられた。午後皮膚科、泌尿器科の問診があった。夜七時から八時まで松田初善氏の来訪があった。数日、何を書いているのか判読できない文字、文章がみられて捨てるほかないと思う。自分の一時・一面が映されているとは思う。

7 月 14 日（水）

中村建さん、荒牧さん来訪してくれた。後者は果物にも力をこめていてくれた。昨日の三役会議で連合は来年春闘の方針について、ベ・アの統一基準の見直検討を決定した。ベアゼロもふくむもので、今後の労使関係に影響を与えるようだ。従来^{ママ}の右肩上がりの時代とは違うといっている。総人件費の引げも。

7 月 15 日（木）

この日は古くからの知り合い藤本、丸本、杉山、田島、林照雄さんも来てくれた。用件で来福中だったようであるが、元副知事富永氏もこのグループにいたのでびっくりした。家族関係では直美がひるま、夜は天野氏が東京から。幸は夕方。天野は 17 日に帰京している。

7 月 16 日（金）

昼直美

二宮さん花

幸 夕方、 森山

年金改革が進むと、15 年後のサラリーマンの年金月額、六〇～六四歳の夫婦で一九・九万円から一二・九万円に三五%の減少になる。七〇～七四歳の場合は二一万円から一六万八千円に二〇%の減額になる。実質二割減とみると簡単。

7 月 17 日（土）

幸 昼

橋本 花

直美 夕 天野 帰京

} 見舞来客

新聞調査では老後に不安を感じる人の数が五年前六六%だったのが、今回は上昇急で八五%になっている。生活費、介護、病気などが不安理由の上位を占める。そして大都市ほどその傾向が強い。国民の反応は敏感である。

7 月 18 日（日）

直美 昼 } ベッド生活

幸 夕方 } サービス追加

山笠のことがかなり影響をした

東京湾のアクアライン途中のパーキングエリア海ほたる木更津人工島、これは立派なもんだが片道四千円は高すぎる。一度くれば十分という声が一般的。日本はアメリカの三倍ほど公共事業をやっている。

7 月 19 日（月）

中村健 佐々木正躬退任あいさつ

二時橋口甚之輔 五〇年史

森山英明

山本勲 花届けられる

土井仙吉 花持参

直美 七時半帰宅

この十月から全国の市町村で申請のあった高齢者に、どの程度の介護が必要かを判定する「要介護認定」の作業が始まる。

7 月 20 日 (火) 曇

小雨もあった。12 時近く幸来室、中食に心を添えてくれた。二時前安田伊三男氏も見舞にきてくれた。今日午前中は点滴を含めあれこれ検診に時間をとられた。

平素なら調子がよくないという程度で病気と名づけないで乗りこえられるので、平素ですまされぬ。これが病気だ。

7 月 21 日 (水) 晴

真夏になった。腰痛が続く。11 時幸が来室。松尾高弘夫妻が見舞に。三時頃緒方武男氏が来室。三時半に耳鼻科の施術あり。五時頃に珍しく美しい大きな虹を十分間ほど見ることができた。六時ごろ洲上参議の見舞来室があった。胡蝶蘭も。

7 月 22 日 (木)

点滴があった。家永見舞。みゆき来室は十一時半。一時半から耳鼻科、二時すぎから皮膚科の治療。橋口氏ら四人のグループ又史資の件で話合う。和代が又姫路発福岡へ。五時前に病室に立寄ってくれた。五〇年史については今かなり重要な所見が残されていて、彼らと何とか会合してみたい思いで一ぱいである。労働運動史そのもの。

7 月 23 日 (金) 晴

治療関係 (点滴
耳鼻科
歯科

点滴は体力の応援団、その他は部門別の問題探し。修復、他に悪影響を及ぼさぬように弱点を抑える。治療というのはこういうことかも知れぬ。相互に今はできないので、能力を他に当坐借してもらうこともある。

7 月 24 日 (土) 曇・雨、後晴

見舞客なく、和代が十一時、直美が五時半。中食・夕食ともに加味してくれた。外は暑さそのものであるが人それぞれに必要なにこたえねばならない。ベッドの上で恵まれている。但し単にあるのみ。

昨日十一時半羽田発新千歳ゆき全日空ジャンボ機が 28 歳の男によってハイジャックされ、機長は刺殺された。

7 月 25 日 (日) 晴

真夏。十一時に和代、二時に阿部すみ子さん、つづいて洲上参議、やや話し込んで行ってくれた。社民党系には問題が多すぎるため彼の立場は容易ならぬものがある。しっかり

考える人があまりにも少いのではないかと私は思う。社民党の大束だけではなく小束も。出直すしかないはずである。

7 月 26 日（月）晴

猛暑。和代は十一時に、安部夫妻も午後。啓二からは見舞の電話。私の腰痛は今日は微温で助かっている。こうして希望をもたせてくれるスキ間が欲しい。よろこびだ。吉井の金子さんから箱詰の桃を御見舞に届けてもらっている。お返しをすべく特に気になる方だ。

7 月 27 日（火）曇

雨・風。これは台風らしい。九時腹部エコー、中食後点滴。見舞にみえたのが太田出納長、藤本アクロス国際会長、そのあと多川、玉置、深見、森山。身辺手伝い者として十一時和代、十二時半幸、五時に直美。夕方五時二〇分遠藤先生診断。和代は六時すぎの JR で姫路に帰った。網干には十一時に帰れるのではないかと。

7 月 28 日（水）

全国的荒天。15 時、花田守氏見舞来室。お見舞の缶詰もいただいた。彼は引退後高齢者の地域運動を熱心に指導している。缶ジュースを届けてもらっている。直美が手伝いに来室したのは五時半。夕食の前後のサービスをしっかりやってくれる。看護婦にたのめないこともあるので誰かいてくれるといいと思う。不自由体であればある程。

7 月 29 日（木）曇

雨気がはりつめている。治療として一二時に歯科、一四時に皮膚科。午後七時まで幸来室 12 時～19 時。二時半頃、国技振の佐藤さん来室、壱岐の子供相撲について話してゆかれた。この夏大きな課題として気にしていた問題に関与できなくなって病気による借りを強く感じている。診断、歯科 12 時半。皮膚科 15 時。

7 月 30 日（金）

土井たか子さんから果物の御見舞品届け物をうけた。一時前幸病室へ。夕方六時半頃直美病室へ。羽根、橋本、重松それぞれ見舞品（菓子類）が届けられた。お見舞が拡がりすぎてはいないだろうか。あれこれ思惑はあるだろうが私は既に過去の人間になってしまっていることを感じさせられている。

7 月 31 日（土）晴

二時すぎ棟安信博（豊子さん）夫妻見舞金の届け出があった。見舞品も。二宮一棟安一安

藤の結びつきについて考えよといわれたが、すぐはっきり関連がわからないのが実情だ。安藤さんが二宮氏に目をつけてくれているのは結構だ。棟安がどうしているのかもっと知りたい。

8 月予記

予想だにしない体力の低下、能力の減退で、見る目もない。見舞客の多いのも、みなさんが、あと長くないことを何となく感ずるからだろう。来室して応対したらそれくらい受取るだろう。また私の病気は多方面にあらわれている。歯、眼、鼻、それに坐骨、もっと全面的には皮膚、さらに薬のせいでもあろうか尿、大便にも。だから産婦人小児を除く全科にかかってしまっている。

8 月 1 日（日）

幸が午前中に。直美が夕方に来室して手伝ってくれた。平凡な日。

先月二十四日の全日空ハイジャック事件については、二十九日管制官との交信記録として残っている。二十三日午前十一時五十四分から二秒間機長の「あー」という声で記録は途絶えている。交信記録全文は 29 日夕刊にのっている。

8 月 2 日（月）曇

午前中星野茂夫氏が見舞にきてくれ、腰部のレントゲンも撮ってもらった。午後、熊本の小野氏を伴い馬原氏来室。福留夫人来室見舞。五時には安部夫妻が来て約束どおりかんたんな夕食会となる。

8 月 3 日（火）曇

午前中に直美が来た。腰痛が全体化し皮膚の全体が痒くなってきた。アクロスから手伝を送ろうということになって、今日は小犬丸さん。仕事が終り帰宅までの一時間という形。私の家族の加勢になる。特技は不用である。

NPO 法人が注目されつつあるが今年中に一〇〇〇になろう。

8 月 4 日（水）曇

夕方は雨になった。十一時歯科、一四時皮膚科ということ。他は来室見舞、国技振興会の宮本氏、王国会館の緒方氏、幸、直美の二人は十二時から来室していた。今日の女子サービス職員は岩橋さんだった。病気がだんだん深刻化していつて迷惑をかける人も増えていつている。

8 月 5 日（木）曇時々晴

今日午後の見舞客。

（ 村上 守（自治労県本部）
是松（当初の公用車運転）
宮本さん（国技振）外三人

今日は少々歩いてみた。

夕方の世話役 小犬丸さん

七月末添田町長山本文男氏が就任。立派な人だと思う。八回町長選に勝利し、四回無投票だという。二〇代の頃は鉾夫だった人。

8 月 6 日（金）曇

九州全体が台風八号の道に入っているらしい。

（ 治療 歯科
" 耳鼻科

夕食時〔高山、大藪
見舞客〔斎藤、高田

どこから攻められても攻められる方に問題がある。それが病人というものだろう。平素なら攻められないのに病人だから攻められる。

8 月 7 日（土）晴

ひるをはさんで歯科と皮膚科の診療。ひるに幸、夕方に直美来室。困ったことだが、便がやわらかになる。

五日、「語ろう、核兵器廃絶を——ヒロシマから二一世紀に向けて」（朝日新聞、広島市、広島平和文化センター主催）がカナダ、アメリカからも講師を呼んで行われた。こうした積上げが不屈の力となるのだ。

8 月 8 日（日）

病室に商人が来て薬物の使用を奨めて行った。「樹林」という外科用はりこやくのようなが、私は判断できず、看護婦も何もいってなかったが、近頃の病院では、この種の営業が少くないようだ。薬品の公認とか許不許ということはますます難しくなっていくことだろう。

8 月 9 日（月）晴

二時半に啓二ら博多に。一週間とって私の病気に対応してくれたわけ。五時に病室に来て阿部夫妻を含め七人で中味は簡素ながら夕食会をして楽しんでもくれた（啓二、ライヤ、サ

り、私、幸、すみ子、ヤスヒロ）。誰が考えたか温味十分で立派な合々であった。直美は夜おそく帰京。ひとり途中病室に立寄ってくれた。

8 月 10 日（火）晴

天気ははっきり晴天に。啓二たちが病院にきてくれた。闘病生活がこんなに続くとは自覚していなかった。年は争えないし、さらに背景に糖尿病が根強い支配を発揮しているようだが、その闘いについての自覚がほとんどないといわれそう。人間の一生はこうして終着していくようだ。自覚し、又あきらめる。

8 月 11 日（水）晴

外はもう初盆の音が高い。関西と九州の違いは、この初盆の扱いに大きく出てくる。県にいても、アクロスにいても少々違いはあっても行政の対応が要請される。入院中の私の代りを幸が果たした。森山の車で朝から一日中県下をかけめぐったらしい。十件ほど対象があったらしい。

8 月 12 日（木）晴

緒方氏の知人（女性）が花をもって来室してくれた。河野氏が菓子をと。ところで私は腹痛がひどく、下痢・はき気があって夕食は抜きにして対応してみたが、どういうことなのか不明。午後七時すぎに耳鼻科の検診があり、ふつうの対応ですましてみた。リハビリ（足の訓練）も行う。

【欄外記入】

8 月 11 日・・・欧州で皆既日食

8 月 13 日（金）晴

点滴をうけた（午前中）。啓二ら四人で私の中食の姿をみた上で、自分達四人の食事会をしたという。私の事後のことも話題になったようだ。リハビリ約一時間。耳鼻科施療三時半頃。世間及びわが家をかきまわしている己れだが、一寸先の自分への自覚が正確にできないのだ。

8 月 14 日（土）晴

サリが調子よくないので啓二夫妻だけが私の中食を見に来た。少し私も歩けるようになっていてそれも見て、一般にお盆を反映して来客は少い。夕食を実視するために幸が来室した。周囲は全く静か。床上で目をつむっているのが一番正常と思うけれど自分の健康判断条件少し。

8 月 15 日（日）曇時々雨

静かな日曜。お盆。午前中は啓二、ライヤが病院へ。夕食前は猫をおいてサリも病院へ。幸は、大丸で落合って夕食会をしたようだ。七時以降、夜は雨になったようだ。病院のことは十分にバランスの中に入れてくれている。啓二らも疲れるだろう。

8 月 16 日（月）晴

耳鼻科に行き、あとリハビリ。一寸した運動にしかないが、ほんとうは気分の問題だろう。安部夫妻が夜五時から七時半まで、自分たちで決めた当番日だということで来室サービス。自作の夕食ベントウを食べるところまでいいとしても、車を置きたい駐車場が欲しいといていた。

8 月 17 日（火）曇

中食時のサービスに幸来院。一時半に田口さん、四時に佐々木さんと来室見舞をうけた。五時には遠くから棟安信博さんということだが、女性の夕刻当番サービスも今日で一まわりが終って二回目となった。一時間ほどの間に交わす話の中に参考になることもありうるという。

8 月 18 日（水）曇

体調が崩れている。全身に痒みが出てきた。どうかしたのでという原因はとにかく全体感として衰弱にほかならない。気を崩さぬように努める。
三千人以上の犠牲者が出たトルコの大地震が注目をひいている。自己資金で早く復旧するという尺度で言えばそうだろう。長い目で、努力を積み上げることも考えてほしい。

8 月 19 日（木）晴

中食を挟んで来室の幸。何の期待も与えられなかった。見舞客が重なる感じになった。王国会の緒方氏の思わぬ見舞に、佐藤法子さん来室で壱岐ゆきの話がでた。二時、リハビリ（歩く）、センター横のシャワーを浴びる。耳鼻科、歯科が皮膚科に加って加療。夕食時の手伝いは岩橋さん。

8 月 20 日（金）晴

新しい痛みが右胸に生じているが、先生にきいても納得ができない。幸の来室は十一時半から一時半まで。何か効果がありうるかといえばそうではなかろうに、社会というのは、そうするしかないと命ずるんだという気がする。肉体の痛みはそれとは無関係に動いていく。自分しかわからないからそう思う。

8 月 21 日（土）晴

もう秋がきた。誰もいわなくても窓からみえる雲の流れがそういつてくれる。佐藤さんが来て又壱岐の話。皮膚の痒みが一そうひどくなっているのに。これは秋との関わりはない。痒みを自分で秋との関わりを求めて忘れていくしかないのであろう。とにかく秋は深まって欲しい。空と木の葉に特に願う。

8 月 22 日（日）曇

午前中に点滴。今日は中国からの見舞客を師村妙石氏が案内してきた。三時半頃であった。呉越氏のほかよく知らないが劉作勝、叢文俊氏である。国のならわしがどうなのかも知らないので失敬なこともなかったとはいえない。チャンスがあれば師村、呉氏に問うこともしなくてはなるまい。夕方に幸が来院した。

8 月 23 日（月）雨後曇

朝のうち採血と点滴、三時に右脇下のレントゲン、三時半耳鼻科。ひとりで歩いて往復し、少し運動になっただろう。安部夫妻が夕食（弁当）をはさんで来室。いい見舞の形に努力してくれる。国が決めるホームヘルパーの一時間当り報酬がすごく高めになりそうだ。ニーズなくなる。

8 月 24 日（火）曇

退院予定について推測がはじまる。自覚的に症状を考えると、まずまず。上胸と腰に痛みがあるので邪魔をする。11 時から 1 時、幸が来室。一時半に松永さん果物をいただく。佐々木さんが三時半。今日は自転車こぎのリハビリ。夕方佐藤法子さん、六時すぎ鮎川先生。退院は九月中旬予定とのこと。

8 月 25 日（水）曇

見舞来客、十二時すぎ上田幾彦、二時松尾高弘夫妻。明日の腹部血管造影のため、夕食後は絶食。シャワーを浴び先立って股の毛を剃落した。さて、どういうことになるのであろう。空港建設神戸、静岡、能登、びわこは乱立だとの声が高まっている。先をみぬ利益追求心。

8 月 26 日（木）曇

朝から施術開始。二時間ほどの点滴を四本。次は九〇七号室に移り本格施術。右足は絶対動かすなと縛られる。十二時間ほどの固定という。尿管が使われる。大便是困ると思ったがそれに至らず順調に進んだようで、目的の肝臓は検診できたようだ。自室に戻ったのは夕方。

8 月 27 日（金）雨後晴

昨日の施術で身体の隅々まで力が抜けた。十一時頃幸が来室したが、当方から出す要望も意見も何もない。ベッドの上の動物が唸っているだけである。耳鼻科診療、自転車こぎの運動だけ。最低に生きていただけといえよう。

福岡天神岩田屋も閉鎖されるとの話。大丸、三越に負ける劣等性に気づかなかった。

8 月 28 日（土）雨後曇

朝のうち大そう雨が降ったらしいが私の部屋からはしっかりかんじなかった。中食をはさんで幸が来室し、鮎川先生とこまかく話を交わしえた。九月四日の壱岐ゆきの予定はとても消化無理との意見。これには落胆したが夕方佐藤さんが来て伝えると又落胆だ。これとの関係という訳ではないが、体調すべて急に悪化したように思う。

8 月 29 日（日）曇

昨日は一本二時間かかる点滴三本、今日も午前中一本。宮本さんに電話して飯盛神社の相撲大会は欠席させてもらう旨伝えた。九月一日風止祭に出られないのは残念。今年は盛大に挙行されることを祈ってやまない。

玉屋につづき岩田屋閉鎖の話も出ている。天神、熊本、西新、久留米、いずれも何十億円の赤字になっている。

8 月 30 日（月）雨後曇

ひる頃まで雨。十一時から一時までみゆき来室で中食をめぐるサービス。二時前後は物療室、レントゲン、リハビリ運動。あと皮膚科と耳鼻科へ。五時から七時まで安部夫妻が来て夕食サービス。

安部さん夫妻は森山氏と連絡の上、日課として私の夕食時刻サービスをしてくれた。

8 月 31 日（火）雨後曇

背中部分が大そう痛み、中食、夕食ともに食べる気がしなかった。看護婦が測ってくれる体温も、三七度を越していた。私自身この程度で気分が悪いのではないが危険な方向に進んでいるのではないかと心配する。

腰痛に基本をもつ悪い症状だろうと思うが直接的対応が欲しい。

9 月 予記

今年は決っている飯盛神社の風止祭相撲大会。早や来たのかといたい程日が過ぎ、とうとう私は行けなかった。残念。壱岐もそうか。——病気でつまづいた。相撲というと大相撲と同じく見てくれないことを祈る。また保守的とみられるかも知れないが、むしろ今欠

落している子供教育の一面をみんなで補おうとしているものであることを気付いてほしい。
今月は病気で邪魔されて残念。

9 月 1 日（水）雨後曇

午前中点滴、二時半皮膚科、アクロス総務の坂口と中尾が人事異動で挨拶。飯盛神社の風止祭相撲大会のなりゆきが気になる。

————— ○ —————

後日の報告だが、予定どおり行われた。第五回大会となっていて、予算七一万八千円、決算七三万八千円の規模での実行だった。希望のある第五回大会ときく。

9 月 2 日（木）曇

朝のうち九〇七号室で鮎川先生の腹部エコーが行われた。先生は肝臓に力が入れてあるようだ。点滴は昨日も今日も。夕食後のサービス残業は二日とも小犬丸さんであった。福岡県では月一回ホームヘルパー連絡会が開かれ、互に支え合う大きな力となっている。見習いたいものだ。

9 月 3 日（金）曇

午前中は耳鼻科、午後は一〇分ほどの物療室リハビリ。鮎川先生来室の話によると、次週から肝臓に入りたいが、九月末までかかるだろうとのこと。
夕刊には九八年度の大企業所得五〇位まで発表され、五〇社合計では僅かにふえたものの全体計では一六%の減で、不況の一面がでている。

9 月 4 日（土）晴一時曇

幸十一時。緒方氏 13 時病室に来てくれた。点滴を行い、一五時にはシャワーを浴びる一日だった。

昨日の夕刊・・・赤間硯のことが出ていた。原石の生産地山口県楠町西万倉には八年前二二人だった職人は今一五人、出荷額約一五〇〇万円が今はこの八年前の約三分の一。人が筆関係の生活からコンピューター生活に変わっていくからだろうか。

9 月 5 日（日）雨

アクロス森山を経て、藤本氏もつれて女性副知事が見舞にきてくれた。午後四時頃だった。公務員の給与削減が盛んに取引されている段階である。市職の場合ボーナス〇・三ヵ月分削減（平均年収で一五万五千円の減——行政職平均給与四二万五千円（月）県職員では特別昇給三年間凍結、職員定数五%削減が中心。

9 月 6 日（月）晴

十一時すぎ一たん来室して外出。五時安部すみ子夫妻と合流、七時ごろそれぞれ帰宅ということらしかった。私の方は九〇七号室でエタノール注入の PEIT 第一回施術。ひどく痛い時もあったが全体としては辛抱してまずは順調。あと夕食すむまで安生と、闘病とはこのように辛さとの共生なのだ。

9 月 7 日（火）曇

朝レントゲン、南棟の物療室でリハビリ。糖尿病対策とどう関係するのかわからないが、ともかく入院生活に没入していくしかない。私には楽しみを求める余地はないのでともかく不都合でない時間を消化していきたい。医学が発達しているためか、周辺には長生賛成の空気が強すぎる。とくに役に立たない自分をみてそう思う。

9 月 8 日（水）晴

財政の基本論を前提にしなければならないが、いわゆる大国においては軍事費と社会保障費が問題の大本をなしている。日本はアメリカに学ぶとされてきたが、ここ数年アメリカは黙りこんでいるような気がする。私は危い危いと言い続けてきたが、日本政府はアメリカの後追いの将来を明言すべきだ。

9 月 9 日（木）小雨後曇 1999.9.9

八時半ナースセンターで腹部エコー。来訪者

十時 土井仙吉

一時 北島さん（張晶氏関係）

施療関係 二時整形の関係医来室の上、三本の注射 三時耳鼻科の施術
夕食後七時松田初善氏来室があった。

9 月 10 日（金）小雨・曇

朝日広瀬記者見舞。病院は一般世界とは遮断された世界のように感ずる。電話新聞、人の出入り、金銭使用、どこをとっても遮断されているとは思えないのに、病院独自のゆき方があるので遮断と感ずるのだろうか。人の電話出入、意見提出みんな自由なのに。運営方法か。

【欄外記入】

横溝千賀子さん いちじく差入れ

9 月 11 日（土）晴

排便での闘い。この三日間は特殊な腹痛で苦んだ。病室には秋らしい何のなごみもない。

夕刻みゆき来室。毎日来てくれる。それだけで有難いがそれなりの努力気づかいが必要だろう。病気の動きもっとはつきりわかると効用を感じるのに、うまくいかない。

9 月 12 日（日）小雨後晴

中食前幸来室。東京からは啓二が見舞電話。話題にはしなかったが、サリの校区選り競争（私学に向けての）がひどい地域になっていて親たちは頭痛の毎日のようだ。とくに啓二はそうした面では筋を通す人物だから、みんなの悩みは大きいらしい。

9 月 13 日（月）曇時々雨

前の家の押入が、かなりな余地を与えてくれるようになり、整理の基本が変えられるようになった。そうすると、見てくれもよくなるわけで、全体的押入観から解放され、格付けすると一級上ったことになる。ひとに見てもらっても、わが身にいや気がさすほどではなくなった。今後の努力も併せて期待がもてる。

9 月 14 日（火）晴

幸、来室し、中食を共にして別れる。年をとったがためか、近頃は人との関係が薄くなったような気がする。どうでもいいと互に思うようになってきたようだ。できるだけ旧を保持したい。三時ごろ松本龍氏来室。四時、森山で近況報告。エタノール注入 PEIT の話になった。勉強不足を思う。

9 月 15 日（水）晴

敬老の日。これまでの習わしどうり地域の「隣保班」から赤飯（うちは二人分）をいただいた。幸が病院へ中食としてもってきてくれたが有り余る分量である。が美味は確実。筑紫野の内田氏が六本松から天神までオコワを運んでくれた。夕方以来、森祐行、森山ら祝賀の客が多かった。夕方サービス職員（岩橋）。

9 月 16 日（木）晴後曇

敬老の日とともに放生会。私は何回か行ったが隣の深堀さんは毎年行き、みやげに生姜板と梅ヶ枝餅を届けて下さる。このみやげも年中行事となり病室の私にまで届く。病院との関係 点滴、RI 検診（三時半）皮膚科（四時半）多くの仕事があった。来客としては三時半に国振宮本氏と関係者 多忙な一日。

9 月 17 日（金）晴

PEIT 検査のため朝食は半分。正午前大坪氏が来室して今後の「協会」について話してゆく。見舞者鶴田清美氏 協会については大坪氏は固執しすぎるし、他の会員も、社会の動きや

運動のあり方についての思考力は古くて弱すぎ、現実への影響の弱さを考えなさすぎる。

9 月 18 日（土）晴

昼前に幸が、少し後に一彦夫妻が見舞来室、三時すぎまで話がはずんだ。直美もいっていたが、彼等はシンガポール旅行を楽しんだ訳だ。丁度渡辺（健）も来室していたので、不動産、住宅も話題になった。私らは私ら並みに、一彦らは現住所の近くに新に交換的に住居を求め得る話になっているというので熱ある話題ではなくなった。

9 月 19 日（日）晴

午後三時、幸一彦夫妻の三人が来室。四時には一彦たちは帰京のため出発した。夜直美からの連絡で二十一日にまた来福するとのこと。直美はよくしてくれるので、必須人物のように思える。ただ家の押入れなどの再整理については退院の後に私が実際にかかわってみないとわからないが問題が残るそう。

9 月 20 日（月）晴

外、雲は秋ながら暑さは真夏のように。午前中は点滴、採血など後にそなえて各種。

二時 リハビリ

三時 泌尿器科

耳鼻科

腰が痛いのがどうも不満。辛抱強くつき合うしかないのか。一彦たち、一応私の命についてそれなりの安定感をもって帰ったろう。「すぐ」のことではないということだ。

9 月 21 日（火）小雨・曇

空は一日中ぐずつく。腰部 CT 検査の関係、午前中食事はとらず。幸は十一時頃から来院していた。二時頃リハビリで別棟に行き、九〇一号室に帰ってみると、予定どおり直美が来室していた。

今日の見舞来客 森山 松田 師村 朝日元部長

9 月 22 日（水）雨

台風の一環か雨。病気と同じく明るい話はない。といってもつきまとう心配があるわけではない。長い間の勝手な休務が気に懸る。みんなでうまくやってくれているようで助かる。

寂連法師

短歌

村雨の露もまた

ひぬ槇の葉に

きりたちのぼる
秋の夕暮

9 月 23 日（木）曇後晴

昨日——中部台湾地震

リハビリ 皮膚科

耳鼻科

鮎川先生の意見として全体的に経過良好。予定どおり退院も可

森下近藤見舞来室 五時半

台風は台湾と沖縄

現地は大変な災危でさわがれている。

9 月 24 日（金）台風

二時、リハビリのため別棟に。全体としての台風の動きはわかりにくい。他方で私の退院の話——九月一ぱい外泊を仮にやってみるということになる、外出とあわせ二～三日みておかねばならない。決意しないと。ゆとりは多くない。私は仮外出は無用ではないかと思う。

9 月 25 日（土）晴

台風は終わったかな。これからいよいよ秋になる。直美が病院に来てくれた。プロ野球の勝負に興味を、行動まで、引かれる人は少ない。私も若い時代を思い出すが、今は興味もなく無知である。九月末から十月始めにかけて動きが大きくなる世界だ。この事で人が動かされるのも一面よいことだ。

9 月 26 日（日）晴

退院を念頭に外泊が許可される日。十二時すぎ幸が迎えに来院。さっさと外出。久しぶりに見るわが家だが、とくに変わったと見るのは植込みの剪定による庭のサマ。直美の手になる蔵書類の片付き方。もっと乱れているかと思ったのに、それなりの整頓はうけている。

9 月 27 日（月）晴

手摺追加工事はよく進められていた。三時帰院のタクシーを呼ぶ。直美同乗。五時前に安部夫妻来院で三人の夕食会。七時に安部、七時半に直美それぞれ帰宅する。夕食は各自の準備で進めた。食後私は忙しかった。点滴、その他各種の検査終わったのは十時だった。退院後の姿が大体みえてきた。

9 月 28 日（火）晴

朝のうち、又かと思うが点滴。これが終る頃、林照雄氏がブドー箱をもって見舞に来てくれた。迷惑をかけすぎると思う他ない。二時、別棟までリハビリ。今回は独りで行ってみる。四時に県立大にいる城島氏が見舞に来てくれた。これからの人物だから元気で頑張っ
て欲しい。

9 月 29 日（水）晴

先日からの当方、主治医などの気持をまとめてみると、やはり今月中の退院が妥当ということになった。五月以来一五〇日にもなる。まだ腰痛はつづくが明確な治療法はなさそうで、在宅でも対応できそう。幸・直美も来ていて異論なさそう。明日が切りのよい感じなので明日午後退院ときめよう。

9 月 30 日（木）晴

退院のため後片付け。それに医師の方から午前中に投薬、注射があり消化しておいた。二時頃森山氏がアクロスから四人の女性職員を準備し、この人達が私に花束贈呈のシーンを作ってくれて、まるで退院祝賀式演出的一幕にもなった。午後二時半、タクシーで出発、三時着の無事生活転換日となった。

10 月予記

病名（鮎川楠夫主治医表現による）

腰痛症

糖尿病

肝硬変症

入院二週間ぐらい

病気とのたたかいがつづく。健康を求める平凡な年月ととくに変わる訳ではない。何もできないと思ってあせってはいけないだろう。何もしないで過ごすんだという心が必要だ。

10 月 1 日（金）晴

無為無作^{ママ}の一日。やはり腰が痛いせいもあって何かをやろうとの気持が湧かない。ごろごろ床の上に下に体を横にするのが一番いい。食欲も普通の半分以下、どうでもいい。ぼつぼつ手につくものを欲を出さずにやっといこうということになった。直美がよく片付けてくれているので少しずつやっといこう。千里の道だ。

10 月 2 日（土）

荒々しい天候の一日だった。重々しい雲、そこから雨。雷は範囲広、風はそれほどではな

かった。朝から昼までつづいただろう。雷がまず去り、次は重い雲からの雨。秋雲がみえるようになる。ふつうに考える仕事は腰の痛さにさえぎられて何もする気にならない。食欲も大いに縮小し、他からみると邪魔者にすぎぬ。

10 月 3 日 (日) 晴

静かな風が肌を通じて秋らしさを感じさせる。でも体調は思ったようにこたえてくれず終日ベッドの上といってよい。私が期待する可能性がない。みゆきと直美がバタバタ動いているので、ちょっぴりのぞいてみると書斎を中心に、置物、内装の大改造をやっている。前の家もその対象になっている。無限ともいえる仕事。私は口添えできないでいる。

10 月 4 日 (月) 晴

書斎便所など大改装を直美が中心に行いはじめた。見違えるように変っていくが、内臓物がどう変わるか、歴史がないので、あとで問題が生ずるだろう。つまり生きた呼吸のある臓物というよりは殆んど形式・見かけである。私が意見を出すには汗と時間がかかる。従っておく。

10 月 5 日 (火) 晴

トイレを中心に大きく模様替えされた。但し全く様式が違うわけではないので馴れに問題があるわけではない。家・屋敷に問題があるので移転したらどうかとの声が私の周辺から聞えていた。私の年齢と玄関に至る道路の急傾斜から逃れるためであるがこの工事で移築の声を止めた形になる。

10 月 6 日 (水) 晴

移築の問題提起だが、アクロスの森山に代表される。私自身理屈に動かされるというよりは、現実にならねばならぬ苦勞である。あと何年生きるか、移築によって償うことができるか、問題があるとしても出発点から反省が必要でないのか、等々私のこの反省についてはもう何倍かの失敗を知っている。もうおそい。

10 月 7 日 (木) 曇・小雨

秋がどんどん深まっていくのに、それを実感できぬまま過ぎていくいく。自由にならないわが身が悔しい。指示される通り食後はベッドに横たわって二時間。日記をつける心のゆとりがなくなる。点滴の二時間がもったいないと感ずるのは無理かいな。退院して、既に一週間になるがまとまりのある成果は何一つない。ないのが当たり前か。

10 月 8 日（金）晴

長期入院後、久しぶりにアクロス福岡に行く。姿は全く同じ。専務その他幹部にも面接できた。みんな普通に働いている。自分の使命を自覚している。ひとの言うことを待つのでなくて自分の仕事は自分で創造するようになっている。過去一〇〇年は逆だったかも知れない。これからは許されない。自分で創造できるように祈る。

10 月 9 日（土）晴

朝食後、床について休んでいると、森山氏から連絡があり、林武彦県議の訃報を受けることとなった。びっくり。何とも意見の表現方法がない。又諸関係を思い起す中で、何について付言すればいいか自己判定する気持が起らない。全く言いようがない。表現の方法がわからぬ人の死にはじめてでくわした。

10 月 10 日（日）晴

林氏の通夜は今日六時から福岡斎場で。松田、森山の二人が指示してくれた。幸も参加。立派で満点の葬式にさせていただいた。本人の遺影は彼の言動とともに永久に残るだろう。自分も危い病気をもっているので将来を断定的にいけないが、何時でもいいようにしておくのが自分の責任であるが林氏はできている。

10 月 11 日（月）晴後曇

林氏の本葬は一時から。私の代りに幸が参加してくれた。簡素な方式だったようだ。私の体調は相変わらずよくない。ひとの言い分だが、治らないだろうという。考えてみれば過去そのように生きて来たんだから治らないといわれても仕方がない。自分でどう諦観するか、ねつつこく別の道を追求してはならない。

10 月 12 日（火）晴

朝から病院ゆき。直美が随絆者として活動してくれた。

平素どんどん使っている文房具なら少々調子がよくないと思う場合があっても一寸気をつければその場を凌ぎうる。病気して何日も使わずにいると文具すらやすやすと思うように動いてくれない。病もちとなる。

10 月 13 日（水）曇

松の手入れがとくに行われ、昨日来ていた芳雄さんも加わって、きれいにしていた。秋になるとそれなりに庭の手入れが要望される。その要望の中に自分が見えたらいいが、弱っていると自分さえ主張できない。ひとがいてくれるとなる程とも思う。今年はそれで満

足するしかない。ただ見舞客が口をはさんでくれるのがよい。

10 月 14 日（木）曇

芳雄、和代の二人は四時ごろタクシーで帰省した。満足なことなくさみしい旅行だったと思う。ただ彼等にはにぎやかな孫たちがあるので当方とは違う。これだけは社会の変化の中で抵抗できないようだ。今後のわが家も十分噛みしめなくてはならない問題である。但し、網干では元治が JR からクビになったとか。これ又大問題だ。

10 月 15 日（金）小雨

ゆっくり床にいたかったが、そうはできなく、直美の付添を得て済生会病院とアクロスの二箇所を消化すべく行動した。病院では意外と時がかかった。三時前に帰宅し、中食をとったが、腰痛と皮膚斑点の痒味に翻弄された一日となってしまった。一日の行動の中で満足できた事一つもないなんて、生きることに望みなし。

10 月 16 日（土）曇

雨の心配もなく晴もせず、どこか外出もせず一日が暮れた。病院にいるようにベッドばかりが居所であった。工事人が来て便所の模様を変えていた。新旧の差は著しい。内臓を中心に体調がよくない。病院にいる時にどんどん飲まれた薬の影響がかなり大きいと思う。しかし、どの薬がどうかという判断は私にはできないので対応し難い。ノドがからからになる点だけは訴えた。

10 月 17 日（日）曇

ベッドにいる時間が一番長かったかも知れない。積極的に何かせねばならぬことはないから、外からの要望がないと、何もしない今日のような人間になってしまう。平素から積極性をもっているなら、いろんな団体関係で動くこともないわけではないが、今更という気になってしまっている。だんだん年をとるということだろう。

10 月 18 日（月）晴

林武彦氏の葬式一時から積善社で。アクロス福岡の小森専務の送迎車で助けられた。土井たか子さんも弔辞をのべた。二時頃河野氏が久しぶりにマージャン思い出を含め話し合いに来た。又、四時頃不動産業渡辺健二郎氏が住宅の話をもって来て語り合った。姫路ゆきの話も出た。

10 月 19 日（火）晴

長い間福岡に来て病体の私を助けてくれた直美も今日で埼玉に帰る。私の済生会ゆきが別

れの場合。二時間の点滴だった。あと買物をする幸につき合って帰宅した。これから、われわれ二人だけの生活になる。どんなことが問題になるだろうか。わかったようで予測できないことも少なくないだろう。自分を前に出さないように努力すべきだろう。

10 月 20 日（水）晴

秋そのもの。まるまる晴れ。誰もが味わわねばならないよろこびであってほしい。夜、飯盛神社での相撲関係の会合に誘われ出席した。久しぶりだが、田舎の人達に久しぶりに接する味わいはいいものだ。九月一日に必ず行われる「風止祭」の反省会でもある。今年は戦後復興して今年^ゝは第五回という長い歴史はわれわれみずからが作るものだとの自覚を引きつづきもつべきだと思う。

10 月 21 日（木）晴

六ヵ月ぶりだろうか、床屋に行った。丸まげを通す。中央警に行き、公安委員会の資料をもらい、夜訪問の高柴さんへの資料とした。私が公安委を少し説明したことになってよかった。高柴さんの後輩がこんど知事任命をうけるという。うまくかみ合ったと思う。白い白い髪を丸く曲げた形に仕上げたのは今回がはじめて。あとどれほど社会に顔を出すか誰にも知られない。大切にしていきたいと思う。

10 月 22 日（金）晴

きわめて物忘れがひどく又体力の衰えを感じず。長期の入院生活と関連しているに違いない。今日は朝から済生会病院に鮎川先生を訪ねたが、こうした衰えを痛感した。近頃は時間さえあれば休眠することになっているが、それはよくないかも知れない。体力記憶力の衰えを何とかとりもどしたい。秋も最高だ。この天気をもっと利用しなければならない。明日の子供すもう大会には是非出席しよう。

10 月 23 日（土）晴

第十四回九州山口少年競技選抜大会が大濠相撲大会場で十時から二時まで行われた。国技振興会が主催者だから私は出席要人であるのに連絡の行違いで少し遅参した。一、五〇〇人ばかり参加者を得て盛大に終った。小学六年生が最上級といえ、もう一人前で、心、技、体の三方面、もはや達すべき線に到達していると思った。

10 月 24 日（日）晴

昨日につづき今日の満点の秋晴れで、一週間この快適さ。しかし私の健康状況はそれほどでなく、快晴の中、朝から床の中で休んだ。午後少々戸外に出て秋の空気にふれたが、やはり文句なし。柿の実が最高。楽しみを最高に味わっているのはクモかも知れない。クモ

は複数で巣を張っていないように思う。そういう活動の内容をよく知りたいものだ。よい秋が過ぎていく。

10 月 25 日（月）快晴

今日も数日つづきのマルマル快晴。ただわが仕事がそれに相応してなかった。というよりもわが健康がそれに向かなかった。腰痛がつづいていて、何か前進的な仕事をする意欲が沸かない。植木鉢もだまって語りかけて来そうにない。来春はどんな形を予想しているのか発言がない。黙った日々のようにみられる。私が語らないからである。

10 月 26 日（火）曇

マルマルの曇天。雲の波があるわけではなくマルマルのなまりべったり、風もない。九時すぎからみゆきと済生会病院へ。後の二時間は久しぶりの点滴。半ば眠ったようで気持ちよい時間だった。今年は甘柿の実りがいいので取る意欲は沸くが、虫や鳥の害で意欲が無くなるほど被害をうけている。鳥害が思いのほか大きい。夕方五時小雨。

10 月 27 日（水）晴

小雨にもなっていたのに、朝のうち早目に天候好転となり、連日に似てマルマル快晴。私の日程はとくに何もなかったので一日中べったり、ゴロゴロ好きなことをして過ごした。このような体験はめったにないといえる。何が必要なのか、不足なのか考えても別になし。一つ一つ挙げてみると無限に何でもある。小物のゴミ取り掃除すらできた。

10 月 28 日（木）晴

八時すぎ夫妻で出発し、済生会病院での点滴を消化した。九時前後から十二時ごろを目ざした二時間余の入魂であるが半分は入眠、休眠といってよい。今日も三分の一は眠りだった。帰宅後中食。内科の鮎川先生に先行の検診をうけるが、容態は概略良好と診断され、長期入院後の回復が示されたといえそうだ。

10 月 29 日（金）曇

朝十時ごろを前後として済生会病院に、点滴を二時間予定したが時間節約が成り、一時前には帰宅、中食をとることすらできた。全行程は幸が随行してくれた。まだまだ歩むことについてはマイナスが残っており、どうもこの点はなかなか正常化への期待は困難かと思う。夏からの宿題である。

10 月 30 日（土）晴

秋晴れもこれで終るだろうか。天気に対して注文はなく、植物順調とみる。ただ外に出て

思うのは蚊群をなして襲いかかる。暇をみて床に就いて眠ったり、日記を整理したり、前向きの活動は全くない。しない方がいいのではないかとすら思う近頃である。健康の注文は腰の痛み。

10 月 31 日（日）曇

晴れもせず降りもせず、静かな日曜日。頃合いも適していたので、気になっていた柿ちぎりをした。例年とは違って今年から梯子を使うのは私に代って彼女だ。勿論若干消極性があるが、高い所の実を取ることを遠慮した。小鳥のためになるならいい。三分の一は割れて利用制限があるが三分の二は東京方面の二世帯に限るしかないけれど郵送してあげよう。

11 月 予記

太宰府に住むコウ・T ロバート氏から今年のハッピーバースデーのメロデー祝賀状をいただいた。この形での祝賀状は五〇年近くなろうか彼一人である。誕生祝賀状も他にほとんどない。国民性というわけではないと思うが、とにかく有難いことといつも思う。あともう一度あるだろうか。

11 月 1 日（月）小雨

小雨がつづき少々強まった。十時頃夫妻で外出。まずダイマルで買物。あと正午から予定の巳千代での中食会に。これは私の誕生日祝をかねたもので、森山英明氏と阿部夫妻（ヤスヒロ、スミ子）による私の生誕祝。四時頃に終って帰宅。電話で啓二、直美らと祝辞を交換した。サリからファックスによる祝辞をもらった。拙宅にもファックスがついて始めてだ。

11 月 2 日（火）晴

自分自身がそういえるだろう、孤立したバネのない生きる命の音が聞こえない近頃である。恐らく長期の療養が今でも尾を引いているに違いない。それは一方的見方で、他の世界はそうあってはならない。なのに、一帯化してみると沈んでいる。疲れているのではなからうが、動きのイニシアをとるのがこわいのであろうか。そうした中 79 才が始った。

11 月 3 日（水）曇

どんより曇ったまま何も動かないような一日が静かに暮れた。私自身も周辺も変化が指摘できない経過であったかと思う。私自身にそういわれても不思議ではないが、他はそうじゃないのではないかと。裏のマンションの庭での車の音、子供の叫び声、どれもなし。静かに暮れていく。政界、経済界において動きがないようだ。次を見ている。構えを改める必要もあろう。

11 月 4 日（木）晴

少しづつ寒さをもち寄ってくるというような秋晴れ。庭先をうろうろするが効果はない。午後二時約束していた旅行社富永敏氏が来訪、同一目的で渡辺健二郎氏も来宅。問題は、これから姫路旅行を目的としている何人かのグループを組織して春さき頃に実行したいとの話が始まったわけだ。姫路城はもちろんだが独自の試みとしては御着城と光雲神社のつながりが注目される。

11 月 5 日（金）晴

午前中は皮膚科と点滴。あとは帰宅して中食。そしてごろごろしつつ日記を少し補綴していく仕事に従事した。何の進歩も前進もない。ただ日記は書いておくもんだなとくりかえし思った。万年筆の使い方に大問題があってインキの流れ、ペン先の動きに欠点があり過ぎる。あきらめことなく直そう。

11 月 6 日（土）曇

何も動こうとしない見張り合っているだけといえそうな曇天。外の植物たちは、冬を越え春を待つ姿勢であることは明らか。部屋にいて時には鉢を使った外作業をするが、植物の方が賢明だと思う。私自身、何の用もなさない日記の補填に少し時間をかけて満足している。何の役に立とうか。

11 月 7 日（日）晴

晴天ながら平凡きわまる無為な一日が暮れた。近頃は読書欲がないので日記整理以外に室内にいてもすることがない。あれこれ室内整理の課題はあるにしても、徐々にするしかない。入院中の日記整理はまだまだ重課題であるので時間をかけて半歩ずつやろう。

11 月 8 日（月）小雨一時晴曇

天気はすっかりせず変わっていったが、ずいぶん暖い一日だった。従来からの習慣のように外の用件に差支えなければ、食後は一時間ほど横になるという怠け物といえる生活をしている。腰痛がひどく働きを拘束しているともいえる。この腰痛に降参以外にない。

11 月 9 日（火）曇

秋らしい。木の葉、風ならし。九時に病院にゆく。幸随行。ひるまでに外のことすべて終り、帰宅して中食。病では血液の採血と注射もかねて点滴。帰宅の前に久しぶりにアクロス福岡に立ち寄ったが、小森、森山は二人とも席にいなかった。依然として腰痛がつづいている。在室して勝手な姿勢でいるのが一番いい。あと、日記を補う。

11 月 10 日（水）晴

昼頃緒方武男氏来訪。天気もよく遊んでいる身なので、書斎へ入室してもらい、一時間ほど話し込んだ。書棚にみえる私の写真集、日記帳が珍しいわけで任意に開いては、びっくりしていた。私も最初の知事時代に書いた日記の詳細について改めて見直したわけで、こまかな文字くばりについて驚いた。後日また誰かに見てもらおう。

11 月 11 日（木）晴後曇

平成 11 年 11 月 11 日調子のいい日付だが、政治はふらふら。生活に活気さ明るさが見えない。静かで暗い。今日も一日書斎に籠るような一日として暮れた。腰痛のため動作の自由がなくこれだけから判断しても病人である。書斎の中で横になる眠ることにもなる。新聞読み、日記の補填など。甘夏柑の実が色づいてきた。

11 月 12 日（金）曇

朝早く、みゆき同伴で済生会病院へ。私の点滴と二週間分の薬剤をいただくため。帰宅して夜はこの薬の中から毎日の朝昼晩に分類する作業も伴った。点滴のあとアクロスに立寄る代りに小森専務に電話したら特に来る用件はないとのことだったので、帰宅して中食という形になった。今にも降ろうかという天候がつづく。

11 月 13 日（土）晴

まるまると晴れ。青空の下、平凡な病人としておればということないのに、今日は右大腿の内筋肉がぴくぴくと釣っていたんできた。精神的にも大きな痛手になった。治療の方法がわからない。何だか侮られているような気分にもなる。日記の補充に努力はしたが、足の痛みのため、無用の一日だった。がまんして数日凌いでみよう。

11 月 14 日（日）曇

今日も一日書斎に籠ったまま。甘夏柑が色づき、枝が折れんばかりになっている。赤千両も美しい。アロエの鉢がずいぶん疲れた形になっていて気になるが、今の健康状態では無理と諦める。取り入れた柿が十分役に立つよう食べるのがうれしい努力。あと二週間は食べつづけられる。

11 月 15 日（月）雨

早く起きてしまった。五時。書斎で何とか時間を過したものの少々暇人的で枕を抱えるのも助けになった。新聞は休刊。ただし今日は何の特記もないはず。小雨がつづいて止まない。右足大腿骨を包む筋肉のピリピリは今日は退いているが、体全体が痒いので嫌な思いがつづく。時間は日記の穴埋めに充てて満足である。

11 月 16 日（火）小雨

小雨が降り続き午後はひどくもなった。早朝から病院に行き点滴をうけたが十時までに終わったので久しぶりにアクロスに行く。小森専務がきていて雑談も交えて時間を費し、一時頃に帰宅した。偶然だが前専務白土氏が来宅していた。私の病氣見舞との関連であろう。県立公園を統轄、西公園も話題にした。

11 月 17 日（水）曇

ずっと曇天。二時半から四時半までアクロスの理事長室。往復ともタクシー。腰痛が未だ見込みなく苦しまされている。アクロスでは「書」に関する要請を少々受けたが今日の主たる任務は安藤延男福原学園理事長にライヤ君の仕事を同学園の新しい事業の中で見付けて欲しいということであった。他の役員との交流も今後のこと。即答はなかった。

11 月 18 日（木）曇

腰痛がつづく、夜も昼も。それが行動や思考を大きく制限している。屋内に籠るとか書斎ででも横になって何もしようと思わないとか、人生も終点に来たという実感が湧いたり、さまざまだが、俗な生活に関していえば、孤立感である。事実話相手にしようとする人が近頃めっきり減った。無論私は存在しなくても世は不変である。

11 月 19 日（金）晴

寒気が強まった。代りに太陽がポカポカで有難さがわかった。朝のうち済生会病院に行って注射やら点滴。中食は買物の弁当。ただ体調が依然よくない。腰痛が一番大きな苦。加えて消化系統の不調。気にしなければならぬ通じて慎重に構えている。体重はふえない方がいいといわれているのに一キロ近くもふえている昨今である。皮膚の痒みも。

11 月 20 日（土）曇

午後どんより曇ってきたが、冬がきたといえる寒さに止まった。特別の変化もない平凡な一日。以前から思い付きで書き残した三冊のノート記録を取り出して日付をチェックした。戦前の記事がいくらかある。最近のは五年前まで思いつくままに記録していて怠慢を恥づるが、あってよかったと思う。今は二冊の日記になっている。

11 月 21 日（日）晴

豊瀬氏からたのまれた色紙（悼林武彦）を書き終った時ヤマト女史がユ一君を連れて遊びに来た（四時～八時）。夕食も鍋物で一しょすることができた。二つの思い。天気はいいが、やはり冬近しである。もう一つは四月以降筆をもってないので色紙書きが駄目になっているということ。後者は何とか馴らせればいいのかと。今後の心を決めたい。他人から揮毫

を頼まれる事を願う。

11 月 22 日（月）晴

九時前に済生会病院に着き、内科泌尿器科と用件を消化。あと中央処置室で注射、点滴。内科の鮎川先生からは腹部エコーをくわしくお世話になった。次の金曜日に再検診する必要がある。入院の方向にも頭をおいておくようにといわれた。自覚的には腰痛がひどい。アクロスに立寄り、一時半頃帰宅し、身辺雑用につく。

11 月 23 日（火）小雨

腰痛で終日左右されたが吉井の渕上さんから昨日の甘柿につづき今日は渋柿を送ってきたので、午後は干柿づくりにはげむのがいいと思い、天気がよくないことを知りながら柿の皮むきに没頭した。夫婦二人で仕上げまで四時間かかった。食べる以上に興味のある柿の皮むき、何年つづいているだろうか。私の人生の一特徴。

11 月 24 日（水）晴

冬が近づいたのは確かだろうが、子供の頃の冬の印象と全く違う。南方のせいよりは地球の温暖化のせいだろうという人が多い。北風、氷、霜柱、雪など経験しない秋の虫がない。午後緒方武男氏が訪ねてきて雑談一時間ほど。あと、若き時の人生論からみた諸経験の日記帳へのまとめ。

11 月 25 日（木）曇

書斎に一日中ポツンと坐っていたが、今日やっと人生の再反省という角度から 24 ページにわたる記録を書き終えた。中学校時代にもふれているので珍しい記録がまとまったと思う。今になって当時を考えてみるということだから、以前のが誤りという気持なのではない。ただ年とか月日について不確実で誤りがあることは許されねばなるまい。

11 月 26 日（金）曇

八時すぎに出発して済生会病院へ。まず点滴、そして鮎川先生問診。近々部屋がとれたら入院し、肝臓治療をする必要があるとのこと。幸とわかれ、私は薬を受取って帰宅。問題は肝臓ですといわれ腹部エコーの写真をみせてもらうが、よく理解できない。またまた入院することになるが賛否いずれでもない。病院でばかりの生活のようだ。

11 月 27 日（土）曇

一日曇ったままで空は動かない。私もとりわけ用件もなく、外に出るのは朝夕刊の新聞とりだけ。新聞はとりたてる情報は見えない。テレビを見ないから、別のルートの情報とて

ない。書斎ですることはいくらでもあるが、自分の勝手にきめることで義務的期限はない。みんな生活を前提に働いているのに、当方は自分で一日の時間を流していだけ。それでも意義ある一日にしたい。

11 月 28 日（日）曇

曇ったまま動かない。風が少し出たのと寒気がまた強まった。十二時前村島さんの来訪があり、弁当も買ってきていただいていたので、私達二人も弁当をごちそうになった。何かないかと思って探していると私の揮毫した仮表装（箱入り）がでてきたので、それを贈呈した。二時ごろ私は薬を飲む都合で失礼退席、彼女もまもなく退席されたらしい。

11 月 29 日（月）曇後晴

曇がはりつめ、寒さが一段と強まって来た。外に出る用件もないので終日ストーブに助けられ書斎で暮した。ここならわが家いくらでも時間を過ごせる。ただ食後横になるとの決まりから眠りを含めつい一時間余は安楽に過ごしてしまう。自分の課題にしている日記の穴埋めが残っているので古新聞を便法に仕事しているわけだが、結構自己満足できる一日となる。平和そのもの。

11 月 30 日（火）晴

済生会病院に行き、注射点滴、皮膚科での液薬をもらう仕事をすませ、アクロスに行くと 12 時近くなっていた。納税の書類など事務点検のあと、私の揮毫に押印する件で、印泥がないのに気付き、完成させる必要上春吉の復古堂まで行って印泥を借り、三井不動産系の人に贈るところまでこぎつけることができた。（印は持っていつていた）程なく帰宅して中食をとった。前の庭の柿取り終わった。

12 月予記

年が明けると紀元二〇〇〇年とか。各界ではこの区切りのいい新年を利用する努力をしている。わが家にも私にも何か特にという発想はない。だんだん老化が進む自覚が高まるばかり。ガイドライン関連諸法はできたが、それらの発動を抑える努力こそが必要で、ゆとりの心をもって構えておればいいと思うようになった。書斎の整理がまだ気にかかる。自分の生涯の整理と関係するからだ。

12 月 1 日（水）晴

一日中書斎にこもって入院中の日記の欠けたところを補充する仕事。なかなか進捗しなくて時間の無駄づかいかなと思ったり、他のことをしても効用はあまりないぞと思ってみたりの繰返しだった。一昨日一彦が近くの別棟に移転するというので連絡してみたかったが、

まだ電話できないだろうということで暫く待つてみることにする。

12 月 2 日（木）晴

ブランクのままの日記（別冊）を補填していくのに古い日付の新聞を開いて見る。視力がぐっと落ちているのに気付くのだが、拡大鏡を使い能率は低いが辛抱しつつ進める。一日に三日分ほどしかできない。これでは一ヵ月かけても予定の半分である。近頃はそういう日々であるが、自己満足するほかない。一冊の本を読み上げたとして成果は知れている。

12 月 3 日（金）晴

午前中は病院のこと、午後はアクロスに行き揮毫の補充作業だった。十二月には病室が空き次第入院する定めになっている私の症状、希望のない日々である。四時頃に帰宅したのだが、間もなく深見商工部長を伴って橋本洸がやって来た。私への快気お祝いの意味だった。二人に私の書斎を見せた。稀なこと。五時半帰退。

12 月 4 日（土）曇

渕上参議、金子文夫氏には果物をいただいたり、お世話になっているので、干柿のまだ柔い中にお礼に行きたいと思っていたら、森山氏の車の都合とも一致して、今日十時すぎ私宅を出発、四時帰宅。中食は原鶴泰泉閣というコースで楽しい有意義なドライブを済ますことができた。中食会のメンバーは二人の外に山本秘書渕上夫人、金子先生六名。

12 月 5 日（日）晴

どこにも行かず書斎に籠った一日だったが、実は進歩と改革研究会の OB グループの忘年会が行われる日だったのに忘れてしまっていて他の人達に迷惑をかけてしまった。手帳をよく見るというクセから遠のいてしまった身を思う。秘書もないので忘れを補う人がない。一日中古新聞を点検して暮れたが、後悔も大きい。

12 月 6 日（月）晴

数日前からほんとうに冬らしくなってきた。風もあつて残る木の葉が揺れている。甘夏柑の黄色がはっきりし、風の揺らぎに耐えている。ツワ蒔の花、千両の赤い実が冬のきびしさを慰めてくれる。夕方渡辺（健）が来訪。企画中の姫路旅行についての原案を叩き台としてみってきた。粗案という段階で大修正を必要とする。今後かなり努力を要する。

12 月 7 日（火）曇

用事がない、どこにも行かない日だが、腰の痛さのため何もできない日であった。書斎にこもって入院中の記録不足を補うことに暇をあてるのだが、他の一冊に就いてだから新聞

が書くべき題を見出すのに都合がよく、新聞の古いのをページごとにテーマ探しに拾い読みしているのだが、結構時間がかかってしまう。しかしこの日記帳と見比べるとバランスはよい。

12 月 8 日（水）曇

六本松九大キャンパスの新入生グループ「20 世紀日本社会」の研究グループの要請で五時から一号館ゼミ室で懇談会に参加することになった。私のような年配者を相手に 20 世紀の社会的特徴を引き出し、一冊のものにまとめようとしているようだ。二時間余私の人生の中から話題になる話を聞き出し、当時と今の若者の違いをきき出そうとしていた。

12 月 9 日（木）

美可から電話があつて別の家屋に移転するについて、久美も麗衣も力をこめて手伝ったとのこと。同じ町内での移転だから比較的楽だったろうが、それでも物余りの現今、互に持物が多くそれだけ引越しも大変だったろう。私の輝国への移住は一彦より若かったがやっぱり大変だ。一彦は九大教養部時代 20 才一寸下。久美より若い。

12 月 10 日（木）晴

九時に済生会病院に着き、内科と皮膚科で薬をいただけるよう手続きを進めた。途中復古堂河原田社長と会い、北九書の祭典へのメッセージを書くべく話合い、アクロスで原稿をかいて、又夕方社長と病院で合い、原稿をお渡しした。済生会では来週月曜から私の入院をとということになった。アクロスでは雑件の処理に当った。姫路市長堀川氏と電話連絡がとれて、当方のツアーについてお願いした。

12 月 11 日（土）晴

十時から一時までアクロスの女性本田さんら三人が来宅し、私の揮毫したたくさんの古紙の中から好きなのを抜きもって帰ったり、仕上げ要請したりであった。一時すぎ私も出発し、千代町パピヨン 24 で中食。三時から大学生協連の理事会に出席（二時間半）、あと駅前のクリオコートで九州地区大学生協理事長らと忘年会、のち九時～一時まで近くでマージャン会。

12 月 12 日（日）晴

何の音もしない日曜。書斎にこもって勝手に時間を費したが、気になるのは二十日〆切に間に合うようにエッセー原稿を書かねばならぬが準備が足りないので、もう少し練って見なければならぬということ。もう一つは明朝また済生会に入院（約一ヶ月）せねばならぬ、その荷造りである。寝るまでに大約了えていなくてはならない。原稿は入院してから

大急ぎで書こう。

12 月 13 日（月）晴

九時二〇分病院着。八〇一号室。またも入院生活だ。腰痛がどうなるか私には見透せないが、主目的は肝臓ガンの治療である。早々と十時から検査、レントゲン、心電図など。中食後、看護主任の江島さんの問診。（三時）糞尿の検査も。五時半鮎川主治医来室、治療計画の説明。夕食後は読書、シャワー浴びなどゆったりの時間帯。九時には就寝。「進歩と改革」への原稿ができるか否か、心配になってきた。

12 月 14 日（火）晴後曇

五時半に目覚め。身辺整、読書。朝食後十時泌尿器科。尿の異状なし、薬のみ。中食後鮎川先生の病状説明書届く。午後二時から三時すぎまで点滴、読書。五時四〇分国技振の忘年会ゆき、宮本氏の迎え。七時に帰院ののち夕食をとる。国技振の常連幹部が相手ではなく、助成金などの主体者七～八人が相手だった。九時に就眠したが、痒みが強く夜中三時頃に看護婦の手を借りて止痒液を使う羽目となった。

12 月 15 日（水）曇

十時にみゆき来室。十二時すぎ造影剤を使って CT。午後二時半佐々木正躬氏、新しい仕事があったといって来室。あと、課せられた原稿について中味の構想を練る。六時すぎ鮎川先生が来室、CT の結果について説明をきく。肝癌を確認できる箇所三つ、他に転移していないかどうかを検査するとともに、ポリープについては退治の治療にはいるとのことであった。短かければ半年の命だ。

12 月 16 日（木）晴後曇

六時に起床。朝食抜きで原稿かき。九時から午後まであちこち部位の検査。まず腹部エコー、眼科、三時から点滴、レントゲン、皮膚科。右手指二本が形を崩しているのでレントゲンで映像づくり整形外科でみてもらったが、異常とはいえぬとのことであった。対応の要なし。午前中の見舞客近藤栄次郎氏、午後はアクロス森山、済生会専務村上の両氏。近藤氏は私に似た肝臓病で悩んでいて、何回もこの病院にくるようだ。五時半鮎川先生来室。

12 月 17 日（金）

大腸検査の日となる。七時半起床後、灌腸のため、どんどん水薬薬を飲まされ、かえって苦痛だった。午後三時から 5 階の検査室に行き、三〇分ほど検査にあてられた。大腸は異常なしということでまずは安心。便虫が一匹みつかって疑問がでていたのだが。三時四〇分中食。あと注射と点滴。八時までに検査すべて完了。次の月曜から新規治療日程に入る

と説明あり。

12 月 18 日（土）薄曇時に晴

六時半起床。食後八時半休眠。十時から点滴。四時すぎ「進歩と改革」の中常幹出席のためタクシーで外出。五時から七時まで出席（途中退席）、病院に帰る。今日から本格的な冬になった感じである。幹事会で私の発言チャンスはまだなかったが、私の知事時代以降あまり関わってないのでよくわからないが、この団体も変わってしまったので私自身もう古いと実感した。でも運動が見えぬので淋しい。あとどうするのだろう。

12 月 19 日（日）曇

寒さが本格的。朝早め雪がちらついたらしいが、あとで聞くと田川など十センチは積ったという。福岡市で雪とは珍しい。「進歩と改革」誌の原稿仕上げに力を注ぐ一日であった。他は何ものにも関心を向けず。七〇〇〇字ほどになったが二一世紀に向けての国レベルの要望だからいくらでも書ける。孤独で字を書いているのが今の私に一番向いていると思った。いわゆる読書という時間のとり方には向かなくなってきたようだ。

12 月 20 日（月）みぞれ曇晴

起床六時。曇っていたが、みぞれが降り午前中はみぞれ混り。シャワーを浴び、食後九～一一時点滴。ひる頃には太陽がみえた。今日は原稿の仕上げに努^{つと}め、五時頃完結。夕食後歳暮のお礼の電話——小役丸、玉置、福原の三件。賀状が気になるが近年は元日をすぎて後、少々区分して平凡な対応をしてきたので同様にすればいいとは思いつつ、それも重荷だから、あとでもっと簡単な方法を考えよう。

12 月 21 日（火）晴

朝食のときは陽光、青空。六時前起床後原稿の仕上りを再度確かめ電話連絡したら、一時に馬原氏が受取りに来室、先日の常幹や田川の降雪の話をして引揚げた。ひる過ぎ幸が来ていて二時に帰宅。明日は血管造影があるので四時半頃下腹の毛を剃られた。大阪府の横山ノック氏の辞任の話で新聞さわぎになっている。女に手をつけ、その女がカネを欲しがるとそういうことなる。宇野首相もだった。

12 月 22 日（水）晴

六時半起床した。今日は血管造影の日、苦しみもだえる日。時間や痛みはかまっておれない。何はともあれなるようになれという心境で万事なげやり。皮膚薬を塗りあれこれの注射。四時半に施術室での作業が始まったと思う。肝臓の腫瘍が少しでも弱まってくれればいいだけ。施術が終わったら固定着床が別室で、そして続いてわが病室で二〇時間ほど続い

たかな。通りすぎねばなら^{ママ}く難関。

12 月 23 日（木）晴

苦しいことばかり。まずは昨日の血管造影の後遺症腰痛が増幅。その上、咽喉のかすれも生じた。のどはウガイせよといわれて薬をもらった。歩くのも、のろのろで最悪。こんな状態で年末を迎える。一九九九年は不幸な年であった。九（苦）が続いた。並んだといえよう。やむをえないではないか、諦めよう。今日は天皇誕生日というが、総じて国民は無視している模様。

12 月 24 日（金）曇・小雨・晴

六時ごろ目が覚めてしまって起床した。院内放送は六時には「おはよう」の声がきこえるので、特に早起きということではない。昨日と同じく今日も、後遺症として、腹の痛さに終日苦しめられた。朝食はいつもの通り。十時から点滴。一般の人達は年末の仕事に追われるようになった。正月料理も簡約の方向に益々傾いているが。

12 月 25 日（土）曇後晴

腰痛甚だしく、又鼻血が夜半と午前中に出るなど痛々しい一日だった。耳鼻科に行って検診を受けたが、どうも服用している薬のせいである。午後見舞客は緒方武男氏、三時半に幸が来室。夕食は半分ほどしか食べられなかった。なぜか辛い一日だ。みゆきが運んできた新聞に目を通し、九時には就眠したが、坐薬を用いた。すべてが終りにきたように思えてならない。

12 月 26 日（日）晴十時すぎ点滴をはじめる。午後の日ざし、八〇一号室はすごく強いので、思わず日光浴をせねばということで、上半身丸裸でベッド上で目をつむる。十分か十五分で十分浴びたと思う。三時、山村謙一氏がヨーロッパ映画の旅という著書をもって見舞にきてくれた。みゆき来室。四時耳鼻・皮膚科に。五時松田（初）山本勲が見舞に。夕食後鮎川先生が病状説明に。年末年始外泊の件 OK とる。九時就寝。

12 月 27 日（月）

今年一彦らは引越ししたせいもあるが二人の娘が帰ってくるというので、福岡には来ない。福岡が故郷というよりも自分のうちが故郷になってしまった。故郷というものは既に農業地域でもなく山、川もない、代がわりして行く人が来てもらうところになっている。或いは故郷は既になくなっている。年末年始は友達とヨーロッパ旅行でもという人が少くない。年末年始の意味も、年越ソバ、新年雑煮もなくなっていく。

12 月 28 日（火）晴

御用納め。アクロス福岡では十時半からシンフォニーホールの舞台納め神式での儀式関係者十五人ほど出席。塩、おみき、神棚。九時半から十二時半まで「外出届」で出席した。天気よくコートなしで中央公園を歩いた。皮膚科耳鼻科整形外科、そして点滴、鮎川先生から病状説明をきくなど。病院も年末的な空気になってきた。私は三泊四日の外泊と決定した。31 日から三日まで。うまく日程ができた。

12 月 29 日（水）晴後曇

直美は昨夕帰福していた。坐薬を使ったのでぐっすり眠ることができた。五時半起床。朝食後又眠る。十一時耳鼻科、一時半から三時まで点滴。その間池稔氏が見舞に来てくれた。鮎川先生の説明あり、特別の注意なし。四時半直美、ライヤ、サリ、ミユキみんなやってきた。正月の来客、病室で揃ったわけ。サリは中学二年生母親と同じほどに大きくなっている。四〇分間ほど雑談して引揚げた。猫を飼っているので啓二は来れなかった訳だ。

12 月 30 日（木）晴

よく眠れた。六時起床。十時すぎから点滴。ひる頃衣笠氏から見舞の花束が届いた。山口市から立派な箱に梱包してあった。高価なものだろう。五時半頃から直美、ライヤ、サリが見舞に来室。にぎやかに話して帰った。衣笠氏から届けられた花箱ももって帰る意向だ。いよいよ年末だが、何をしたかも何をし残したかも感じない身になってしまった。淋しいではないか。幕がおりたようだ。

12 月 31 日（金）晴

入院中年末年始三泊四日の許可が出たので、当方も帰宅の準備に心を追われた午前中だったが、看護婦側も私のその期間中の薬の整理に苦労してくれたらしい。ライヤ、サリ、直美の迎いをうけて予定どおり午後三時に病院を出た。正月の準備はもう万端ととのっているかにみえて、すがすがしい感じだった。年越しソバで文句ない年末の気分を味わうことができた。

補遺

一九九九年末（一年をふりかえってみて政界に思う）

私が県知事に出て一七年が経過している。五〇年に始った社会主義協会も今は分散し、全く主体性を発揮できないし、主張する力もない。バックに求めている労働組合も既に人物を育てる畑の役割をなくしている。先日の中央常任幹事会に出て痛感したのは、まず誰もが高齢化したなということだが、若者が後継者になっていないということにつくる。きいてみると労働組合活動をリードした OB ばかりなのである。これでは労働組合員にも手が

届かない。議題のとり上げ方も、代議士のようなもので日常的身近的ではない。これでは若者にとって興味もうまみもない。いうまでもなく今はどことも労働組合の力はないし、存在意味もない。役割を果たしえないからである。組合員は激減しつつある。私が知事四期目に挑戦したとなくなった最大の理由は、労働組合の指導者たちが私の方を向いてくれないことが読み取れたからである。十数年前は「県評」が中心になって知事選もたたかったものだ。時代は十年前から様が変わりしているといつてよいだろう。でも社会主義協会の系列だけは変わらなくてもいいのではないかとの疑問は残る。しかし、そうではない。これ亦変わるのだ。「社会」という言葉を見たら嫌気がさすというような時代になっている。ソ連が崩壊して十年近く経とうという今日何を旗印に拾い上げたらいいか誰も迷っている。マルクス主義の流れを汲む言葉は既に死に体になっている。それしかないと確信した「社会」は今やタブーになっている。社会党は社会民主主義と改名したが、十分に足を流さぬまま、洗い直せと国民は思う。社会民主党の「民主」という意義についても似ている。この時代に、王政とか君主制に対抗しようではないかとの意義はあるまい。とすれば何が「民主」で以て国民に訴えうるのか。民主主義の欠点を直し、誤解を解こうじゃないかというのであれば、党名とするに価しない名称である。だのに丸裸の民主党が社会党を割った形で出現した。何を国民に訴えようとしているのか、今以て私には解せない。いずれにせよ、指導者を含めこの両党は何をやるようとしているのか私には理解できない。急速に支持率が下がりつつあるようだが当然といえよう。自民党にももっとしっかりやってよという国民の声がきこえる。こうした声には政治の混迷が感じられるのである。それが国民多数派になっている。

————— ○ —————

何年も前から、日本はアメリカの属国になっているということが気になっていた。戦後アメリカ車が上陸して以来、それは年々広がり高まった日米関係なのであるがアメリカ当局も日本政府も国民に対し決してこの実態を明らかにしなかった。沖縄では隠せぬほど明らかだったのだが沖縄は別という説明で片付け、二十五年前か、沖縄だけの犠牲にしないで、本土にも負担を分けた方がいいとの考え方にリードされて沖縄の本土復帰が実現したのではなかろうか。アメリカは基地負担の重みをフィリッピンから沖縄へ、沖縄から日本へと廻すことに成功したのである。三年前から国民的課題として騒がれてきたガイドライン関係政策もアメリカの新しい一極集中的世界支配の主軸として日本の地理的価値、経済力、国民思想を取入れる基軸とすることに成功したといつていい。日本の国会議員達もすっかり呑み込まれていった。社会民主党と共産党は別だったろう。

ただアメリカ国民がそうだとはいえない。冷戦構造に耐え他方の崩壊を待った時、勝利者としてのアメリカは一極集中の重荷、世界警察の重荷に耐えていくしかなくなった。世界中でこの重荷を一番軽くしてくれるのは四〇年間に亘って従属国として育てあげた日本だったと思う。しかしこの一極集中体制が長続きするという考え方はどうしても成立しない。

アメリカの理論家の中には、あと十年かそこらと見る人もある。アメリカの国民にとっても大きな負担だし、世界の多くの民族国家が、この状況を許容しつづける筈はない。だからこの一極集中の崩壊と共に日本の支援者たちの支配体制も崩れていくと見ていいだろう。数年後には崩れる音が聞え始める。二〇世紀の最後の問題がこれで消え、ポスト資本主義が展開する。これが蕾から花へと輝いていくのが二一世紀だといえるだろう。若い人達の新しい期待だ。

ポスト資本主義と言葉は使ったものの確たる姿を脳裏にえがけるわけではない。人々のニーズに応ずる供給は行われるし、物的発展と同時に情報やサービスの供給も一そう盛んになるだろう。「知」の時代という人もあるが、それは物量、技術、速度といったような従来資本主義の産物を超えたものが提供される。大量生産、大企業でなければできないもの・サービスが求められるのではない。近頃は物を買うというよりは旅をしたいという人が多くなってきたようだが、私が強調したい「知」というのはそうした傾向である。そうなってくると教育の内容も違ってくる。受験勉強へのエネルギーの注入も違ってくる。総じていえば従来資本主義が人間の本筋をゆがめてきた点を本来の姿に引き戻そうという努力社会をみんなが支持するという方向に動いていく。それがポスト資本主義社会で二一世紀の主流になろうと思うのである。同時に自由貿易だの、グローバリズムだの、アメリカが他国に勝てるように勝手に解釈し押しつけてきた国際関係も、他を理解してやるという態度へと変容していく時代となるであろう。自分の国は核兵器を開発するが他国は抑えつけるというような態度もなくなればいけない。つまり強い者の勝手気ままがまかり通らない世界が見えてくる。そうでないのは消えていく。それが二一世紀でありたい。要はアメリカ一極集中の矛盾をゼロにすることだ。

2000 年

年頭の所感

年頭に Y2K 関係事故があるかも知れないということで多くの人は悩まされたが何無く過ぎたようだ。例年と違って私は入院治療中の外泊で正月を迎えることになってしまったように、健康が優れず何事につけても動作ものろく、積極的意思が湧かず消極性を貫抜いて 3 泊 4 日をすごし帰院するという立場で一切ひとまかせの正月になってしまった。でも考えてみると、80 歳になる年が明けたわけ。何ごとにつけ傍観者のでいいわけで、世の中の動きからして感ずるのは、その通り私は正面に立たない、立てないとのいうことである。しゃり出たり、口出しはしない出来ない者へと置きかえられているというのが実感である。若い時に、80 歳まで生きたいなと何度か思ったが、この希望もかなえられそうになったので、病氣養生に努力するのが第一課題である。子供たちもそれなりに過去に満足してくれていると思う。国内情勢とか世界情勢であるが、危い方へいつているなど思った件もまずまずブレーキがかかり、2000 年中に大事件になりそうにもないので平和に事が運ぶだろう。景気回復とか希望の実現に期待する人が多いようだが、何とか凌いでゆけるだろうから満足してほしい。一番の用心は私の肝臓がどうおさまるかだ。同情してくれる人に応えたい。

1 月 1 日（土）晴

今回は直美とライヤ・サリの三人の帰省なので少々物足りぬ感じで新年を迎えたが、サリが若者らしく成長しているので満足できた。みゆきも年末から客を迎えるに足る準備をしてくれた。応接室に花がよく配置されている。三人は午後太宰府詣でに出たのでひっそりした元日になった。賀状への対応に頭を悩す。夕方コウテンリム氏が挨拶にみえ、ライヤさんの大学人事のことで夜九時頃まで話し込んだ。年頭の一課題だ。

1 月 2 日（日）曇

年末年始は誰しも夜おそくまで何かしているので食事時間が互いに平素よりずれ込む。年始の挨拶にまわる人も多かろう。拙宅には午後、安部靖弘・すみ子夫妻、もう一人昨年秋頃だったかニューオータニで個展をした時以来知人同様になった画家の張晶氏（これは夫妻で）であった。両方ともねんごろにゆったり話合ってお別れできた。今年はこういうふうに年が始ったのだが、私の腰痛、体調が依然気になる。余の時間は揮毫の押印仕上げに充てる。

1 月 3 日（月）晴

六時前に起きてしまったので気になっていた揮毫課題果たそうと努力したが墨すりをせず

墨汁の選び方に注意が叶わず、完全に失敗。三時間ほど時間を無駄に捨ててしまった。病院に三時につくべく身辺を再検討し、予定どおり帰院できた。みゆきと直美が随行してくれた。四時半から例の点滴だった。ライヤとサリは朝食後九時すぎ帰路についた。航空券入手できず新幹線にした。「のぞみ」を利用したらしい。

1 月 4 日 (火) 快晴

昨夜は眠れず、三時頃に坐薬を使ったのにやはり眠れず、六時に起きてしまった。アクロス福岡のシンフォニーホール舞台開き。県庁で議長・副議長、知事副知事などに挨拶まわり。森山氏がうまく連絡してくれて効率よく新年挨拶まわりを消化することができ、午後は病院の人となった。腰の調子は昨日よりもいいようだ。早くよくなって欲しい。動作の関係上しゃがんだら、次に立ち上がるのがひどく困難なのである。足全体が弱っている。

1 月 5 日 (水) 晴・曇・小雨

六時前に起床。身をととのえて、前からある日記帳のブランク埋めの課題に取り組む。メモをしているので大助かりだ。中食前に点滴、一時から三〇分ほど一階南棟 CT 検査をうけ、そのあと中食。見舞客は緒方武男、飯田時生氏、それに色紙を取りに来た本田和佳子さん。彼女から花鉢をいただいた。直美が五時半から六時半頃まで来室、啓二から挨拶電話。

1 月 6 日 (木) 曇

多忙な一日だった。午前中に点滴をすませ、午後耳鼻、皮膚科の検診。三時にコウ・テン・リム氏が果物を添えて見舞にきてくれ、四時半頃に幸と直美が来室してくれたのと面を合わせることでよかった。十二時半から一時間ほどかけて廊下ごしの隣の病室に移動した直後の話である。荷物は少なかったもので「引越」もかなりの手数がかかるし、広さは同じでも部屋の中の間敷が対照的でまごついたりした。鮎川先生からフィルムを通し、私の病状の説明をうけた (三人で)。五時頃だった。

1 月 7 日 (金) 晴

直美が夕方五時前後三〇分ぐらい。他は私的に自由に時間を使った。一〜二時間眠ったろうか。昨夜もよく眠れなかったのでつらい今日だ。他の時間は日記のブランク部分の補綴ばかり。それでもそれができるだけで気持ちが休まる。穴があいているページを見ると自分の体に傷があるのにそのままにしているように感ずるのである。夜、刀出の弟九一君に電話し、私の体調の一端を話しておいた。ごむさたばかりだったので、肩の荷がおりた感じ。

1 月 8 日 (土) 曇後晴

朝日新聞連載の「米国二〇〇〇年の選択」④を見てびっくりした。「強すぎる一極化」「反

感かわせぬ外交」との見出しである。私が一年以上前からアメリカ批判論を展開している内容とほとんど一致しているからである。一極集中が崩れそうになっている。今日の病院は耳鼻科だけ。直美とみゆきが五時から六時頃まで来室した。何も変わったことはない。腰痛がまだつづいていて気力が大いにそがれている。横になるほかない。体重はやや上昇し、今日は五一キロ。

1 月 9 日（日）小雨

中食前に点滴。今日はこれだけ。午後二時ごろ幸が来室。外は大変寒くわが家も廊下など暖房のない所は寒いらしい。年明け以来はじめての雨天。午前中は歩行者の傘が目についた程度だったが、午後四時には病室の窓ガラスも白く曇りかなりな雨になった。それでも本降りとはまだはいえない。公園の土はかなり濡れてきた。腰痛がつづいて読書など意図が大いに妨げられている。

1 月 10 日（月）晴

小雨は残っておらずひる少し前から全くの晴天。空気も冷えてないとのこと。今年は今日が成人の日。われわれには縁が遠くなってきた。病院もいわば休診。私は病床で時を過ごすだけ。昨年の子の日記のブランク箇所に思っていたことを書き加えるのが主たる仕事。世界的に大きな変化がありそうだが、事件ではなく社会の自動的变化だろうから、見る目が必要なのだ。

1 月 11 日（火）晴

すっきり晴れ。陽光豊かだった。午前中に点滴。あと近藤栄次郎氏が来て、前の八〇一室に入院してきたという。きくと私と殆んど同じ病状。中食を彼の病室で共にし、私は理髪に行き、あとアクロスへ。工事のため休務。隣の国際交流センターに行き、藤本氏としばらく雑談。帰院したら幸と直美が由布院遊びの帰りみちとして病室に立寄ってくれ、しばらく話をして帰宅。鮎川先生から明日の手術の説明があった。

1 月 12 日（水）曇・小雨

一日中肝臓手術にうなされた。午前中の点滴にもプラスが他に何本か。九階の手術室へは二時半、そして四時まで。マイクロウェーブ凝固剤注入、麻酔その他の添加剤の注入のため、強い内圧を抱えこんだ形での痛さに耐えていくのも、従来とは違った「もだえ、苦しみ」を味わわねばならなかった。表現のすべを知らない。自室に帰ってから苦しかった。

1 月 13 日（木）曇

重い空がつづいた。しかし昨日のことを思えば今日は気分爽快、戻った。平凡に過ごした

一日。飯田時生氏が入院姿でやってきて今日退院するという。予定より早い忙しいので中途になったようだ。夕方、直美が天野氏を連れて来室、夜七時からアクロスでコンサートと共に楽しむ予定という。六時すぎ幸も来室。夜の夕食会が楽しくなってきたようだ。六時半出発。天野氏が立派な花束をくれた。

1 月 14 日（金）曇

食事は朝半分、中食抜き。今回はエタノール注入という。点滴その他午前中からいろんな予行施術。二時すぎに九〇七号室に行く。施行エタノール注入、三〇分ほどだが今日は後遺症もひどく二割ほど前回よりも苦しかった。五時頃まで手術室で安静、この間も痛みは退かなかった。帰室まもなく直美、天野の二人が来た。コンサートに行っていたという。痛みが全く変わらずベッド上で苦しみながら、十一時には就眠しただろうか。

1 月 15 日（土）曇

一日中わが部屋のベッド上ですごした。痛みは少々やわらいだといえるが、それでも重圧だ。午後早めに直美・天野が来室した。こんどは映画見物らしい。新聞その他来簡物をもってきてくれたので、あいまに利用できた。廊下の対面に入院してきた近藤氏からは日経新聞を借りて読んだ。平凡ながら痛みをこらえつづけた一日だった。生きている意味が全くないのに。

1 月 16 日（日）曇

曇天がつづく。そのうち何日かは小雨もあったようだが、窓の中からはわかりにくい。内圧、突張りの痛さが依然つづいていて耐えるだけが精一ぱい。別の意欲は湧かない。ひる少し前に、幸、直美、天野の三人が見舞に来てくれた。二人は二時の空路で帰京するので一時半に退出した。直美は二〇日ほどいてくれた訳である。山梨の天野の父も一時入院だったがもう退院できたという。

1 月 17 日（月）晴

おそろおそろ諦めで今日のエタノール殺菌剤注入に臨んだのだが、痛み止めなど周到な準備をしてくれた結果 14 日の場合の半分以下の痛み忍耐で終ることができた。九〇七号室にベッドごと移動したが、二時すぎから四時すぎまで、後遺症もぐっと柔軟だった。次回二〇日はどうだろう。冬らしくないきれいな空になった。八〇一号室の近藤さんから、イチゴ、卵をいただいた。

1 月 18 日（火）晴

ゆうべから、今日もひるすぎまで調子が大変よかったのに、三時すぎコウテンリム氏が訪

ねてきてから腰痛を基底に全面的に苦痛の中に突っ込まれた感じで夕食もろくに食べられなかった。一日中何もできなかったことになる。空は晴れ快い環境なのに動かせないとは残念。昨年の子記のブランクをもっと効率よく埋めたい。

1月19日（水）晴午後小雨

点滴のあと眼科に呼ばれ、眼鏡の点検の必要性を示された。帰室時にエレベーターの中で偶然土井仙吉氏と合ひ、私の病室まで来てもらって一〇分ほど雑談した。午後三時すぎ渡辺四郎氏が来て、私が彼の叙勲祝賀に行かなかったので、その時の手みやげをもってきてくれた。叙勲するか否かで悩んだと挨拶状にあった。夕食後七・三〇岩橋女史が見舞に来室（IMSに転勤したという）

1月20日（木）晴・小雪

空は晴れているのに、小雪が舞う。一番寒くなったという。山に近いところでは積雪がかなり見られたろう。血糖値を六回にわたって定時に行われた。中食をはさんで幸の来室。午後馬原氏が見舞に来室、政治分野につき少々雑談。腹痛がひどく動けない程。これはこの二、三日の特徴。腰痛もつづいているが……鮎川先生は出血がなければ安心していいとのこと。辛抱しかないようだ。

1月21日（金）晴

今日は特別の治療措置はなかった。ただ自分の方は腰痛もまた新しい腹痛も同じく続いている。治療関係は例の点滴と耳鼻科だけ。午後になって連合ユニオンから大江、林、志水の三人が見舞に来てくれた。労働組合からというのは珍しい。少々時間をとって労働界のことやユニオンの活動について意見を交わすことができてよかった。午後三時のレントゲンの結果をみて鮎川先生が所見、来室。経過順調とのこと。

1月22日（土）曇

一昨日頃からの注射跡腹痛の深さ広がりが増大して止まず、朝食後は横になって痛さに耐え、午後は坐薬を用いて鎮痛に努力した。背中も肩の下も痛し。坐薬で一般的鎮痛を果たすしかないようだ。三時半頃緒方武男氏が見舞に来て、聖書詩編の、病人に対するエホバの気持を表現する箇所を読んできかせてくれた。

1月23日（日）小雨後曇

ひる頃まで小雨、あと曇。昨日坐薬で回避した腹痛が夕方には又戻った感じ。アバラ骨が終った右腹上端、時にキリキリいたむ。五時頃みゆき来室。私の希望したカレーをもってきてくれ、夕食は久しぶりにカレー食になった。岩橋女史も来てくれて、幸ともども雑談

の時間をもつことになった。新聞も見ることができ多忙な夜となった。坐薬がきれると又腹痛。

1 月 24 日 (月) 曇小雨

小雨が降ったり止んだり。外はそれほど寒くないようだ。新聞をみても特筆すべきことはないようだが、昨日「きんさん」が百七歳で亡くなったとか。入院のつづく私。暇をもて余して、美可、和代に電話して近況報告。芳男さんが弱っているようだ。午後みゆき来室、果物をおいて帰る。治療は一休みのようで右上奥歯抜歯、レントゲンをはさんで左肩。整形外科での指導だった。

1 月 25 日 (火) 曇後晴

午後は晴。治療は十一時すぎ皮膚科、つづいて CT、一時に耳鼻科。朝のうち点滴。引きつづき腹痛があつて暇があると横になった。一時半頃シャワーを浴びて休んだ。四時頃鮎川先生来室、CT の示す結果説明。明後日最後の癌取りをしてみたいとのこと。(二つは既に成功している) かなり痛かろうが辛抱辛抱ということになった。夕方コウ氏来室。

1 月 26 日 (水) 晴

横浜の藤沢氏から依頼の「三池闘争と私」刊行についての添書をハガキに書いた。午後みゆき来室につき帰りに投函してくれるよう頼んだ。一〇〇ページの本一読するのに二日かかった。夕方近く上岡さんが見舞に来室してくれた。彼も近々入院するという。息子さんが昨年県議に当選し顔も広くなっただろう。写真(三代知事との)もおいていつてくれた。外は寒気が強くなっている。この頃の季節、窓内ではわからない。

1 月 27 日 (木) 晴

七時、カーテンを開けたら粉雪。外は寒かろう。あと電話でわかったのだが、輝国地域はかなりの積雪らしい。夕方来室したコウさんの話でも太宰府は一〇センチ以上の積雪。今日はエタノール療法の前後策で点滴から安静解除まで約一二時間を要した。本番は九〇七号室で行われたが前後二〇分ぐらい予防注射をふくめ予想した程の半分ほどの痛さで終わった。吐き気強く夕食も挫折、就眠は十二時になった。案じられた程には悪化なし。

1 月 28 日 (金) 晴

天気はいいが誰しも寒い寒いとふるえている。隣の病室の近藤栄次郎さんが、昼前に退院した。同病だが先を越されたみたいだ。花や雑誌を置いて行った。中食後三時頃まで昼寝した。まだ腹部が痛い。四時半頃熊本の小野、それに馬原、大坪が見舞に来てくれた。バラの花束と落語テープを見舞にいただき、向坂教室のことを話題にした。夕食前腹部エコ

一あり、一月三十一日再々手術の予定。

1月29日（土）晴

引きつづき、胸、腹、腰、背骨が痛い。とくにアバラ骨の下の腹部の痛みがこたえる。ベッドの上で横になるのが一番楽。外は寒いようだが、病室は保温が十分で寒さ知らず。四時頃ケルト協会の山本啓湖さんが花をもって見舞に来てくれ雑談し、「図説 ケルトの歴史」を一冊おいてくれた。五時にみゆき来室。着替えなど心配はないし、新聞も届いた。

1月30日（日）曇

昨日私からの電話に対応するかのように、今日午後早くなつメロの世話人長沢定夫さんが、わざわざ香住丘から見舞に来てくれ、五時すぎまで昔のことを含めて雑談してくれた。ある意味では保守的な姿勢ともいえるが、まともで誠実な人柄がうかがえた。今日的な物質主義の欠点が補完される人柄だ。私は退院後元気があれば、なつメロの会に復帰しようと思っている。

1月31日（月）曇後晴

今日で肝癌退治の日程がやっと終了した。エタノール注入がピークだが前後を含めるとこの日一〇時間はかかる。肝臓への抗癌剤注入は二〇分足らずだが痛みのピーク。麻酔薬もかなり痛い。今日覚悟していたが覚悟の程でもなくて有難かった。それにこれまで痛かった腹部もよくなったような気がする。今週末退院できそうな話である。

2月1日（火）曇

昨日のエタノール注射のあと、やはり以前からの腹、もっと以前からの腰の痛みが続いて、心地よい時間はなかった。今日の治療は皮膚（問診）と耳鼻（鼻の粘膜弱体化出血）、の二つだけで時間も昼すぎ短時間ですんだ。五時前にコウ氏、つづいて幸が来室、平素足りぬ身辺整理に関与してくれた。退院の予定も話ができた。直美から電話があり、近況を話すことができた。

2月2日（水）晴後曇

午前中はどんどん時間が過ぎる。中でも大きいのは点滴である。それに食後は横になることにしているので、これ又眠り込みも含めて長くなる。今日中食後、緒方、小森、宮本の三人がつづいて見舞をかねて用務報告に来てくれた。退院して可能なら私も関わって手伝いたい。小森専務はアクロス福岡の次の理事長について麻生知事に考えてもらっているとのことだった。管理関係の課の方で探しているらしい。

2 月 3 日（木）曇

朝食抜きで検査の日。採血と胃カメラ。後者は五 F で予防注射、予防薬の手当はあったものの、実施中はやはり痛い。朝食はこれらが終わって後で十一時になっていた。三時に耳鼻科に行くが、その前に点滴。今日の来訪者は四時頃にコウ氏、夕食後は入院中の上岡亀弘氏、彼も肝臓に心配があるという。四歳下だが、一見元気そのものだ。私の生涯について話す。

2 月 4 日（金）晴

昨夜十一時頃から明けの三時頃まで鼻血（右）が出て看護婦を交え大騒ぎになった。明日の退院に気が向いて身辺整理をはじめた。反して今日は来客が多かった。ローフレンズのことで木梨氏。見舞客高教組役員二人、（花）田川、玉置氏二人（草草）師村、前田氏（書展・昌硯カレンダー）鮎川先生から呼ばれたみゆき。私は五時～六時アクロスに挨拶（中原氏の迎送）コウ氏にきてくれた。六時頃その辺の食べ物でみゆきと夕食。彼女七時帰宅。

2 月 5 日（土）晴・夜小雨

六時頃に起き、退院準備、荷物まとめ念頭にあり、それで動いて十時頃まずコー氏が、次いでみゆきが来室。結果的にはコー氏が拙宅まで車ですべて運んでくれた。十二時少し前に出発できたので、中食を中洲で取ることになった。二時前だったろう。すべて退院仕事は終り。あと、荷物片付けで一日が暮れたということになる。夕方小雨。

2 月 6 日（日）小雨・曇

腹と腰が大変痛いまま睡眠全く不十分。何とはなく自室にこもったが、途中二時から四時まで木梨弁護士の迎えで石村善治氏宅（警固）を訪問。ローフレンズの二〇〇回を記念する特別会開催につき合意、今後の運動の焦点とすることとした。稀に得た楽しい時間だった。たのまれて揮毫した。半紙に恭儉の二文字を各人あてに書いた。そう寒くない一日だった。

2 月 7 日（月）曇

病院に行くのを一日おくらせたら何もしない日になってしまった。だが書斎にある資料袋を点検すると限りなく未整理ものがあることが判った。但し、キリがないことも改めて自覚させられた。福岡に住みつ়概要はむしろなつかしいのだが、私の第一期知事選などになると、資料が全く揃っていないとの痛感を懐う。ともあれ資料となると不完全と偶然をこもごも思われる。腰痛甚だしい。

2月8日（火）強風 吹雪

退院後はじめて病院に行く。運動になるかと思ってバス停まで歩く。でも少々無理だなと実感した。脚力の衰えだ。もっと運動して馴れていく必要がある。帰宅はタクシーだ。改造後の病院大いに混んでいる、九時頃なのに。点滴のあとアクロスに行き若干雑談をして帰宅後の中食となった。腰も腹も相変わらず痛い。書斎で古い雑物袋の整理をしていたら母の写真が二枚でてきた。和代がくれたのを整理し忘れていたのだ。

2月9日（水）晴

終日在宅。但し寒い。ひるま日光がさし込み、その効力は大きく感じられた。前日につづいて袋封筒に入れられ、書棚を広く占拠しているものを開いて取捨するのに全時間を使った。でもあとを見ると殆んど片付いたとは見えない。思い切って捨てようとしなからでもあろう。九大の時代のものといえない、殆んどが知事時代の資料である。いわば後世に役立つかも知れない。

2月10日（木）晴

九時前にタクシーで病院へ。点滴をうけ帰路はバスで。十二時すぎに帰宅。書斎のなかの片付け仕事が延々とつづく。夜、和代に電話したら、芳男さんが、私同様健康不十分で弱っているという。私の場合、肝臓はもちろんだが、どうも背骨腰部の痛みがひどい。外出しても一向に面白い感じが湧かない。世の中は商品分野でもどんどん変化しているのに、私は門外漢、無知の老骨になってしまっている。

2月11日（金）晴

ワビスケ椿が満開。西側においている梅鉢も紅白ともに満開。その西の紅梅は開きはじめた。快晴の中、白梅の鉢に二羽の鶯が蜜を求めてやってきた。珍しいことだ。春と平和。しかし室内廊下の温度計は一〇度をさしている。二時、森山氏の迎いで入院中の渡辺健次郎氏の見舞に福大病院に行った。病気は前立腺肥大。元気で明日退院の予定という。姫路ツアーの計画にも言及した。基本計画作成が急がれる。

2月12日（土）晴

昨夜は十時前一彦が予定どおり帰ってきた。私への見舞も兼ねている。雑談で夜で若者が一人ふえると家庭がこんなに明るくなるものかとびっくりする。私が午前中に病院に行く必要があったので三人で車で天神に出、二人は買物、私は点滴。再び病院で合流、今泉の福新楼まで歩き三人でゆったりと中食を取る。夜一彦に好きな掛軸を選ばせたら四本。夕食前森山が家事手伝いの下見で岩橋さんを連れてきた。

2 月 13 日（日）晴

わだつみの塔の沖縄建設募金の件で壺岐一郎氏が会いたいということで石村学長に伴われて午後二時アクロスで面談した。募金活動であった。私は承諾して早目だが帰宅した。一彦が帰したのは六時すぎで、二時間ばかり話し合う時間があった。私のネクタイを割譲する話が出て 10 本ほど選択できたらしく軸物四本と何とか形あるみやげものができたといえる。帰宅は十時頃になるらしい。家屋を買い代えての新生活なのだ。

2 月 14 日（月）曇

寒さはつづいている。午前中は病院での点滴。一たん帰宅して気になっていた揮毫三枚を書いてみた。満足できる程ではないが、これで仕上げとしよう。アクロスの女性職員向けである。午後五時に出発して馬出の高教組へ。六時から「生きる力」シンポジウムに向けての第二回懇談会。パネラーや各支部長が出席。現場教育者の苦悶がたくさん聞くことができた。八時半まで。役員の車で送ってもらっての帰宅。

2 月 15 日（火）曇

終日在宅。すごく冷えこんできた。全国的には日本海沿岸はとくに寒く且つ大変な降雪のようだ。三〇センチ、四〇センチはあちこちにあるときく。揮毫の残り課題（1/2 半切三、色紙二）を仕上げたが、水道水を使うと手が切れるほど冷い。腹も腰も痛くて快い在宅とはいえなかったが、横になって少々居眠りもした。視力の衰えを感じるので眼鏡を新たにしたいと思う。啓二の誕生日だ、四九歳。

2 月 16 日（水）曇後晴

朝のうち病院、点滴。アクロスに行くと森山氏に誘われ近くのうどん屋に出て中食。アクロスでは小森専務としばらく雑談。三時に約束どおり緒方氏が深江女史を伴って面会に来訪、写真も撮る。次の日曜には是非王国会館に来るよう要請された。健康上まだ疑問が残る。五時すぎ帰宅した。今日は昨日よりも更に寒かった。

2 月 17 日（木）晴

寒さがつづいている。今日は以前から長沢さんに呼びかけられていたので、ナツメロ愛好会懇親会（十一時から東市民センター）にみゆきと共に参加した。約二〇人が中食を共にしながら、お菓子もつまみ、用意されたステレオで午後五時近くまで楽しんだ。ナツメロの内容もよかったようだ。

2 月 18 日（金）晴

寒い日がつづく。今日は一日病院のことに費した感じ。九時に出て済生会病院に行き、時

間があったので歯科に、義歯の上あごの噛み合わせを更によくし、あと本番の内科。主として平素の飲み薬追加、さらに皮膚科でも薬の追加。帰宅して中食をすませたら三時だった。もらってきた薬を確認整理するのに時間がかかった。薬漬けといわれる身の上なのだ。毎食後薬をのむのにもかなり時間がかかるわけ。

2月19日（土）小雨

背骨がひどく痛み出し、今日アクロスで予定していた二時からの会議を拙宅に変更してもらった。姫路旅行計画の概要を早く決めなければならない。渡辺さんが友人一人（井上氏）を連れ、それと旅行会社から一人（富永）。もうこれくらいであと一～二人加えて計画を立てる幹事会を作り、「歴史探訪の会」と称すること、そして第一回の旅行は姫路（黒田藩との関係）とし、時期は四月上旬とすることにした。時間がないので、参加者募集に力を注ぐべく誓い合った。

2月20日（日）曇

背中が痛くて、朝、昼の食事はとったものの、ベッドに入るばかり。キリキリ痛むことも少なく、どうしようもない。明日は病院にかけ込もうと思う。外気は依然冷いようだ。夕刻四時すぎ河野氏が訪ねてきた。全く久しぶり。鯛を二匹おみやげにさげてきてくれ、ストーブを前にしばらく話していった。数学者というのはそんなものかと感心する話。自然、人間、思考、すべてにわたって哲学的に、落ち度なく考えていることを立証していた。

2月21日（月）晴

春が来たという感じの好天と暖かさ。それでもわが身は味わったことのない辛さ、痛さ。土、日の二日と今日も続く腰骨の痛み。これまでも痛さは低くはなかったのに、今回は痛みの箇所は少々背骨の上部に続き移り、強烈になった。朝食後済生会病院へ。従来の点滴と、眼科と整形外科と。整形では注射と坐薬処方。期待した程ではなく、数日坐薬でがまんせよということになるようだ。三時頃帰宅。痛みの中で何となく時間をすごしたが、縁側での日向ボコが一番楽しかった。

2月22日（火）晴

今日の新聞に政府が国民にかくして来た「思いやり予算」についてアメリカから陳情団が続々やってくるとの報道。OKしているのは外務省と防衛庁ぐらい。似た経費支出はドイツ一七億、イギリス三億。これに対し韓国三五〇億、日本は何と六、六一九億。しかも実態は米軍が日本を守るためというよりはアメリカが他国と紛争を有利に解決するためだ。四万人の米軍のに高すぎるというほかはない。アメリカの属国たることを反省すべきだ。

2 月 23 日（水）晴

病院に行くべきだったが、午後の来客予定もあるので、体力からして病院を休むことにした。一時半頃に毎日新聞の小田切氏が来て、炭鉱労働運動にまつわる向坂先生と私の考え方の食い違いなどについての取材を受けた。若干資料を託した。三時すぎまで。四時半に渡辺氏ら三人が来て姫路ゆき旅行企画について一歩進めた話し合いを続けた。四月上旬にまにあわせるには、あとひとふんばり必要というところだ。熱意はある。

2 月 24 日（木）晴

渡辺氏のとりはからいで、姫路ツアーの黒田如水に関係あるという在福岡（博多）の二寺（崇福寺、大福寺）を訪問することになった。午後、彼の車で迎えられ、まず崇福寺に行ったら、同行予定の井上、業者の富永氏の二人はさきに来ていた。どちらの寺も住職さんがわれわれを丁寧^{マツマツ}に受入れてくれ、黒田家との関わりをていねいに説明してくれた。明治のはじめの廃物捨^{マツマツ}積を改めて考えさせられた。四時散会。

2 月 25 日（金）晴

朝から済生会病院へ。整形外科と内科。内科では鮎川先生に腰痛のゆえの入院の相談をしたが、一人部屋が五時にならないとあかないということで、中央処置室を借りて四時間ほど待ち、五時すぎ八〇一号室に入院することができた。間もなく外遊から帰ったばかりの森山氏が見舞^{マツマツ}にきてくれ、みゆきも、入院用具などもってきてくれた。

2 月 26 日（土）曇

痛み止まずベッドばかりにたよっていた。三時に渡辺氏が来訪、山村謙一氏が活動している若久団地公民館の話題を出してきてびっくり。今の館長は中島氏で、先日話題になった「黒田」サークルの世話もしている人なのだ。二九日に若久公民館で面談することになっていて山村氏も同席してくれるようだ。姫路ゆきの下ごしらえが光雲神社系から崇福寺系に、神から仏にかわっていくわけだ。意義深いことだ。

2 月 27 日（日）曇

みゆき来室。中食を病室で済ませ、アクロスに行き、一時半から高教組の第三回「生きる力」シンポジウムに出席した。福留、河野ら九大の講師は入試採点のため出席していなかった。日程が長く五時までかかり、衣笠氏の随絆^{マツマツ}で五時半病院に帰った。シンポジウムのねらいがもう一寸明確でないと思う。四 F の国際会議場満席になる組織の力を思う。腰痛が依然つづいていて苦しい。坐薬にたよっている。八時半就眠。

2月28日（月）曇

朝のうち、4Fで鮎川先生から腹部エコー検査をうけた。午後は点滴、あとベッドにいたのだが、相かわらずの腰痛で苦しみばかりだった。夕方鮎川先生が来室され、腹部エコーの所見を述べられたが、全体的に内臓はまずまず心配はない、腹水に若干問題はあるとのこと。あと腰痛のみといえる。一彦、啓二、和代に電話して入院のことを知らせておいた。全般的な観点から孤独感強まる。

二〇〇〇年二月二十八日所感

時代の物的近代化、情報機械化についていけない。

年齢からみて一般に活動している人とは違いがあり、話すチャンスも少くなっている。

今日の人は労働運動や社会問題に関心が薄く、話題を共にできない。それ故、私は自分で想像するより全く価値なき人間になってしまっている。

以前は向坂先生など学識の高さに敬意を払う人があったが、今は、そうした人を尊敬する空気はどこからみても生じないらしい。私もいろんなことを今後の人に託したいと思うが、それを聞いてくれる人は居そうにない。今の人は人物や人生のあり方などを他から参考にしようとはしないようだ。アメリカを主軸とする物質文明至上主義になっていることを心配する。本来の人間社会に帰るにはかなり時間がかかろう。

親は子に頼らないし、子は親に頼らない。血縁は物の関係よりも軽いのだ。私は置き去られてゆく。

2月29日（火）晴

一時半に若久公民館へ。渡辺氏の車で、姫路ツアー関連。永らく館長をしていた山村謙一氏も来てくれた。今の中島館長が「藤香会」の会長をしているというので訪ねた。観光の会でなく、黒田藩の名残りを大切にしようという会で、今は二五〇人ばかりの会員という。

「藤」は黒田家紋ということだ。長い歴史をもつらしいが、米軍空襲で資料は焼けてしまい、再出発したという（昭和二十二年）。黒田の末孫は今東京にいる。福岡については、あまり強い関心を示していないようだ。ともあれ、中島氏からいろいろきかせてもらった。

3月予記

またまたの入院。もう一ヵ月すぎたのに、平常に戻る見込みが全くつかない。下旬には網干の和代夫妻が見舞にきてくれて何となく気強かった。幸が風邪をひいて家庭生活全体が動かなくなっていたので助かったという気持はよけいに強かった。桜花が順当開いているときくと、三月下旬の好天は外が一そう魅力を感じさせる。

3 月 1 日（水）晴

春になっても病気はつづく。何が原因かわからない。悪でもしたのか知ら。坐薬で痛みをおさえている。岩橋夫人がやってきて用事があれば手伝っていいという。誠意は受け止めたい。緒方武男氏が来室し話しこんで行った。私の信仰心を確かめたかったようだ。多神教・仏教・儒教・神・自然などについて所見をのべてみた。いわば私は無信なのである。

3 月 2 日（木）晴

中、夕食抜きで連続点滴や検査。点滴は四本か。レントゲン、MRI。点滴は明日までかかるといわれる。上岡さん、みゆき来室。上岡さんも肝臓で入院してきたとのこと。毎日一升の酒をのんでいたもので仕方がないといっていた。ベッド上何を考えるでもないが、やはり一種の終末状況かなと思うのが落ち。南北朝時代の戦争のことも思ってみるが材料が頭の中に入らない。歌を何回もめぐらしてみるだけだ。

3 月 3 日（金）晴後曇

十時に RI 予備注射（骨シンチ）。胃カメラの結果十二指腸潰瘍と判定された。腸が全面的に、ぐるぐる鳴るのが気になるが、むしろいいことのようにだ。渡辺氏から連絡があって小寺氏との連携は彼の病気のため後日にずれ込むとのことであった。黒田家が福岡を捨てていたので、関係主要人物もばらばらになっている。光雲神社もさびれるままで淋しい思いがしたが、それなりの理由があることがわかってきた。

3 月 4 日（土）小雨

朝食復活、五分粥。午後二時みゆき来室。ひどい下痢で下着を汚してしまった。二度目。みゆきがいて始末は助かった。十二指腸潰瘍ということで薬が変更され、そのための下痢ではないかと思う。今日の小雨はいいおしめりであろう。病室にいて春雨を味えないのが残念である。脊骨の痛みは依然強く私の日常をすべて規制している。どう治療が進むやら全く見当が立たず、これでは姫路ツアー計画も危なくなってきた。五月まで伸ばすか？

3 月 5 日（日）薄曇

上岡亀弘氏が九階に入院してきているので、今日は何事もなさそうなので私の方から返礼の見舞に行った。二十日頃までの予定という。肝問題、息子の県議も来て共に語った。夕方、森山氏が来室。娘の結婚式を豪州であげて終ったばかりといっている。任期満了の私のなすべきことをまとめておいてくれるよう頼んでおいた。お別れの言葉が必要である。夕食中啓二から電話があった。新しい電話機に関心をよせ仕事にしていく意見だった。彼も健康がすぐれないで困っている。

3月6日（月）晴

荒牧正憲氏が東京（埼玉）に移るということで挨拶をかねて見舞に来室してくれ、いろいろ向坂協会を含め話し合った。目標をもって楽しく暮してねといって別れた。四時レントゲン。五時みゆき来室。健康のことなど話しているうちに岩橋さんの関連する家事手伝い案件が浮んできたので、森山氏を電話して来室してもらい、話を展開してみることにになった。みゆきも似た見解であることがわかった。今後話が進めばいいなと思っている。われわれ老衰の一途だから何か手を打つ必要がある。

3月7日（火）晴

平穏無事。何ごともなく訪ねる人もなく、病状も従来どおり。背骨の行方がむしろ心配である。日記の書きもれを補うことも一つのわが課題である。天気は上々雲一つないほど。虫や木の芽や小鳥がこういう天気を待っていたに違いない。気候がかわるということは人間にとってもよいことだろ。ただ、年度がわりということになると役所も忙しく、人事の心配が裏を走る。子供たちには入学試験の重みがある。学校側もそれで多忙。天気がいいのが何よりだ。待ったなしの時期だ。

3月8日（水）晴

昨日と同じく晴天。うららかそうだ。坐薬なしの午前中はすごく腰の痛みを感じベッドの中であっていた。午後坐薬。起き出て何かしているうちに県の深見企業局長が見舞に来てくれ、少々話していった。今は県の予算議会なのだ。終わったらホッとする緊迫期である。遠藤、鮎川両医師が昨日も今日も来室して治療関係の説明をして下さった。が、脊と腹の痛みについては、経過をみるという程度で、私にも展望がつかぬ。

3月9日（木）晴

気持よい晴天がつづくが、当方病床に就いたまま。腹の方は少しよくなったようだが脊腰の痛みが一そうはげしい。このままでは姫路ツアーには参加し難い。昼前にみゆき来室、同時の昼食だった。もって来てくれた新聞三日分。少々切抜いて、ベッド上で読める作業をした。あれこれ社会問題は少くないがアメリカのピストル、日本のナイフ、子供に持たせる社会の変り方が気になる。私はもう過去の過去の人だ。

3月10日（金）晴

朝食、薬、注射、そして点滴といういつもの日程で午前中が終る。連日の晴天だがベッド上には何事もしようがない。横になっているところへ四時すぎ麗衣がひょっこり見舞に来てくれた。日航ホテルの近くに宿が取ってあるのでここは近い。しばらく話し込んでいった。今が働き盛りだ。スチュアーデスの仕事は私が予測していたより重荷らしい。何

年もつづけられないとのこと。でも今は元気そのものだ。

3 月 11 日（土）小雨・曇

うっすら寒いので、フトンが有難い。新聞は切り抜いたが、それも読む気が起らない。死者について述べた文があったが中味はもう一つ理解しかねる。昼食後のころ、みゆきが来室、着替えと日常用品の不足分を補充してくれた。脊中の痛みに加えての腹の痛み、それに消化不良（下痢）に悩まされている。投与されている薬に下痢の原因がありそうだ。これだけでも何とかしてほしい。ねていると便所にいくのも大変なのだ。死について考えたいが、考えぬ方がいいだろう。

3 月 12 日（日）晴

安静を保つほかない。依然たる腰と腹の痛み。なおりそうにないので失望を高めている段階。三時頃、森山氏が来室してくれてあれこれ語り合った。私の方からは書類その他の整理についてお願いやら希望を述べた。家族に頼むわけにはいかないものがたくさんある。「物余り」の現在、古本その他の古物は整理に困る。それも含めて彼の指摘があればと思う。私も古物なのだ。

3 月 13 日（月）晴

昨日から腰腹がすごく痛く、ベッド上でうなりつづけた。何故なのかわからないが、嫌になってしまう。点滴が終わったら既に一時になっていた。中食後、物療でホットパックを体験。一五分だったが、気持がよかった。坐薬がきいているから明るいうちまずは平穏だ。四時頃大坪氏の仲立ちで太宰府市長佐藤氏から、激励の電話をうけた。私自身この病気について希望をもってもいいかなと思ったりする。頑張ろう。

3 月 14 日（火）晴

腰痛がつづく。坐薬でひる間何とか支えているだけでスベなしである。十一時頃みゆきが来室したが、特に何の用もないということで中食前に退出した。植木鉢を日当りのよいところに出す仕事をしているという。もって来てくれた新聞にさっと目を通した。他に読むべき資料ももってきてもらっているのに対応したい。渡辺氏からの連絡で姫路ゆきツアーは少々延期することになりそうだ。姫山の桜花は断念せざるをえない。でも応募者はありそう。

3 月 15 日（水）曇 小雨

点滴等々で午後はベッド上で休んでいた。四時頃に県の松田初善氏が見舞に来てくれ、あれこれ雑談にふけていたら六時すぎになった。夕食である。県では今議会で特別委員会

があって（予特）手が放せないという。今年は中央地方ともに予算のきびしさが続いている。彼には私の書斎の整理などについて相談にのってくれるよう頼んでおいた。未整理物がまだ多い。

3 月 16 日（木）曇

点滴、MRI、ホットパック（物療）、CT と、検査がつづき、終わったのが三時。あとみゆきと入れ替わるように緒方武男氏が来室。にぎやかな一日だった。腰痛は依然はげしく、つらい一日でもあった。緒方氏は私の信仰を確かめようとしているのだろうが、むしろ私の多神教的言動に付いていきにくいらしい。脊骨の痛みがいつまで続くのか、むしろ不安になってきた。生命にかかわる状況なのかすら自覚できないでいる。

3 月 17 日（金）晴

午前中点滴のあと泌尿器科へ。頻尿を訴えたからである。午後物療ホットパック。四時頃コウテンリム夫妻が花や梅ヶ枝餅をもって見舞に来てくれた。末の男の子も連れて。上の子二人は近年中に独立する年になっているとのこと。夕方遠藤、そして鮎川両先生が来室。前者は昨日の MRI の結果も併せ説明して下さった。治癒に希望がもてると思えた。アクロス福岡の年度末理事会をどう迎えるかが気がかりである。

3 月 18 日（土）晴

夕方以降電話が二つあった。一つはうちからで、みゆきが昨日今日風邪ひいて寝込んでいるという連絡。もう一つは市内のどこかで夕食中の「進歩と改革」中央常任幹事からで、大坪と鳴海が電話口に出た。情勢がむづかしいので運動の方向も探りにくかろう。夕方岩橋さんが来室。ヒナ飾りをしているらしいので拙宅を訪ねてみてほしいといっておいた。上岡さんが入院姿で訪ねて来てくれ、治療の効果は上っているとのこと。見舞商品券を下さった。

3 月 19 日（日）曇時々晴

坐薬を使っているのに、腰がすごく痛い。午前の点滴はいつも最後の調子がよくない。中食後しばらくして看護婦に手伝ってもらいつつシャワーを浴びた。久しぶりである。時間があつたので気になっていた毎日新聞社小田切氏との三池炭鉱に関するインタビュー記事原稿の校正を行った。八月に発行される雑誌にのるらしい。のんびりした休日だったと感ずる。

3 月 20 日（月）晴

今日で三連休おわり。病院の内も外も、より静かだった。多くの人が平素行けなかったと

ころに出て行ったのであろう。昨日の啓二との電話では、彼も身体のあちこちが痛くてつらい毎日を送っているという。「五十肩」もプラスしていると私は思う。森山氏が三時半頃に来室し、私のアクロス理事長辞任（満期）について、月末の理事会での挨拶内容でふれる点につき意見をのべていった。

3 月 21 日（火）曇

点滴まで平素の午前コース。十時すぎ、みゆきが来室。数日前からの風邪をこじらせていて今日は診断をかねてである。結果は肺炎ということで即入院を希望された。が私の都合も加わって入院不能ということに決めたという。二人だけの生活の弱点が出たわけだ。私は午後レントゲン（胸脊）、物療のホットパック。今日はベッド上で。ベッド上でもって来てくれた新聞を読んで時を過ごす。

3 月 22 日（水）晴

みゆきの風邪が肺にまで問題を拡げているので、電話を知らせていたら早速姫路から芳男・和代の二人が見舞に来てくれ、途中私の病室にも立寄ってくれた。二時頃だったか。同様に東京から啓二が来てくれた。有難いことだ。和代は芳男さんの看護をひっさげて来たともいえる。五時頃岩橋さんが立寄ってくれた。啓二のこの病院への立寄りには七時四〇分頃だった。

3 月 23 日（木）小雨

小雨と曇の一日。点滴、物療ホットパックで午前中。午後三時頃ロバート・コウ氏が見舞にきてくれた。その間に渡辺、富永氏らが姫路ツアーについて若久公民館長中島氏（藤香会副会長）に会いに行った帰路に報告にみえた。われわれの準備不足でツアーは秋になりそうだ。夕方北島女史が画家の張晶氏を伴って来室。張氏の来年度カレンダー（月一枚もの）試作品をみせてもらった。立派なのが完成しそうだ。脊骨痛み。

3 月 24 日（金）晴

十時すぎ啓二を伴ってみゆき来院。風邪の経過はまず良好ということで十二時過ぎ帰宅へ。白石氏が来室して県公園管理から退職へという話。アクロスから役員が三人来室、来る二十九日予定の理事会出席要請。読むべき新聞がたまっているが、相変わらず腰が痛い。午前中ホットパック物療をうけたが自分の病室でもう少し手厚いやり方で同じ手当をうけられないかと思う。

3 月 25 日（土）晴

うららかな春この頃、ベッドから窓からしか味わえないのが残念である。腰骨、腹筋の痛

みもつづいていて、これ亦残念である。今日は来客もなかった。アクロス福岡の理事会が近くなったので挨拶文を考えておかねばならぬ。引退の時が来たのだ。世間万事についていえることだが、時代、生き方、その手段、考え方等々、すべてが代変わりしている。私自身追いつけない。甚だしい老衰だ。

3月26日（日）晴

春日和。外は快い風だろうに、ベッドの上ばかりで、ふれられない。啓二が連日来てくれる。みゆきがかぜをこじらせて弱っているが、台所仕事は和代がしてくれるので助かっているようだ。新聞をもってきてくれるので売店で買わないでいるが、その新聞も読みづらい程に腰痛がつづいている。介護保険のはじまる時になったが勉強不足でよくわかってないので気になるが、実際に当たってみるしかない。欠点も少くない。

3月27日（月）晴

午前中は平素のとおり。午後ホットパック物療に行く。三時前帰宅すると、芳男・和代の二人が帰姫のついでに見舞をかねて訪ねて来てくれていた。入ってもらって四時すぎまで雑談に楽しんだ。六日間夫婦で来福し、和代が家事その他こまごま手伝ってくれ、みゆきの風邪ひきを支えてくれ有難い限りであった。病人の芳男氏を連れて来たとはいいい発想だ。

3月28日（火）曇後晴

午前中は荒天だった。小雨とみたがアラレも降り、風強く、雷も鳴った。午前中にそれらはおさまり、夕刻には晴れもみえた。ひる頃啓二が来てくれて、中食を共にした。みゆきは風邪もよくなったようだ。二時頃レントゲン、つづいてホットパック物療に出るため啓二と別れた。輝国のうちには今は二人しかいない訳だ。何か危険なことがあればどうするか、心配ですらある。誰か他にいてほしい。

3月29日（水）曇・小雨

「アクロス理事会の日」

昨夕、県議会のあとの多忙な県庁の仕事も終わったのか珍しく県の橋本、重松の二人が見舞にきてくれた。アクロス福岡からも今日の理事会シナリオをもって中原らが説明にきてくれた。今日の理事会往復は車椅子乗用車つき職員三人がかりで私を送迎してくれた。大変手数をかけたものだ。十時半から出発し十二時半に帰院することができた。次期理事長は知事麻生渡氏になる。

3月30日（木）晴

昨日午後はみゆきと啓二、それから珍しく東定、つづいて馬原、引きつづく見舞客があっ

た。東定は息子がもう高校の先生になっているという。昨日の点滴は午後、今日は午前に復帰。夕刻、師村氏が見舞に来てくれ、呉昌碩のメダルをみやげに。南京での書展準備の件も報告があった。啓二が夜行便で帰京、よく手伝ってくれた。

3 月 31 日（金）小雨・曇

午後五時頃熊本の小野氏から見舞の電話があったが、彼も一寸似たような病気で元気がないという。点滴、物療などは毎日同様のペースで進められた。脊骨の痛みがまだつづく。いよいよ今日で、公的職務が終るのに、ベッドの上でとは情ない。でも四五年間働いてきたとは感無量。思い出せは悲喜こもごも。

4 月 1 日（土）晴

更めての入院後既に一ヵ月以上すぎた。病気がどう結着するのか見当がつかないのに、数日前からさらに脊骨につづく上部小骨が体をねじる時にキリキリ痛む。何も欲望はなく、耐えるだけのベッド上の生活がつづいている。新聞もテレビも見ない数日だが昨夜森山氏がアクロス福岡の人事辞令交付式のあと来室し、テレビぐらい見たらいいのにとすすめる。北海道東側で大爆発が起っていると話す。

4 月 2 日（日）晴

午前中は平常通り。午後一時すぎ、大坪、みゆき、白寿生科学研究所の野口雄一氏がつづいて病室に訪ねてきた。三池の古賀氏との連絡のようでヘルストロン販売業者である。一度は会ってみようと思う。二時半頃大坪氏も連れだって私も外出届によって帰宅した。前宅に雛人形が飾ってあり明日で飾りも終る。四時すぎには森山氏も、さらに岩橋君も見に来た。五時すぎ全員森山の車で帰る。

4 月 3 日（月）晴

昨日は外出帰宅の途中で森山氏の車で舞鶴・大濠両公園その他いたるところで（帰院の折）桜花が満開を觀賞することができた。ベッド上の生活だけでは桜が五分咲きなどとの言葉はきくが、春が一つも味わいえない立場にあることをつくづく感じさせられた。先月三十日以来、北海有珠山の噴火の話をちらり耳にはするが、一万数千人の避難大事故である。これも、きくだけで実感が伴わぬのが残念だ。

4 月 4 日（火）曇・小雨

ひる頃、三池労組の中原、芳川の二代組合長が見舞にきてくれた。大坪氏も同席した。午後大坪氏が迎えに来てくれ、みゆきも一緒に大手門の白寿生科学研究所を訪ねた。先日野

口雄一氏が病室まで来てわれわれに概要説明してくれていたし、本日は本村尚次佐藤悟氏が待っていてくれた。ヘルストロンを中心に血液を酸性からアルカリ性に変えることによってできるだけ長寿を保とうとする電気器具、薬品を販売する変わった形の営業体でもある。二時～四時大坪氏が助力してくれた。

【この間記載なし】

5月8日（月）晴

午後リハビリ室でホットパックを終えるまで、毎日と同じ。午後四時に深見氏が見舞に来てくれた。何回目といえるだろうか。気持だけでも有難い。又、待鳥夫人からも電話があり、大坪氏が葬式に出席建碑に色をつけてくれた事に対していねいなお礼の言葉をいただいた。待鳥さんも高教組にいたことがあるが、質の高い人だ。

5月9日（火）晴

気温上昇でまさに夏。子どもたちが水遊びに興味をそそいでいるのを見ると、その頃を思い出す。ただ昔は先生がついてくれてなかった。危険なことも少くなかった。今日は腹水が胸の上部まで痛みをもたらし、自身体力に不安がつるばかりだが如何ともしかたがない。六月半ばまでの入院でするなら有難いのだが。〔特別に欲も義務感もないが生活環境が変わる事を望むのだ〕

5月10日（水）曇

平凡なベッド上の生活。眠ったりテレビを見たり、点滴をうけたり物療室に行ったり。夕方緒方武男氏が来て、少々話しこんで行った。依然腰と腹部の痛さが苦悶の種である。ひるま二時頃洗濯ものをたくさんもって幸がやってきた。こちらは立入って話すこともない。但し音信がなければ互に心配は深刻だ。今の世は危険がごろごろしているから。

5月11日（木）晴

平凡な日常的ベッド生活。予定どおり検査もうけていく。でも胃腸の薬のせいだろうか、大便の調子が全く平凡でない、狂ってしまっている。これが平凡なベッド生活をも狂わせてしまう。疑い深くいえば、薬づけにされて生活も狂ってしまっているのではないかとすら思う。こんな苦しみは他人にはわからない。こんなことが気にならないようでないとなんとも言えない。

5月12日（金）曇

朝九時から一日中食道静脈瘤の胃カメラ施術（二回目）。思った以上に痛く全く地獄の一日

だった。施術は三〇分ほどだが、追加がひどい。手を縛られた点滴は約一日。片手だけしか使えないのが大いにつらい。飲まされる薬も辛い。絶食一日、薬と点滴、不動の姿勢一日。こんなのが地獄の中味だ。

5 月 13 日（土）小雨後晴

午後には昨日から続く点滴からやっと解放された。坐薬がこれに代わらないとダメという程に腹が痛い。十二時すぎにみゆき来室。二時すぎコウ（みかん、甘栗などみやげに頂いた）来室。何回もきてくれてその上、ていねいな差入れ、恐れいる。美可から私の気に入りの模様のパジャマが届いて今日から着替えた。

5 月 14 日（日）曇

テレビは母の日らしい話題をうまく取材していた。直美が夕方早目に来室。お菓子など加えてくれ、夕食を共にすると言って帰宅した。あとテレビを入れたら、前総理小渕氏が入院中の順天堂病院で亡くなったとのニュースが出た。政治の圧力が大きすぎたようだ。脳梗塞、六二歳。沖縄サミットも尋常ではない。

5 月 15 日（月）晴

二月の末以来、又々入院してしまい、四月ははじめから日記もかかずに過ぎてしまった。気力がなくなったのと併せ視力がすごく衰えたからである。今日は曇天つづきの中のまずは晴天。安田伊三男氏が近くまできたのでといって病室に訪ねてきた。相かわらずの「ぶらぶらさん」といえるようだ。直美は五時すぎに来室したが、私が夕食を六時半には終えたので、その後帰宅した。

5 月 16 日（火）小雨、曇

午後、早くみゆきと直美が来室。楽しげにもみえた。この辺一人でも家族が多い方がよいのである。ひる間、久しぶりに本降りといえる雨が降った。昨日の新聞では小渕首相の死亡に対する順天堂医師団の政府対応への不満がよく出ていた。政策の迷いが態度の迷いになり、小渕政治への批判になっているようだ。又、新聞には IT アメリカー極集中の記事が出ていたが、今後とも大問題になっていくのではなかろうか。

5 月 17 日（水）曇

中央政界にも末世的雰囲気がかたよっている。

- 1、小渕総理、5 月 14 日、43 日入院で死去。これをめぐる青木官房長官の動き
- 2、これに代わる森喜朗総理の実現、新内閣の発足
- 3、新総理の政治的周辺の問題点、信任性

4、野党の攻撃姿勢

5、日本の経済と外交問題（景況判断やサミット）

5 月 18 日（木）薄曇晴

早目に身近かな検査など済ませベッド上にいたが、不思議に古い知人がつづいて見舞にみえた。中食前に中島敏子さん、すぐあとにコウさん。どちらも三〇年以上前からの付き合い。とくに輝国に住むようになって後、この二人はわれわれがロンドンに一年留学する必要が生じた時留守番役を協同でしてくれた。今日の中島さんはかなりの老化にみえた。私と同年だから当然といえる。

【この間記載なし】

5 月 24 日（水）薄曇

同じような薄曇がここ何日もつづいており、夏日ともなっていく。今日は関東でヒョウが降りかなりの被害が出た。体調はきわめてよくない。腰痛、腹水による腹の張り。何もする気が起らないのでベッド上で横になり時には眠る。こんな生活がつづくからであろう、脚力の衰えをとくに感ずる。下痢気味、頻尿が治療のせいか嫌な現象だ。

【この間記載なし】

5 月 30 日（火）雨 曇

腰痛が二倍ぐらいひどくなっている。この数日、ベッド上の動作について、用便についてそれがわかるし、日記もととても書けないでためこんでいる。生活が破壊されているというしかない。今日は珍しく松田初善氏がやってきた。いろいろなすべき課題について語り合い、要点は彼がノートしていた。確かに時代が変わり、総呆けの今日だ。

5 月 31 日（水）雨

五月も終る。ベッドの上で、日を数え間違える。決った日程も精神的進め方もないからだ。午前中に山本勲氏が病室にやってきて、何かしなければ、方針基本になるような作業がほしいという内容の事を話して行った。問題点をちくりと突いた指摘だったと思ったので私も対応してかなり意見を対応しておいた。希望を失わないでいる一人だ。

【以下 2000 年の記載なし】

補遺

一月八日

二〇〇〇年明けたら調子が少し違ってきたように思える。アメリカへの批判が少し出てきたし、アメリカも物出し口出しを少し控えるようになったように思える。私は論者が一般にもっと軍の分析、紹介をしてほしい。軍備、軍需生産、武器輸出入、兵の配置などについてわかっている範囲内でもまだ知らされてないことが多い。日本が核について非核三原則といいながらアメリカのいう通り密約が多いのは衆知の通りである。沖縄の基地についてもアメリカは移転をよろこんでいる。新しい基地でより多くの負担を日本がしてくれる可能性があるからだ。先日の新聞では米軍機が廃棄されるよう切断される写真が出ていたが、古い兵器なら日本に軍備強化を要求してその軍が使うよう要求するところだろうが、それはもうやっていて、それでも余るほど生産側からの圧力があり、買ってくれる国がないのかも知れない。兵器の過剰生産——資本主義でないと起らないことが——が起っているのであろう。無理な理をつけてユーゴに出兵したのが力一ばいの努力だったのかも知れない。一九九一年の湾岸戦争などもってこいだったろう。武器はアメリカが用意し、費用は日本が払うという結着でめでたしだった。この経費は福岡県の一年分の予算とほぼ等しかったが、国民に知れないように政府が払っているのである。

2000 年

二月七日

腰痛が依然わが日常の行動を妨げている。いつ頃からか記憶をたどれないが、もう一年になろうか。病院の医師に相談しても確たる対応策は受け取れない。むしろ辛抱して治るのを待つ、とか老衰現象だといってしまう。それを信ずるしかないが、一寸痛さがひどすぎる。ベッド上で横になっているに越したことはないが、程度もので、過剰なら気持が許さない。折れ合おう。